



ネットワークカメラ 操作ガイド



VB-R11VE/VB-R11

VB-R10VE

VB-M641VE/VB-M641V

VB-M640VE/VB-M640V

VB-M741LE/VB-M740E

ご使用の前に必ずこの使用説明書をお読みください。

日本語

はじめに

キヤノンネットワークカメラ (以下、カメラ) をお買い求めいただきまして、誠にありがとうございます*。
この『操作ガイド』は、カメラの設定や操作方法について説明しています。ご使用前によくお読みになり、カメラを正しく利用してください。また、セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダ内のファイルも必ずお読みください。

* 本書に記載しているカメラには、国または地域によって販売していない機種もあります。

製品に関する最新情報 (ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

この製品の使用に関するご注意 (免責事項)

■ ネットワークセキュリティ

ネットワークのセキュリティ対策に関しては、お客様ご自身の責任で行ってください。
不正アクセスなどネットワークのセキュリティ上の問題により発生した直接、間接の損害については、弊社は一切の責任を負いかねます。

<対策例>

- カメラのパスワードを定期的に変更する。
- カメラのHTTP、HTTPSポート番号を変更する。
- 通信機器でカメラへのアクセス制限を行う。

■ ラジオやテレビなどへの電波障害

VB-R11VE、VB-R10VE、VB-M641VE、VB-M640VE、VB-M741LE、VB-M740E

この装置は、クラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

VCCI-A

VB-R11、VB-M641V、VB-M640V

この装置は、クラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

VCCI-B

■ 映像・音声の利用によるプライバシー・肖像権

カメラの使用 (映像・音声) につきましては、お客様の責任でプライバシーの保護や肖像権の侵害防止などに十分配慮してください。たとえば、特定の建築物や屋内などが映し出される場合には、事前にカメラ設置の了承を得るなど対応してください。弊社では一切の責任を負いません。

法律上の注意事項

カメラによる監視は法律によって禁止されている場合があります、その内容は国によって異なります。本製品をご利用になる前に、ご利用いただく地域の法律を確認してください。

■ 著作権

お客様が撮影した映像や画像、録音した音声などは、著作権法上、権利者に無断で使用・公開することはできませんのでご注意ください。

■ 同梱ソフトウェアRM-Liteの使用

RM-Liteの不具合などにより、録画ができなかったり、録画データが破壊、消失する場合があります。これにより生じるお客様の損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

■ 部品交換目安

本製品は、設置環境や使用方法によって、駆動部 (パン/チルト機構など) あるいは電子部品の交換時期が早くなる場合があります。

目安となる使用事例につきましては、弊社ホームページをご確認ください。

■ CMOSセンサーについて

ネットワークカメラで動きの速い被写体を撮影したときや、撮影中に画角が変化したときに被写体が斜めに曲がって見えることがあります。これはCMOS撮像素子を使用した場合に発生する現象であり、ネットワークカメラの異常ではありません。

同梱ソフトウェアの使用許諾契約

同梱ソフトウェアの使用許諾契約については、同梱セットアップCD-ROMのLICENSEフォルダの中のBundledSoftwareフォルダ内にある次のファイルをご覧ください。

ソフトウェアの種類	ファイル名
カメラマネジメントツール	VBTools-J.txt
カメラアングル設定ツール (VB-M641VE、VB-M640VE、VB-M641V、VB-M640V、VB-M741LE、VB-M740Eで使用)	
ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite	RM-Lite-J.txt

This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard.

商標

- CanonおよびCanonロゴはキヤノン株式会社の登録商標です。
- Microsoft、Windows、Windows Vista、Internet Explorer、Windows Server、Windows MediaおよびActiveXは、米国 Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。
- Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。
- 本製品には、Microsoft 社より使用を許諾された exFAT ファイルシステムの技術が組み込まれています。
- QuickTimeはApple Inc.の商標です。
- SD、SDHC、SDXCロゴは SD-3C、LLC の商標です。
- その他、本書に記載された商品名、社名などは各社の商標または登録商標です。

第三者のソフトウェア

この製品 (カメラおよび同梱のRM-Lite) には、第三者のソフトウェアモジュールが含まれています。詳細は同梱セットアップ CD-ROM の LICENSE フォルダの Open-SourceSoftware フォルダ内「ThirdPartySoftware-J.pdf」(第三者ソフトウェアライセンスについて) をご覧ください。また、各モジュールのライセンス条件につきましては、同じフォルダに含まれていますのでご覧ください。

GPLおよびLGPLで許諾されるソフトウェアについて

GPLおよびLGPLに基づき、ソースコードの入手を希望されるお客様は、次の情報を記載の上、日本語または英語で nvsossg@canon.co.jp まで電子メールでご連絡ください。

1. 製品名称およびファームウェアのバージョン
2. 入手を希望されるソフトウェアモジュールの名称

ソースコードはお客様が本製品を購入された日より、少なくとも3年間にご入手いただけます。なお、ソースコードをご提供するにあたり、弊社からご提供に要した実費をご請求させていただく場合もございますので、その旨ご了承ください。

輸出規制

本製品は、安全保障輸出規制貨物に該当します。そのため、輸出または海外に持ち出す場合は、関係当局の許可が必要となる場合があります。

使用説明書について

使用説明書の種類

カメラの使用説明書には、次のものがあります。

同梱の説明書

「設置ガイド」

カメラ設置上の注意、設置手順を説明しています。同書を参照していただきたい部分は『設置ガイド』とし、その項目を記しています。

セットアップCD-ROM収録の説明書

「操作ガイド」(本書)

カメラの初期設定、カメラアングル設定ツール、ビューワの操作、管理ツールの設定、トラブルシューティングなどを説明しています。

「付録 主な仕様」

カメラの仕様一覧です。

「カメラマネジメントツール 使用説明書」

カメラマネジメントツールの詳しい使いかたについて解説しています。

ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite「システム管理者マニュアル」

録画ソフトウェアRM-Lite (P. 20) の詳しい使いかたについて解説しています。

■ ご注意

- 1 本書の内容の一部または全部を無断で転載することは禁止されています。
- 2 本書の内容について、将来予告なしに変更することがあります。
- 3 本書の内容については万全を期して作成しましたが、お気づきの点がございましたら、裏表紙に記載のお客様相談センターまでご連絡ください。
- 4 運用した結果の影響につきましては、上記2項、3項に関わらず責任を負いかねますのでご了承ください。

本書の使いかた

本書はPCの画面上に表示して読むことを想定しています。

■ ソフトウェアの画面例

本書に記載されているソフトウェアの画面は、説明のためのサンプルです。実際の画面とは異なることがありますので、ご了承ください。

説明には、Windows 8.1で、VB-R11を接続した画面例を基本的に使用しています。

また、映像サイズセットは、[1280x720/640x360/320x180] を選択している場合で説明しています。ほかの映像サイズセットをご利用の場合は、映像サイズを置き換えてお読みください。

■ カメラ機種を示す記号

機種ごとに異なる機能の説明については、機種名や次の記号を記載しています。

記号	カメラ機種
R11	VB-R11VE、VB-R11
R10	VB-R10VE
M641	VB-M641VE、VB-M641V
M640	VB-M640VE、VB-M640V
M741	VB-M741LE
M740	VB-M740E

■ 安全上の注意を示す記号

この『操作ガイド』で使用している記号について説明します。製品を安全にお使いいただくための注意事項や、使用に際しての重要事項/補足説明などには次のような記号を使用しています。表示の内容を十分理解して作業してください。

記号	意味
 警告	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの警告事項をお守りください。
 注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、傷害が発生する可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
注意	この表示を無視して取り扱いを誤った場合に、物的損害が発生する可能性が想定される内容を示しています。必ずこの注意事項をお守りください。
 火災注意  感電注意	これらの記号を無視して取り扱いを誤った場合に、火災の発生や感電の可能性が想定される内容を示しています。安全にお使いいただくために、必ずこの注意事項をお守りください。
 禁止  分解禁止  水ぬれ禁止	これらの記号は、禁止事項を示しています。図の中に具体的な禁止内容が描かれている場合もあります。
 指示	この記号は、必ず実行していただく指示の内容を示しています。
 重要	この記号は、重要事項や制限事項が書かれています。必ずお読みください。
 メモ	操作の参考になることや補足説明が書かれています。

安全にお使いいただくために

カメラをお使いいただくうえで、必ず守っていただきたい注意事項について説明します。
守られない場合、けがや死亡事故、物的損害が発生することがありますので、よくお読みになったうえ、必ずお守りください。

注意事項

■ 使用上の注意

⚠ 警告	
⚠ 指示	発煙、異音、発熱、異臭などの異常を発見したときは、直ちに使用を中止し、最寄りの販売店にご連絡ください。 継続して使用すると火災、感電の原因になります。
⊘ 禁止 ⊘ 分解禁止 ⊘ 水ぬれ禁止 ⚠ 火災注意 感電注意	次の点に注意してください。火災、感電の原因になります。 - 雷が鳴り始めたら、設置や点検などの作業を中止し、カメラや接続ケーブルなどに触れないでください。 - 分解、改造はしないでください。 - カメラに水をかけたり濡らしたりしないでください (VB-R11/VB-M641V/VB-M640V)。 - カメラの内部に水や金属などの異物を入れないでください。 - カメラの近くで可燃性のスプレーを使用しないでください。 - カメラを長期間使用しないときは、カメラにLANケーブルや外部電源、ACアダプター (オプション) の電源用コネクタを繋いだままにしないでください。 - 接続ケーブル類を傷つけないでください。
⊘ 禁止	医療機器などの人命に関わるシステムには使用しないでください。 PCやネットワークの環境によっては映像の遅延や欠落が発生するため高精度の映像伝送は保証できません。 上記の場合にカメラを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

⚠ 注意	
⊘ 禁止	M741 赤外照明を近距離で長時間直視しないでください。 目を傷めることがあります。

注意	
⊘ 禁止	次の点に注意してください。故障の原因になることがあります。 - 太陽、ハロゲン灯など高輝度の光源や被写体を撮影しないでください。 - カメラに強い衝撃や振動を与えないでください。 R11 R10 M641 M640 - カメラ回転部を手で回さないでください。

■ カメラアングル設定ツール使用上の注意

M641 M640 M741 M740

注意	
 禁止	カメラアングル設定ツールは、カメラ設置時の使用を想定しています。日常の頻繁な使用はしないでください。 故障の原因になることがあります。

■ カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意

注意	
 禁止	カメラに搭載されている次の機能および同梱ソフトウェアは、常に高い信頼性が要求される用途では使用しないでください。 – インテリジェント機能 – プレ補正機能 – ネットワークビデオレコーディングソフトウェアRM-Lite これらの機能は高精度の撮影を保証するものではなく、一定範囲を超えると対応できません。これらの機能を使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

■ お手入れに関する注意

警告	
 禁止  火災注意  感電注意	アルコールやシンナー、ベンジンなど引火性溶剤は使用しないでください。 火災、感電の原因になります。

注意	
 指示	取付金具やネジのさびつき、ネジの緩みがないか定期的に点検を行ってください。 点検は販売店にご依頼ください。 落下によるけがや機器の破損の原因になります。

日常のお手入れ

お手入れは、電源を切って行ってください。

■ 外装のお手入れ

- 1 柔らかい布を水またはうすい中性洗剤で湿らせ、軽く汚れを拭き取ります。
- 2 乾いた布で拭きます。



重要

フロントカバーやドームカバーに汚れがつくと、オートフォーカスがうまく動作しなかったり、画質が低下したりする原因となります。定期的にお手入れしてください。

■ レンズのお手入れ

市販のレンズクリーナーを使用し、レンズ表面の汚れを落とします。

- レンズ表面に傷を付けると、画像不良の原因になります。
- レンズ表面にほこりや汚れがついていると、オートフォーカスがうまく動作しないことがあります。

カメラの廃棄

カメラを廃棄する場合は、法令や地域の条例に従って適切に処理してください。

はじめに	2
この製品の使用に関するご注意 (免責事項)	2
同梱ソフトウェアの使用許諾契約	3
商標	3
第三者のソフトウェア	4
輸出規制	4
使用説明書について	5
使用説明書の種類	5
本書の使いかた	5
本書で使用している記号	6
安全にお使いいただくために	7
注意事項	7
日常のお手入れ	8
カメラの廃棄	9

1 章

ご使用の前に

ネットワークカメラでできること	18
カメラのソフトウェア	19
カメラ搭載ソフトウェア	19
セットアップCD-ROM収録のソフトウェア	19
オプション (別売) のソフトウェア/ライセンス	21
動作環境	22
カメラアングル設定ツール、管理者ビューワー / VBビューワー、管理ツール	22
カメラを使用するまでの流れ	23
Step 1 設置前の準備	23
Step 2 カメラとの接続を確認する	23
Step 3 カメラを設置する	23
Step 4 カメラアングルを設定する	23
Step 5 運用に合わせて詳細設定する	24
Step 6 ビューワーを使う	24
Step 7 管理ツールを使う	24
困ったときは	24

2 章

カメラのセットアップ

ソフトウェアをインストールする	26
必要なソフトウェア	26
インストール	26
セキュリティを確認/設定する	29
ファイアウォールの設定を確認する	29
カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして登録する	30
Windows Server使用時の設定	31
カメラを初期設定する	34
カメラマネジメントツールを起動する	34
カメラを検出してネットワークの設定をする	34
パスワード、日付と時刻、カメラ名、映像を設定する	36

	信頼済みサイトに登録する	38
	カメラのトップページにアクセスして映像を確認する	39
	カメラマネジメントツールからトップページにアクセスする	39
	トップページについて	39
	カメラの映像を確認する	41
3章	カメラアングル設定ツール	
	カメラアングル設定ツールを起動してカメラに接続する	44
	カメラアングル設定ツールを起動する	44
	カメラに接続する	44
	カメラとの接続を切断して終了する	47
	カメラアングル設定ツールの画面構成	49
	カメラアングルを設定する	52
	アングルとズームを設定する	52
	フォーカスと露出補正を設定する	53
	カメラ指定ファイルを使用する	55
	カメラ指定ファイルを作成する	55
4章	設定ページ	
	設定ページの使いかた	58
	設定ページにアクセスする	58
	設定ページ共通の操作	59
	各設定ページについて	61
	ネットワークを設定する	
	[基本設定] > [ネットワーク]	63
	LAN	63
	IPv4	63
	IPv6	64
	DNS	65
	mDNS	66
	管理者パスワードを設定する	
	[基本設定] > [パスワード]	67
	管理者パスワード	67
	日付/時刻を設定する	
	[基本設定] > [日付と時刻]	68
	現在の日付と時刻	68
	設定	68
	映像のサイズや品質を設定する	
	[基本設定] > [映像設定]	71
	映像全般	71
	JPEG	71
	H.264(1)	72
	H.264(2)	73
	カメラの制御全般を設定する	
	[カメラ] > [カメラ設定]	74
	カメラ名	74
	カメラ制御	74
	デイナイト (オート設定時)	76

設置条件	77
カメラ位置制御	77
外部入力デバイス1、2	77
外部出力デバイス1、2	78
映像設定の初期値を設定する	
[カメラ] > [起動時設定]	79
起動時設定	79
映像品質を部分的に下げてデータ量を低減する	
[映像と音声] > [ADSR]	82
指定領域	82
ADSR	84
ビューワー上に日時やテキストを表示する	
[映像と音声] > [オンスクリーン表示]	85
オンスクリーン表示	85
音声の入出力について設定する	
[映像と音声] > [音声設定]	87
音声全般	87
再生音ファイル登録1～3	88
HTTP、SNMP、FTPの各サーバーについて設定する	
[サーバー] > [サーバー設定]	89
HTTPサーバー	89
SNMPサーバー	89
FTPサーバー	90
WS-Security	90
映像配信について設定する	
[サーバー] > [映像サーバー]	91
音声の送受信について設定する	
[サーバー] > [音声サーバー]	92
RTPの使用について設定する	
[サーバー] > [RTPサーバー]	93
RTPサーバー	93
音声マルチキャスト	93
RTPストリーム1～5	94
HTTPやFTPでのアップロードについて設定する	
[映像記録] > [アップロード]	96
映像記録設定	96
アップロード全般	96
HTTPアップロード	97
FTPアップロード	99
メモリーカードへの映像記録について設定する	
[映像記録] > [メモリーカード]	101
映像記録設定	101
メモリーカードの操作	101
メモリーカードの情報	101
メールでの通報を設定する	
[映像記録] > [メール通報]	102
メール通報	102

外部デバイスからの入力があった場合の動作を設定する	
[イベント] > [外部デバイス]	104
外部デバイス出力1、2	104
外部デバイス入力	104
外部デバイス入力1、2	105
異常な音声入力があった場合の動作を設定する	
[イベント] > [音声検知]	107
音量検知	107
悲鳴検知	108
指定時刻に実行する動作を設定する	
[イベント] > [タイマー]	110
タイマー 1～4	110
デイナイト切り換え時にプリセットを実行する	
[イベント] > [デイナイト切り換え]	112
イベントを組み合わせて使用する	
[イベント] > [連結イベント]	113
連結イベント1～4	113
連結イベントの動作例	115
カメラに接続するユーザーを設定する	
[セキュリティ] > [ユーザーアクセス制限]	118
登録ユーザーアカウント	118
ユーザー権限	118
アクセス制限を設定する	
[セキュリティ] > [ホストアクセス制限]	119
IPv4ホストアクセス制限	119
IPv6ホストアクセス制限	120
HTTP通信の暗号化を設定する	
[セキュリティ] > [SSL/TLS]	121
証明書	121
証明書の管理	122
暗号化通信	123
ネットワークポートの認証について設定する	
[セキュリティ] > [802.1X]	124
802.1X認証	124
認証方式	124
IPsecを設定する	
[セキュリティ] > [IPsec]	126
IPsec設定方法	126
自動鍵交換の設定	126
IPsecセット1～5	127
メモリーカードの操作と情報の表示を行う	
[メモリーカード]	131
映像記録設定	131
メモリーカードの操作	131
メモリーカードの情報	134
カメラの機器情報の表示やメンテナンスを行う	
[メンテナンス]	135
機器情報	135

表示と実行	135
-------------	-----

5章 管理者ビューワー / VBビューワー

管理者ビューワーとVBビューワー	138
管理者ビューワーとVBビューワーの主な違い	138
ビューワーのアクセス制限	138
管理者ビューワーでカメラの映像を見る	140
管理者ビューワーを起動する	140
管理者ビューワー / VBビューワーの画面構成	141
インフォメーションを確認する	143
映像サイズや表示画面サイズを変更する	144
管理者ビューワーでカメラを操作する	147
カメラ制御権を取得する	147
パン・チルト・ズームを操作する	147
映像の一部を拡大して表示する (ビューワー PTZ)	151
映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ)	153
プリセット/ホームポジションを使用する	155
逆光補正を使用する	155
音声を受信・送信する	155
管理者コントロールを使用する	158
管理者コントロールパネルの操作	158
パン/チルト/ズーム	159
プリセット/起動時設定登録	159
スマートシェード補正	160
かすみ補正	160
フォーカス	161
露出	162
ホワイトバランス	164
デイナイト	165
赤外照明	167
外部デバイス出力	168
画質調整	168
映像受信	168
プリセットについて	170
プリセットを登録する	171
プリセット設定パネルを表示する	171
[簡単登録] で登録する	173
[プリセット詳細設定] パネルで登録する	174
右クリックメニューについて	176
複数のプリセットに同時に変更を行う	177
指定時刻に自動的にプリセットを実行する (自動制御設定)	178
[自動制御設定] を設定する	178
巡回ルートを設定する	180
[巡回ルート設定] タブについて	180
巡回ルートの設定	182
右クリックメニューについて	184
管理者ビューワーでイベント検知の状態を確認する	186
イベント表示パネルを確認する	186

管理者ビューワーで静止画/映像を記録する	188
静止画をキャプチャーする	188
映像を手動でメモリーカードに録画する	188
VBビューワーを使用する	190
VBビューワーの起動と管理者ビューワーとの相違点	190

6章

管理ツール

管理ツールの概要	194
各管理ツールの紹介	194
管理ツールにアクセスする	195
管理ツールを起動する	195
管理ツール共通の操作	196
プライバシーマスク設定ツール	198
プライバシーマスクを登録する	198
プライバシーマスクを変更/削除する	200
パノラマ作成ツール	204
パノラマ画像を作成する	204
パノラマ画像をカメラから削除する	207
パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く	207
可視範囲設定ツール	209
可視範囲を設定する	209
インテリジェント機能設定ツール	
— 概要 —	213
インテリジェント機能とは	213
インテリジェント機能の設定・運用上の注意	216
プリセットを登録しておく	217
インテリジェント機能の動作モードを選択する	217
インテリジェント機能設定ツール	
— 映像検知 —	219
映像検知設定の流れ	219
検知条件を設定する ([検知条件] タブ)	222
「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)	231
照明変化の影響を軽減する (検知オプション設定)	232
右クリックメニューについて	232
インテリジェント機能設定ツール	
— 自動追尾 —	234
自動追尾を設定する	234
自動追尾の打ち切りについて	237
自動追尾を無効化するには	237
インテリジェント機能設定ツール	
— 表示オプションと共通操作 —	238
イベントの状態を表示する	238
検知領域/検知ライン、検知結果の表示を設定する (表示オプション)	238
インテリジェント機能を再起動する	239
ログビューワー	240
ログファイルをダウンロードする	240
ログを閲覧する	241
録画映像ユーティリティ	244

映像一覧を操作する	244
映像をダウンロードする/削除する	246
映像を再生する	249

7章 付録

メモリーカードのデータについて	254
メモリーカードの保存データとデータ整理	254
録画映像ユーティリティでダウンロードしたデータについて	254
修飾子について	256
トラブルシューティング	258
ログメッセージ一覧	260
カメラのログメッセージ	260
エラーログ	260
警告ログ	264
通知ログ	267
ビューワメッセージ一覧	272
インフォメーション表示に表示されるメッセージ	272
工場出荷設定に戻す	273
Web ブラウザーから初期設定に戻す	273
本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す	274
工場出荷設定一覧	276
索引	286

1章



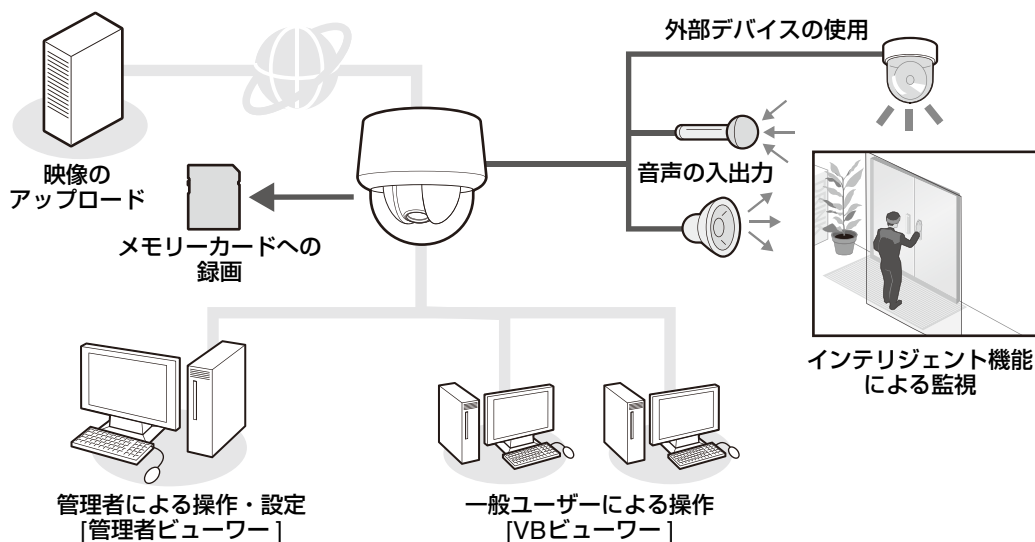
ご使用の前に

カメラの機能や使用するソフトウェア、カメラの動作環境について記載しています。
また、実際に運用するまでの準備・設定についての流れも説明します。

ネットワークカメラでできること

ネットワークカメラでは、搭載ソフトウェアによるカメラ操作だけでなく、映像の録画やアップロード、また、各種インテリジェント機能を使用した監視が可能です。

ただし、機種によって使用できる機能は異なります。機種による機能の違いについては、下表を参照してください。



機種別機能対応表

機種によって搭載・非搭載の差がある機能は、次のとおりです。

	R11	R10	M641	M640	M741	M740
パン・チルト	○	○	-	-	-	-
デジタルPTZ	-	-	○	○	○	○
音声入出力端子	○	-	○	-	○	-
外部デバイス端子	○	-	○	-	○	-
赤外照明	-	-	-	-	○	-
カメラアングル設定ツール	-	-	○	○	○	○
音声検知	○	-	○	-	○	-
自動追尾	○	○	-	-	-	-
イベントによるプリセット移動	○	○	-	-	-	-
連結イベント	○	-	○	-	○	-
パノラマ作成ツール	○	○	-	-	-	-
可視範囲設定ツール	○	○	-	-	-	-
microSD/microSDHC/microSDXCメモリーカード対応*	-	-	○	○	-	-
SD/SDHC/SDXCメモリーカード対応*	○	○	-	-	○	○
プリセット最大登録数	257個		21個			

* 本書では、カメラで使用できるメモリーカードのことを「メモリーカード」と表記します。



カメラのソフトウェア

カメラを設定・操作するためのソフトウェアには、カメラ本体に搭載されているもの、同梱のセットアップCD-ROMに収録されているもの、別途お買い求めいただけるオプションがあります。

カメラ搭載ソフトウェア

カメラ本体に搭載されています。使用時にはカメラから自動的にダウンロードされます。

■ 管理者ビューワー / VBビューワー (P. 137)

カメラの制御や、映像・各種イベントをモニターするためビューワーです。

管理者ビューワーは、管理者とカメラ制御権を付与された登録ユーザーのみが使用でき、カメラのすべての制御が行えます。

VBビューワーは、カメラにアクセスできるユーザーなら誰でも使用できますが、限定された一部の機能しか使用できません。

■ 管理ツール (P. 193)

カメラの設定や管理に使用するツールです。

- プライバシーマスク設定ツール
- インテリジェント機能設定ツール
- ログビューワー
- 録画映像ユーティリティ

R11 R10

- パノラマ作成ツール
- 可視範囲設定ツール

メモ

管理者ビューワーおよび管理ツールを使用するには、.NET Framework 3.5 SP1 (Internet Explorer 8/9 使用時) または .NET Framework 4.5 (Internet Explorer 10/11 使用時) が必要です。

PCにインストールされていない場合、インストーラーを使用する際に自動的にインストールされます (P. 26)。

セットアップCD-ROM収録のソフトウェア

同梱のセットアップCD-ROMから、PCにインストールして使用するソフトウェアです。

■ カメラマネジメントツール (P. 34)

カメラの初期設定からメンテナンスまで、複数台のカメラを一括管理するためのツールです。カメラマネジメントツールを使うと、カメラに対し次の設定・操作が可能です。

- カメラの各種設定
- 管理者ビューワーや管理ツールなど、カメラ搭載ソフトウェアの呼び出し
- ファームウェアの更新や設定値のバックアップ/リストア、メモリーカードの操作など、カメラの各種メンテナンス

本書では、このうちのカメラの初期設定方法を中心に説明しています (P. 34)。その他の使用方法や各種機能など、詳細情報は、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラマネジメントツールは、インストーラーからインストールできます。

インストーラーの保存先: セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

■ カメラアングル設定ツール (P. 43)

M641 M640 M741 M740

設置時のカメラアングルを、ネットワーク経由でPCに表示される映像を見ながら調整するツールです。

インストーラーの保存先: セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

■ 管理ツール証明書

管理者ビューワーおよび管理ツールを使用するための電子証明書です。

インストーラーの保存先: セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > VBToolsInstall.exe

■ プロキシ認証対応版 管理者ビューワー / 管理ツール

プロキシ認証が設定されたプロキシサーバー経由で使用する場合は、このソフトウェアを使用してください。

ソフトウェアの保存先: セットアップCD-ROM > ProxyAuthSupport フォルダ

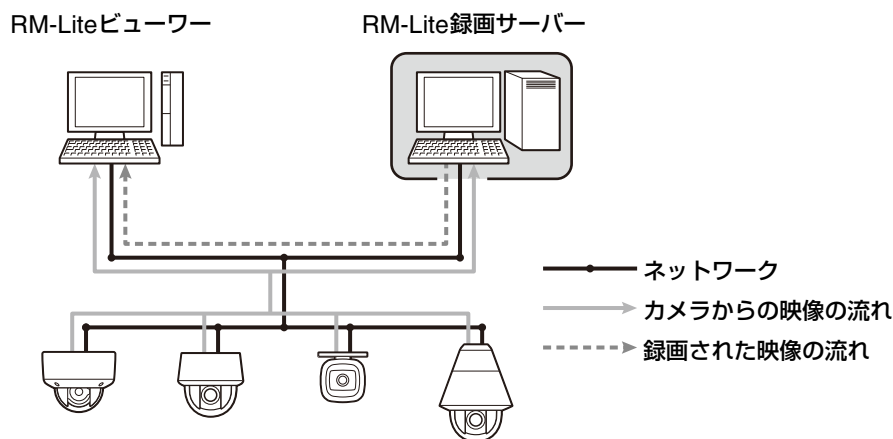
■ RM-Lite

ネットワーク経由で、最大4台のカメラの映像を表示・録画・再生できるソフトウェアです。

ソフトウェアの保存先: セットアップCD-ROM > [Applications] フォルダ > RMLiteInstall.exe

RM-Liteのソフトウェア構成

種類	概要	ライセンス
RM-Lite録画サーバー	最大4台のカメラを登録して映像(JPEG)を録画できます。	1ライセンス
RM-Liteビューワー	録画サーバーに録画された映像の再生や、カメラのライブ映像(JPEG/H.264)の表示ができます。 ビューワーに登録できるカメラは最大4台です。	1ライセンス
RM-Liteマネージャー	カメラの登録や録画スケジュールの設定に使用します。	1ライセンス



対応カメラ	VB-R11VE、VB-R11、VB-R10VE、VB-M641VE、VB-M641V、VB-M640VE、VB-M640V、VB-M741LE、VB-M740E、VB-H43、VB-H630VE、VB-H630D、VB-H730F、VB-M42、VB-M620VE、VB-M620D、VB-M720F、VB-S30D、VB-S31D、VB-S800D、VB-S900F、VB-S805D、VB-S905F、VB-H41、VB-H610VE、VB-H610D、VB-H710F、VB-M40、VB-M600VE、VB-M600D、VB-M700F、VB-C60、VB-C500VD/VB-C500D、VB-C300、VB-C50i/VB-C50iR、VB-C50FSi/VB-C50Fi
-------	---



重要

RM-LiteビューワーおよびRM-Liteマネージャーを追加する場合は、RM-Lite-V (オプション) をお買い求めください。

 メモ

RM-Liteの使用方法、動作環境、機能などの詳細情報は、『システム管理者マニュアル』を参照してください。

オプション (別売) のソフトウェア/ライセンス

必要に応じて別途お買い求めください。

■ H.264追加ユーザーライセンス AUL-VB

複数のPCで、管理者ビューワーおよび録画映像ユーティリティからH.264映像を見るための追加ライセンスです。カメラ1台につき、1ライセンスは付いています。1台のカメラのH.264映像を複数のPCから見る場合に、追加が必要になります。

■ RM-64/RM-25/RM-9

ネットワークカメラを使用して複数拠点をモニタリングし、カメラからの映像を表示・録画・再生するソフトウェアです。

RM-64/RM-25/RM-9は登録可能なカメラの台数が異なり、それぞれ64台/25台/9台まで登録できます。複数の録画サーバーを使用して、最大512台のカメラに対応した監視システムを構築可能です。

 メモ

RM-9からRM-25またはRM-64、RM-25からRM64にアップグレードするライセンスも用意されています。

■ RM-V

複数のPCにRM-64/RM-25/RM-9のRMマネージャーおよびビューワーをインストールするための追加ライセンスです。

複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

■ RM-Lite-V

複数のPCにRM-Lite ビューワーおよびRM-Lite マネージャーをインストールするための追加ライセンスです。

複数の拠点からカメラ映像を見る場合などにご使用ください。

動作環境

製品に関する最新情報 (ファームウェアや同梱ソフトウェア、使用説明書、動作環境など) は、ホームページをご確認ください。

製品紹介ホームページ: canon.jp/webview

カメラアングル設定ツール、管理者ビューワー / VBビューワー、管理ツール

CPU	Intel Core i7-2600 以上
OS ^{*1}	Windows Vista Ultimate/Business/Enterprise/Home Premium SP2 32/64-bit Windows 7 Ultimate/Professional/Enterprise/Home Premium SP1 32/64-bit Windows 8/Windows 8 Pro/Windows 8 Enterprise 32/64-bit ^{*4} Windows 8.1/Windows 8.1 Pro/Windows 8.1 Enterprise 32/64-bit ^{*4} Windows Server 2008 Standard SP2 32/64-bit Windows Server 2008 R2 Standard SP1 64-bit Windows Server 2012 Standard 64-bit ^{*4} Windows Server 2012 R2 Standard 64-bit ^{*4}
Webブラウザ ^{*2}	Internet Explorer 8/9 32-bit Internet Explorer 10/11
メモリー	2GB 以上
ビューワー用ディスプレイ	1920 x 1080 以上
ソフトウェア ^{*3}	.NET Framework 3.5 SP1 (Internet Explorer 8/9使用時) – Windows VistaとWindows Server 2008の場合、別途インストールが必要 .NET Framework 4.5 (Internet Explorer 10/11使用時) – Windows 7とWindows Server 2008 R2の場合、別途インストールが必要
音声	カメラの音声機能を使用する場合は、PCの音声サポート機能が必要

*1 管理ツールおよび管理者ビューワーは、コントロールパネルのフォントサイズ設定 (DPI) を100%または125%に設定すること。

*2 JavaScript、XAMLブラウザアプリケーション、IFRAME (HTMLタグ) を使用できる設定とすること。
VBビューワーのみCookieが必要。

*3 VBビューワーのみ使用する場合はインストール不要。.NET Framework 3.5 SP1および4.5は、同梱のセットアップCD-ROMに収録されていて、Internet Explorerのバージョンに応じて適切なインストール対象が自動選択される。

*4 カメラ搭載ソフトウェアおよび同梱ソフトウェアは、Windows 8以降で追加されたスタート画面では動作しない。

メモ

カメラマネジメントツールの動作環境については、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。

カメラを使用するまでの流れ

Step 1 設置前の準備

カメラをネットワーク経由で操作できるように準備します。

必要なソフトウェアをPCにインストールする

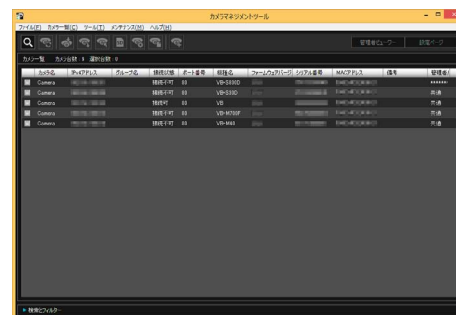
→ 「ソフトウェアをインストールする」(P. 26)

PCとWebブラウザのセキュリティを確認/設定する

→ 「セキュリティを確認/設定する」(P. 29)

カメラマネジメントツールを使用して、カメラを初期設定する

→ 「カメラを初期設定する」(P. 34)



カメラマネジメントツール

Step 2 カメラとの接続を確認する

PCからカメラにアクセスして、準備が正常に完了していることを確認します。

カメラのトップページにWebブラウザからアクセスする

→ 「カメラマネジメントツールからトップページにアクセスする」(P. 39)

VBビューワーを起動して、カメラの映像を確認する

→ 「カメラの映像を確認する」(P. 41)



VBビューワー

Step 3 カメラを設置する

使用する環境に合わせてカメラを設置します。

→ 『設置ガイド』

Step 4 カメラアングルを設定する M641 M640 M741 M740

カメラアングル設定ツールを使って、映像をPCで確認しながらカメラアングルを設定します。

→ 「カメラアングル設定ツール」(P. 43)



カメラアングル設定ツール

Step 5 運用に合わせて詳細設定する

設定ページで、カメラの運用に合わせて、カメラの制御やセキュリティなどを詳細に設定します。

→ 「設定ページ」(P. 57)



設定ページ

Step 6 ビューワーを使う

カメラに搭載されているビューワーを操作します。ビューワーには、管理者向けの管理者ビューワーと、一般ユーザー向けのVBビューワーがあります。VBビューワーを使って一般向けの配信内容を確認し、管理者ビューワーを使ってすべての設定・確認をしてください。

→ 「管理者ビューワー/VBビューワー」(P. 137)



管理者ビューワー

Step 7 管理ツールを使う

プライバシー保護のためのマスクの設定や可視範囲の設定、映像の変化を検知するインテリジェント機能の設定ができます。

また、カメラの動作状況を確認できるログの閲覧や、メモリーカードに記録された映像を閲覧・管理するユーティリティもあります。

→ 「管理ツール」(P. 193)



困ったときは

運用時のエラーメッセージやトラブルについては、「付録」(P. 253) を参照してください。

2章



カメラのセットアップ

カメラを使用できる状態にするため、必要なソフトウェアをPCにインストールし、Webブラウザのセキュリティとカメラの初期設定を行います。

初期設定が完了したら、カメラにアクセスして、映像が表示されるか確認します。

ソフトウェアをインストールする

カメラに同梱されているセットアップCD-ROMを使って、必要なソフトウェアをインストールします。

必要なソフトウェア

必要なソフトウェアは、次のとおりです。

- カメラマネジメントツール (P. 34)
- 管理ツール証明書
- .NET Framework 3.5 SP1/.NET Framework 4.5 (PCにインストール済みの場合はインストール不要)

M641 M640 M741 M740

- カメラアングル設定ツール

メモ

- 管理ツール証明書をインストールすると、PCを使用するすべてのユーザーが管理者ビューワー、管理ツールを使用できるようになります。
- .NET Framework 3.5 SP1/.NET Framework 4.5は、PCにインストールされていない場合に、PCのInternet Explorerのバージョンに合わせて自動的にインストールされます。

インストール

■ インストール方法について

ソフトウェアのインストール方法には、ソフトウェアをまとめてインストールする [おまかせインストール] と、ソフトウェアを選択できる [選んでインストール] があります。

メモ

- [おまかせインストール] でインストールすると、VB-R11VE、VB-R11、VB-R10VEでは使用しないカメラアングル設定ツールもインストールされます。カメラアングル設定ツールをインストールする必要がある場合は、[選んでインストール] でカメラアングル設定ツールを除外してください。
- カメラの初期設定に使用しない (カメラマネジメントツールをインストールしない) PCで、管理者ビューワーおよび管理ツールを利用する場合は、[選んでインストール] で「管理ツール証明書」のみをインストールできます。

■ ソフトウェアのインストール

1 セットアップCD-ROMをPCのディスクドライブにセットする

2 他のすべてのアプリケーションが終了していることを確認する

3 エクスプローラーで、CD-ROMアイコン > [Applications] フォルダ > [VBToolsInstall.exe] の順にダブルクリックする



インストール画面が表示されます。

メモ

[ユーザーアカウント制御] 画面が表示された場合は、[はい] (または [続行]) をクリックしてください。

4 インストール方法を選択する



5 インストールされるソフトウェアを確認または選択する

[おまかせインストール] を選んだ場合、インストールされるソフトウェアを確認して [次へ] をクリックします。



[選んでインストール] を選んだ場合、インストールしたいソフトウェアをチェックして [次へ] をクリックします。



使用許諾契約画面が表示されます。

6 使用許諾契約を読み、[はい] をクリックする

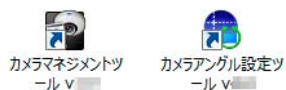


インストールが開始します。

7 [終了] または [再起動] をクリックする



デスクトップに、カメラマネジメントツールとカメラアングル設定ツール (インストールした場合) のアイコンが表示されます。



セキュリティを確認/設定する

WindowsやInternet Explorerのセキュリティ機能によって、ソフトウェアやWebブラウザーからのカメラへの設定・操作がブロックされる場合があります。

事前にセキュリティの設定を変更・確認してください。

ファイアウォールの設定を確認する

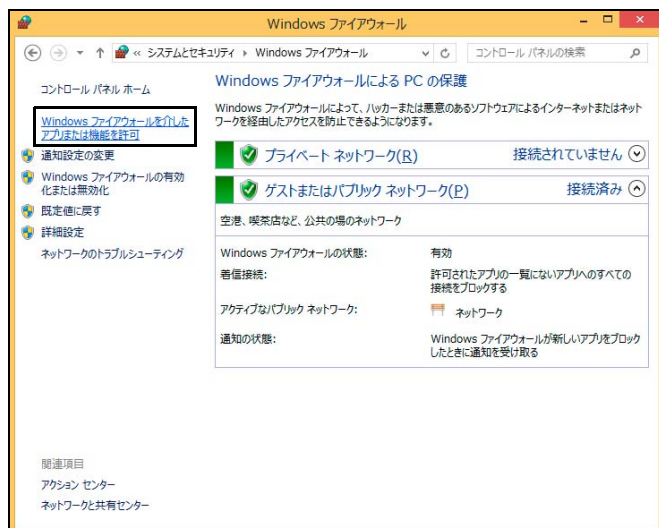
Windows ファイアウォールが有効になっているPCでカメラマネジメントツールを使用するには、ファイアウォール経由での通信を許可するアプリケーションとして、カメラマネジメントツールを登録しておく必要があります。

メモ

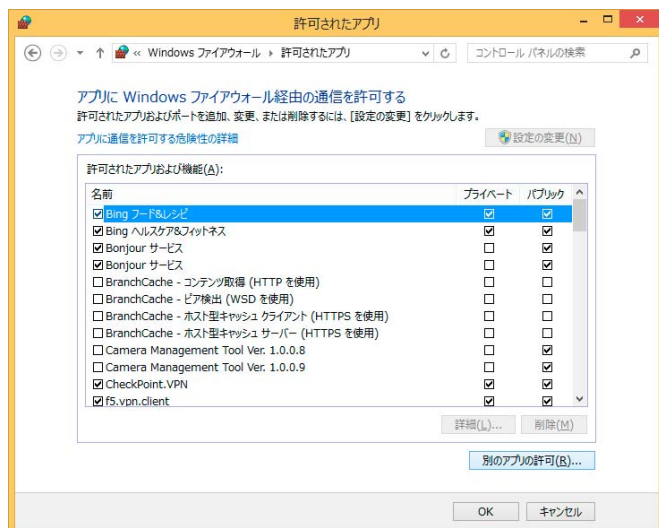
この手順で登録しなかった場合でも、カメラマネジメントツール起動時に表示される [Windows セキュリティの重要な警告] ダイアログで、許可するアプリケーションとして登録できます (P. 34)。

1 [コントロール パネル] の [システムとセキュリティ] > [Windows ファイアウォール] をクリックする

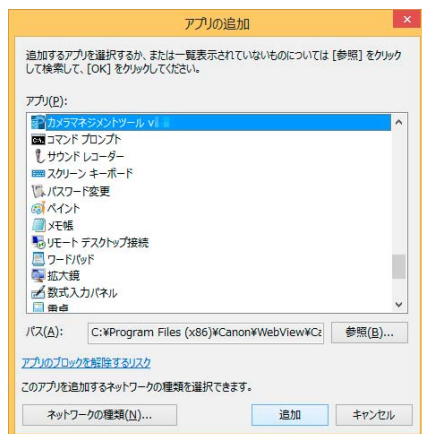
2 [Windows ファイアウォールを介したアプリまたは機能を許可] をクリックする



3 [設定の変更] > [別のアプリの許可] の順にクリックする



4 [カメラマネジメントツール] を選択し、[追加] をクリックする



カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして登録する

Internet Explorer 9以降およびWindows Server 2008/Windows Server 2012では、Internet Explorerにおけるインターネットサイトとイントラネットサイトのセキュリティレベルが、初期設定で [高] に設定されています。そのため、管理者ビューワー/VBビューワー、設定ページ、管理ツールにアクセスするには、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに登録しておく必要があります。

メモ

- カメラのIPアドレスは、カメラマネジメントツールで設定します (P. 35)。
- この手順で登録しなかった場合でも、後からカメラマネジメントツールを使用して登録できます (P. 38)。

1 Internet Explorerの [ツール] メニュー > [インターネット オプション] をクリックする

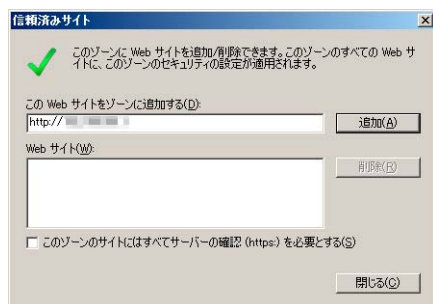
2 [セキュリティ] タブをクリックする

3 [信頼済みサイト] を選択し、[サイト] をクリックする



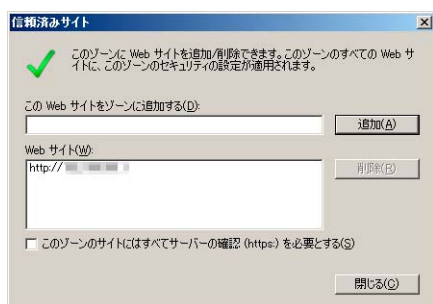
[信頼済みサイト] ダイアログが表示されます。

4 [このWebサイトをゾーンに追加する] にカメラのIPアドレスを入力し、[追加] をクリックする



メモ

- [このゾーンのサイトにはすべてサーバーの確認 (https:) を必要とする] にチェックがついている場合は、外してください。
[Web サイト] の一覧にカメラのIPアドレスが登録されます。



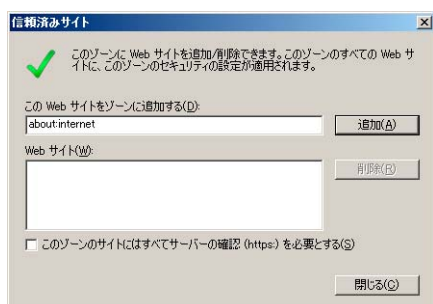
- IPアドレスの入力にワイルドカード (*) を使用することで、複数のカメラのIPアドレスを登録できます。
たとえば、「192.160.1.*」と入力すると、「192.160.1」部分が共通のカメラが、すべて信頼済みサイトに登録されます。

Windows Server使用時の設定

■ “about:internet” と、カメラのホスト名の登録

Windows Server 2008/Windows Server 2012 では、IEESC (Internet Explorerのセキュリティ強化の構成) が有効になっている場合は、管理者ビューワーおよび管理ツールを起動できません。

事前に、Internet Explorerの「ローカル イン트라ネット」または「信頼済みサイト」に、“about:internet”と、接続先カメラのホスト名を登録してください。



重要

“about:internet”を登録すると、Windows 7などでInternet Explorerを使用する場合と同等のセキュリティレベルとなります。管理者ビューワー、管理ツールの使用後は、必要に応じて“about:internet”とカメラ名の登録を解除し、元のセキュリティレベルに戻すことをお勧めします。

■ SSL接続時のセキュリティ設定

Windows Server 2008/Windows Server 2012でWebブラウザ (Internet Explorer 9/10/11) からカメラにSSL接続した場合、次の操作をするとコンテンツブロックのダイアログが表示され、実行できないことがあります。

- 管理ツールまたは管理者ビューワーの起動
- VBビューワーからの音声受信

これらはInternet Explorer 9/10/11のセキュリティ強化の構成 (IE ESC) が有効に設定されている場合に発生します。次の手順で設定を変更することで回避できます。

1 Internet Explorer 9/10/11の [ツール] メニュー > [インターネット オプション] をクリックする

2 [詳細設定]タブをクリックする

3 [セキュリティ] の [暗号化されたページをディスクに保存しない] のチェックを外す

重要

Internet Explorerのセキュリティ強化の構成を変更して有効にした場合、上記の [暗号化されたページをディスクに保存しない] チェックボックスも再び有効になりますので、ご注意ください。

■ 音声機能を使用するためのサウンドの設定

Windows Server 2008/Windows Server 2012の初期設定では、サウンド機能が無効に設定されています。ビューワーで音声機能を使用するには、次の手順でサウンド機能を有効にしてください。

1 [コントロール パネル] の [ハードウェア] をクリックする

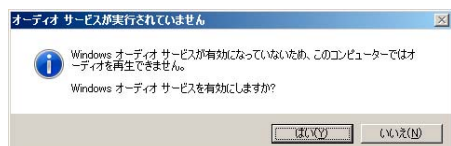


2 [サウンド] をクリックする



[オーディオ サービスが実行されていません] というメッセージが表示されます。

3 [はい] をクリックする



[サウンド] ダイアログが表示されます。

4 [再生] タブで、オーディオデバイスがインストールされていることを確認する

オーディオデバイスがインストールされていない場合はご使用のPCの使用説明書をご確認ください。

カメラを初期設定する

カメラを使用するには、最初にカメラのネットワーク設定を行い、PCとカメラをネットワーク経由で接続する必要があります。この設定には、カメラマネジメントツールを使用します。

ここでは、ネットワーク設定のほか、カメラ名や日付/時刻の設定など、カメラマネジメントツールを使ってカメラを初期設定する方法を説明します。

メモ

- カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- ここでの設定した内容は、設定ページ (P. 57) の設定に反映されます。

カメラマネジメントツールを起動する

セットアップCD-ROMからPCにインストールしたカメラマネジメントツールを起動します。

1 カメラとPCをネットワークに接続し、電源を入れる

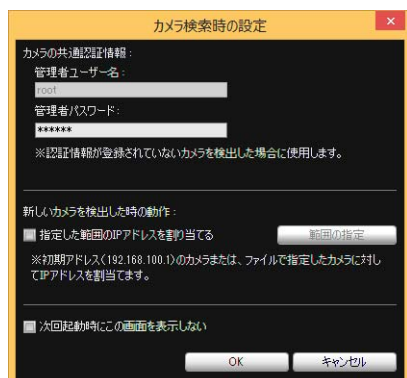
→『設置ガイド』の「カメラを接続する」を参照してください。

2 デスクトップ上の [カメラマネジメントツール] のアイコンをダブルクリックする



カメラマネジメントツールが起動し、[カメラ検索時の設定] ダイアログが表示されます。

3 [管理者パスワード] に工場出荷時のパスワードを入力し、[OK]をクリックする



カメラマネジメントツールのメイン画面が表示されます。

カメラを検出してネットワークの設定をする

ネットワークに接続されているカメラを検索し、PCから接続できるように、ネットワークを設定します。

例として、ここでは1台のカメラを設定します。カメラマネジメントツールでは、複数のカメラをまとめて設定することもできます。

1 [カメラの検索] アイコンをクリックする



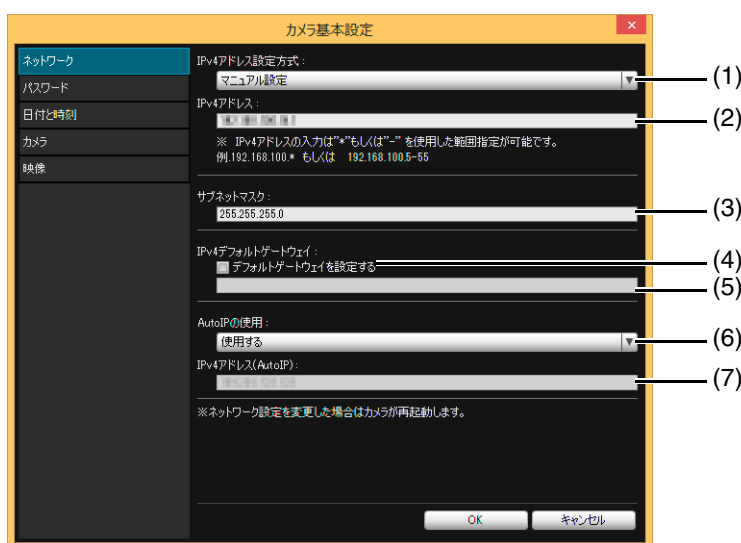
2 カメラ一覧に、検出したカメラが表示されます。

3 カメラ一覧でカメラを選択し、[カメラ基本設定] アイコンをクリックする



[カメラ基本設定] ダイアログが表示されます。

4 [ネットワーク] の各項目を設定する



(1) [IPv4アドレス設定方式]

IPv4アドレスの設定方式を選択します。

[マニュアル設定] を選択した場合は、使用する環境に合わせた値を直接入力してください。

[自動設定(DHCP)] を選択した場合は、[IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイ] に、DHCPサーバーから自動的に取得した値が適用されます。

(2) [IPv4アドレス]

[IPv4アドレス設定方式] で [マニュアル設定] を選択した場合、固定のIPv4アドレスを入力します。

(3) [サブネットマスク]

[IPv4アドレス設定方式] で [マニュアル設定] を選択した場合、ネットワークごとに指定されたサブネットマスク値を入力します。

(4) [デフォルトゲートウェイを設定する]

デフォルトゲートウェイを設定する場合にチェックします。

(5) [IPv4デフォルトゲートウェイ]

[IPv4アドレス設定方式] で [マニュアル設定] を選択し、カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

(6) [AutoIPの使用]

AutoIPの使用の有無を選択します。

(7) [IPv4アドレス(AutoIP)]

[AutoIPの使用] で [使用する] を選択した場合、自動的に設定されたIPv4アドレスが表示されます。

5 [OK] をクリックする

カメラが再起動し、設定が反映されます。

[OK] をクリックすると、[カメラ基本設定] のその他の設定([パスワード]、[日付と時刻]、[カメラ]、[映像])も反映されます。

パスワード、日付と時刻、カメラ名、映像を設定する

カメラ名や管理者パスワード、日付など、カメラの基本情報を設定します。

各項目を入力した後は、[OK] をクリックしてください。

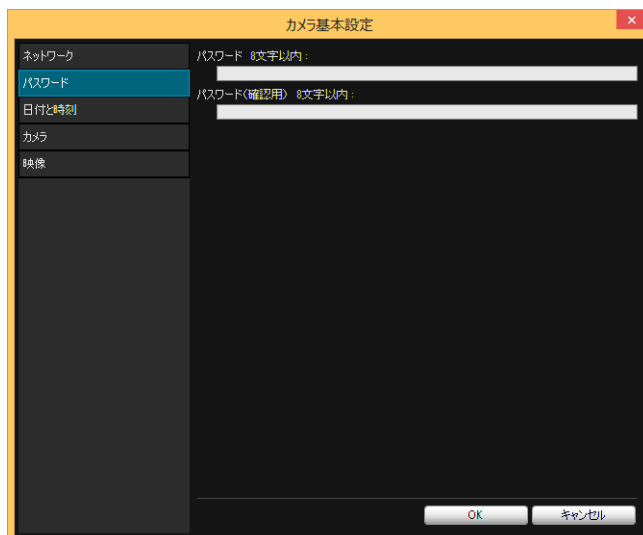
■ パスワードの設定

[パスワード] をクリックし、管理者パスワードを設定します。



重要

システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは必ず変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。



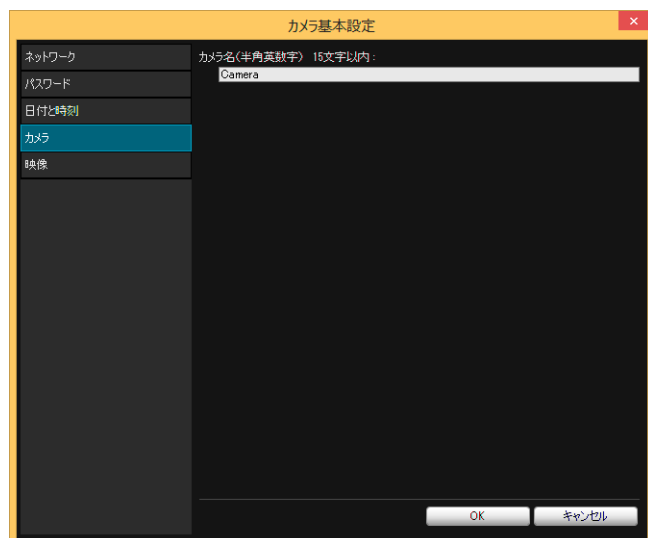
■ 日付と時刻の設定

[日付と時刻] をクリックし、カメラの日付と時刻の設定方法、タイムゾーン、サマータイムなどを設定します。各設定の詳細は、「日付/時刻を設定する」の「設定」(P. 68)を参照してください。



■ カメラ名の設定

[カメラ] をクリックし、ビューワーなどに表示されるカメラ名を設定します。設定の詳細は、「カメラの制御全般を設定する」の「カメラ名」(P. 74)を参照してください。



映像の設定

[映像] をクリックし、カメラから送信する映像のサイズや品質を設定します。

設定の詳細は、「映像のサイズや品質を設定する [基本設定] > [映像設定]」(P. 71)を参照してください。



信頼済みサイトに登録する

Internet Explorer 9以降およびWindows Server 2008/Windows Server 2012では、Internet Explorerにおけるインターネットサイトとイントラネットサイトのセキュリティレベルが、初期設定で [高] に設定されています。

そのため、管理者ビューワー/VBビューワー、設定ページ、管理ツールにアクセスするには、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに登録しておく必要があります。

- 1 カメラ一覧でカメラを選択する
- 2 [メンテナンス] メニュー > [信頼済みサイトへの追加] をクリックする



確認のメッセージが表示されます。

- 3 [OK] をクリックする

Internet Explorerの信頼済みサイトに登録されます。

メモ

登録した内容は、Internet Explorerの起動時に読み込まれます。Internet Explorerを起動している場合は、再起動してください。

カメラのトップページにアクセスして映像を確認する

カメラの設置・初期設定の終了後、カメラマネジメントツールを使ってカメラにアクセスし、映像が正しく表示されるか確認します。

カメラマネジメントツールからトップページにアクセスする

カメラマネジメントツールを使用して、カメラのトップページを表示できます。

1 カメラマネジメントツールを起動する(P. 34)

2 カメラ一覧で、トップページを表示するカメラのIPv4アドレスをダブルクリックする



Webブラウザが起動し、カメラのトップページが表示されます。

メモ

- [接続状態] が [接続不可] のカメラは、Webブラウザが起動しません。
- カメラマネジメントツールで設定したIPアドレス (P. 35) を、Webブラウザに直接入力しても、カメラのトップページが表示されます。
- トップページが表示されないときは、「トラブルシューティング」(P. 258)を参照してください。

トップページについて

カメラのトップページからは、カメラの詳細設定を行う設定ページへの移動、管理ツールの起動、映像を表示するためのビューワーの表示ができます。



(1) 言語切り換えボタン

表示言語を切り換える場合にクリックします。

(2) [設定ページ]

設定ページを表示します (P. 58)。

カメラの初期設定や使用状況に合わせた各種設定を行えます。

(3) [管理ツール]

管理ツールのトップページを表示します (P. 195)。

カメラの動作などを設定する各種ツールや、記録映像を管理するユーティリティを起動できます。

(4) [管理者ビューワー]

管理者ビューワーを起動します (P. 41)。

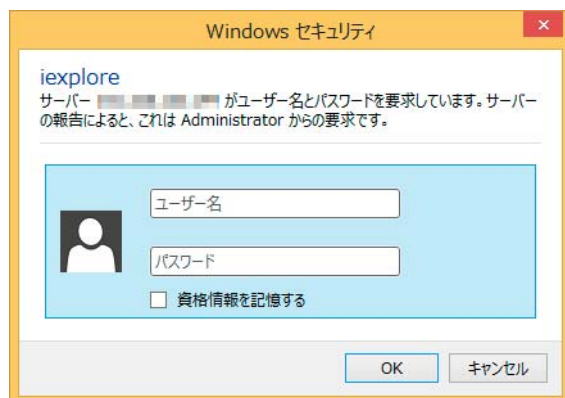
(5) [VBビューワー]

VBビューワーを起動します (P. 41)。

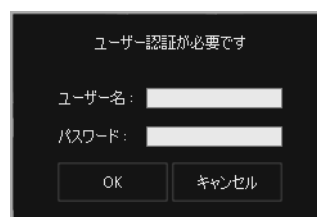
■ ユーザー認証について

設定ページ、管理ツール、管理者ビューワーを使用する際は、認証画面が表示され、ユーザー名とパスワードの入力を求められます。

ユーザー名またはパスワードの入力を間違えると、カメラへの接続ができません。正しいユーザー名およびパスワードを入力して接続してください。



設定ページの認証画面



管理ツール/管理者ビューワーの認証画面

工場出荷設定のユーザー名とパスワードは次のとおりです。

ユーザー名: root

パスワード: お客様相談センターにお問い合わせください。

ユーザー名「root」は、カメラの管理者アカウントです。

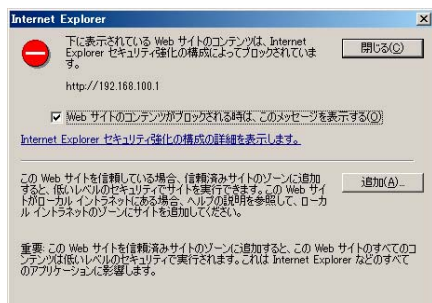
重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは必ず変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、工場出荷設定に戻してください (P. 273)。ただし、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。
- 管理者アカウントでカメラに接続した場合、他のPCからは管理者権限では接続できません。
- 同じPCを管理者と登録ユーザーが共有してVBビューワーを使用する場合には、[資格情報を記憶する]のチェックを入れないことを強くお勧めします。
- 管理ツールと管理者ビューワーは、IPv6アドレス指定では使用できません。IPv6接続はホスト名指定にのみ対応します。

メモ

- 設定ページと管理ツールは、管理者のみ接続できます。

- 管理者ビューワーは、特権カメラ制御権限が与えられた登録ユーザーも接続できます。登録ユーザーのユーザー権限は、設定ページの [セキュリティ] > [ユーザーアクセス制限] > [ユーザー権限] (P. 118) で設定できます。
- Internet Explorer 9以降およびWindows Server 2008/Windows Server 2012でカメラを操作する場合、Internet Explorerのセキュリティ設定により、設定ページや管理ツール、ビューワーにアクセスすると、コンテンツブロックのダイアログが表示されることがあります。その場合は、[追加] をクリックして、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに登録してください。



カメラの映像を確認する

カメラの映像をビューワーで確認します。VBビューワーと管理者ビューワーがあります。

ここでは、映像確認のために、ビューワーの起動についてのみ説明します。各ビューワーの操作方法については、「管理者ビューワー / VBビューワー」(P. 137) を参照してください。

メモ

ビューワーの起動時に、コンテンツブロックのダイアログが表示された場合は、ダイアログの [追加] をクリックして、カメラのIPアドレスを信頼済みサイトに登録してください。

■ VBビューワーで映像を見る

VBビューワーは、カメラにアクセスできるユーザーなら誰でも使用できるビューワーです。ただし、使用できるカメラの機能は限定されます。

トップページの [VB ビューワー] をクリックすると、VB ビューワーが起動して、カメラの映像が表示されます。



■ 管理者ビューワーで映像を見る

管理者ビューワーは、管理者と特権カメラ制御権を付与された登録ユーザーのみが使用できるビューワーです。カメラのすべての制御が行えます。

1 トップページの [管理者ビューワー] をクリックする

ユーザー認証の画面が表示されます。

2 ユーザー名とパスワード (P. 40) を入力し、[OK] をクリックする

ユーザー認証が必要です

ユーザー名:

パスワード:

OK

キャンセル

管理者ビューワーが起動して、カメラの映像が表示されます。



3章



カメラアングル設定ツール

M641 M640 M741 M740

カメラの設置後、カメラアングル設定ツールでカメラに接続し、表示される映像を見ながらカメラアングルやフォーカス、露出などを設定します。

カメラアングル設定ツールを起動してカメラに接続する

カメラアングル設定ツールは、PCの映像を確認しながらカメラアングルやフォーカスなどを設定するツールです。カメラの設置時や設置場所の変更後などの、カメラの調整に使用します。カメラアングル設定ツールで設定できる主な内容は、次のとおりです。

M641 M640

パン、チルト、ローテーション、ズーム、フォーカス、映像反転

M741 M740

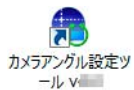
ズーム、フォーカス、映像反転

重要

- カメラアングル設定ツールは、カメラ設置調整用として同梱しており、日常的な利用は想定していません。多用するとカメラが故障する原因になります。
- カメラアングル設定ツールを使って設定を変更した後は、設定ページと管理ツールでの設定が意図したとおりに動作するか、確認してください。
- カメラアングル設定ツールは、プロキシサーバー経由では使用できません。
- カメラアングル設定ツール接続中は、アップロード機能を使用できません。

カメラアングル設定ツールを起動する

デスクトップ上の [カメラアングル設定ツール] のアイコンをダブルクリックすると、カメラアングル設定ツールが起動します。



メモ

カメラアングル設定ツールは、カメラマネジメントツールから起動することもできます。詳細は、「カメラマネジメントツール 使用説明書」を参照してください。

カメラに接続する

カメラアングル設定ツールから、アングルを設定するカメラに接続します。

重要

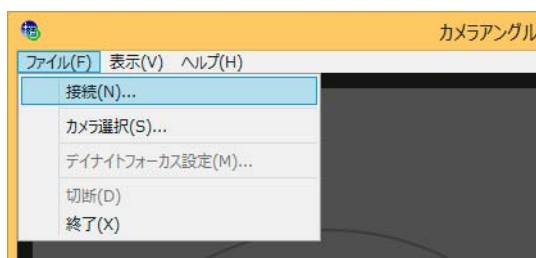
- 1つのカメラに接続可能な時間は 30分までに制限されています。30分経過すると自動的に切断されますので、カメラアングルの設定が完了していない場合は、再度接続してください。
- 複数のPCからカメラアングル設定ツールを使って1つのカメラに同時に接続することはできません。

カメラに接続する方法には、次の2つがあります。

- カメラの情報を指定する
- カメラ指定ファイルを使用する (P. 55)

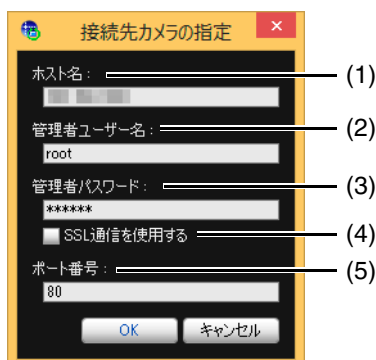
■ カメラの情報を指定して接続する

1 [ファイル] メニューの [接続] をクリックする



[接続先カメラの指定] ダイアログが表示されます。

2 接続先カメラの各項目を入力する



(1) [ホスト名]

カメラのホスト名またはIPアドレスを入力します (P. 35)。

(2) [管理者ユーザー名]

カメラの管理者ユーザー名を入力します (P. 40)。

(3) [管理者パスワード]

カメラの管理者パスワードを入力します (P. 40)。

(4) [SSL通信を使用する]

SSL通信でカメラに接続する場合にチェックします。

通常は、SSL通信を使用しない設定 (工場出荷設定) でかまいません (P. 123)。

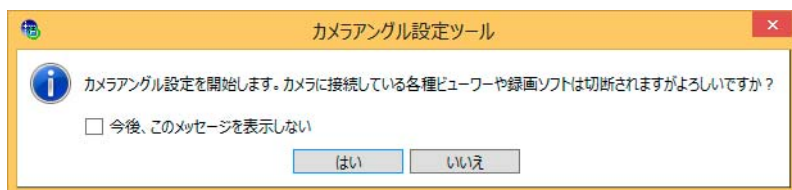
(5) [ポート番号]

カメラのHTTPポート番号を、80、443、1024～65535の範囲で設定します。

通常は、[80] (工場出荷設定) を使用してください (P. 89)。

3 [OK] をクリックする

確認のメッセージが表示されます。



メモ

カメラアングル設定ツールでカメラに接続すると、そのカメラにRTP以外で接続しているビューワーや録画ソフトは切断されます。

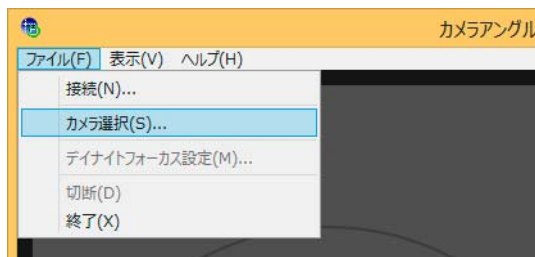
4 [はい] をクリックする

カメラに接続され、カメラのライブ映像が表示されます。

■ カメラ指定ファイルを使用して接続する

カメラの情報を記述したカメラ指定ファイル (P. 55) を読み込んで、カメラに接続できます。

1 [ファイル] メニューの [カメラ選択] をクリックする

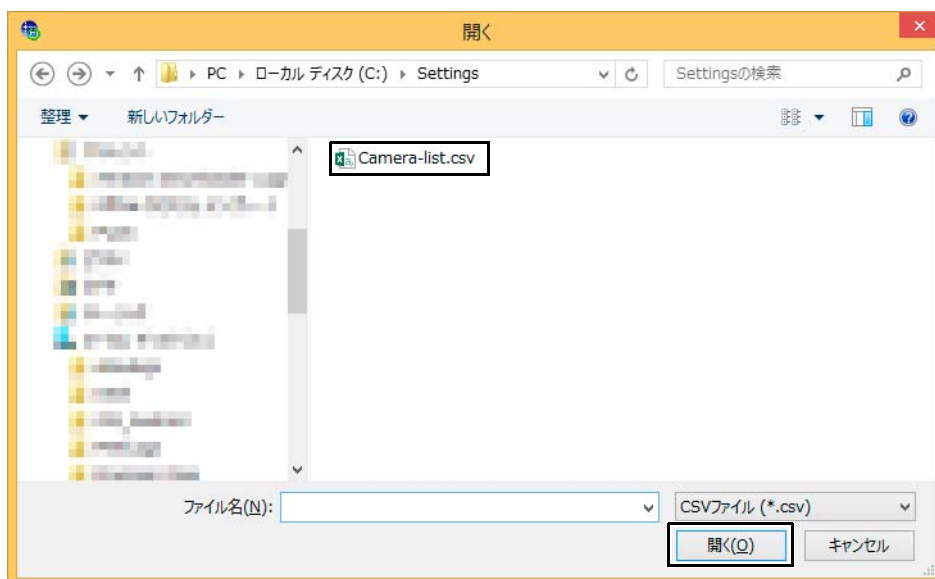


[カメラ選択] ダイアログが表示されます。

2 [カメラ指定ファイルの読み込み] をクリックする



3 カメラ指定ファイルを選択し、[開く] をクリックする



カメラ指定ファイルが読み込まれ、[カメラリスト] にカメラ名が表示されます。

4 接続するカメラをカメラリストから選択し、[接続] をクリックする



カメラに接続します。

■ 次のカメラに接続するには

カメラアングルを設定後、次のカメラに接続する場合は、[次へ] をクリックします。接続中のカメラが切断され、リスト上の次のカメラに接続します。



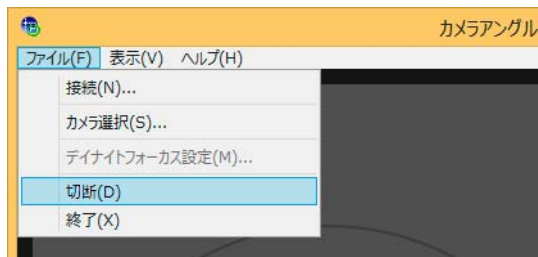
メモ

- [カメラ選択] ダイアログは、カメラアングル設定ツールを終了するか、ダイアログ右上の X をクリックしない限り、常に表示されます。
- カメラリストは、カメラアングル設定ツールを終了した時点で破棄されます。次回カメラアングル設定ツール起動時に、カメラ指定ファイルの読み込みを行ってください。

カメラとの接続を切断して終了する

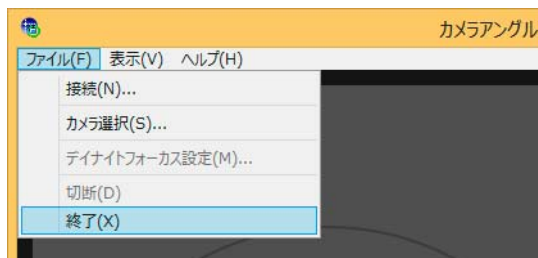
カメラアングルの設定が終了した際は、次の手順でカメラとの接続を切断し、カメラアングル設定ツールを終了します。この手順を実行せずにカメラの電源を入/切すると、カメラアングルの設定値は保存されませんのでご注意ください。

1 [ファイル] メニューの [切断] をクリックする



接続中のカメラとの接続が切断されます。

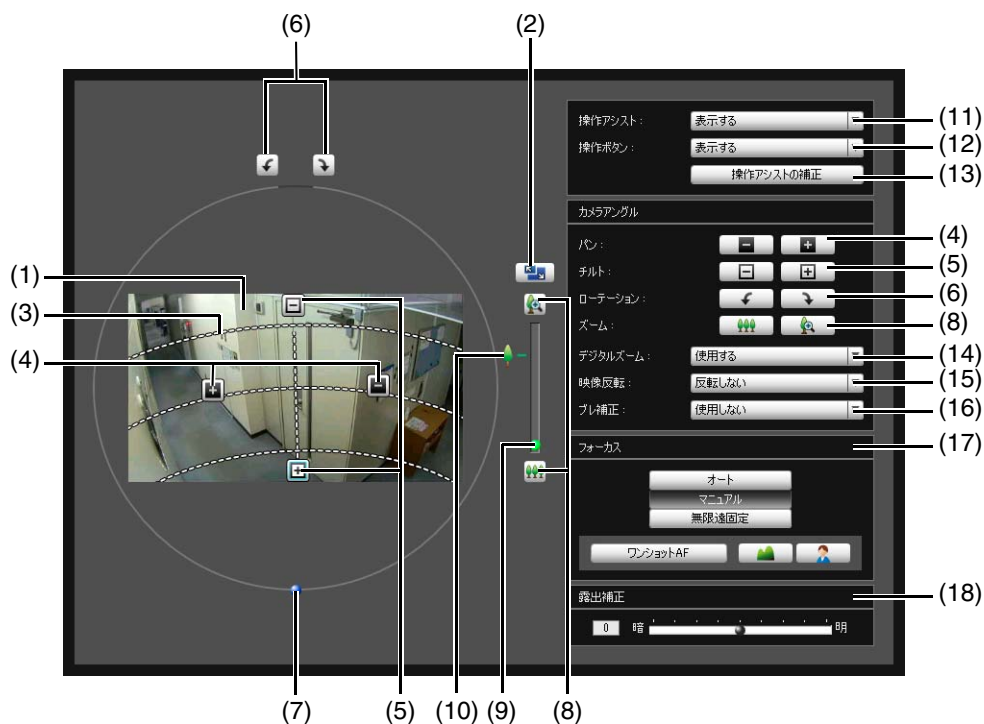
2 [ファイル] メニューの [終了] をクリックする



カメラアングル設定ツールが閉じます。

カメラアングル設定ツールの画面構成

M641 M640



M741 M740



(1) 映像表示部

カメラの映像を表示します。

(2) [画面サイズ切り換え] ボタン

カメラアングル設定ツールの画面サイズを、小画面または大画面に切り換えます。

画面サイズは、[表示] メニューの [表示画面サイズ] で選択できます。

(3) **操作アシスト** **M641** **M640**

パン操作とチルト操作が可能な範囲を点線で示します。

(4) **[パン] ボタン** **M641** **M640**

カメラのパンを操作します。

(5) **[チルト] ボタン** **M641** **M640**

カメラのチルトを操作します。

(6) **[ローテーション] ボタン** **M641** **M640**

カメラのローテーションを操作します。

(7) **[ローテーション] スライダー** **M641** **M640**

スライダー上をクリックするか、つまみをドラッグして、カメラのローテーションを操作します。

(8) **[ズーム] ボタン**

カメラのズームを操作します。

(9) **[ズーム] スライダー**

スライダー上をクリックするか、つまみをドラッグして、ズームを操作します。

(10) **光学テレ端アイコン**

[デジタルズーム] が [使用する] の場合に表示されます。このアイコンより上につまみをドラッグすると、デジタルズームになります。

(11) **[操作アシスト] 選択ボックス** **M641** **M640**

操作アシストの映像表示部への表示/非表示を選択します。

(12) **[操作ボタン] 選択ボックス** **M641** **M640**

[パン] ボタンと [チルト] ボタンの映像表示部への表示/非表示を選択します。

(13) **[操作アシストの補正] ボタン** **M641** **M640**

操作アシストの表示が実際のカメラアングルと一致しない場合にクリックすると、実際のカメラアングルを確認する動作が行われ、操作アシストの表示位置が自動的に補正されます。

操作アシストの補正には、1分程度かかります。

(14) **[デジタルズーム]**

デジタルズームを使用/不使用を選択します。

[使用する] にすると、ズームスライダーにデジタルズーム領域が表示され、デジタルズーム操作が可能となります。

デジタルズームは、倍率が高くなるに従い画質が低下します。

(15) **[映像反転] 選択ボックス**

カメラの映像の向きを選択します。

[反転する] にすると、映像を180度回転して表示します。

(16) **[ブレ補正]**

カメラの振動による映像のブレを軽減させる機能を選択します。

[On1] を選択してブレが残る場合は、[On2] を試してください。

ブレ補正の使用時は、使用しない場合と比べて画角が狭くなり、映像も粗くなりますが異常ではありません。



重 要

- ブレ補正は、被写体ブレには効果がありません。
- ブレ補正は、一定の範囲を越えた振動や、瞬間的な振動には対応できません。
- [On2] を選択した場合は、[640x480] 以下の映像受信サイズの選択をお勧めします。
- ブレ補正を使用する場合は、次の各「重要」を参照してください。
 - 可視範囲設定ツールの「重要」(P. 210)
 - ビューワー使用時の「重要」(P. 143)
 - プリセット設定の「重要」(P. 171)

(17) [フォーカス]

フォーカス进行操作します (P. 53)。

(18) [露出補正] スライダー

被写体の明るさに合わせて、露出を補正します (P. 54)。

カメラアングルを設定する

カメラに接続後、映像を見ながらアングルやズームなどを設定します。

重要

すでにインテリジェント機能の検知領域やプライバシーマスク、プリセットを設定しているカメラを、アングルカメラアングル設定ツールで設定し直した場合、上記の設定をやり直す必要があります。

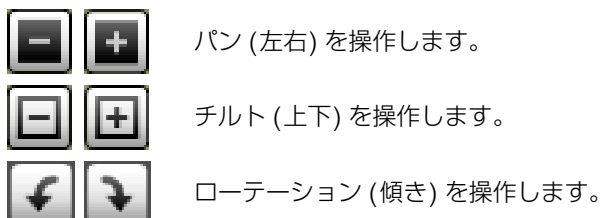
アングルとズームを設定する

映像表示部やボタンを操作して、アングルやズームを設定します。

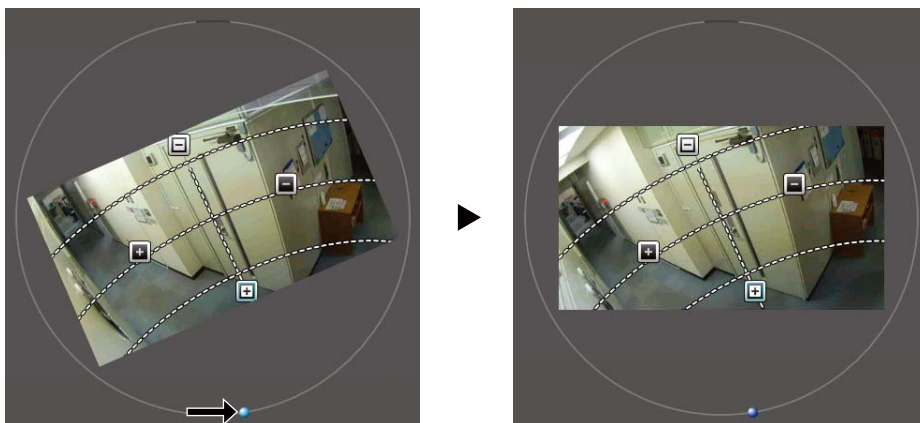
■ 操作ボタンとスライダーで設定する

M641 M640

[パン]、[チルト]、[ローテーション] の各ボタンで、カメラアングルを設定します。
ボタンを押している間、その方向にカメラアングルが変わり、ボタンを放すと停止します。



[ローテーション] スライダーで傾きを操作する場合は、スライダーをドラッグし、映像内の被写体が水平になる角度でマウスボタンを放します。



■ 映像をクリックして設定する

M641 M640

映像表示部で、映像の任意の位置をクリックすると、その位置が画面の中心になるように、カメラアングルが移動します。

ただし、クリックした位置が、パンまたはチルトの範囲を超える場合、パンまたはチルトのいずれかが移動可能な範囲だけが移動します。

メモ

カメラが操作と異なる動きをする場合や、操作アシストで示されている範囲まで設定できない場合は、操作アシストが実際のカメラアングルと一致していない可能性があります。その場合は、[操作アシストの補正] をクリックして補正してから、再度カメラアングルを設定してください。

■ カメラのズーム倍率を変更する

カメラのズーム倍率は、[ズーム] ボタン、または [ズーム] スライダーで設定します。
[ズーム] ボタンを押し続けると動作し、放すと停止します。



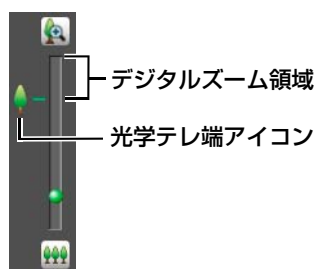
ズームインします。



ズームアウトします。

スライダーをドラッグすると、スライダーの位置に合わせてカメラのズーム倍率が変わります。
[デジタルズーム] を [使用する] にすると、光学テレ端アイコンとデジタルズーム領域が表示され、デジタルズームが可能になります。

ただし、デジタルズームは、倍率が高くなるに従って画質が低下します。



フォーカスと露出補正を設定する

被写体にフォーカスを合わせます。また、被写体の明るさに合わせて露出を補正します。

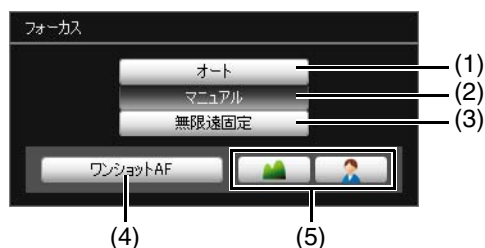


メモ

カメラアングル設定ツールで設定した露出補正值は、カメラを再起動するとリセットされます。

■ フォーカスを設定する

フォーカスは、自動またはマニュアル操作で被写体に合わせるか、無限遠に固定します。マニュアル操作の場合は、ワンショットAF機能を使用して被写体にフォーカスを合わせることができます。



(1) [オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

(2) [マニュアル]

(4)、(5) のボタンを使用して、マニュアルでフォーカスを調節します。

(3) [無限遠固定]

無限遠近傍にフォーカスを固定します。

(4) [ワンショットAF]

フォーカスモードが [マニュアル] の場合に使用します。クリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後、マニュアルモードになります。

(5) 遠・近ボタン

フォーカスモードが [マニュアル] の場合に、フォーカスを調節します。

ボタンを押し続けるとフォーカスが動き、放すと停止します。



遠くに合わせます。



近くに合わせます。

メモ

- 次のような被写体は、[オート]や[ワンショットAF]ではフォーカスが合いにくいことがあります。

フォーカスが合いにくい被写体



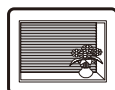
白い壁など明暗の差がないもの



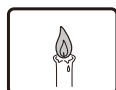
斜めになって
いるもの



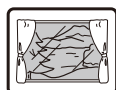
強い光が反射
しているもの



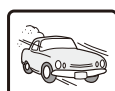
斜め線や横縞
のみのもの



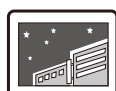
炎や煙など実
体のないもの



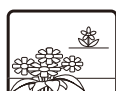
ガラス越しの
もの



動きが速いもの



暗いところや
夜景



遠くと近くに
同時にある

- カメラの再起動後、またはワンショットAF後は、フォーカスが合っているか確認することをお勧めします。
- フォーカスの合う範囲 (目安) は次の表のとおりです。

フォーカスモード	デイナイト設定	
	デイモード	ナイトモード
オート/マニュアル	0.3 m～∞	0.3 m～∞
無限遠固定	無限遠近傍*	

* 外部機器による赤外照明を使用すると、フォーカスが合わなくなる場合があります。

露出補正を設定する

映像の明るさを設定します。



カメラ指定ファイルを使用する

カメラに接続するための情報を記述したカメラ指定ファイルをあらかじめ作成し、カメラアングル設定ツールで読み込めば、リスト上のカメラを指定するだけで、カメラに接続できます。

複数のカメラのアングルを設定する場合に、ホスト名やパスワードなどを1台ずつ入力する手間を省けます。



重要

カメラ指定ファイルには、管理者パスワードをそのまま記述します。取り扱いには十分ご注意ください。

カメラ指定ファイルを作成する

カメラ指定ファイルは、テキストエディターなどで作成し、csv形式ファイルとして保存します。



重要

カメラ指定ファイルに記述できるカメラの台数は、最大30台です。31台以上のカメラを記述すると、カメラアングル設定ツールでの読み込み時にエラーになります。

■ カメラ指定ファイルの記述内容

カメラ指定ファイルは、次の構成で記述します。

ヘッダー行 →	RegisterName	HostName	PortNumber	UserName	Password	ConnectType
各カメラの 情報(最大 30台)	B1F VB-M641VE	192.168.100.1	80	root	*****	0
	1Fa VB-M640VE	192.168.100.2	80	root	*****	0
	1Fb VB-M641V	192.168.100.3	80	root	*****	0
	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮

1行目は、ヘッダー行として各列のタイトルを記述します。

2行目以降に、1行につき1台のカメラの情報を記述します。

各列の記載内容は、次のとおりです。

ヘッダー行のタイトル	列の記述内容
RegisterName	任意のカメラ名を入力します。接続時にカメラリストに表示されます。
HostName	カメラのホスト名またはIPアドレス
PortNumber	カメラのHTTPポート番号 (工場出荷設定は80)
UserName	カメラの管理者ユーザー名 (工場出荷設定はroot)
Password	カメラの管理者パスワード
ConnectType	SSL通信を使用する：1 使用しない：0 (工場出荷設定は0)

■ テキストエディターでの入力例

各項目をカンマで区切って入力します。拡張子を「.csv」にして保存してください。

```
RegisterName,HostName,PortNumber,UserName>Password,ConnectType
B1F VB-M641VE,192.168.100.1,80,root,*****,0
1Fa VB-M640VE,192.168.100.2,80,root,*****,0
1Fb VB-M641V,192.168.100.3,80,root,*****,0
2Fa VB-M641V,192.168.100.4,80,root,*****,0
2Fb VB-M641V,192.168.100.5,80,root,*****,0
3Fa VB-M741LE,192.168.100.6,80,root,*****,0
R VB-M740E,192.168.100.7,443,root,*****,0
```



重要

記述内容がセミicolonなどカンマ以外で区切られている場合は、カメラアングル設定ツールでの読み込みはできません。

4章



設定ページ

設定ページでは、カメラの設置後に必要なネットワークや映像設定、セキュリティなどの基本設定から、使用状況に合わせたカメラの各種設定を行います。

また、カメラのメンテナンスを行うメニューも用意されています。

設定ページの使いかた

設定ページを表示するまでの操作と、設定ページの共通操作について設定します。

設定ページにアクセスする

設定ページは、Web ブラウザーからカメラのトップページにアクセスして表示します。

1 カメラのトップページを起動し、[設定ページ] をクリックする(P. 39)

ユーザー認証のための画面が表示されます。

2 ユーザー名とパスワード (P. 40) を入力し、[OK] をクリックする

設定メニューが表示されます。

メモ

設定ページは、カメラマネジメントツールからアクセスすることもできます。詳細は、「カメラマネジメントツール 使用説明書」を参照してください。

■ 設定メニューについて



(1) [管理者ビューワーへ]

クリックすると管理者ビューワーに移動します。

(2) [トップページへ]

クリックするとカメラのトップページに移動します。

(3) 設定メニュー

クリックすると、[メモリーカード]、[メンテナンス]、[ユーザーページ] 以外のメニューでは、サブメニュー (P. 61)が表示されます。サブメニューをクリックして、各設定ページに移動します。

重要

- セキュリティを確保するため、設定ページによる設定の完了後、および管理者ビューワー、管理ツールの使用後は、Web ブラウザーを終了してください。
- 1つのカメラに対しては、同時に複数の設定ページを開いて変更操作を行わないでください。

設定ページ共通の操作

設定ページの基本的な操作と、各設定ページで共通な操作について説明します。

■ 設定変更の適用について

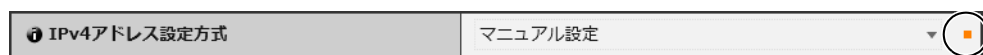
各設定ページ内で設定を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、グレースアウトから青色に変わります。



この状態で [適用] をクリックすると、変更した設定が適用されます。
[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。

■ 再起動が必要な設定変更

変更した設定を適用するために、カメラを再起動させる必要がある設定項目には、右端にオレンジの記号が付いています。



オレンジの記号がある項目を変更すると、設定ページ右上および右下に表示されている [適用] が、[適用して再起動] に変わります。



[適用して再起動] をクリックすると、変更内容が適用され、カメラが再起動します。
[クリア] をクリックすると、変更する前の設定に戻ります。



重要

[適用] または [適用して再起動] をクリックせずに別の設定ページへ移動すると、変更内容が失われてしまいます。変更内容を適用するには、必ず [適用] または [適用して再起動] をクリックしてください。

■ 設定メニューに戻る

各設定ページから設定メニューに戻る場合は、右上に表示されている [設定メニューへ] をクリックします。



重要

Webブラウザの [戻る]・[進む] ボタンによる設定ページの移動は行わないでください。変更した設定が元に戻ってしまうことや、意図しない変更が適用されてしまう可能性があります。

■ ヘルプについて

設定項目先頭にある ⓘ [Help] をクリックすると、設定項目の詳細説明が表示されます。

■ 設定範囲や文字数の制限について

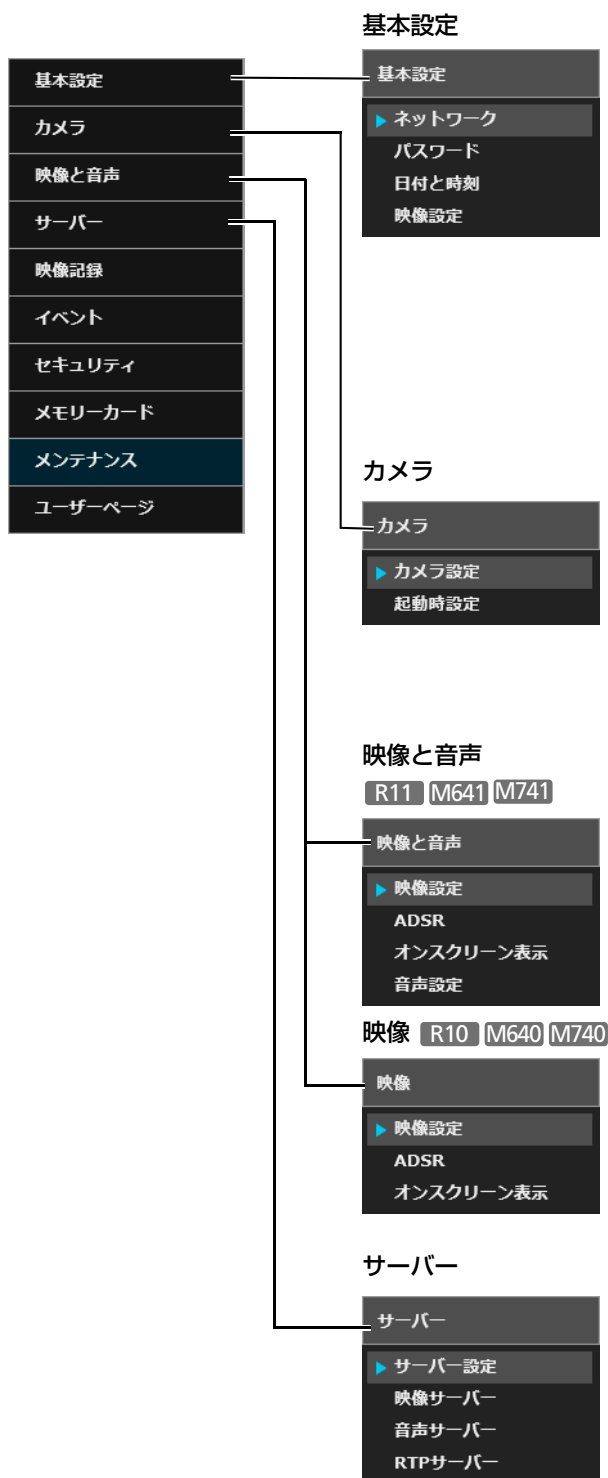
数値入力や文字入力を行う設定項目には、設定可能範囲や文字数の制限が表示されています。
表示されている範囲内で入力してください。

最大バケットサイズ	576~1500	パスワード	8文字以内
-----------	----------	-------	-------

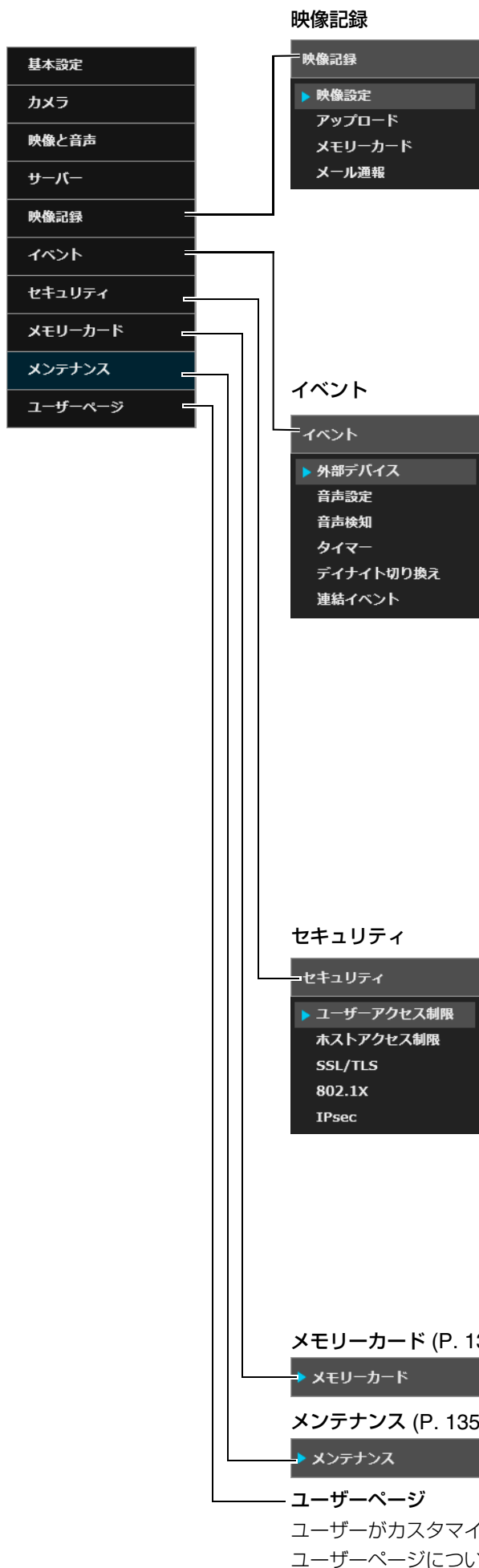
各設定ページについて

設定メニューの各項目の概要と、それぞれのサブメニューの一覧を紹介します。

なお、[基本設定]、[映像と音声]または[映像]、[映像記録]の各メニューには、それぞれ [映像設定] サブメニューがありますが、機能はすべて共通です。どのメニューからの操作でも、機能を設定でき、すべての [映像設定] サブメニューに設定が反映されます。



- **ネットワーク (P. 63)**
カメラを接続するネットワークについて設定します。
- **パスワード (P. 67)**
管理者が使用するパスワードを、工場出荷時のものから変更します。
- **日付と時刻 (P. 68)**
カメラの日付と時刻に関して設定します。
- **映像設定 (P. 71)**
カメラから送信する映像のサイズや品質など、映像の全般的な設定をします。
- **カメラ設定 (P. 74)**
カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置について設定します。
- **起動時設定 (P. 79)**
カメラ起動時の画質補正などの初期値を設定します。
- **映像設定 (P. 71)**
- **ADSR (P. 82)**
ADSRとはArea-specific Data Size Reductionの略です。
指定領域以外の映像品質を下げて、H.264映像の送信データ量を低減できます。
- **オンスクリーン表示 (P. 85)**
ビューワー上に、日付や時刻、カメラ名、任意の文字列を表示します。
- **音声設定 (P. 87) R11 M641 M741**
カメラに接続したマイクからの入力音声や、ビューワーからの出力音声について設定します。
- **サーバー設定 (P. 89)**
HTTPサーバー、SNMPサーバー、FTPサーバーの使用と、WS-Securityの時刻チェックについて設定します。
- **映像サーバー (P. 91)**
映像サーバーに接続できるクライアントについて設定します。
- **音声サーバー (P. 92) R11 M641 M741**
カメラからPCへの音声送信と、PCからカメラへの音声受信について設定します。
- **RTPサーバー (P. 93)**
RTPを使用した配信について設定します。



- **映像設定 (P. 71)**
- **アップロード (P. 96)**
イベントの発生時に、HTTPまたはFTPで映像をアップロードするための設定を行います。
- **メモリーカード (P. 101)**
イベントの発生時に、映像をメモリーカードに記録するための設定を行います。
この項目の内容は、下記の [メモリーカード] メニューと同じです。どちらで操作しても、設定できます。
- **メール通報 (P. 102)**
イベント発生時に、指定した宛先にメールを送信して通報するための設定を行います。
- **外部デバイス (P. 104) R11 M641 M741**
外部デバイス出力の動作と、外部デバイスからの入力イベントで実行する動作について設定します。
- **音声設定 (P. 87) R11 M641 M741**
この項目の内容は、[映像と音声] > [音声設定] と同じです。
- **音声検知 (P. 107) R11 M641 M741**
カメラに接続したマイクへの入力音声の変化を検知して、映像記録やメール通報などの動作を実行できます。
- **タイマー (P. 110)**
タイマー機能を使用してイベントを発生させ、映像記録やメール通報などの動作を一定間隔で実行できます。
- **デイナイト切り換え (P. 112)**
イベントによってデイモードとナイトモードが切り換えられるタイミングで、カメラアングルをプリセット位置に移動させることができます。
- **連結イベント (P. 113) R11 M641 M741**
2種類のイベントを組み合わせ、1つのイベントを発生させます。
- **ユーザーアクセス制限 (P. 118)**
管理者ビューワーにアクセスできる登録ユーザーの新規追加と、ユーザーの権限設定を行います。
- **ホストアクセス制限 (P. 119)**
IPv4、IPv6のそれぞれのアドレスからのアクセスに対して、個別にアクセス制御を行うことができます。
- **SSL/TLS (P. 121)**
証明書の作成および管理、暗号化通信について設定します。
- **802.1X (P. 124)**
802.1X認証の設定と認証状態の表示、証明書の管理を行います。
- **IPsec (P. 126)**
IPsecを使用する場合の設定を行います。

メモリーカード (P. 131) メモリーカードの各種操作や設定を行います。

メンテナンス (P. 135) ログや設定値の確認、カメラのメンテナンスを行います。

ネットワークを設定する

[基本設定] > [ネットワーク]

カメラを接続するネットワークについて設定します。

重要

ネットワークの接続に関わる設定を変更すると、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性があります。この場合、[適用] または [適用して再起動] をクリックすると、確認のダイアログが表示されます。変更結果を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。

設定変更によるカメラの再起動後、Webブラウザからカメラに再接続できない場合、カメラに再接続するためのURIの候補があれば、メッセージとともに表示されます。表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

LAN

LANの通信方式と、カメラからの送信データサイズを設定します。

LAN	
 LANインターフェース	オート  
 最大パケットサイズ 576~1500	1500 

[LANインターフェース]

カメラを接続する機器のインターフェースに合わせて選択します。通常は [オート] を使用してください。

[最大パケットサイズ]

カメラが送信するパケットの最大サイズを入力します。通常は1500から変更する必要はありません。

IPv6を使用する場合は、1280以上に設定する必要があります。

ADSLをご利用の場合、この数値を少し下げると、送信効率が上がる場合があります。

IPv4

カメラへの接続にIPv4を使用する場合に設定します。IPv4のアドレスは、DHCPサーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重要

- IPv4をマニュアル設定する場合の [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。
- [IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] の設定のいずれかに誤りがある場合、ネットワーク経由でアクセスできなくなることがあります。この場合はカメラマネジメントツールを用いて、再度アドレスを設定してください (P. 34)。

IPv4	
 IPv4アドレス設定方式	マニュアル設定  
 IPv4アドレス	
 サブネットマスク	
 IPv4デフォルトゲートウェイアドレス	
 AutoIPの使用	使用する 
 IPv4アドレス (AutoIP)	

[IPv4アドレス設定方式]

IPv4アドレスの設定方式を選択します。

[マニュアル設定] の場合は、[IPv4アドレス] に固定のIPv4アドレスを入力します。

[自動設定(DHCP)] の場合は、[IPv4アドレス]、[サブネットマスク]、[IPv4デフォルトゲートウェイアドレス] にDHCPサーバーから取得した値が自動的に設定されます。

重要

IPv4アドレス設定を [自動設定(DHCP)] で使用する場合、DHCPサーバーとカメラの間にルーターがあるような環境では、IPv4アドレスが正しく割り振られない場合があります。その場合は、[マニュアル設定] を選択して固定のIPv4アドレスを設定してください。

[IPv4アドレス]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、固定のIPv4アドレスを入力します。

127.0.0.1 のように 127. から始まるIPアドレスは設定できません。

[サブネットマスク]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合、ネットワークごとに指定されたサブネットマスク値を入力します。

[IPv4デフォルトゲートウェイ]

[IPv4アドレス設定方式] が [マニュアル設定] の場合に入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[AutoIPの使用]

AutoIPの使用の有無を選択します。

[IPv4アドレス(AutoIP)]

[AutoIPの使用] が [使用する] の場合、自動的に設定されたIPアドレスが表示されます。

IPv6

カメラへの接続にIPv6を使用する場合に設定します。IPv6のアドレスは、RAまたはDHCPv6サーバーから自動で取得するか、手動で設定できます。

重要

IPv6を手動設定する場合の [IPv6アドレス]、[プレフィックス長]、[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス] は、システム管理者にお問い合わせください。

IPv6	
 IPv6の使用	使用する ▼ 
 自動設定 (RA)	有効 ▼ 
 自動設定 (DHCPv6)	有効 ▼ 
 IPv6アドレス (手動設定)	
 プレフィックス長 16~128	64 
 IPv6デフォルトゲートウェイアドレス	
 IPv6アドレス (自動設定)	

[IPv6の使用]

IPv6の使用の有無を選択します。

[自動設定(RA)]

RA (Router Advertisement、ルーターから自動的に送信されるネットワーク情報) を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[自動設定(DHCPv6)]

DHCPv6を利用してアドレスを自動で設定する場合は、[有効] を選択します。

[IPv6アドレス(手動設定)]

アドレスを手動で設定する場合、固定のIPv6アドレスを入力します。

[プレフィックス長]

[自動設定(RA)] が [無効] の場合、プレフィックス長を入力します。

[IPv6デフォルトゲートウェイアドレス]

[自動設定(RA)] が [無効] の場合、デフォルトゲートウェイアドレスを入力します。カメラをビューワーと異なるサブネットに接続する場合は、必ず設定してください。

[IPv6アドレス(自動設定)]

[IPv6の使用] が [使用する] で、[自動設定(RA)] と [自動設定(DHCPv6)] が [有効] の場合、自動的に取得したアドレスが表示されます。

メモ

IPv6が使用できない環境では、IPv6を [使用する]、自動設定を [有効] に設定した場合、[IPv6アドレス(自動設定)] 表示欄にはリンクローカルアドレスのみが表示されます。

DNS

DNSサーバーのアドレスを設定します。DNSサーバーのアドレスは手動設定するか、DHCP/DHCPv6サーバーから自動で取得します。

DNS	
① ネームサーバーアドレス 1	
① ネームサーバーアドレス 2	
① ネームサーバーアドレスの自動設定	DHCP / DHCPv6を使用する ▼
① ネームサーバーアドレス (DHCP)	
① ネームサーバーアドレス (DHCPv6)	
① ホスト名 63文字以内	
① ホスト名のDDNS登録	登録しない ▼
① サーチドメイン 63文字以内	<button>追加</button>
① サーチドメインリスト	削除 ▲ ▼

[ネームサーバーアドレス1]、[ネームサーバーアドレス2]

登録したいネームサーバーアドレスを入力します。1つしか登録しない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] は空欄のままにしてください。

IPv4アドレスまたはIPv6アドレスが手動設定の場合は、少なくとも1つは設定する必要があります。

メモ

[ネームサーバーアドレス 1] が使用できない場合は、[ネームサーバーアドレス 2] にアクセスします。ただし、[ネームサーバーアドレス 2] が事前に設定されていることが前提です。

[ネームサーバーアドレスの自動設定]

ネームサーバーアドレスを自動で設定する場合、使用するサーバーを選択します。

[DHCPを使用する] に設定する場合、[IPv4アドレス設定方式] を [自動設定 {DHCP}] (P. 64) にしてください。

[DHCPv6を使用する] に設定する場合、[IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DHCPv6)] を [有効] (P. 65) にしてください。

[ネームサーバーアドレス(DHCP)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DHCPを使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] の場合、DHCPサーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ネームサーバーアドレス(DHCPv6)]

[ネームサーバーアドレスの自動設定] が [DHCPv6を使用する] または [DHCP/DHCPv6を使用する] の場合、DHCPv6サーバーから取得したネームサーバーアドレスが表示されます。

[ホスト名]

カメラのホスト名を、ネームサーバーに半角英数字で登録できます。

Internet Explorer 8/9/10/11では、ホスト名に「_」(アンダースコア) を使用しないでください。

[ホスト名のDDNS登録]

[ホスト名] を入力して [登録する] を選択すると、ホスト名がネームサーバーに登録されます。

[IPv4アドレス設定方法] を [自動設定(DHCP)] (P. 64) にして運用する場合、ホスト名をDDNSへ登録すると便利です。あらかじめDNSサーバーに登録を行うための設定が必要です。DNSサーバーの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。

[サーチドメイン]

サーチドメインリストにドメイン名を追加する場合、ドメイン名を入力して [追加] をクリックします。

サーチドメインリストにドメイン名が指定されていると、アップロードなどのサーバー指定でドメイン名なしのホスト名を指定するだけで、ホスト名+ドメイン名の形で扱われます。

Internet Explorer 8/9/10/11では、ドメイン名に「_」(アンダースコア) を使用しないでください。

[サーチドメインリスト]

[サーチドメイン] で追加されたドメイン名が一覧表示されます。

DNSサーバーに対して、このリストのドメイン名の上から順に問い合わせが行われます。

右側の▲▼ボタンでドメイン名の並び順を変更することができます。

ドメイン名を削除する場合は、ドメイン名を選択して [削除] をクリックします。

mDNS

マルチキャストDNSの使用について設定します。mDNSを使用すると、カメラのIPアドレスとホスト名の情報を、ネットワーク上の他のホストに通知します。

mDNS	
 mDNSの使用	使用する ▼

[mDNSの使用]

mDNSの使用の有無を選択します。

管理者パスワードを設定する [基本設定] > [パスワード]

管理者以外のユーザーがシステムを変更できないように、管理者が使用するパスワードを、工場出荷時のものから変更します。



重要

- システムのセキュリティを確保するため、管理者パスワードは必ず変更してください。変更後は、パスワードを忘れないようにしてください。
- 管理者パスワードを忘れてしまった場合は、リセットスイッチを押して工場出荷設定に戻してください (P. 276)。ただし、カメラの日付と時刻以外すべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください。

管理者パスワード

変更する管理者パスワードを設定します。

管理者パスワード	
パスワード 8文字以内	*****
パスワード (確認用) 8文字以内	*****

[パスワード]

管理者パスワードを半角英数字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。

管理者ビューワーや管理ツールなどが接続している場合は、接続を終了してからパスワードを変更してください。

[パスワード(確認用)]

上と同じパスワードを確認のため入力します。

日付/時刻を設定する

[基本設定] > [日付と時刻]

カメラの日付と時刻に関して設定します。

現在の日付と時刻

カメラに設定されている日付と時刻が表示されます。

現在の日付と時刻	
① 日付 yyyy/mm/dd	2014/10/17
① 時刻 hh:mm:ss	16:12:28

設定

カメラの日付と時刻の設定方法、タイムゾーン、サマータイムを設定します。

設定	
① 設定方法	手動で設定する ▼
① 日付 yyyy/mm/dd	2014/10/17
① 時刻 hh:mm:ss	16:12:28
① タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼
① サマータイム	自動調整しない ▼

[設定方法]

日付と時刻の設定方法を選択します。

[設定方法] の設定によって、次のように設定します。

[手動で設定する]

[日付]、[時刻]で任意の日付と時刻を設定します。

時刻は24時間制で<時間:分:秒>の順に入力します。

[NTPサーバーに合わせる]

表示される [NTPサーバーの自動設定] で、設定方法を選択します。

[使用しない]

設定	
① 設定方法	NTPサーバーに合わせる ▼
① NTPサーバーの自動設定	使用しない ▼
① NTPサーバー 63文字以内	rtp.nict.jp
① タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼
① サマータイム	自動調整しない ▼

[NTPサーバー] に、NTPサーバーのIPアドレスまたはホスト名を入力します。

[DHCPを使用する]

設定	
① 設定方法	NTPサーバーに合わせる ▼
① NTPサーバーの自動設定	DHCPを使用する ▼
① NTPサーバー (DHCP)	
① タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼
① サマータイム	自動調整しない ▼

DHCPサーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCP)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。

設定するには、[ネットワーク] > [IPv4] > [IPv4アドレス設定方式] を [自動設定(DHCP)] にする必要があります (P. 64)。

[DHCPv6を使用する]

設定	
① 設定方法	NTPサーバーに合わせる ▼
① NTPサーバーの自動設定	DHCPv6を使用する ▼
① NTPサーバー (DHCPv6)	
① タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼
① サマータイム	自動調整しない ▼

DHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。[NTPサーバー (DHCPv6)] には、取得したNTPサーバーのアドレスが表示されます。

設定するには、[ネットワーク] > [IPv6] > [IPv6の使用] を [使用する] にして、[自動設定(DHCPv6)] を [有効] にする必要があります (P. 65)。

[DHCP/DHCPv6を使用する]

DHCPサーバーまたはDHCPv6サーバーでアドレスを取得したNTPサーバーの時刻に合わせます。

DHCPサーバー (IPv4) とDHCPv6サーバーの両方からNTPサーバーのアドレスが取得できる場合は、DHCPサーバー (IPv4) から取得したNTPサーバーのアドレスが使用されます。

[NTPブロードキャストモードを使用する]

NTPサーバーが送信したNTPブロードキャストを受信して時刻を合わせます。

カメラのNTPブロードキャストモードは、IPv6に対応していません。

設定	
① 設定方法	NTPブロードキャストモードを使用する ▼
① タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼
① サマータイム	自動調整しない ▼

[このコンピューターに合わせる]

日付と時刻を、現在カメラにアクセスしているコンピューターに合わせます。[適用] をクリックした後は、[設定方法] が [手動で設定する] になります。

[タイムゾーン] は自動的に選択されませんので、必要に応じて別途設定を行ってください。

設定	
① 設定方法	このコンピューターに合わせる ▼
① 日付 yyyy/mm/dd	2014/11/25
① 時刻 hh:mm:ss	13:25:50
① タイムゾーン	(GMT+09:00) 大阪、札幌、東京 ▼
① サマータイム	自動調整しない ▼

メモ

- NTPサーバーのIPアドレスが正しくないなど、NTPサーバーに接続できない場合は、日付と時刻は変更されません。
- NTPサーバーへの問い合わせ間隔は300秒です。時刻のズレが大きい場合は、同期に時間がかかります。

[タイムゾーン]

グリニッジ標準時との時差を選択します。

タイムゾーンを変更すると、指定したタイムゾーンに合わせて、日付と時刻の表示を自動的に変更します。

[サマータイム]

サマータイムを、タイムゾーンに合わせて自動調整するかしないかを選択します。

映像のサイズや品質を設定する [基本設定] > [映像設定]

カメラから送信する、JPEG/H.264のそれぞれの映像サイズや品質など、映像の全般的な設定をします。

重要

- この[映像設定] サブメニューは、[映像と音声]または[映像]、および[映像記録]にある[映像設定] サブメニューと共通です。いずれかの[映像設定]で設定すると、他のすべての[映像設定]にも反映されます。
- 映像サイズや映像品質、目標ビットレートを高めに設定すると、1フレームあたりのデータ容量が大きくなり、ネットワーク負荷が高くなることで、次の現象が起こることがあります。
 - JPEG：フレームレートが低下する場合があります
 - H.264：映像が一時的に途切れる場合があります
- H.264映像の場合、映像サイズを大きめに設定し、目標ビットレートを低めの設定にすると、ブロックノイズが目立つことがあります。
- 被写体の種類や、被写体の動きによってはデータ容量が大きくなる場合があります。フレームレートの低下などが長時間にわたって継続する場合は、映像サイズや映像品質を低く設定してください。
- 同梱のRM-Liteでの録画は、JPEG映像のみです。

映像全般

カメラで使用する映像サイズのセットを設定します。

ここで設定した映像サイズセットによって、[映像設定] サブメニューすべての設定項目と、設定ページにあるすべての[映像サイズ]で選択できるサイズセットが決まります。

また、各ビューワーで選択できる映像サイズおよび表示画面サイズも決まります。

映像全般	
 映像サイズセット	1280x720 / 640x360 / 320x180 ▼

[映像サイズセット]

映像サイズの各セットにより、系列およびアスペクト比が異なります。

[映像サイズセット]	系列	アスペクト比
[1280x720/640x360/320x180]	720p	16:9
[1280x960/640x480/320x240]	4:3	4:3

重要

[映像サイズセット]の選択を変更して[適用して再起動]をクリックした場合、いったん接続が切断され、すべての映像サイズが変更されます。そのため、カメラに接続しているユーザーは、再接続を行う必要があります。

また、[映像サイズセット]の設定変更後は、次の設定を見直し、動作の確認を行ってください。

- ADSR
- プライバシーマスク設定
- インテリジェント機能設定
- プリセット設定
- 可視範囲設定 **R11** **R10**
- カメラアングル設定ツール **M641** **M640** **M741** **M740**

JPEG

カメラから送信するJPEG映像の品質や映像サイズ、および、カメラの映像を記録する際の映像サイズを設定します。

ここで設定・選択できる映像サイズは、[映像サイズセット]の設定によって変わります。

JPEG	
映像品質 : 320x180	6 ▼
映像品質 : 640x360	6 ▼
映像品質 : 1280x720	6 ▼
映像品質 : デジタルPTZ	6 ▼
映像サイズ : 映像送信	320x180 ▼
最大フレームレート : 映像送信 0.1~30	30.0 ▼
映像サイズ : アップロード / メモリーカード	320x180 ▼

[映像品質]

カメラから送信する映像の品質を、映像サイズセットのサイズごとに選択します。
値が大きいほど高画質になります。

[映像品質 : デジタルPTZ] **M641** **M640** **M741** **M740**

デジタルPTZでの映像品質を選択します。

[映像サイズ : 映像送信]

ビューワーで映像サイズを指定しない場合に、カメラから送信するデフォルトの映像サイズを選択します。

[最大フレームレート : 映像送信]

1秒間に送信する最大フレームレートを制限することにより、ビューワーの負荷を軽減します。最大30フレーム/秒まで設定できます。

[映像サイズ : アップロード/メモリーカード]

アップロード機能使用時 G(P. 96)、またはメモリーカード記録時(P. 101)の送信映像サイズを選択します。
映像をアップロードするかメモリーカードに記録するかは、[映像記録] > [アップロード] または [メモリーカード] > [映像記録動作] (P. 96)で設定します。

H.264(1)

カメラから送信するH.264(1)映像について設定します。
アップロードまたはメモリーカード記録でH.264映像を使用する場合は、ここで設定してください。[H.264(2)] の映像は、アップロードやメモリーカード記録では使用できません。
H.264(1)の映像は、管理者ビューワーとRM-Liteビューワーで表示可能です。VBビューワーでは表示できません。
ここで選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

H.264 (1)	
映像サイズ	320x180 ▼
ビットレート制御	ビットレート制御する ▼
目標ビットレート (kbps)	2048 ▼
フレームレート (fps)	30 ▼
Iフレーム間隔 (秒)	1 ▼

[映像サイズ]

カメラから送信する映像サイズを選択します。

[ビットレート制御]

映像のビットレートについて設定します。

[ビットレート制御する] を選択した場合は [目標ビットレート(kbps)] を、[ビットレート制御しない] を選択した場合は [映像品質] を設定してください。

[目標ビットレート(kbps)]

[ビットレート制御] が [ビットレート制御する] の場合、目標ビットレートを選択します。

① ビットレート制御	ビットレート制御しない
② 映像品質	6

[映像品質]

[ビットレート制御] が [ビットレート制御しない] の場合、映像の品質を選択します。値が大きいくほど高画質になります。

[フレームレート(fps)]

映像のフレームレートを選択します。

[Iフレーム間隔(秒)]

H.264映像にIフレームを挿入する間隔 (秒) を選択します。



重要

- [H.264(1)] がメモリーカード記録およびアップロードに使われる場合、[H.264(1)] の設定が次のように制限されます。
 - [ビットレート制御] : [ビットレート制御する] のみ
 - [目標ビットレート(kbps)] : [3072]以下
 - [Iフレーム間隔(秒)] : [0.5]、[1]、[1.5] のいずれかのみ
- H.264映像は、同梱のRM-Liteでは録画できません。

H.264(2)

カメラから送信するH.264(2)映像について設定します。

H.264(2)の映像は、管理者ビューワーとRM-Liteビューワーで表示可能です。アップロードやメモリーカード記録、VBビューワーでは使用できません。

ここで選択できる映像サイズは、[映像サイズセット] の設定によって変わります。

H.264 (2)	
① H.264 (2) の使用	使用する
② 映像サイズ	320x180
③ ビットレート制御	ビットレート制御する
④ 目標ビットレート (kbps)	2048
⑤ フレームレート (fps)	30
⑥ Iフレーム間隔 (秒)	1

[H.264(2)の使用]

H.264映像を2ストリーム送信する場合、[使用する] を選択します。

[映像サイズ]、[ビットレート制御]、[目標ビットレート(kbps)]、[映像品質]、[フレームレート(fps)]、[Iフレーム間隔(秒)]「H.264(1)」の各項目を参照してください。



重要

- H.264 映像を2 ストリーム配信する場合、H.264(1)とH.264(2)の映像サイズを次の組み合わせで設定すると、フレームレートが最大 15 fpsに制限されます。それ以外の組み合わせの場合、フレームレートは30 fpsまで選択できます。

H.264(1)	H.264(2)
1280x960	1280x 960
1280x720	1280X720

- H.264映像は、同梱のRM-Liteでは録画できません。

カメラの制御全般を設定する

[カメラ] > [カメラ設定]

カメラ名や外部入力/出力デバイス名の設定、およびカメラの動作、設置について設定します。

カメラ名

カメラ名を設定します。

カメラ名	
① カメラ名（半角英数字） 15文字以内	Camera
① カメラ名（日本語） 15文字以内	

[カメラ名(半角英数字)]/[カメラ名(日本語)]

任意のカメラ名を入力します。[カメラ名(半角英数字)] は必ず入力してください

[カメラ名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーには [カメラ名(日本語)] が優先して表示されます。

カメラ制御

映像を見やすくするための各種制御を設定します。

カメラ制御	
① デジタルズーム	使用しない ▼
① ブレ補正	使用しない ▼
① AGCリミット	6 ▼
① スマートシェード補正強度（オート）	中 ▼
① かすみ補正強度（オート）	中 ▼
① パン・チルト速度制御	ズーム位置に応じて制御 ▼
① オートフリップ	有効 ▼

M741

① 赤外照明強度（オート）	強 ▼
---------------	-----

[デジタルズーム] R11 R10

デジタルズームの使用の有無を選択します。

[使用する] を選択した場合、ビューワーのズームスライダーに、デジタルズームテレ端を示すアイコンが表示されます (P. 148)。

デジタルズームは、光学ズームと異なり、ズーム倍率が高くなるに従って画質が低下します。

[ブレ補正]

カメラの振動による映像のブレを軽減させる機能の使用の有無を選択します。

[On1] を選択してブレが残る場合は、[On2] を試してください。

ブレ補正を使用すると、使用しない場合と比べて画角が狭くなり、映像も粗くなりますが異常ではありません。

重要

- ブレ補正は、被写体ブレには効果がありません。
- ブレ補正は、一定の範囲を越えた振動や、瞬間的な振動には対応できません。
- [On2] を選択した場合は、[640x480]以下の映像受信サイズの選択をお勧めします。
- ブレ補正を使用する場合は、次の各「重要」を参照してください。
 - 可視範囲設定ツールの「重要」(P. 210)
 - ビューワー使用時の「重要」(P. 143)
 - プリセット設定の「重要」(P. 171)

[AGCリミット]

低照度時にゲインを上げて映像を明るくするAGC(オートゲインコントロール)の上限値を選択します。
数値が大きいほど感度が高くなりますが、映像のノイズが増えます。

重要

- [AGCリミット] は、管理者コントロールの [露出] (P. 162) を [マニュアル] または [オート(フリッカーレス)] にした場合、機能しません。
- [AGCリミット] を設定すると、最低被写体照度が変わる可能性があります。

[スマートシェード補正強度(オート)]

[スマートシェード補正] (P. 80) を [オート] に設定した場合の、補正の強さを選択します。

- [弱]：ノイズが目立つ場合に選択
- [中]：オートモードで使用する場合の推奨設定 (初期設定)
- [強]：暗部の視認性を上げたい場合に選択

[かすみ補正強度(オート)]

[かすみ補正] (P. 81) を [オート] に設定した場合の、補正の強さを選択します。

メモ

[かすみ補正] を [オート] に設定し、[かすみ補正強度(オート)] を [強] に設定すると、被写体にかすみがかかっていない状態では、明暗の差が強くなる場合があります。このような場合は、[かすみ補正強度(オート)] を [弱] に設定してください。

[赤外照明強度(オート)] M741

[露出](P. 80)が [オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)] の場合の、赤外照明の強度を選択します。

メモ

- 映像の一部または全体が白っぽく表示される場合は、カメラの近くにある壁など (映像に表示されていない範囲も含む) から赤外照明が反射している可能性があります。このような場合は、カメラアングルを調整してください。
- 赤外照明使用時に被写体に生じる明暗の差が意図通りにならない (もう少し明るくしたい、暗くしたい) 場合は、露出補正 (P. 80) や測光方式 (P. 80) を調整してください。

[パン・チルト速度制御] R11 R10

パン・チルトの動作を制御するモードを選択します。

[ズーム位置に応じて制御] に設定した場合、パン・チルト速度は、テレ側では遅く、ワイド側では速くなります。

メモ

- パン・チルト速度制御は、管理者コントロールの [パン/チルト速度] でも設定できます (P. 148)。
- [ズーム位置に応じて制御] に設定した場合、管理者コントロールの [パン/チルト速度] も [ズーム位置に応じて速度を制御する] に固定されます。

[オートフリップ] R11 R10

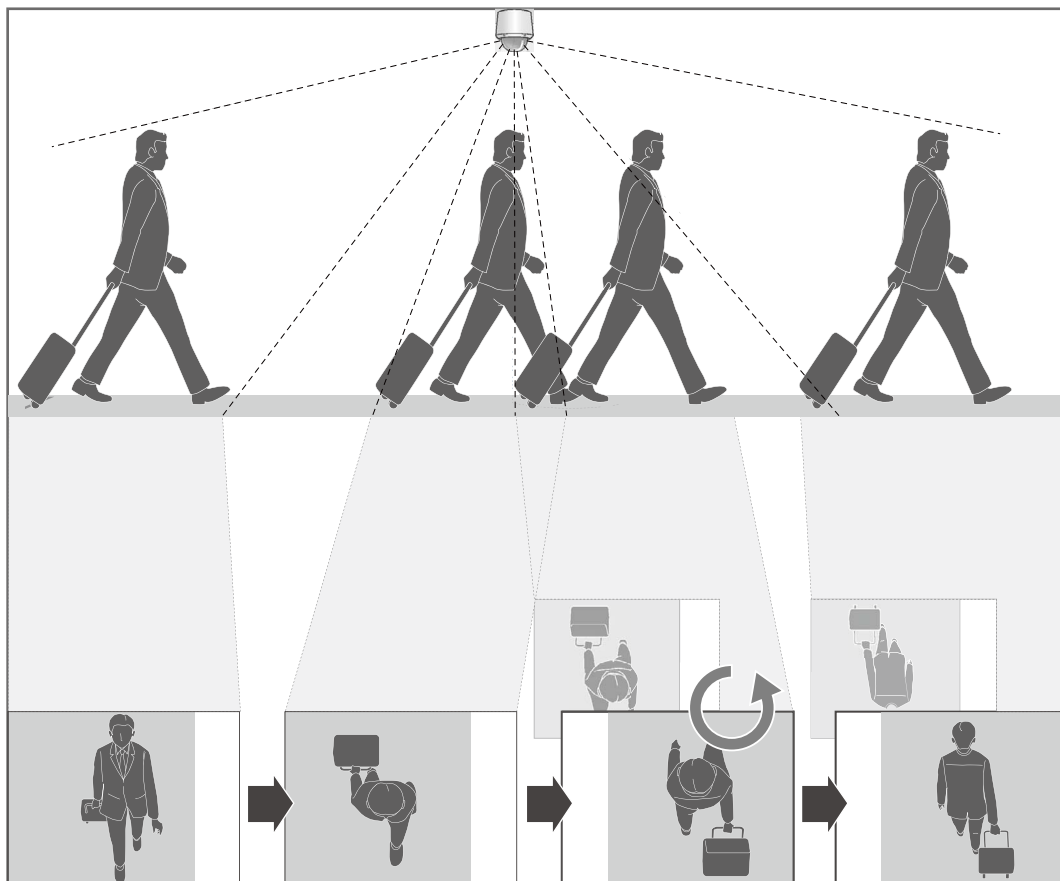
オートフリップ機能の使用の有無を選択します。

管理者ビューワー / VBビューワーの映像表示部でカメラのチルト操作(P. 147)をする際、オートフリップを使用すると、カメラのチルト角度が100°付近で、映像を反転表示させます。

たとえば、カメラを天吊りした状態で、カメラの真下 (チルト角度90°) を通る被写体を追う場合、チルト角度100°付近で映像反転させることで、被写体の天地が逆さにならずに表示されます。

メモ

可視範囲設定ツールの設定によっては、オートフリップが無効になります(P. 212)。



デイナイト (オート設定時)

[起動時設定] > [デイナイト] (P. 81) を [オート] に設定している場合に、デイモード/ナイトモードを切り換える条件を設定します。

デイナイト (オート設定時)	
① 切り換える明るさ	標準 ▼
② 応答性 (秒)	20 ▼

[切り換える明るさ]

[デイナイト] が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える明るさを設定します。

できるだけカラーで撮影したい場合は [暗い] を選択してください。

ノイズ感を軽減したい場合は [明るい] を選択してください。ただし白黒に切り換えるタイミングが早くなります。

[応答性(秒)]

[デイナイト] が、[オート] に選択されているときのデイモード/ナイトモードを切り換える判断をするために要する秒数を選択します。選択した秒数の間、継続して [切り換える明るさ] で設定した明るさを超えるか、または下回ると、デイモード/ナイトモードを切り換えます。

カメラの前を光源が通過するなど、明るさの変化が頻繁な場合は、[30] や [60] を選択してください。明るさの変化が少ない場合は、[5]、[10] を選択してください。

設置条件

設置場所に合わせて、カメラの使用状態を設定します。

設置条件	
① LEDの点灯	点灯する ▼
① 映像反転	反転しない ▼

[LEDの点灯] M741 M740

カメラの動作状態を表すLEDの点灯の有無を選択します。

[消灯する] に設定した場合でも、起動時にはLEDが数秒間点灯します。

[映像反転]

映像表示を上下反転するかしないかを選択します。

天吊りで使用する場合は、机の上に置いて使用する場合など、設置方法に応じて設定してください。

カメラ位置制御

ユーザーのカメラ制御制限や、制御権要求がない場合のカメラ動作について設定します。

カメラ位置制御	
① プリセットに限定	限定しない ▼
① 制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない ▼

[プリセットに限定] R11 R10

管理者以外がVBビューワーなどでカメラ制御をする場合のカメラアングルを、ホームポジションを含むプリセット位置に限定できます。

[制御権を持たない時の動作]

カメラの制御権を誰も取得していない場合のカメラの動作を選択します。

[ホームポジションへ移動する] を選択する場合は、あらかじめ管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] > [プリセット登録] タブ(P. 171)でカメラのホームポジションを設定しておく必要があります。

外部入力デバイス1、2 R11 M641 M741

接続した外部入力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。

カメラには2つの外部入力デバイス端子があります。

外部入力デバイス 1	
① デバイス名(半角英数字) 15文字以内	
① デバイス名(日本語) 15文字以内	

[デバイス名(半角英数字)][デバイス名(日本語)]

外部入力端子に接続したデバイス名を入力します。[デバイス名(半角英数字)]は必ず入力してください。

[デバイス名(日本語)] を入力した場合、RMビューワーやイベント表示パネルには [デバイス名(日本語)] が優先して表示されます。

外部出力デバイス 1、2 R11 M641 M741

接続した外部出力デバイスを識別するため、デバイス名を入力します。
カメラには2つの外部出力デバイス端子があります。

外部出力デバイス 1	
① デバイス名（半角英数字） 15文字以内	
② デバイス名（日本語） 15文字以内	

[デバイス名(半角英数字)][デバイス名(日本語)]

外部出力端子に接続したデバイス名を入力します。[デバイス名(半角英数字)]は必ず入力してください。

[デバイス名(日本語)]を入力した場合、RMビューワーやイベント表示パネルには [デバイス名(日本語)] が優先して表示されます。

映像設定の初期値を設定する [カメラ] > [起動時設定]

カメラ起動時の画質補正などの初期値を設定します。

起動時設定

[起動時設定] にアクセスした段階で、現在のカメラの設定値と、起動時設定として保存されている値が異なる場合は、画面右上の [適用] が青色になります。そのまま [適用] をクリックすることで、現在のカメラ設定を起動時設定として保存できます。[クリア] をクリックすると、起動時設定としてカメラに保存されている設定値に戻ります。

また、管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] で、[起動時設定登録] (P. 159) をクリックすると、その時点の設定がこの起動時設定として適用されます。



(1) 映像表示部

(2) 起動時設定

(3) 適用

(4) クリア

起動時設定	
① パン・チルト・ズーム位置	登録する
① フォーカス	オート
① 露出	オート
① スローシャッター	使用しない
① 露出補正	0
① 測光方式	中央部重点
① スマートシェード補正	マニュアル
① スマートシェード補正レベル	1 (弱)
① ホワイトバランス	オート
① ノイズリダクション	標準
① シャープネス	3
① 色の濃さ	4
① かすみ補正	使用しない
① デイナイト	デイモード

M741

① 赤外線照明の使用	デイナイト連動
① 赤外線照明レベル	1 (弱)

(1) 映像表示部

各項目で選択肢を変更すると、変更後の映像が表示されます。

映像表示部は確認用です。実際に起動時設定として変更を適用するには、[適用] をクリックして設定を保存する必要があります。

メモ

管理者ビューワーなど、ほかのビューワーが管理者権限でカメラに接続している場合、映像表示部には地球儀が表示され、カメラの映像は表示されません。

(2) パン・チルト・ズームスライダー **R11** **R10**

つまみを動かして、カメラのパン (左右)、チルト (上下)、ズームイン (望遠) / ズームアウト (広角) を操作します。
パン、チルト、ズームの変更後、起動時のカメラアングルとして設定するには、[パン・チルト・ズーム位置] を [登録する] にして [適用] をクリックします。

(3) [スナップショット] ボタン

クリックした瞬間の静止画を、スナップショットパネルを開いて表示します (P. 188)。

(4) [再接続] ボタン

カメラに接続し直します。

[パン・チルト・ズーム位置]

現在のパン・チルト・ズーム位置を起動時設定に登録するかを選択します。[登録しない] に設定すると、次回起動時は、電源オフ時のパン・チルト・ズーム位置が適用されます。

[フォーカス]

フォーカスを選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「フォーカス」(P. 161) を参照してください。

[露出]

露出を選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「露出」(P. 162) を参照してください。

[スローシャッター]

[露出] が [オート] の場合、最低シャッタースピードを選択できます。

機能の詳細は、管理者コントロールの「露出」(P. 162) を参照してください。

[露出補正]

露出の補正値を選択できます。

機能の詳細は、管理者コントロールの「露出」(P. 162) を参照してください。

重要

[スマートシェード補正] が [オート] の場合は設定できません。

[測光方式]

測光方式を選択できます。

機能の詳細は、管理者コントロールの「露出」(P. 162) を参照してください。

① 露出	マニュアル
① シャッタースピード	1/30
① 絞り	
① ゲイン	

[シャッタースピード]

[露出] が [マニュアル]、[オート (シャッター優先)] の場合、シャッタースピードを選択できます。

機能の詳細は、管理者コントロールの「露出」(P. 162) を参照してください。

[絞り]、[ゲイン]

[露出] が [マニュアル] の場合に設定できます。

機能の詳細は、管理者コントロールの「露出」(P. 162) を参照してください。

[スマートシェード補正]、[スマートシェード補正レベル]

背景が明るくて被写体が見にくい場合に、明るい部分はそのまま、暗い部分を明るく補正して見やすくします。

機能の詳細は、管理者コントロールの「スマートシェード補正」(P. 160) を参照してください。

 重要

- [露出] が [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は [オート] に設定できません。
- [かすみ補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[スマートシェード補正] は設定できません。

[ホワイトバランス]

自然な色合いの映像になるように、光源に応じたホワイトバランスを選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「ホワイトバランス」(P. 164) を参照してください。

[ノイズリダクション]

ノイズリダクションのレベルを選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「画質調整」(P. 168) を参照してください。

[シャープネス]

シャープネスのレベルを選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「画質調整」(P. 168) を参照してください。

[色の濃さ]

色の濃さを選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「画質調整」(P. 168) を参照してください。

[かすみ補正]、[かすみ補正レベル]

被写体に霧がかかったような場合に、被写体を見やすいように映像のコントラストを補正します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「かすみ補正」(P. 160) を参照してください。

 重要

[スマートシェード補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、かすみ補正は使用できません。

[デイナイト]

被写体の明るさに合わせた撮影モードを選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「デイナイト」(P. 165) を参照してください。

[赤外照明の使用]、[赤外照明レベル] M741

[デイナイト] に連動して赤外照明を照射するか、赤外照明を使用しないかを選択します。

機能の詳細は、管理者コントロールの「赤外照明」(P. 167) を参照してください。

 重要

[赤外照明レベル] は、[露出] が [マニュアル] の場合のみ設定できます。

映像品質を部分的に下げてデータ量を低減する [映像と音声] > [ADSR]

H.264映像を送信する場合、天井や空など被写体がない部分の映像品質を下げて送信データ量を低減できます。
ADSRとはArea-specific Data Size Reduction の略です。

重要

- この機能は、[映像設定] > [H.264(1)] または [H.264(2)] で、[ビットレート制御] を [ビットレート制御しない] に設定している場合に使用できます。
- 映像のシーンや指定領域の設定によっては、低減効果が得られない場合があります。事前に低減効果を確認してからご使用ください。

メモ

- 指定領域の画質は、[映像設定] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の設定が保持されます。

R11 R10

- 指定領域は、カメラのパン・チルト・ズーム動作を行っても、カメラの動きに追従して移動します。
- 指定領域は、可視範囲設定内のみ設定可能です。

指定領域

映像品質を落とさない領域を指定します。
指定領域は、最大8カ所、異なる色の枠線で設定できます。

重要

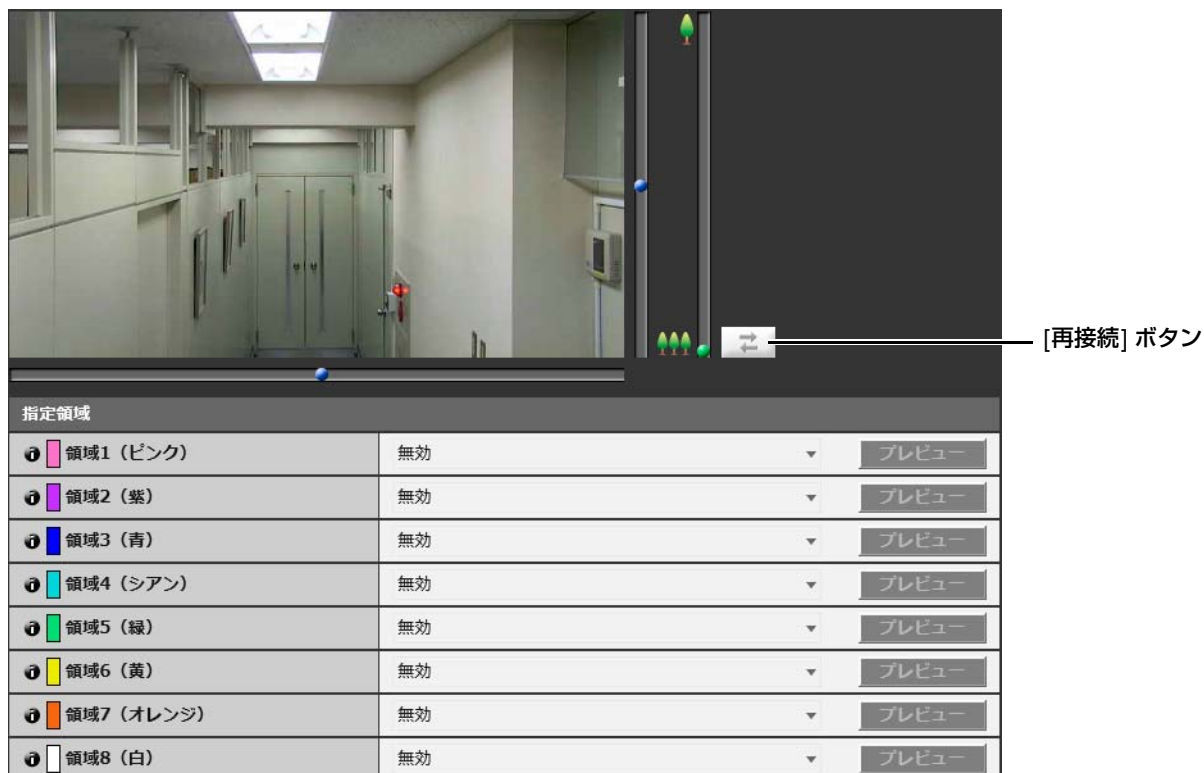
- [カメラ] > [映像反転] の設定を変更した場合、領域指定を再設定する必要があります。
- [映像設定] > [映像全般] で [映像サイズセット] を変更した場合は、指定領域設定を見直してください。

R11 R10

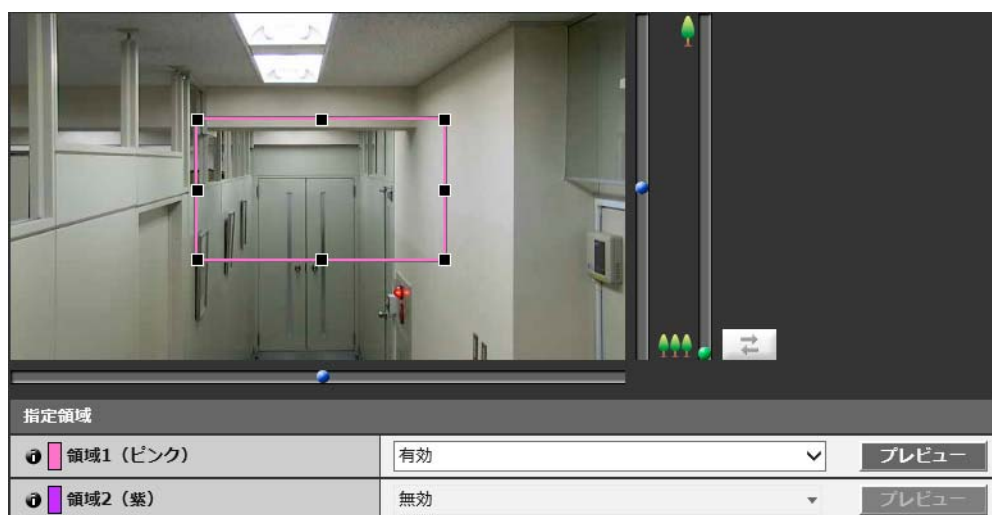
- 指定領域は大きめに設定してください。
- ズーム位置によっては、指定領域が若干ずれることがあります。
- 指定領域は光学ズーム領域でのみ設定できます。デジタルズーム領域 (P. 148) では設定できません。

メモ

管理者ビューワーなど、ほかのビューワーが管理者権限でカメラに接続している場合、映像表示部に地球儀が表示され、指定領域の設定はできません。



指定領域の枠線に使用したい色の領域を [有効] にすると、映像表示部に指定領域の枠線が表示されます。



映像表示部で次のように操作して、指定領域を設定してください。

- 枠線内をドラッグして、領域を移動します。
- 枠線の8カ所の■をドラッグして、サイズを変更します。
- カメラアングルを変更する場合は、スライダーでパン・チルト・ズームを操作します。 R11 R10

[プレビュー] R11 R10

設定した指定領域の [プレビュー] をクリックすると、指定領域の位置にカメラが移動します。

メモ

ADSRの設定が反映された映像は、管理者ビューワーで確認できます。指定領域外は、データ量軽減効果により映像が粗くなります。

ADSR

H.264(1)、H.264(2) のそれぞれで、[指定領域] を除く部分の映像品質を下げるかを設定します。

ADSR	
H.264 (1) で使用	使用しない ▼
H.264 (2) で使用	使用しない ▼

[H.264(1)で使用する]

H.264(1)映像で、[指定領域]外の映像品質を下げる場合は、[使用する] に設定します。



重要

[H.264(1)] で [ADSR] を使用している場合、H.264(1)映像のアップロードおよびメモリーカード記録はできません。

[H.264(2)で使用する]

H.264(2)映像で、[指定領域]外の映像品質を下げる場合は、[使用する] に設定します。

ビューワー上に日時やテキストを表示する [映像と音声] > [オンスクリーン表示]

ビューワー上に、日付や時刻、カメラ名、任意の文字列を表示します。



重要

オンスクリーン表示される時刻は、高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、参考情報としてご活用ください。



メモ

- 映像品質の設定によっては、オンスクリーン表示が判読しづらくなる場合があります。実際の映像をご確認のうえ、設定してください。
- デジタルPTZで、水平方向のサイズが384 pixel以下の切り出し映像には、オンスクリーン表示されません。[M641](#) [M640](#) [M741](#) [M740](#)

オンスクリーン表示

オンスクリーン表示	
① 日付表示	表示する ▼
① 日付表示位置	左上 ▼
① 日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD ▼
① 時刻表示	表示する ▼
① 時刻表示位置	左上 ▼
① テキスト表示	指定文字列を表示する ▼
① テキスト表示位置	左上 ▼
① テキスト文字列 15文字以内	
① 文字の色	白 ▼
① 背景の色	黒 ▼
① 文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす ▼

[日付表示]

ビューワー上に日付を表示するかを選択します。

[日付表示位置]

日付を表示するビューワー上の位置を選択します。

[日付表示フォーマット]

年/月/日の並び順を選択します。

[時刻表示]

ビューワー上に時刻を表示するかを選択します。

[時刻表示位置]

時刻を表示するビューワー上の位置を選択します。

[テキスト表示]

ビューワー上に表示する文字列を選択します。

[指定文字列を表示する]

下記の [テキスト文字列] に入力した文字列が表示されます。

[カメラ名を表示する]

[カメラ名(半角英数字)](P. 74) に入力したカメラ名が表示されます。

[テキスト表示位置]

テキスト文字を表示するビューワー上の位置を選択します。

[テキスト文字列]

[テキスト表示] が [指定文字列を表示する] の場合、ビューワー上に表示する文字列を半角英数字で入力します。



メモ

「¥」記号は「\」記号で表示されます。

[文字の色]

文字の色を8色の中から選択します。

[背景の色]

文字の背景の色を8色の中から選択します。

[文字と背景の濃さ]

文字と背景の濃さ (塗りつぶし、透明、半透明) の組み合わせを選択します。

音声の入出力について設定する

[映像と音声] > [音声設定]

R11 M641 M741

カメラに接続したマイクからの入力音声や、ビューワーからの出力音声について設定します。また、イベント発生時に出力する再生音のファイルを登録します。

この [音声設定] サブメニューは、[イベント] メニューにある [音声設定] と共通です。

いずれかのページで設定すると、両方のページに反映されます。



重要

- 最大30 クライアントに対して、映像と音声を配信できます。ただし、配信するクライアントが多い場合やSSL通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。
- 映像と音声は、同期しないことがあります。
- 音量検知 (P. 107)、悲鳴検知 (P. 108) を設定した後に、[入力音量] や [エコーキャンセラー] の設定を変更した場合は、検知設定を見直してください。
- 使用するPCの性能やネットワーク環境によっては、音声が途切れることがあります。
- ウイルス対策ソフトウェアをご使用の場合、音声が途切れることがあります。
- LANケーブルの抜き差しなどで、通信が一時的に途切れると、音声が切断されます。その場合は、ビューワーから再接続してください。
- 使用するマイクの特性で、音量・音質などが変化する場合があります。
- カメラに接続するスピーカーは、アンプ付きのものを使用してください (『設置ガイド』の「音声入出力端子」)。

音声全般

入出力音声の音量やエコー除去、マイクの種類を設定します。

音声全般	
① 入力音量 1~100	50
① 出力音量 1~100	50
① エコーキャンセラー	使用しない ▼
① 音声入力モード	ライン・イン ▼

[入力音量]

カメラに接続したマイクから入力する音量を入力します。

[サーバー] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] (P. 92) が [送信する] の場合に設定できます。

[出力音量]

カメラに接続したスピーカーにビューワーから出力する音量を入力します。

[サーバー] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] (P. 92) が [受信する] の場合に設定できます。

[エコーキャンセラー]

マイクとスピーカーの間に発生するエコーを防ぐエコーキャンセラーの使用の有無を選択します。

[サーバー] > [音声サーバー] (P. 92) が次のように設定されている場合に、設定できます。

- [カメラからの音声送信] が [送信する]
- [ビューワーからの音声受信] が [受信する]



重要

エコーキャンセラーを使用すると、音質や音量に影響を及ぼす可能性があります。設置環境や使用方法に合わせ、必要に応じて使用してください。

[音声入力モード]

カメラに接続しているマイクの種類を選択します。

注意



マイクを使用する場合、マイクの仕様に合わせて、[音声入力モード] で [ライン・イン] と [マイク・イン] を切り換えてください。

間違えて使用した場合、カメラやマイクの故障の原因になりますので、正しく設定してください。

再生音ファイル登録1～3

イベント発生時に再生する音声ファイルを、3つまで登録できます。



メモ

再生音は、[イベント] > [外部デバイス入力](P. 104)、または [インテリジェント機能設定ツール] > [イベント] タブ (P. 231) で音声再生を設定する際に使用されます。

再生音ファイル登録 1	
① 参照ファイル	参照... 追加
② 再生音名 15文字以内	削除

[参照ファイル]

登録する音声ファイルを指定し、[追加] をクリックします。

登録できる音声ファイルには、次の条件があります。

- 再生時間：20秒以内
 - ファイル形式：「.wav」(μ-law PCM 8bit。サンプリング周波数8000Hz、モノラル)
- 音声ファイルのサンプルが、セットアップCD-ROMのSOUNDフォルダに収録されています。

[再生音名]

登録する音声ファイルに名前を入力します。

再生音名は、必ず設定してください。空欄のまま [適用] ボタンをクリックした場合、再生音は削除されます。

登録済みの音声ファイルを削除するには、削除したい再生音名の横にある [削除] をクリックします。

HTTP、SNMP、FTPの各サーバーについて設定する [サーバー] > [サーバー設定]

HTTPサーバー、SNMPサーバー、FTPサーバーの使用と、WS-Securityの時刻チェックについて設定します。

HTTPサーバー

認証方式やHTTPポート番号について設定します。

重要

[HTTPポート番号] または [HTTPSポート番号] の設定を変更した際、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性がある場合は、確認のダイアログが表示されます。変更した設定を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。
カメラの再起動後、Webブラウザからカメラに再接続できない場合、メッセージとともに、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。
表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

HTTPサーバー	
① 認証方式	Digest認証 ▼
① HTTPポート番号 80,1024~65535	80
① HTTPSポート番号 443,1024~65535	443

[認証方式]

HTTPサーバーで使用する認証方式を選択します。

[HTTP ポート番号]

HTTPポート番号を入力します。

通常は、[80] (工場出荷設定) を使用してください。

[HTTPSポート番号]

HTTPSポート番号を入力します。

通常は、[443] (工場出荷設定) を使用してください。

SNMPサーバー

SNMPの使用に必要な設定を行います。

メモ

- SNMPマネージャーから参照するカメラの情報は、読み取り専用です。
- SNMP MIB2 (RFC1213対応) がサポートされているSNMPマネージャーをお使いください。
- SNMPプロトコルバージョンv1、v2cに対応しています (v3非対応)。

SNMPサーバー	
① SNMPの使用	使用する ▼
① コミュニティ名 31文字以内	public
① 管理者連絡先 63文字以内	
① 管理用の機器名称 31文字以内	VB-R11
① 設置場所 31文字以内	

[SNMPの使用]

SNMPの使用の有無を選択します。

SNMPを使用する場合、SNMPマネージャーからカメラの情報を参照できます。

[コミュニティ名]

SNMPのコミュニティ名を入力します。

システムのセキュリティを確保するため、コミュニティ名は工場出荷時設定 [public] から変更して運用することをお勧めします。

[管理者連絡先]

カメラの管理者連絡先 (メールアドレスなど) を入力します。

設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

[管理用の機器名称]

カメラの管理用機器名称を入力します。

設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

空白にした場合、カメラの機種名が使用されます。

[設置場所]

カメラの設置場所の情報を入力します。

設定内容はSNMPマネージャーから参照できます。

FTPサーバー

FTPサーバー	
① FTPサーバーの使用	使用しない ▼

[FTPサーバーの使用]

FTPサーバーを使用するかを選択します。

重 要

FTPソフトウェアを使用した結果生じた事故や損害について、弊社は一切の責任を負いかねます。

WS-Security

WS-Security	
① 認証時の時刻チェック	チェックする ▼

[認証時の時刻チェック]

クライアントから送信されたデータの時刻情報をチェックするかを選択します。

映像配信について設定する [サーバー] > [映像サーバー]

映像サーバーに接続できるクライアントについて設定します。

映像サーバー	
① 最大クライアント数 0~30	30
② 最大制御権待ち数 0~30	30
③ 最大接続時間(秒) 0~65535	0
④ カメラ制御時間(秒) 1~3600	20

[最大クライアント数]

カメラに同時に接続できるクライアント数の最大値を入力します。

[0] にすると、管理者以外の接続が禁止されます。



重要

R11 M641 M741

配信するクライアントが多い場合やSSL通信でカメラに接続している場合、カメラからの音声を受信すると、映像フレームレートが低下したり、音声が途切れたりする場合があります。

[最大制御権待ち数]

ビューワーからのカメラ制御権要求に対して、カメラ制御権待ちとして受け付けるクライアント数の最大値を入力します。

[0] にすると、管理者ビューワーと管理ツール以外のカメラ制御権待ちは禁止されます。

[最大接続時間(秒)]

個々のクライアントがカメラに接続できる最大時間を秒単位で入力します。

[0] にすると、接続時間は無制限となります。

[カメラ制御時間(秒)]

VBビューワーがカメラ制御権を保持できる最大時間を入力します。

音声の送受信について設定する [サーバー] > [音声サーバー]

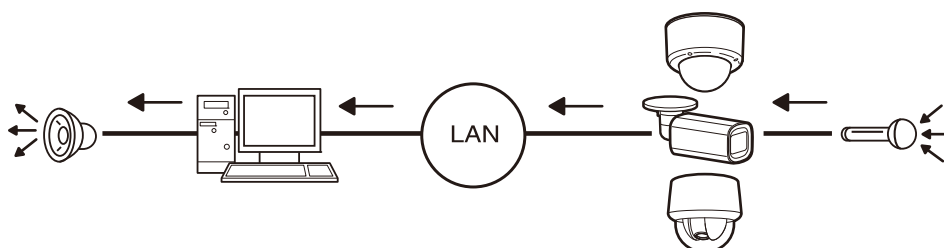
R11 M641 M741

カメラからPCへの音声送信と、PCからカメラへの音声受信について設定します。

音声サーバー	
① カメラからの音声送信	送信しない
② 無音検出	検出しない
③ ビューワーからの音声受信	受信しない

[カメラからの音声送信]

カメラに接続したマイクからの音声を、ビューワーに送信するか選択します。



[無音検出]

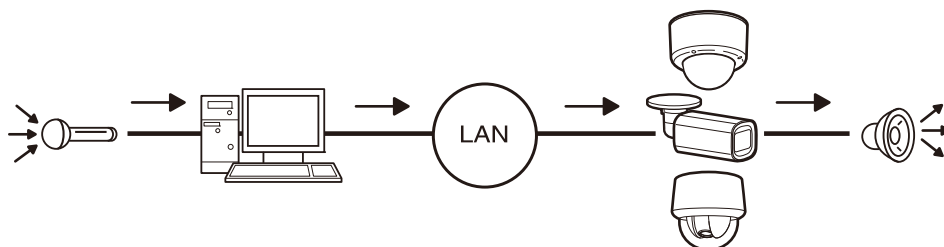
マイクからの音声について無音を検出するか選択します。

[検出する] に設定すると、カメラからの音声入力が無くなった場合に、音声データの送信を一時的に停止します。これにより、使用するネットワークの負荷を減らすことができます。

[ビューワーからの音声受信]

管理者ビューワーやRMビューワーからの音声を受信するか選択します。

受信した音声は、カメラにアンプ付きスピーカーを接続して出力できます。



RTPの使用について設定する [サーバー] > [RTPサーバー]

RTPを使用した映像および音声配信について設定します。

RTPサーバー

RTPの使用、RTSPの認証方式とポート番号について設定します。

RTPサーバー	
① RTPの使用	使用する ▼
② RTSP認証方式	Digest認証 ▼
③ RTSPポート番号 554,1024~65535	554

[RTPの使用]

RTPを使用の有無を選択します。

[RTSP認証方式]

RTSPの認証方式を選択します。RTSPの認証方式はHTTPサーバーの認証方式とは独立して設定されるため、それぞれの認証方式について設定する必要があります。

[RTSPポート番号]

RTSPポート番号を入力します。

通常は、[554] (工場出荷設定) を使用してください。

音声マルチキャスト R11 M641 M741

音声送信のマルチキャストについて設定します。

音声マルチキャスト	
① マルチキャストアドレス	0.0.0.0
② マルチキャストポート番号 0,1024~65534(偶数)	0
③ マルチキャストTTL 0~255	1

[マルチキャストアドレス]

音声送信のマルチキャストアドレスを、次のように入力します。

IPv4：224.0.0.0～239.255.255.255の範囲

IPv6：ff00::/8 で始まるアドレス

マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0]、IPv6では [::0(::)] に設定します。

[マルチキャストポート番号]

音声送信のマルチキャストポート番号を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]

マルチキャスト配信の有効範囲を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time To Live) は、ルーターを超えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを超えて配信することはできません。

例えば、TTLを [1] に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを超えて配信することはできません。

RTPストリーム1～5

RTPストリーム1～5セッションのRTPストリーム配信について、ストリームごとに設定します。

RTPストリーム 1	
映像サイズ	320x180 JPEG ▼
フレームレート 1～30	5
マルチキャストアドレス	0.0.0.0
マルチキャストポート番号 0,1024～65534(偶数)	0
マルチキャストTTL 0～255	1
音声送信	使用しない ▼

[映像サイズ]

RTPストリームの映像フォーマット (JPEGまたはH.264) と映像サイズを選択します。

JPEGの映像サイズは、設定している [映像サイズセット] (P. 71)によって異なります。

H.264の映像サイズは、[映像設定] (P. 72)の [H.264(1)]、[H.264(2)] のそれぞれの設定が使用されます。

なお、[H.264(1)] および [H.264(2)] を複数のRTPストリームには設定できません。

[フレームレート]

RTPストリームがJPEGの場合、フレームレートを入力します。

H.264の場合は設定できません。[映像設定] > [H.264(1)] または [H.264(2)] の [フレームレート] の設定が使用されます。

[マルチキャストアドレス]

RTPストリームのマルチキャストアドレスを、次のように入力します。

IPv4：224.0.0.0～239.255.255.255の範囲

IPv6：ff00::/8 で始まるアドレス

マルチキャストを無効にする場合は、IPv4では [0.0.0.0]、IPv6では [::0(::)] に入力します。

[マルチキャストポート番号]

RTPストリームのマルチキャストポート番号を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

[マルチキャストTTL]

RTPストリームのマルチキャスト配信の有効範囲を入力します。

[0] にすると、マルチキャストは無効になります。

マルチキャスト配信の有効範囲を表すTTL (Time ToLive) は、ルーターを超えるごとに1ずつ減算され、0になるとルーターを超えて配信することはできません。

例えば、TTLを [1] に設定すると、ローカルセグメントのみのマルチキャスト配信となり、ルーターを超えて配信することはできません。

[音声送信] **R11** **M641** **M741**

RTPストリームの音声送信を使用するか選択します。



メモ

- RTPストリームのURL
rtsp://IPアドレス:ポート番号/rtpstream/config1(～5)=r|u|m
[=r|u|m] は省略できます。指定する場合にはいずれか1つを指定してください。
r: RTP over TCPを要求
u: RTP over UDPを要求
m: multicastを要求
例: RTPストリーム1をRTP over TCPで要求
rtsp://192.168.100.1:554/rtpstream/config1=r
注意: 実際の動作はRTPクライアントアプリケーションに依存するため、必ずしも指定の方式で送信されるわけではありません。
- H.264の場合、ビットレート制御、映像品質は、[映像設定] (P. 72) での各設定が使用されます。
- [セキュリティ] > [ユーザーアクセス制限] > [ユーザー権限] の [映像配信] および [音声配信] は、RTPIには反映されません。

- プロキシサーバーやファイアウォールを使用している環境では、RTPストリームの映像が表示されないことがあります。この場合は、システム管理者にお問い合わせください。
- RTP over UDPでストリーム配信中のクライアントにホストアクセス制限が適用された場合は、配信停止まで数秒から数十秒時間がかかる場合があります。

R11 M641 M741

- [サーバー] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] の設定にかかわらず、音声のRTP配信は行われます。ただし、音声の設定を行う場合には [カメラからの音声送信] を [送信する] にして各種設定を行ってください。

HTTPやFTPでのアップロードについて設定する

[映像記録] > [アップロード]

イベントの発生時に、HTTPまたはFTPで映像をアップロードするための設定を行います。
アップロードに使用するHTTPサーバーまたはFTPサーバーについては、[サーバー] > [サーバー設定] (P. 89) で設定してください。

重要

- アップロード機能またはメモリーカード記録を使用するには、次の設定が必要です。
 - [イベント] メニューの [タイマー] での [映像記録] の設定
 - [イベント] メニューの [外部デバイス]、[音声検知]、[連結イベント] での [映像記録] の設定 **R11 M641 M741**
 - インテリジェント機能設定ツールの [イベント] タブの設定 (P. 231)
- アップロード実行中またはメモリーカード記録中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。動作が停止する場合があります。
- HTTPまたはFTPでのアップロードと、テキストと映像によるメール通報を両方使用する場合は、[映像設定] > [JPEG] > [映像サイズ：アップロード/メモリーカード] (P. 72) を小さいサイズに設定してください。
- HTTPアップロードは、SSL/TLSには対応しません。
- アップロードやメール通報を連続して行うよう設定した場合、映像の大きさ、サーバーまでのネットワークの状況により、映像やメールが送られなくなる可能性があります。その場合は、ログ (P. 135) にメッセージが表示されます。
- HTTPまたはFTPでのアップロード、メール通報先にWindows系OSを設定する場合、IPsec通信は対応しません。

映像記録設定

イベント発生時に、カメラからの映像を、HTTPまたはFTPでアップロードするか、メモリーカードに記録するかを設定します。

この項目は、[メモリーカード] サブメニュー (P. 101) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

映像記録設定	
 映像記録動作	アップロード ▼

[映像記録動作]

映像をアップロードする場合、[アップロード] を選択します。

アップロード全般

アップロードの方式と、アップロードする映像のフォーマットについて設定します。

アップロード全般	
 アップロードの動作	HTTPでアップロード ▼
 映像フォーマット	JPEG ▼
 フレームレート 1~10	1
 イベント前バッファ (枚数) 0~100	0
 イベント後バッファ (枚数) 0~100	0

アップロード全般	
 アップロードの動作	FTPでアップロード ▼
 映像フォーマット	H.264 (1) ▼
 イベント前バッファ (秒) 0~5	0
 イベント後バッファ (秒) 0~20	0

[アップロードの動作]

HTTPでアップロードするか、FTPでアップロードするかを選択します。

[映像フォーマット]

アップロードする映像のフォーマットを選択します。[H.264(2)] は使用できません。

アップロードされる映像サイズと映像品質は、[映像設定] (P. 71) の設定に従います。



重要

H.264(1)に設定するには、[映像設定] > [H.264(1)] (P. 72) で次ように設定する必要があります。

- [ビットレート制御]：[ビットレート制御する]
- [目標ビットレート(kbps)]：[3072] 以下
- [フレーム間隔(秒)]：[0.5]、[1]、[1.5] のいずれか

[フレームレート]

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合、アップロードする映像の最大フレームレートを入力します。

[イベント前バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント前バッファ (秒)] (H.264(1)の場合)

イベント発生前に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] の場合は秒数の最大値を入力します。

[イベント後バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント後バッファ (秒)] (H.264(1)の場合)

イベント発生後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] の場合は秒数の最大値を入力します。



重要

映像バッファの最大容量は、約5MBです。映像サイズを大きく設定していると、フレームレート、イベント前バッファ、イベント後バッファが、設定通りに実行できない場合があります。

設定通りバッファが実行できない場合、ログ (P. 135) にメッセージが表示されます。ログにメッセージが表示されていないことを確認して、使用してください。



メモ

アップロードの設定により、サーバーまたはネットワークの負荷が高くなると、映像のフレームレートが低下する場合があります。このような場合は、次の設定を見直して、アップロードされるデータのサイズを小さくしたり、頻度を下げたりしてください。

- [JPEG] の [映像サイズ：アップロード/メモリーカード] を小さなサイズにする (P. 72)。
- [イベント前バッファ]、[イベント後バッファ] の枚数または秒数を少なくする (P. 97)。
- [音量検知イベント] 有効時、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[ONイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 107)。 **R11 M641 M741**
- インテリジェント機能設定ツールの [イベント] タブで、[ONイベント時の動作]、[OFFイベント時の動作]、[検知あり状態時の動作] のいずれかを無効にする (P. 231)。
- [外部デバイス入力イベント] 有効時、[アクティブイベント時の動作]、[インアクティブイベント時の動作]、[アクティブイベント中の動作] のいずれかを無効にする (P. 105)。 **R11 M641 M741**
- [タイマーイベント] 有効時、[繰り返し間隔] を長くする (P. 110)。

HTTPアップロード

[アップロードの動作] を [HTTPでアップロード] に設定した場合、HTTPのアップロード機能を設定します。

HTTPアップロードは、ネットワークカメラのイベントに応じてHTTPによる通知、あるいはHTTPによる画像を送信する機能です。

HTTPアップロード機能や設定の詳細については、お客様相談センターにお問い合わせください。

HTTPアップロード	
① 通報内容	HTTPで通知のみ行う ▼
① URI 255文字以内	http://192.168.100.67
① ユーザー名 31文字以内	
① パスワード 31文字以内	*****
① プロキシサーバー 63文字以内	
① プロキシポート番号 1~65535	80
① プロキシユーザー名 31文字以内	
① プロキシパスワード 31文字以内	*****
① パラメーター (query string) 127文字以内	
① HTTPアップロードテスト	実行

[通報内容]

HTTPアップロードを行う場合に、イベント情報のみを通知するか、通知とともに映像ファイルを添付するかを選択します。

[URI]

アップロードするHTTPサーバーのURIを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

Digest認証には、対応していません。

[プロキシサーバー]

プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[プロキシポート番号]

プロキシサーバーを使用する場合、プロキシサーバーのポート番号を入力します。

[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード]

プロキシサーバーでユーザー名とパスワードを使用する場合に入力します。

Digest認証には、対応していません。

[パラメーター (query string)]

リクエストパラメーターを入力します。

「%」文字によるパラメーター記述が可能です(P. 256)。

[HTTPアップロードテスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。

JPEG 1 枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、

[適用] する前に [実行] をクリックしてください。



重 要

[プロキシサーバー]、[プロキシポート番号]、[プロキシユーザー名]、[プロキシパスワード] は、プロキシサーバー経由で接続する場合にのみ入力してください。

FTPアップロード

[アップロードの動作] を [FTPでアップロード] に設定した場合、FTPのアップロード機能を設定します。

FTPアップロード	
① 通報内容	映像をFTPする
① FTPサーバー 63文字以内	
① ユーザー名 31文字以内	ftp
① パスワード 63文字以内	*****
① PASVモード	使用する ▼
① ファイルアップロードパス 255文字以内	
① ファイル名記録方式	年月日時分秒ms ▼
① FTPアップロードテスト	実行

[通報内容]

[映像をFTPする] に設定されます。

[FTPサーバー]

FTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[ユーザー名]、[パスワード]

認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[PASVモード]

FTPサーバーに接続する際に、PASVモードを使用するかを選択します。

[ファイルアップロードパス]

映像ファイルのアップロード先のパス名 (ディレクトリ名) を入力します。

[ファイル名記録方式]

アップロードファイルの命名規則を選択します。

[年月日時分秒ms]

“{年}{月}{日}{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。

(例：20140123112122000.jpg)

[年月日ディレクトリ/時分秒ms]

“{年}{月}{日}”という名前のサブディレクトリを作成した上で“{時}{分}{秒}{ミリ秒}.jpg”というファイル名で映像をアップロードします。

(例：20140123/112122000.jpg)

① ファイル名記録方式	ループ ▼
① 最大ループ数 0～9999	0

[ループ]

0000. から[最大ループ数]の設定値を上限として、順番に付けた番号をファイル名としてアップロードします (例：0000.jpg、0001.jpg)。最大ループ数まで達したら、0000に戻ります。

すでに存在するファイル名でアップロードを行った場合の動作は、使用するFTPサーバーによって次のように異なるため、設定前にFTPサーバーの仕様を確認する必要があります。

- 同じファイル名は上書きされる
- 自動的に別のファイル名が付加される
- エラーとなる

[最大ループ数]

[ファイル名記録方式] を [ループ] にした場合、最大ループ値を入力します。

① ファイル名記録方式	ユーザー設定 ▼
② 作成サブディレクトリ名 127文字以内	
③ 作成ファイル名 127文字以内	image.jpg

[ユーザー設定]

[作成サブディレクトリ名] と [作成ファイル名] で指定されたファイル名で映像をアップロードします。

[作成サブディレクトリ名]、[作成ファイル名]

記録方式を [ユーザー設定] にした場合、作成するサブディレクトリ名および作成ファイル名を入力します。
入力には、「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 256)。

[FTPアップロードテスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してアップロードテストを行います。

JPEG 1 枚のみアップロードされますが、このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

メモリーカードへの映像記録について設定する [映像記録] > [メモリーカード]

イベントの発生時に、映像をメモリーカードに記録するための設定を行います。

このページの [メモリーカードの操作] と [メモリーカードの情報] は、[メモリーカード] (P. 131) と共通です。いずれかのページで設定すると、両方のページに反映されます。

映像記録設定

カメラからの映像を、メモリーカードに記録するか、HTTPまたはFTPでアップロードするかを設定します。

この項目は、[アップロード] サブメニュー (P. 96) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

映像記録設定	
映像記録動作	メモリーカードに記録 ▼

[映像記録動作]

メモリーカードに記録する場合、[メモリーカードに記録] を選択します。

メモリーカードの操作

設定については、(P. 131) を参照してください。

メモリーカードの情報

設定については、(P. 134) を参照してください。

メールでの通報を設定する

[映像記録] > [メール通報]

イベント発生時に、指定した宛先にメールを送信して通報するための設定を行います。

メール通報

メール通報に使用するメールサーバーと、送信するメールの内容を設定します。

メール通報	
① 通報内容	テキストのみ ▼
① メールサーバー 63文字以内	
① メールポート番号 1~65535	25
① 差出人メールアドレス (From) 63文字以内	
① 宛先メールアドレス (To) 63文字以内	
① メール認証方式	なし ▼
① 表題 31文字以内	
① 本文 255文字以内	
① メール通報テスト	実行

[通報内容]

テキストとは、[表題] と [本文] です。

[テキストと映像] に設定すると、イベント直前に取得した画像データ (JPEG形式) を1枚添付します。

[メールサーバー]

SMTPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

[メールポート番号]

SMTPサーバーのポート番号を入力します。

[差出人メールアドレス(From)]

メール発信するアドレスを入力します。

[宛先メールアドレス(To)]

メール受信するアドレスを入力します。

[メール認証方式]

送信先SMTPサーバーに合わせて、認証方式を選択します。

① メール認証方式	POP before SMTP ▼
① ユーザー名 31文字以内	username
① パスワード 31文字以内	*****
① POPサーバー 63文字以内	servername

[ユーザー名]、[パスワード]、[POPサーバー]

メール認証方式を [POP before SMTP] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワード、POPサーバーのホスト名またはIPアドレスを入力します。

① メール認証方式	SMTP-AUTH ▼
② ユーザー名 31文字以内	username
③ パスワード 31文字以内	*****

[ユーザー名]、[パスワード]

メール認証方式を [SMTP-AUTH] にした場合、認証に必要なユーザー名とパスワードを入力します。

[表題]

メール送信時の表題を半角英数字で入力します。

[本文]

メール送信時の本文 (テキスト) を、半角英数字で入力します。

テキストには「%」文字によるパラメーター記述が可能です (P. 256)。

[メール通報テスト]

[実行] をクリックすると、入力済みの設定値に対してメール通報テストを行います。

このとき、設定値を [適用] する必要はありません。パスワードを入力後、[適用] する前に [実行] をクリックしてください。

外部デバイスからの入力があった場合の動作を設定する [イベント] > [外部デバイス]

R11 M641 M741

外部デバイス出力の動作と、外部デバイスからの入力イベントで実行する動作について設定します。

外部デバイス出力1、2

外部デバイスへの出力動作について設定します。

カメラには2つの外部デバイス出力があり、それぞれの出力ごとに設定できます。

メモ

外部デバイスへの出力は、管理者コントロールの [外部デバイス出力] (P. 168) でアクティブ/インアクティブを切り換えることができます。

外部デバイス出力 1	
① 動作モード	ノーマルオープン ▼
② アクティブ出力の形式	連続 ▼
③ パルスの出力時間 (秒) 1~120	1

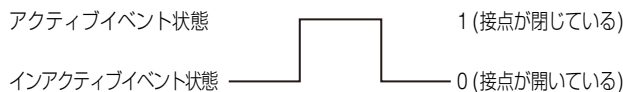
[動作モード]

出力端子の接点が、通常時にオープンかクローズかを選択します。

[ノーマルオープン] に設定すると、通常時は出力端子の接点が開いている状態 (回路が非導通) で、アクティブ信号で接点が閉じ、インアクティブ信号で開きます。

[ノーマルクローズ] に設定すると、通常時に出力端子の接点が閉じている状態 (回路が導通) で、アクティブ信号で接点が開き、インアクティブ信号で閉じます。

ノーマルオープン



ノーマルクローズ



[アクティブ出力の形式]

外部デバイス出力がアクティブの状態になったときの出力形式を選択します。

[パルスの出力時間(秒)]

[アクティブ出力の形式] が [パルス] の場合、出力を維持する時間 (秒) を入力します。

重要

[アクティブ出力の形式] を [パルス] に設定してタイマーを使用する場合 (P. 110) は、タイマーの開始時刻に1回のみ接点出力が制御されます。

外部デバイス入力

外部デバイス入力	
① 外部デバイス入力イベント	使用する ▼

[外部デバイス入力イベント]

接続されたセンサーなどの外部デバイスからの入力を、イベントとして使用するかを選択します。

外部デバイス入力1、2

外部デバイス入力イベントがあった場合の動作について設定します。

カメラには2つの外部デバイス入力があり、それぞれの入力ごとに設定できます。

この項目は、[外部デバイス入力イベント] で [使用する] を選択した場合に設定できます。

メモ

外部デバイス入力イベントがあった場合は、管理者ビューワーのイベント表示パネルにアイコンで表示されます (P. 186)。

外部デバイス入力 1	
① 動作モード	ノーマルオープン ▼
① アクティブイベント時の動作	有効 ▼
① インアクティブイベント時の動作	無効 ▼
① アクティブイベント中の動作	無効 ▼
① プリセット	指定しない ▼
① 映像記録	実行しない ▼
① メール通報	実行しない ▼
① アクティブイベント時の外部デバイス出力	無効 ▼
① インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効 ▼
① アクティブイベント時の音声再生	再生する ▼
① インアクティブイベント時の音声再生	再生しない ▼
① 再生音	SAMPLE_1 ▼
① 音量 1~100	50
① デイナイト切り換え	無効 ▼

[動作モード]

接続されている外部機器からの入力信号に合わせて、回線状態を選択します。

[ノーマルオープン] に設定すると、外部機器の接点が閉じた場合にアクティブイベントが発生し、開いた場合にインアクティブイベントが発生します。

[ノーマルクローズ] に設定すると、外部機器の接点が開いた場合にアクティブイベントが発生し、閉じた場合にインアクティブイベントが発生します。

[アクティブイベント時の動作]

アクティブイベント時の動作を選択します。

[有効] に設定すると、イベント発生 (アクティブイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[インアクティブイベント時の動作]

インアクティブイベント時の動作を選択します。

[有効] に設定すると、イベント終了 (インアクティブイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[アクティブイベント中の動作]

アクティブイベントが継続している間の動作を選択します。[アクティブイベント時の動作] が [有効] の場合のみ設定できます。

[有効] に設定すると、アクティブイベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] **R11**

プリセットを指定すると、外部デバイス入力イベントが発生したときに、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] (P. 171) で設定しておく必要があります。

重要

管理者ビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット]の指定によってカメラアングルが移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する]に設定すると、外部デバイス入力イベントが発生したときに、[映像記録動作] (P. 96) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する]に設定すると、外部デバイス入力イベントが発生したときに、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 102) を設定しておく必要があります。

[アクティブイベント時の外部デバイス出力]

アクティブイベント時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

[インアクティブイベント時の外部デバイス出力]

インアクティブイベント時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

[アクティブイベント時の音声再生]

[再生する]を選択すると、外部デバイス入力のアクティブイベント時に、[再生音]で指定した音声を再生します。

[インアクティブイベント時の音声再生]

[再生する]を選択すると、外部デバイス入力のインアクティブイベント時に、[再生音]で指定した音声を再生します。

[再生音]

[アクティブイベント時の音声再生] または [インアクティブイベント時の音声再生] が [再生する] の場合、再生音を選択します。

再生音は、あらかじめ [映像と音声] > [音声設定] (P. 88) で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を入力します。

[デイナイト切り換え]

外部デバイス入力イベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。

[デイモードに切り換え]に設定すると、アクティブイベント発生時にデイモード、インアクティブイベント時にナイトモードに切り換えます。

[ナイトモードに切り換え]に設定すると、アクティブイベント時にナイトモード、インアクティブイベント時にデイモードに切り換えます。

重要

- 管理者ビューワーで [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 165)、外部デバイス入力イベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- 管理者ビューワーなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

異常な音声入力があった場合の動作を設定する [イベント] > [音声検知]

R11 M641 M741

カメラに接続したマイクから、大きな音や悲鳴が入力された場合、または入力されるはずの音声途絶えた場合に、映像記録やメール通報などの動作を実行できます。



重要

音量検知の注意事項については、「安全にお使いいただくために」の「カメラ搭載の機能および同梱ソフトウェアの使用上の注意」(P. 8)を参照してください。



メモ

音声検知の状態は、管理者ビューワのイベント表示パネルで確認できます (P. 187)。

音量検知

入力音声の音量が基準値を上回った、または下回ったことを検知して、音量検知イベントを発生します。音量検知イベントを発生させる条件や、イベントによって実行する動作を設定します。



重要

イベントによる音声ファイル再生時とビューワからの音声送信時は、一時的に音量検知機能が無効になります。

音量検知	
① 音量検知イベント	使用する
① 検知条件	基準音量レベル以上
① 基準音量レベル 1~100	50
① 現在の音量レベル	0 50 100
① 検知条件の継続時間 (秒) 0~10	0
① ONイベント時の動作	有効
① OFFイベント時の動作	無効
① ONイベント中の動作	無効
① プリセット	指定しない
① 映像記録	実行しない
① メール通報	実行しない
① ONイベント時の外部デバイス出力	無効
① OFFイベント時の外部デバイス出力	無効

[音量検知イベント]

音量検知イベントを使用するかを選択します。

[検知条件]

音量検知イベントを発生する条件を選択します。

[基準音量レベル]

検知の基準となる音量レベルを入力します。

基準音量レベルは、[現在の音量レベル] で確認しながら実際にテストを行ったうえで設定してください。

[現在の音量レベル]

現在の音量レベルがステータスバーで表示されます。

[基準音量レベル] で設定したレベルには赤色の目印が表示され、[基準音量レベル] より低いレベルは青色、[基準音量レベル] 以上のレベルは赤色で表示されます。

[検知条件の継続時間(秒)]

音量検知条件を満たした状態が継続時間以上続いた場合に、ONイベントが発生します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、音量検知イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]

[有効] に設定すると、音量検知イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]

ONイベントが継続している間の動作を選択します。[ONイベント時の動作] が [有効] の場合に設定できます。

[有効] に設定すると、音量検知イベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] **R11**

プリセットを指定すると、音量検知イベントが発生したときに、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] (P. 171) で設定しておく必要があります。



重要 **R11**

管理者ビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によって音量検知イベント時の動作でカメラがプリセット位置に移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

音量検知イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、音量検知イベントが発生したときに、[映像記録動作] (P. 96) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

音量検知イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、音量検知イベントが発生したときに、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 102) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]

OFFイベント時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

悲鳴検知

人が発する異常音 (悲鳴・叫び声など) を検知して、悲鳴検知イベントが発生します。

また、悲鳴検知イベントによって実行する動作を設定できます。



重要

- 悲鳴検知は、比較的静かな環境下での異常音を検知する機能です。騒がしい環境下では、検知しにくくなる場合があります。
- 悲鳴検知は、言語的な意味を認識して判定するものではありません。
- 過大な悲鳴が入力されると、検知しにくくなる場合があります。
- 悲鳴の継続時間が短いと、検知しにくくなる場合があります。
- 同一の音声をくり返し何度も入力すると、一時的に悲鳴が検知しにくくなる場合があります。

悲鳴検知	
❶ 悲鳴検知イベント	使用する ▼
❷ ONイベント時の動作	有効 ▼
❸ プリセット	指定しない ▼
❹ 映像記録	実行しない ▼
❺ メール通報	実行しない ▼
❻ ONイベント時の外部デバイス出力	無効 ▼

[悲鳴検知イベント]

悲鳴検知イベントを使用するかを選択します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、悲鳴検知イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] **R11**

プリセットを指定すると、悲鳴検知イベント発生時に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。プリセットは、あらかじめ管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] (P. 171) で設定しておく必要があります。



重要

管理者ビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[プリセット] の指定によって悲鳴検知イベント時の動作でプリセットが実行された場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

悲鳴検知イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、悲鳴検知イベント発生時に、[映像記録動作] (P. 96) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

悲鳴検知イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、悲鳴検知イベント発生時にメール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 102) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択できます。

指定時刻に実行する動作を設定する [イベント] > [タイマー]

タイマー機能を使用してイベントを発生させ、映像記録やメール通報などの動作を一定間隔で実行できます。
設定できるタイマーは、次の2種類です。

- 指定した時刻から24時間連続
- 指定した時間内のみ

いずれの場合も、タイマーイベントを繰り返し発生させる間隔を設定できます。

メモ

タイマーイベントは、管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] > [自動制御設定] タブの [タイマー] (P. 178) とは異なります。

タイマー 1～4

タイマーイベントは、4つまで登録できます。

タイマー 1	
① タイマーイベント	使用する ▼
① 24時間連続設定	無効 ▼
① 開始時刻 hh:mm	00:00
① 終了時刻 hh:mm	00:00
① 繰り返し間隔	なし ▼
動作	
① 開始時刻のプリセット	指定しない ▼
① 映像記録	実行しない ▼
① メール通報	実行しない ▼
① 外部デバイス出力	無効 ▼
① デイナイト切り換え	無効 ▼

[タイマーイベント]

タイマーイベントを使用するかを選択します。

[24時間連続設定]

[有効] に設定すると、[開始時刻] から24時間連続で、[繰り返し間隔] の間隔でタイマーイベントを繰り返します。
[有効] にした場合、動作は [映像記録] のみ実行できます。

[開始時刻]

タイマーイベントの開始時刻を、24時間制で入力します。開始時刻にタイマーイベントが発生します。

[終了時刻]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベント繰り返しを終了させる時刻を、24時間制で入力します。終了時刻にタイマーイベントが発生します。

[繰り返し間隔]

タイマーイベントを繰り返す間隔を選択します。選択した間隔ごとに、タイマーイベントが発生します。

動作

タイマーイベント発生時の動作を設定します。

[開始時刻のプリセット] R11 R10

[24時間連続設定] が [無効] の場合、プリセットを指定すると、[開始時刻] で設定した時刻に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] (P. 171) で設定しておく必要があります。

**重要**

管理者ビューワーなどでカメラ制御権取得中に、[開始時刻のプリセット] の指定によってカメラアングルが移動した場合、カメラ制御権は解放されます。

[映像記録]

タイマーイベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、[映像記録動作] (P. 96) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、タイマーイベント発生時に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 102) を設定しておく必要があります。

[外部デバイス出力] R11 M641 M741

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベント発生時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを設定できます。

[繰り返し間隔] には対応しません。

[デイナイト切り換え]

[24時間連続設定] が [無効] の場合、タイマーイベント発生時のデイナイト切り換えの動作を選択します。[タイマー 1] でのみ設定できます。

[デイモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にデイモード、[終了時刻] にナイトモードになります。

[ナイトモードに切り換え] に設定すると、[開始時刻] にナイトモード、[終了時刻] にデイモードになります。

[繰り返し間隔] には対応しません。

**重要**

- [開始時刻] と [終了時刻] を設定し、[開始時刻のプリセット] でプリセットを選択した場合、デイナイトは管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] > [プリセット登録] タブの [プリセット詳細設定] > [デイナイト] (P. 175) の設定が優先されます。したがって、[デイナイト切り換え] で [デイモードに切り換え] または [ナイトモードに切り換え] に設定していても、[管理者コントロール] の [プリセット詳細設定] がその逆の設定の場合、[デイナイト切り換え] の設定は無効になります。
- 管理者コントロールで [デイナイト] が [オート] に設定されている場合 (P. 165)、タイマーイベント発生時に [デイナイト切り換え] は実行されません。
- 管理者ビューワーなどでカメラ制御権取得中に [デイナイト切り換え] によりデイナイトのモードが切り換えられた場合、カメラ制御権は解放されます。

デイナイト切り換え時にプリセットを実行する [イベント] > [デイナイト切り換え]

イベントによるデイナイト切り換えが行われるタイミングで、あらかじめ登録したプリセットを実行し、カメラアングルや画質設定などを切り換えることができます。

重要

管理者ビューワーなどでカメラ制御権が取得されている場合、[デイモード切り換え時のプリセット]、[ナイトモード切り換え時のプリセット] は実行されません。

メモ

- あらかじめ、管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] (P. 171) で、プリセットを設定しておく必要があります。
- イベントによるデイナイト切り換えのタイミングは、[外部デバイス入力] (P. 105)、[タイマー] (P. 110) の各 [デイナイト切り換え] で設定できます。

デイナイト切り換え	
 デイモード切り換え時のプリセット	指定しない ▼
 ナイトモード切り換え時のプリセット	指定しない ▼

[デイモード切り換え時のプリセット]

デイモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。

[ナイトモード切り換え時のプリセット]

ナイトモードに変わったタイミングで、指定したプリセットを実行します。

イベントを組み合わせて使用する [イベント] > [連結イベント]

R11 M641 M741

2種類のイベントを組み合わせて、1つのイベントを発生させます。イベントの連結方法には、AND/ORが選択できます。連結イベント発生時の動作に、映像記録やメール通報などを設定できます。

メモ

連結イベントの状態は、管理者ビューワーのイベント表示パネルで確認できます (P. 187)。

連結イベント1～4

連結イベントは、4つまで登録できます。

組み合わせられるイベントは、[音量検知]、[悲鳴検知]、[外部デバイス入力]、[タイマー]、[インテリジェント機能]の5種類です。

連結イベント 1	
① 連結イベント	使用する ▼
① イベント連結方法	AND ▼
① イベント順序	指定しない ▼
① イベント間隔 (秒) 0～60	2
イベント 1	
① イベント種別	外部デバイス入力 ▼
① 外部デバイス入力	入力1 ▼
① 状態	アクティブ ▼
イベント 2	
① イベント種別	インテリジェント機能 ▼
① インテリジェント機能	設定1 ▼
① 状態	ON ▼
動作	
① ONイベント時の動作	有効 ▼
① OFFイベント時の動作	無効 ▼
① ONイベント中の動作	無効 ▼
① 映像記録	実行しない ▼
① メール通報	実行しない ▼
① ONイベント時の外部デバイス出力	無効 ▼
① OFFイベント時の外部デバイス出力	無効 ▼
① ONイベント時の音声再生	再生する ▼
① OFFイベント時の音声再生	再生しない ▼
① 再生音	SAMPLE_1 ▼
① 音量 1～100	50

[連結イベント]

連結イベントを使用するかを選択します。

[イベント連結方法]

イベントの組み合わせ条件を選択します。

[AND]：[イベント1]と[イベント2]で選択したイベント種別が両方発生すると、新たな連結イベントを発生させます。この場合、[イベント順序]と[イベント間隔]を設定します。

[OR]：[イベント1]と[イベント2]で選択したイベント種別のいずれかが発生すると、新たな連結イベントを発生させます。

[イベント順序]

[イベント連結方法]が[AND]の場合、2つのイベントの発生順序を選択できます。

[指定しない]に設定した場合は、順序は考慮されません。

[イベント間隔(秒)]

[イベント連結方法]が[AND]の場合、2つのイベントの発生間隔を入力します。

1つめのイベントが発生してから、指定時間(秒)以内に2つめのイベントが発生した場合、新たな連結イベントが発生します。

■ イベント 1、2

連結する2つのイベントを指定します。設定内容はどちらも同じです。

[イベント種別]

組み合わせるイベントの種別を選択します。

メモ

[イベント1]と[イベント2]の両方に[インテリジェント機能]を指定することはできません。

イベント 1	
① イベント種別	音量検知
② 状態	ON

[音量検知]の場合、ONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

イベント 1	
① イベント種別	悲鳴検知
② 状態	ON

[悲鳴検知]の場合、ONイベント、OFFイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

イベント 1	
① イベント種別	外部デバイス入力
② 外部デバイス入力	入力1
③ 状態	アクティブ

[外部デバイス入力]の場合、使用する外部デバイス入力1または2を選択し、アクティブイベント、インアクティブイベントのどちらで連結イベントを発生させるか選択します。

イベント 1	
① イベント種別	タイマー
② タイマー	タイマー1

[タイマー]の場合、使用するタイマーイベントの番号を選択します。

イベント 1	
① イベント種別	インテリジェント機能
② インテリジェント機能	設定1
③ 状態	ON

[インテリジェント機能]の場合、使用するインテリジェント機能の検知設定番号(P. 220)を選択します。

■ 動作

連結イベント発生時の動作を設定します。

[ONイベント時の動作]

[有効] に設定すると、連結イベント発生 (ONイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[OFFイベント時の動作]

[有効] に設定すると、連結イベント終了 (OFFイベント) 時に、[プリセット]、[映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[ONイベント中の動作]

ONイベントが継続している間の動作を選択します。

[有効] に設定すると、連結イベント継続中に [映像記録]、[メール通報] で設定した処理を実行します。

[プリセット] R11

プリセットを指定すると、連結イベントが発生した場合に、指定したプリセットの位置に自動的にカメラアングルを移動します。

プリセットは、あらかじめ管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] (P. 171) で設定しておく必要があります。

**メモ**

[イベント種別] が [インテリジェント機能] の場合は設定できません。

[映像記録]

連結イベントによって映像記録を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、[映像記録動作] (P. 96) で設定した記録先に映像が送信されます。

[メール通報]

連結イベントによってメール通報を実行するかを選択します。

[実行する] に設定すると、連結イベントが発生した場合に、メール通報を実行します。

メール通報を使用するには、あらかじめ [映像記録] > [メール通報] (P. 102) を設定しておく必要があります。

[ONイベント時の外部デバイス出力]

ONイベント時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

[OFFイベント時の外部デバイス出力]

OFFイベント時の外部デバイス出力 (1または2) を、アクティブにするかインアクティブにするかを選択します。

[ONイベント時の音声再生]

[再生する] に設定すると、連結イベント発生時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

**メモ**

[イベント種別] が [外部デバイス入力] または [インテリジェント機能] の場合にのみ設定できます。

[OFFイベント時の音声再生]

[再生する] に設定すると、連結イベント終了時に、[再生音] で指定した音声を再生します。

[再生音]

[ONイベント時の音声再生] または [OFFイベント時の音声再生] が [再生する] の場合、再生音を選択します。

再生音は、あらかじめ [映像と音声] > [音声設定] (P. 88) で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を入力します。

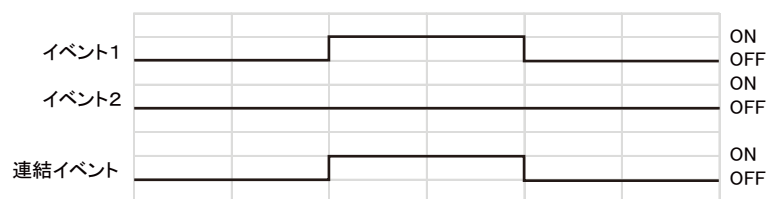
連結イベントの動作例

イベント1とイベント2のON/OFFの組み合わせによる、連結イベントの状態の例を示します。

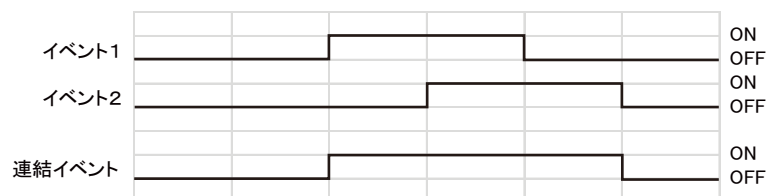
なお、下記の例では、[イベント間隔] が4秒、図中のセル1マスを1秒としています。

■ [イベント連結方法] が [OR] の場合

片方のイベントのみがON



両方のイベントがON

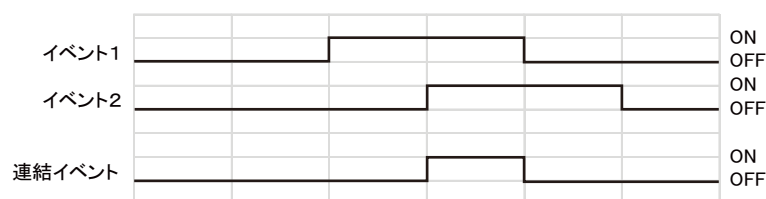


■ [イベント連結方法] が [AND]、[イベント順序] が順序ありの場合

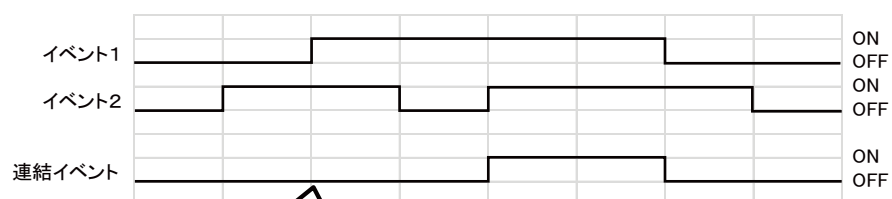
[イベント順序] が [イベント1->2] に設定されている場合の例を示します。

[イベント順序] が [指定しない] で [イベント連結方法] が [AND] の場合は、イベント1とイベント2が逆になっても例のとおり連結イベントになります。

イベント発生順序が 1→2のケース

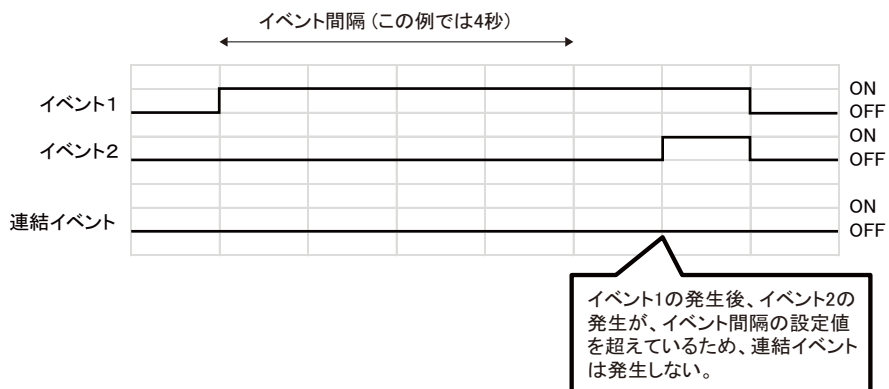


イベント発生順序が 2→1→2のケース

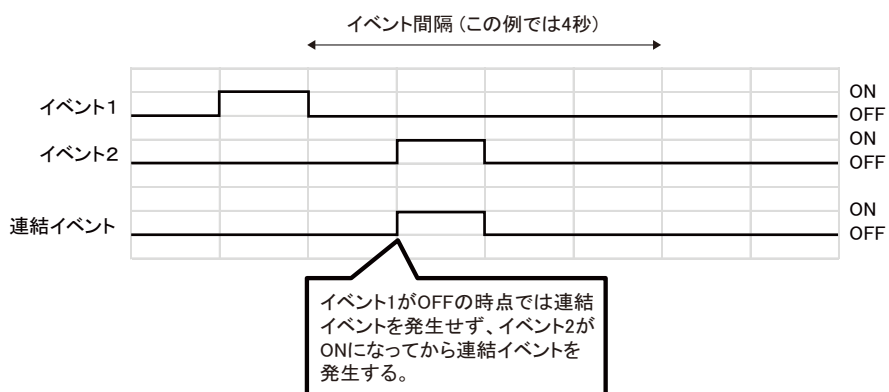


両方のイベントがONになるが、順序が違うため、ここでは連結イベントは発生しない。

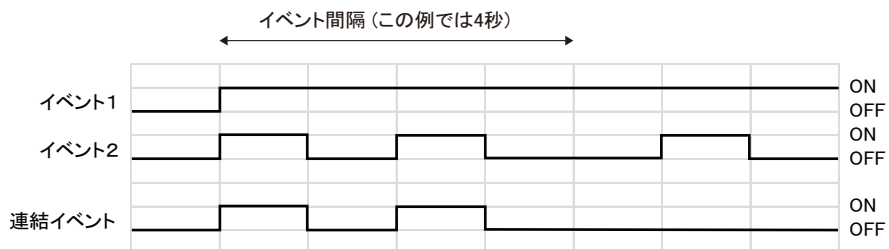
イベント2の発生がイベント間隔の設定値 ([4] 秒) を超えた場合



イベント1の [状態] が [OFF] に設定されていて、イベント2がONになるケース



片方のイベントがON/OFFを繰り返すケース



カメラに接続するユーザーを設定する [セキュリティ]>[ユーザーアクセス制限]

管理者ビューワーにアクセスできる登録ユーザーの新規追加と、登録ユーザーおよび一般ユーザーの権限設定を行います。
ユーザーの権限については、「ビューワーのアクセス制限」(P. 138) を参照してください。

登録ユーザーアカウント

登録ユーザーを追加します。

登録ユーザーアカウント		
ユーザー名 15文字以内		追加
パスワード 6~15文字		
ユーザーリスト		削除 ▲ ▼

[ユーザー名]、[パスワード]

ユーザー名とパスワードを入力して [追加] をクリックすると、登録ユーザーが追加されます。

ユーザー名には、半角のA-Z、a-z、0-9、-、_が使用できます。

パスワードは、半角英数字で入力します。

最大50の登録ユーザーを追加できます。

[ユーザーリスト]

追加された登録ユーザーが一覧表示されます。

右側の▲▼ボタンでリストの並べ替えができます。

リストでユーザーを選択して、[削除] をクリックすると、登録ユーザーが削除されます。

ユーザー権限

登録ユーザーと一般ユーザーの権限を設定します。

ユーザー権限				
	特権カメラ制御	一般カメラ制御	映像配信	音声配信
登録ユーザー	☒	☒	☒	☒
一般ユーザー		☒	☒	☒

[特権カメラ制御]、[一般カメラ制御]、[映像配信]

[音声配信] R11 M641 M741

各ユーザーに付与する権限の項目をチェックします。

登録ユーザーは一般ユーザーよりも上位の権限となります。

アクセス制限を設定する

[セキュリティ] > [ホストアクセス制限]

IPv4、IPv6のそれぞれのアドレスからのアクセスに対して、個別にアクセス制御を行うことができます。

重要

- HTTP接続でプロキシサーバー経由のアクセスを禁止するには、プロキシサーバーのアドレスを設定する必要があります。
- 誤ったホスト制限設定を行うと、設定ページへのアクセス自体が禁止され、工場出荷設定に戻す以外に復旧する手段がなくなることがありますので、ご注意ください。

メモ

同じアドレスが設定された場合、リスト上位の設定が適用されます。

IPv4ホストアクセス制限

IPv4のアクセスを許可するホストと制限するホストを指定します。

IPv4ホストアクセス制限				
① ホストアクセス制限の適用	適用する ▼			
② デフォルトポリシー	アクセスを許可する ▼			
③ ネットワークアドレス / サブネット	01:		/	32 許可 ▼
	02:		/	32 許可 ▼
	03:		/	32 許可 ▼
	04:		/	32 許可 ▼
	05:		/	32 許可 ▼
	06:		/	32 許可 ▼
	07:		/	32 許可 ▼
	08:		/	32 許可 ▼
	09:		/	32 許可 ▼
	10:		/	32 許可 ▼
	11:		/	32 許可 ▼

[ホストアクセス制限の適用]

IPv4ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]

[ネットワークアドレス/サブネット] に指定していないIPv4アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[ネットワークアドレス/サブネット]

IPv4のネットワークアドレスをリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。

サブネットを指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

IPv6ホストアクセス制限

IPv6のアクセスを許可するホストと制限するホストを指定します。

IPv6ホストアクセス制限				
① ホストアクセス制限の適用	適用する ▼			
② デフォルトポリシー	アクセスを許可する ▼			
③ プレフィックス / プレフィックス長	01:		/	128 許可 ▼
	02:		/	128 許可 ▼
	03:		/	128 許可 ▼
	04:		/	128 許可 ▼
	05:		/	128 許可 ▼
	06:		/	128 許可 ▼
	07:		/	128 許可 ▼
	08:		/	128 許可 ▼
	09:		/	128 許可 ▼
	10:		/	128 許可 ▼
	11:		/	128 許可 ▼

[ホストアクセス制限の適用]

IPv6ホストアクセス制限を適用するかを選択します。

[デフォルトポリシー]

[プレフィックス/プレフィックス長] に指定していないIPv6アドレスからのアクセスを許可するか、禁止するかを選択します。

[プレフィックス/プレフィックス長]

IPv6のネットワークアドレス (プレフィックス) をリストに入力し、それぞれアドレスについて、アクセスの [許可] または [禁止] を選択します。

プレフィックス長を指定することで、ネットワーク単位、またはホスト単位でのアクセス制限を設定できます。

[禁止] に設定すると、すべてのポートに対するアクセスが禁止されます。

HTTP通信の暗号化を設定する

[セキュリティ] > [SSL/TLS]

証明書の作成および管理、暗号化通信について設定します。

証明書

SSL/TLS証明書を作成します。



重要

自己証明書は、完全なセキュリティが確保されていなくても問題ない動作テストなどの場合に使用してください。システム運用時には、CA局から発行される証明書を取得し、インストールすることを推奨します。

証明書	
① 自己証明書の作成	実行
② 証明書の状態	インストールされていません
③ 国名 (C) 2文字	
④ 都道府県名 (ST) 128文字以内	
⑤ 市区町村名 (L) 128文字以内	
⑥ 組織名 (O) 64文字以内	
⑦ 組織単位名 (OU) 64文字以内	
⑧ 一般名 (CN) 64文字以内	
⑨ 有効期間開始日 yyyy/mm/dd	
⑩ 有効期間終了日 yyyy/mm/dd	

[自己証明書の作成]

以降の各項目を入力し、[実行] をクリックすると、自己証明書を作成します。

表示されるメッセージに従って、再起動してください。作成された証明書は、再起動後に有効になります。



メモ

証明書の作成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

[証明書の状態]

証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[国名(C)]

ISO3166-1 alpha-2 の国名コードを入力します。

[都道府県名(ST)]、[市区町村名(L)]、[組織名(O)]、[組織単位名(OU)]、[一般名(CN)]

都道府県名、市区町村名、組織名、組織単位名、一般名を半角英数字 (スペースまたは印字可能文字) で入力します。
一般名 (必須) には、FQDN形式のホスト名などを設定します。

[有効期間開始日]、[有効期間終了日]

作成する証明書の有効期間を設定します (自己証明書の作成時は必須)。

証明書の管理

SSL/TLS証明書を管理します。

証明書の管理			
① 証明書署名要求の生成	実行		
① 証明書署名要求の表示	実行		
① サーバー証明書のインストール		参照...	実行
① 中間層の証明書のインストール		参照...	実行
① サーバー証明書の削除	実行		
① 中間層の証明書の削除	実行		
① サーバー証明書内容の表示	実行		
① 自己CA証明書の表示	実行		
① バックアップ	実行		
① リストア		参照...	実行

[証明書署名要求の生成]

[実行] をクリックすると、サーバー秘密鍵を作成し、証明書署名要求を生成します。
処理が終わると、別ウィンドウに証明書署名要求が表示されます。

メモ

証明書署名要求の生成には時間がかかるため、映像配信やアップロードなどの処理は停止することをお勧めします。

[証明書署名要求の表示]

[実行] をクリックすると、証明書署名要求の内容が表示されます。

[サーバー証明書のインストール]

サーバー証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

[中間層の証明書のインストール]

中間層の証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

インストールした証明書は、再起動後に有効になります。

メモ

中間層証明書とともにクロスルート証明書もインストールする場合は、あらかじめクロスルート証明書と中間層証明書をテキストエディターなどで1つのファイルに連結し、中間層証明書としてインストールしてください。

[サーバー証明書の削除]

[実行] をクリックすると、サーバー証明書を削除します。

ただし、SSL通信を行う設定になっていると証明書の削除はできないため、[SSL通信] を [使用しない] に設定してから実行してください。

削除は、再起動後に有効になります。

[中間層の証明書の削除]

[実行] をクリックすると、中間層証明書とともにクロスルート証明書を削除します。

ただし、SSL通信を行う設定になっていると証明書の削除はできないため、[SSL通信] を [使用しない] に設定してから実行してください。

削除は、再起動後に有効になります。

[サーバー証明書内容の表示]

[実行] をクリックすると、証明書の内容が表示されます。

[自己CA証明書の表示]

SSL通信のテストなどの目的で使用しますが、通常は使用しません。

[バックアップ]

[実行] をクリックすると、証明書と秘密鍵をバックアップします。SSL通信でのみ実行できます。

[リストア]

バックアップされている証明書と秘密鍵をインストールします。

[参照] でバックアップファイルを指定し、[実行] をクリックします。SSL通信でのみ実行できます。

リストアした証明書は、再起動後に有効になります。

暗号化通信

暗号化通信の使用について設定します。

暗号化通信	
SSL通信	使用しない

[SSL通信]

SSL通信の使用の有無を選択します。

設定は、再起動後に有効になります。

ただし、証明書がインストールされていない場合、SSL通信は使用できません。

メモ

- SSL鍵生成には数分かかる場合があります。
- SSL通信時は、映像配信性能が低下します。
- カメラにインストールされる証明書の種類によっては、Web ブラウザーが証明書を受け入れるかどうかのダイアログを表示することがないため、接続できないことがあります。この場合は、CA局の証明書をWebブラウザに登録してください。

ネットワークポートの認証について設定する [セキュリティ] > [802.1X]

802.1X認証の設定と認証状態の表示、証明書の管理を行います。

802.1X認証

802.1X認証の使用の有無と状態の表示を行います。

802.1X認証	
① 802.1X認証の使用	使用しない ▼
① 認証の状態	停止

[802.1X認証の使用]

802.1X認証の使用の有無を選択します。

[認証の状態]

802.1X認証の状態を表示します。[認証済み]、[未認証]、[停止] の3つの状態があります。

認証方式

802.1X認証で使用する認証方式を設定します。

認証方式	
① 認証方式	EAP-MD5 ▼
① ユーザー名 63文字以内	
① パスワード 1～244文字	*****

[認証方式]

802.1X認証で使用する認証方式を選択します。

[ユーザー名]

認証に使用するユーザー名を入力します。

[パスワード]

認証に必要なパスワードを入力します。

[認証方式] が [EAP-MD5]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

■ 証明書情報

[認証方式] が [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。

証明書情報	
① CA証明書の状態	インストールされていません
① クライアント証明書の状態	インストールされていません
① クライアント秘密鍵の状態	インストールされていません

[CA証明書の状態]

CA証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、CA証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[クライアント証明書の状態]

クライアント証明書がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、クライアント証明書をインストールした場合は、証明書の有効期間が表示されます。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵の状態]

クライアント秘密鍵がインストールされていない場合は、[インストールされていません] と表示され、クライアント秘密鍵をインストールした場合は、[インストールされています] と表示されます。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

■ 証明書の管理

[認証方式] が [EAP-TLS]、[EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合にのみ表示されます。



重 要

- 証明書のインストール時に、すでに CA 証明書、クライアント証明書、またはクライアント秘密鍵が存在する場合は破棄され、新たにインストールされます。
- インストールする証明書または秘密鍵のフォーマットが不正な場合はエラーとなります。
- クライアント証明書とクライアント秘密鍵はインストール時にペアチェックを行い、一致しない場合はエラーとなります。
- 802.1Xで使用する証明書と秘密鍵は、SSL/TLSでの証明書インストール状況に関わらず、別な物としてインストールを行う必要があります。

証明書の管理			
① CA証明書のインストール		参照...	実行
① クライアント証明書のインストール		参照...	実行
① クライアント秘密鍵のインストール		参照...	実行
① クライアント秘密鍵のパスワード 1~234文字	*****		
① 証明書の削除	実行		

[CA証明書のインストール]

CA証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

[クライアント証明書のインストール]

クライアント証明書をインストールします。

[参照] でインストールする証明書ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵のインストール]

クライアント秘密鍵をインストールします。

[参照] でインストールする秘密鍵ファイルを指定し、[実行] をクリックします。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[クライアント秘密鍵のパスワード]

クライアント秘密鍵のパスワードを入力します。

クライアント秘密鍵にパスワードが設定されている場合にのみ必要です。

[認証方式] が [EAP-TLS] の場合にのみ表示されます。

[証明書の削除]

インストールされているCA証明書、クライアント証明書、クライアント秘密鍵をすべて削除します。

[認証方式] が [EAP-TTLS]、[EAP-PEAP] の場合、「CA証明書」しか表示されませんが、クライアント証明書およびクライアント秘密鍵がインストールされていれば、それらも削除されます。

IPsecを設定する

[セキュリティ] > [IPsec]

IPsecを使用する場合の設定を行います。

重要

- カメラをIPsecで運用するためには、あらかじめ通信相手やネットワークの設定が必要です。これらの設定についてはシステム管理者にお問い合わせください。
- IPsecで接続するには、カメラのIPアドレスをマニュアル設定してください。
接続元IPv4アドレスでは、[基本設定] > [ネットワーク] > [IPv4] の [IPv4アドレス設定方式] を [マニュアル設定] にして設定したIPv4アドレスを使用してください。
接続元IPv6アドレスでは、[基本設定] > [ネットワーク] > [IPv6] の [IPv6アドレス (手動設定)] で設定したIPv6アドレスを使用してください。
- IPsecの設定を変更した場合、起動中のWebブラウザからカメラに接続できなくなる可能性がある場合は、確認のダイアログが表示されます。変更結果を適用する場合は、[OK] をクリックしてください。
カメラの再起動後、Webブラウザからカメラに再接続できない場合、メッセージとともに、カメラに再接続するためのURIの候補があれば表示されます。
表示されたURIでカメラに接続できない場合は、システム管理者にお問い合わせください。

メモ

IPsec使用時は、映像配信性能が低下します。

IPsec設定方法

IPsec設定方法	
 IPsec設定方法	自動鍵交換  

[IPsec設定方法]

IPsecを使用する場合の鍵設定を選択します。

自動鍵交換の設定

自動鍵交換の設定		
 IPsec SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES	
 IPsec SA 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96	
 IPsec SA 有効期間 (分) 10~1440	480	
 ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム	AES->3DES	
 ISAKMP SA 認証アルゴリズム	SHA1	
 DHグループ	グループ2	
 ISAKMP SA 有効期間 (分) 10~1440	480	

[IPsecSA暗号化アルゴリズム]

IPsecSAの暗号化アルゴリズムを選択します。

設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な暗号化アルゴリズムが選択されます。

[IPsecSA認証アルゴリズム]

IPsecSAの認証アルゴリズムを選択します。

設定したアルゴリズムは、左側から順に確認され、使用可能な認証アルゴリズムが選択されます。

[IPsecSA有効期間(分)]

IPsecSAの有効時間を入力します。

[ISAKMPSA暗号化アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA暗号化アルゴリズムを選択します。

[ISAKMPSA認証アルゴリズム]

自動鍵交換プロトコルIKEで使用するSA認証アルゴリズムを選択します。

[DHグループ]

自動鍵交換プロトコルIKEによる鍵交換で使用するDHアルゴリズムで使用する鍵生成情報を選択します。

[ISAKMPSA有効期間(分)]

ISAKMPSAの有効時間を入力します。

IPsecセット1～5

自動鍵交換または手動設定で、最大5つの通信相手のIPsecを設定できます。

■ 自動鍵交換



重 要

自動鍵交換を使用した通信中にカメラの再起動を行うと、再起動後、接続エラーが発生する場合があります。その場合は、再度接続を行ってください。



メ モ

自動鍵交換を使用すると、カメラとの通信が開始するまでに、5～10秒程度かかります。

IPsec セット 1	
① IPsecセットの使用	IPv4で使用する
① IPsec動作モード	トンネルモード
② 接続先IPv4アドレス	
② 送信元IPv4アドレス	
① IPsecプロトコル	ESP
② セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
② 接続先のサブネットマスク長 1～32	16
① IKE事前共有鍵 127文字以内	pre-shared-key

[IPsecセットの使用]

IPsec設定セットをIPv4とIPv6のどちらで使用するか、または使用しないかを選択します。

[IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを選択します。

[接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを選択します。

[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。

[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。

[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

[セキュリティゲートウェイのIPアドレス (IPv4/IPv6)]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを入力します。

[接続先のサブネットマスク長 (IPv4)]、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合に、サブネットマスク長 (IPv4) またはプレフィックス長 (IPv6) を入力します。

[IKE事前共有鍵]

IKE (自動鍵交換) で使用する事前共有鍵を入力します。

手動設定

IPsec セット 1	
① IPsecセットの使用	IPv4で使用する
① IPsec動作モード	トンネルモード
① 接続先IPv4アドレス	
① 送信元IPv4アドレス	
① IPsecプロトコル	ESPとAH
① セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
① 接続先のサブネットマスク長 1~32	16
① SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
① SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
① SA ESP 暗号鍵 (送信)	0445981962E9AC79385E037C35FC3
① SA ESP 認証鍵 (送信)	BB64787768DF8DE7EB4D84EC81B453168F3B32F
① SA ESP SPI (送信) 256以上	1000
① SA ESP 暗号鍵 (受信)	6F822A3737BF55EB581A53770C57
① SA ESP 認証鍵 (受信)	81E4DC85387FB09192B26CA1A2FBD97202159B96
① SA ESP SPI (受信) 256以上	2000
① SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
① SA AH 認証鍵 (送信)	6F92282D51B290EA4B51D883A4EFF295A6E5F40
① SA AH SPI (送信) 256以上	3000
① SA AH 認証鍵 (受信)	7E0E6F639A0A81A83B6C5642EFE859881B2883AE
① SA AH SPI (受信) 256以上	4000

[IPsecセットの使用]

IPsec設定セットをIPv4とIPv6のどちらで使用するか、または使用しないかを選択します。

[IPsec動作モード]

IPsecの動作モードを選択します。

[接続先IPv4アドレス]、[接続先IPv6アドレス]

接続先のIPアドレスを入力します。

[送信元IPv4アドレス]、[送信元IPv6アドレス]

送信元のIPアドレスを入力します。

[IPsecプロトコル]

使用するIPsecプロトコルを選択します。

[ESP] を選択した場合は、ESPに関連する設定項目のみ入力します。

[AH] を選択した場合は、AHに関連する設定項目のみ入力します。

[ESPとAH] を選択した場合は、すべての設定項目を入力します。

[セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス]、[セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス]

[IPsec動作モード] が [トンネルモード] の場合、セキュリティゲートウェイのIPアドレスを入力します。

[接続先のサブネットマスク長 (IPv4)]、[接続先のプレフィックス長 (IPv6)]

[IPsec動作モード] を [トンネルモード] に設定した場合に、サブネットマスク長 (IPv4) またはプレフィックス長 (IPv6) を入力します。

[IPsecプロトコル] を [ESP] または [ESPとAH] に設定した場合

[SA ESP暗号化アルゴリズム]～[SA ESPSPI(受信)] の設定が必要になります。

[SAESP暗号化アルゴリズム]

ESPの暗号化アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている暗号化アルゴリズムに合わせて選択します。
通常は [AES] または [3DES] での運用をお勧めします。

[SAESP認証アルゴリズム]

ESPの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムに合わせて選択します。
[ESP] のみを使用する場合、[認証なし] は選択できません。

[SAESP暗号鍵(送信)]

送信用SAの暗号鍵を入力します。

[SA ESP暗号化アルゴリズム] が [AES] の場合は128bit、[3DES] の場合は192bit、[DES] の場合は64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

[SA ESP認証鍵(送信)]

送信用SAの認証鍵を入力します。

[SA ESP認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

[SAESPSPi(送信)]

送信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

[SA ESP暗号鍵(受信)]

受信用SAの暗号鍵を入力します。

[SA ESP暗号化アルゴリズム] が [AES] の場合は128bit、[3DES] の場合は192bit、[DES] の場合は64bitに相当する16進数で設定してください。[NULL] の場合は設定不要です。

[SA ESP認証鍵(受信)]

受信用SAの認証鍵を入力します。

[SA ESP認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。[認証なし] の場合は設定不要です。

[SA ESPSPi(受信)]

受信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のESPのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

[IPsecプロトコル] を [AH] または [ESPとAH] に設定した場合

[SA AH認証アルゴリズム]～[SA AHSPI(受信)] の設定が必要になります。

[SA AH認証アルゴリズム]

AHの認証アルゴリズムを、接続先の機器がサポートしている認証アルゴリズムに合わせて選択します。

[SA AH認証鍵(送信)]

送信用SAの認証鍵を入力します。

[SA AH認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。

[SA AHSPI(送信)]

送信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

[SA AH認証鍵(受信)]

受信用SAの認証鍵を入力します。

[SA AH認証アルゴリズム] が [HMAC_SHA1_96] の場合は160bit、[HMAC_MD5_96] の場合は128bitに相当する16進数で設定してください。

[SA AHSPI(受信)]

受信用SAのSPIの値を入力します。

256～4294967295の間で設定してください。

設定値はSAを識別するためのID番号として使用されるので、受信用のSPIとして、他のAHのSPIと同じ値を指定しないようにご注意ください。

メモリーカードの操作と情報の表示を行う [メモリーカード]

カメラにセットしたメモリーカードに、映像を記録するための設定を行います。また、メモリーカードの状態を見ることもできます。

なお、このページの内容は、[映像記録] > [メモリーカード] (P. 101) と共通です。いずれかのページで設定すると、両方のページに反映されます。

重要

メモリーカードに記録された情報内容は、「個人情報」に該当する場合があります。カメラが廃棄、譲渡、修理などで第三者に渡る場合には、その取り扱いに十分にご注意ください。

メモ

- 使用できるメモリーカードは、次のとおりです。
 - SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカード **R11** **R10** **M741** **M740**
 - microSDメモリーカード、microSDHCメモリーカード、microSDXCメモリーカード **M641** **M640**
- メモリーカードの出し入れの操作は、『設置ガイド』の「メモリーカードご利用の場合」を参照してください。
- メモリーカードに記録可能なH.264映像は、H.264(1)のみです。H.264(2)は記録できません。
- メモリーカードに大量の映像ファイルを記録すると、録画映像ユーティリティ (P. 244) で映像一覧を表示する際に、ファイル数に比例して時間がかかるようになります。[映像の自動削除]で保存期間を短く設定したり、録画映像ユーティリティで定期的に手動で削除するなど、不要な映像ファイルはできる限り削除するようにしてください。
また、メモリーカードに記録する映像フォーマットにH.264を指定すると、JPEGで記録するときよりも映像ファイル数を抑えることができます。

映像記録設定

カメラからの映像を、メモリーカードに記録するか、HTTPまたはFTPでアップロードするかを設定します。
この項目は、[映像記録] > [アップロード] (P. 96) でも設定でき、こちらの [映像記録設定] にもその設定が反映されます。

映像記録設定	
映像記録動作	メモリーカードに記録

[映像記録動作]

メモリーカードに記録する場合、[メモリーカードに記録] を選択します。

メモリーカードの操作

メモリーカードの状態 (アンマウント/マウント) によって、設定項目が変わります。

重要

カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウント処理を行ってください。アンマウントしていない場合、管理ファイル異常となることや、メモリーカードへのアクセスができなくなることがあります。
カメラマネジメントツール (P. 34) を使用すると、複数カメラのメモリーカードに一括してマウント/アンマウントの処理が行えます。

■ マウント状態

メモリーカードをカードスロットにセットすると、自動的にマウントされます。また、起動時にカメラにメモリーカードがセットされている場合も、自動的にマウントされます。

メモリーカードの操作	
① マウント / アンマウント	アンマウント実行
① 動作設定	ログと映像を保存する ▼
① 映像フォーマット	JPEG ▼
① イベント前バッファ (枚数) 0~100	0
① イベント後バッファ (枚数) 0~100	0
① 映像の上書き	無効 ▼
① 映像の自動削除	有効 ▼
① 保存日数 1~90	30
① 削除時刻 hh:mm	00:00
① 映像管理情報の再作成	実行
① フォーマット	実行

[マウント/アンマウント]

[アンマウント実行] をクリックすると、メモリーカードがアンマウント状態になります。
カメラの電源を切る場合や、メモリーカードを取り出す場合は、必ずアンマウントしてください。

[動作設定]

メモリーカードに保存するデータを選択します。

[ログと映像を保存する] に設定した場合に保存される映像については、「メモリーカードの保存データとデータ整理」(P. 254) を参照してください。

メモ

メモリーカードの空き領域がなくなった場合、新しいファイルは保存されません。

[映像フォーマット]

メモリーカードに記録する映像フォーマット選択します。

[映像記録動作] を、[メモリーカードに記録] に設定した場合、ここで設定されたフォーマットで映像が記録されます。
記録される映像のサイズと映像品質は、[映像設定] (P. 71) の設定に従います。

重要

[H.264(1)]に設定するには、[映像設定] > [H.264(1)] (P. 72) で次のように設定する必要があります。

- [ビットレート制御]: [ビットレート制御する]
- [目標ビットレート(kbps)]: [3072]以下
- [Iフレーム間隔(秒)]: [0.5]、[1]、[1.5] のいずれか

メモ

- [JPEG] に設定した場合、アップロードエラー発生時にJPEGで記録される映像のフレームレートは常に 1 fps となります。
- ネットワークに異常が発生したために配信できなかった録画ストリームの映像は、[映像フォーマット] の設定にかかわらずJPEGで保存されます (フレームレートは1fps固定です)。

[イベント前バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント前バッファ (秒)] (H.264(1)の場合)

イベント発生前に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] の場合は秒数の最大値を入力します。

ただし、状況によっては、設定した枚数または秒数で保存できない場合があります。

[イベント後バッファ (枚数)] (JPEGの場合) / [イベント後バッファ (秒)] (H.264(1)の場合)

イベント発生後に、バッファに保存される映像の枚数または秒数を入力します。

[映像フォーマット] が [JPEG] の場合は枚数の最大値、[H.264(1)] の場合は秒数の最大値を入力します。

ただし、状況によっては、設定した枚数または秒数で保存できない場合があります。

[映像の上書き]

イベント発生時にメモリーカードに映像を記録する際、メモリーカードの空き容量がなくなった場合に、映像の上書き保存を許可するかを選択します。

[有効] を選択すると、イベント、タイマー、ONVIFによる記録映像は古いファイルから上書きされます。

[映像の自動削除]

保存日数を過ぎた映像を、自動的にメモリーカードから削除するか選択します。

[有効] に設定した場合、[保存日数] と [削除時刻] を設定します。

[保存日数]

映像をメモリーカードに保存する日数を入力します。

[削除時刻]

保存日数を過ぎた映像を削除する時刻を入力します。

[映像管理情報の再作成]

[実行] をクリックすると、メモリーカード内に作成されている記録映像の管理ファイルを再作成します。

再作成中は、メモリーカードにアクセスできません。また、映像配信やアップロードなどの処理は、再作成中に実行しないことをお勧めします。

なお、映像管理情報の再作成は、該当するファイル数が多いほど時間がかかるため、場合によって数時間かかることがあります。

[フォーマット]

[実行] をクリックすると、メモリーカードをフォーマットします。

フォーマットすると、メモリーカード内のすべてのファイルとディレクトリが削除されます。

■ アンマウント状態

メモリーカードがカメラにセットされていない場合や、[メモリーカードの操作] で [アンマウント実行] をクリックした場合、アンマウント状態になります。

メモリーカードの操作	
① マウント / アンマウント	マウント実行
① 動作設定	ログと映像を保存する ▼
① 映像フォーマット	JPEG ▼
① イベント前バッファ (枚数) 0~100	0
① イベント後バッファ (枚数) 0~100	0
① 映像の上書き	無効 ▼
① 映像の自動削除	無効 ▼
① フォーマット	実行

[マウント/アンマウント]

メモリーカードをセットした状態で [マウント実行] をクリックすると、メモリーカードがマウント状態になります。

[動作設定]、[映像フォーマット]、[イベント前バッファ]、[イベント後バッファ]、[映像の上書き]、[映像の自動削除]、[保存日数]、[削除時刻]、[フォーマット] については、「マウント状態」(P. 132) を参照してください。

メモリーカードの情報

カメラにセットされているメモリーカードの現在の状態や、容量に関する情報が表示されます。

メモリーカードの情報	
① メモリーカードの認識	マウントされています
① メモリーカードの操作状態	操作可能
① 映像管理情報の状態	正常
① 映像保存	保存可
① メモリーカード容量	991616KB (968.3MB)
① 使用容量	12384KB (12.0MB)

[メモリーカードの認識]

現在のメモリーカードの状態が表示されます。

[メモリーカードの操作状態]

メモリーカードの操作の状態を表示します。

[操作可能]：各種操作が可能な状態。

[映像管理情報を再作成中]：映像管理情報の再作成が行われています。他の操作はできません。

[映像削除中]：映像を削除しています。他の操作はできません。

[映像管理情報の状態]

映像管理情報の状態を表示します。

[正常]：映像管理情報は正常です。

[映像管理情報の再作成が必要]：記録映像の管理ファイルが壊れているか、保存されている映像と管理ファイルとの整合性がとれない状態です。

[映像管理情報の再作成] の [実行] をクリックして、管理ファイルを再作成する必要があります。

[映像管理情報の再作成] を実行しても復旧しない場合は、[フォーマット] (P. 133) が必要です。

[映像保存]

メモリーカードへの映像の保存が可能かを表示します。

[保存不可] の場合は、次の理由が考えられます。

- メモリーカードがマウントされていない
- 映像管理ファイルが壊れている
- 書き込み禁止状態になっている
- [映像の上書き] が [無効] になっていて、メモリーカードの保存容量がいっぱいである

[メモリーカード容量]

メモリーカードの容量が表示されます。

[使用容量]

メモリーカードの使用容量が表示されます。

メモ

メモリーカードに保存されたデータについての詳細は「メモリーカードのデータについて」(P. 254) を参照してください。

カメラの機器情報の表示やメンテナンスを行う [メンテナンス]

ファームウェアバージョンなどのカメラ情報の確認や、カメラのシステムのメンテナンスを行えます。

機器情報

接続しているカメラの各情報が表示されます。

機器情報	
機種名	VB-R11
ファームウェアバージョン	Ver. ■■■■
シリアル番号	■■■■■■■■■■
ビルド番号	■■■■■■■■
MACアドレス	■■■■■■■■■■■■■■■■

表示と実行

カメラのログや設定の表示、初期化、設定値のバックアップ/リストアを行います。

注意	
	[初期設定に戻す]、[設定値のバックアップ]、[設定値のリストア]の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。

表示と実行	
① ログを見る	表示
① 現在の設定を見る	表示
① ライセンスを見る	表示
① 再起動	実行 ■
① 初期設定に戻す	実行 ■
① 設定値のバックアップ	実行
① 設定値のリストア	実行 ■
① 駆動系リフレッシュ	実行

[ログを見る]

カメラの動作および各種ビューワーなどとの接続の履歴を表示します。

[現在の設定を見る]

設定ページの現在の各設定を一覧表示します。

[ライセンスを見る]

第三者ソフトウェアのライセンス情報を一覧表示します。

[再起動]

カメラを再起動します。

[初期設定に戻す]

再起動後、次の設定項目を除くすべてのユーザー設定値を破棄し、工場出荷設定に戻します。

- 基本設定の管理者パスワード、LAN、IPv4、IPv6
- 日付と時刻

- セキュリティのホストアクセス制限
- SSL / TLS
- 802.1X

メモ

- [初期設定に戻す] の[実行] をクリックする前に、現在の各設定値を控えておくことをお勧めします。
- リセットスイッチを使用して工場出荷設定に戻すことができますが、カメラの日付と時刻を除くすべての設定が工場出荷設定に戻りますのでご注意ください(P. 274)。

[設定値のバックアップ]

日付と時刻以外のすべての設定値を、メモリーカードにバックアップします。

IPアドレス、SSLおよび802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてバックアップします。

[設定値のリストア]

日付と時刻以外のすべての設定値を、[設定値のバックアップ] で作成したメモリーカードのバックアップファイルからリストアします。

IPアドレス、SSLおよび802.1Xで使用する証明書、秘密鍵ファイルも含めてリストアします。

リストア後、カメラは再起動します。



重要

別のカメラのバックアップファイルからリストアした場合、ネットワーク上でアドレスが衝突するなどの問題が発生する可能性がありますのでご注意ください。

[駆動系リフレッシュ] R11 R10

カメラ内部の接続部分をクリーニングします。

[実行] をクリックすると、左右に2周ずつパン動作を行い、完了すると実行前のカメラアングルに戻ります。

パン動作と連動して映像や音声に問題が生じるときに使用すると、有効な場合があります。



メモ

駆動系リフレッシュの動作中は、次のユーザーの接続は切断されます。

- 管理者以外のユーザー
- RTPで接続していないユーザー

5章



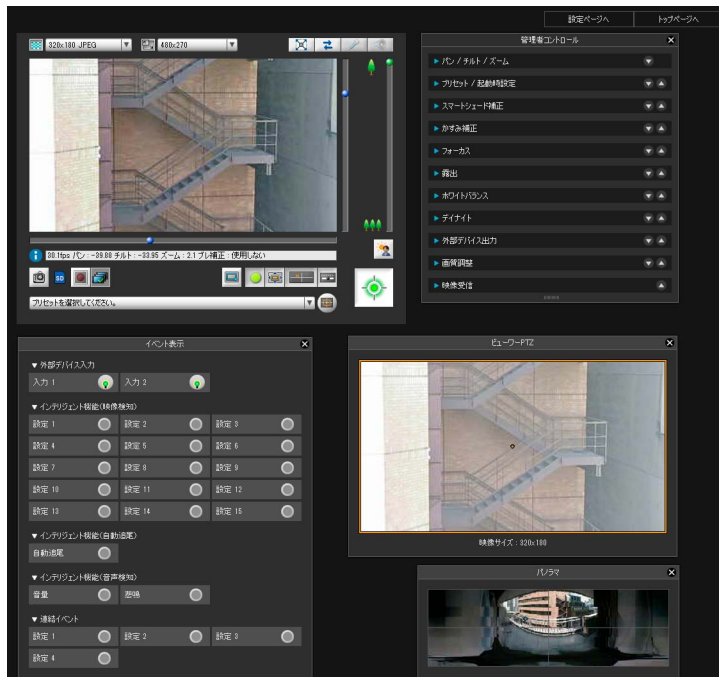
管理者ビューワー /NBビューワー

Webブラウザを使用してカメラに搭載されているビューワーにアクセスすることで、ライブ映像の視聴の操作や、その表示設定ができます。

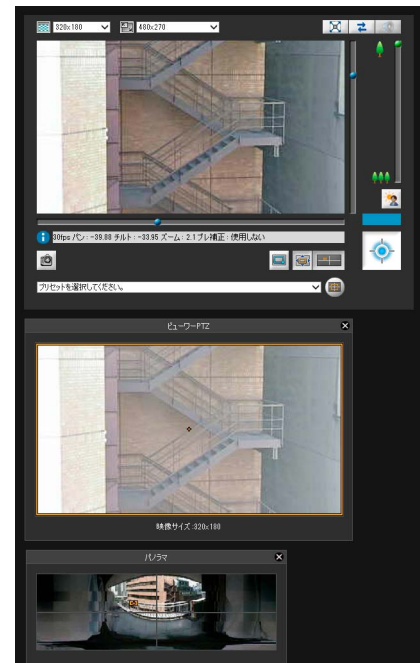
管理者ビューワーとVBビューワー

カメラに搭載されているビューワーには、管理者ビューワー、VBビューワーの2種類のビューワーがあります。

管理者ビューワー



VBビューワー



この画面例は、すべてのパネルを開いた状態のものです。

管理者ビューワーとVBビューワーの主な違い

管理者ビューワーとVBビューワーは、それぞれ操作できる範囲が異なります

管理者ビューワー：

映像操作に加え、撮影条件やイベント検知表示など、管理者コントロールの機能が使用できます。

VBビューワー：

カメラ映像表示を中心とした、基本的な映像操作に限られます。

ビューワーのアクセス制限

管理者以外でビューワーにアクセスできるユーザーには、登録ユーザーと一般ユーザーがあります。

各ユーザーがアクセスできるビューワーは、付与される権限によって決まります(P. 118)。

管理者：

すべての権限が与えられたユーザーで、管理者ビューワーとVBビューワーを起動できます。ユーザー名は"root"に固定されています。

管理者は、登録ユーザーおよび一般ユーザーのすべての権限を無効にすることで、一般ユーザーのカメラへのアクセスを完全に禁止できます。

登録ユーザー：

特権カメラ制御権限が与えられている場合、管理者ビューワーとVBビューワーを起動できます。

ユーザー名とパスワードを登録する必要があります(P. 118)。

一般ユーザー：

使用できる機能が限定されたユーザーです。VBビューワーを起動できます。

ビューワーを操作するための権限には、特権カメラ制御、一般カメラ制御、映像配信、音声配信の4つがあります。各権限の内容と、ユーザーへの付与の可否は、次のとおりです。

権限	特権カメラ制御	一般カメラ制御	映像配信	音声配信
権限の内容	管理者ビューワーを操作できる	VBビューワーを操作できる	VBビューワーで映像を表示できる	管理者ビューワー / VBビューワーで音声を受信できる
登録ユーザーへの付与	可	可	可	可
一般ユーザーへの付与	不可	可	可	可



重要

管理者が起動した管理者ビューワーは同時に1つしかカメラに接続できません。あるPCから管理者権限で接続している場合、他のPCからは管理者権限で接続できなくなります。

これに対し、[登録ユーザー]が起動した管理者ビューワーは同時に複数のPCからカメラに接続できます。ただし、カメラを制御する場合、制御権は後優先になります。



メモ

- 工場出荷設定では、[登録ユーザー]に特権カメラ制御権が与えられています。
- 一般ユーザーのすべての権限を無効にした場合、VBビューワーの起動時にユーザー認証ダイアログが表示されます。ここで登録ユーザーか管理者のユーザー名とパスワードを入力することで、登録ユーザーあるいは管理者の権限でVBビューワーを使用できます。

管理者ビューワーでカメラの映像を見る

管理者ビューワーを起動して、カメラの状態や映像の表示を確認・設定します。

管理者ビューワーを起動する

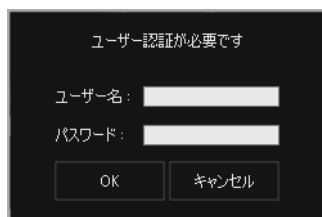
重要

管理者ビューワーを使用するには、管理ツール証明書をPCにインストールする必要があります (P. 26)。

1 カメラのトップページを起動し、[管理者ビューワー] をクリックする (P. 39)

ユーザー認証のための画面が表示されます。

2 ユーザー名とパスワード (P. 40) を入力し、[OK] をクリックする



A dark-themed dialog box titled "ユーザー認証が必要です" (User authentication is required). It contains two input fields: "ユーザー名:" (Username) and "パスワード:" (Password). Below the fields are two buttons: "OK" and "キャンセル" (Cancel).

管理者ビューワーが起動します。

メモ

- 管理者ビューワーは、カメラマネジメントツールから起動することもできます。詳細は、「カメラマネジメントツール 使用説明書」を参照してください。
- [管理ツール] ページ右上の [管理者ビューワーへ] をクリックしても、起動できます (P. 195)。
- プロキシサーバーのない環境では、Internet Explorerの [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] で、[設定を自動的に検出する] のチェックを外してください。

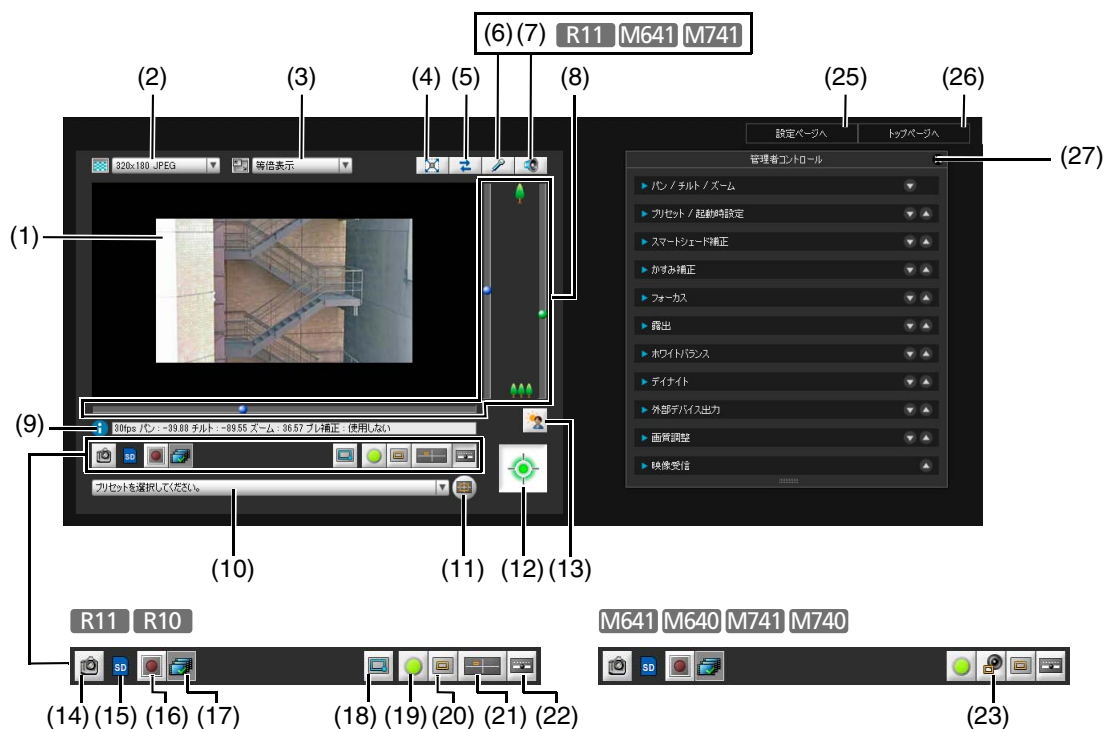
■ ビューワーを終了するには

Webブラウザを閉じて終了します。

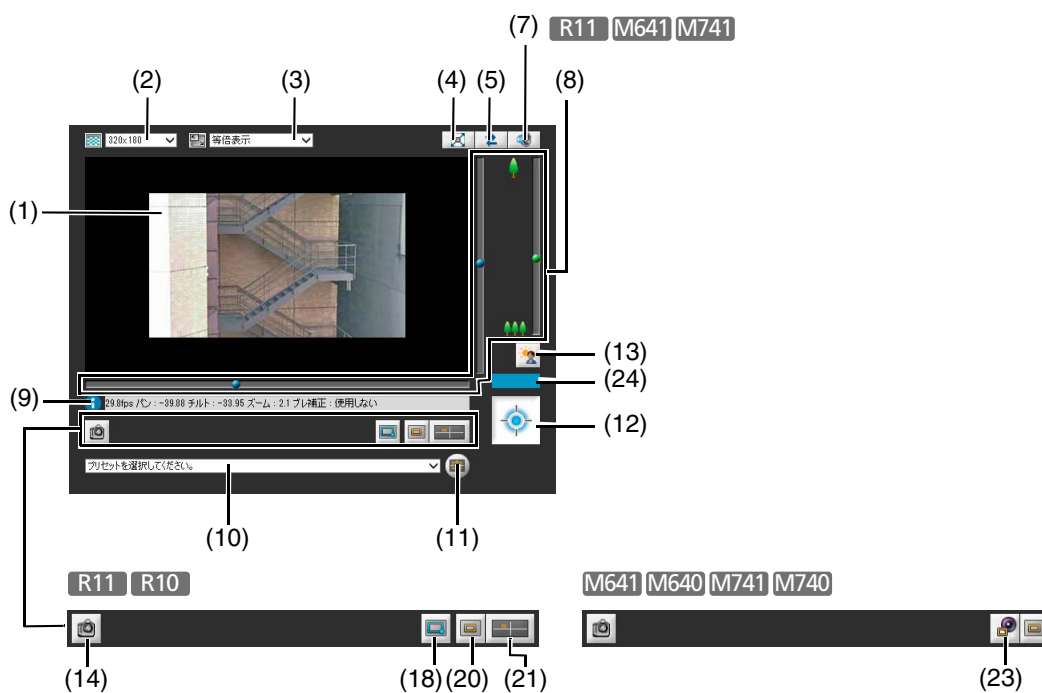
管理者ビューワー / VBビューワーの画面構成

管理者権限を必要としない基本的な操作は、どちらのビューワーも共通です。

管理者ビューワー



VBビューワー



(1) 映像表示部

カメラから受信した映像を表示します。

(2) 映像サイズ設定

カメラからの映像受信サイズと映像フォーマット (管理者ビューワーのみ) を設定します (P. 144)。

- (3) **表示サイズ設定**
画面上の映像表示サイズを設定します (P. 144)。
- (4) **[全画面表示] ボタン**
映像表示部を全画面で表示します (P. 145)。
- (5) **[再接続] ボタン**
カメラに接続し直します。
- (6) **[音声送信] ボタン** **R11** **M641** **M741**
音声送信パネルを表示します (P. 156)。
- (7) **[音声受信] ボタン** **R11** **M641** **M741**
音声受信パネルを表示します (P. 156)。
- (8) **パン・チルト・ズームスライダー**
つまみを動かして、カメラのパン (左右)、チルト (上下)、ズームイン (望遠) /ズームアウト (広角) を操作します (P. 148)。
- (9) **インフォメーション表示**
情報メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージが表示されます (P. 143)。
- (10) **プリセット選択ボックス**
カメラにあらかじめ登録したプリセットを選択できます (P. 155)。
- (11) **[ホームポジション] ボタン**
カメラのアングルをホームポジションに移動します (P. 155)。
- (12) **[カメラ制御権取得/解放] ボタン**
カメラ制御権を取得または解放します (P. 147)。
- (13) **[逆光補正] ボタン**
逆光補正の入/切を選択します。映像が逆光で暗い場合に使用すると効果があります (P. 155)。
- (14) **[スナップショット] ボタン**
クリックした瞬間の静止画を、スナップショットパネルを開いて表示します (P. 188)。
- (15) **メモリーカードマウント状態アイコン**
カメラにセットされているメモリーカードのマウント状態を表します。
 : マウントされています。
 : マウントされていません。
- (16) **[メモリーカード録画] ボタン**
メモリーカードへの録画を開始または停止します (P. 188)。メモリーカードがマウントされ、制御権を取得している場合に操作できます。
- (17) **[録画映像ユーティリティ] ボタン**
録画映像ユーティリティ (P. 244) を起動します。
- (18) **[エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタン** **R11** **R10**
映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます (P. 149)。
- (19) **[イベント表示] ボタン**
イベント表示パネル (P. 186) を表示します。
- (20) **[ビューワー PTZ] ボタン**
ビューワー PTZパネルを表示します (P. 151)。
- (21) **[パノラマ表示] ボタン** **R11** **R10**
パノラマ表示パネルを表示します (P. 151)。
- (22) **[管理者コントロール] ボタン**
管理者コントロールパネルを表示します (P. 158)。

(23) [デジタルPTZ] ボタン M641 M640 M741 M740

デジタルPTZパネルを表示します (P. 153)。

(24) 制御権表示部

制御権の保持状態が表示されます (P. 190)。

(25) [設定ページへ]

設定ページに移動します。

(26) [トップページへ]

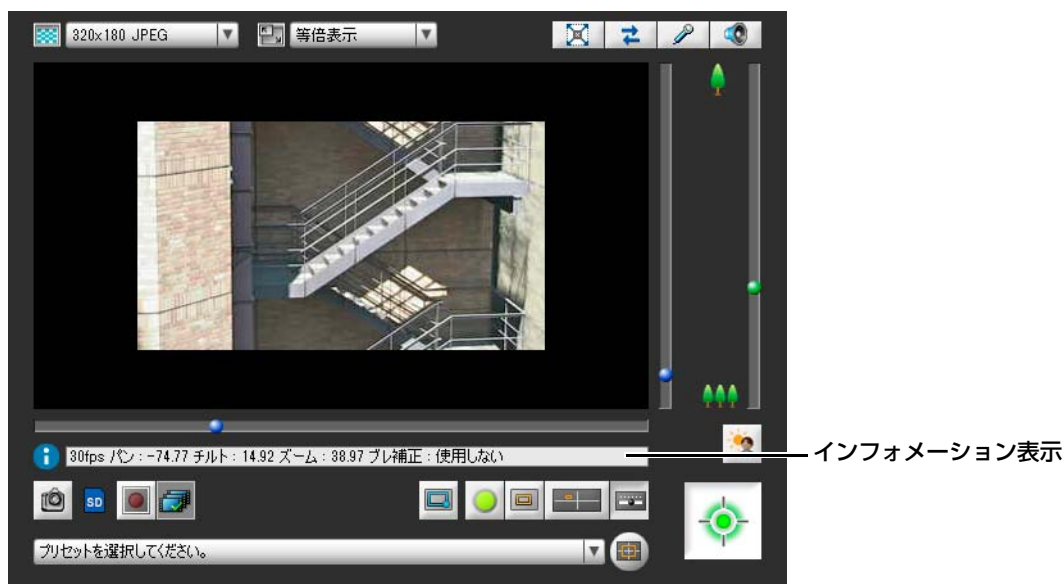
トップページに移動します。

(27) 管理者コントロールパネル

管理者権限でカメラの各種操作ができます (P. 158)。

インフォメーションを確認する

インフォメーション表示には、フレームレートや、カメラのパン・チルト・ズーム値、各部の説明などが表示されます。また、カメラの動作やシステムに問題が発生した場合は、警告またはエラーメッセージが表示されます。



表示されるインフォメーションの内容については、「ビューワーメッセージ一覧」(P. 272) を参照してください。

重要

- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [カメラ制御] > [プレ補正] を On にした場合 (P. 74)、実際の映像表示画角はインフォメーション表示のパン・チルト・ズーム値より小さくなります。

R11 R10

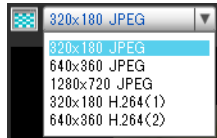
- パノラマ表示パネルに表示される画角 (枠線) (P. 151) よりも実際の映像表示画角は小さくなります。

映像サイズや表示画面サイズを変更する

カメラから受信する映像サイズや、PC上の表示画面サイズを設定できます。

■ 映像サイズを変更する

ビューワー左上の映像サイズ設定で、カメラからの受信映像サイズを選択します。



選択できるサイズは、設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定によって変わります (P. 71)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる映像サイズ	
	JPEG	H.264 *
1280x720/640x360/320x180	320x180 640x360 1280x720	• 設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [H.264(1)] および [H.264(2)] (P. 72) の [映像サイズ] で設定しているサイズがメニューに表示されます。 • 設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [H.264(2)](P. 73) で [H.264(2)の使用] を [使用する] にしている場合に、[H.264(1)] と [H.264(2)] 両方の映像サイズがメニューに表示されます。
1280x960/640x480/320x240	320x240 640x480 1280x960	

* 管理者コントロールの [映像受信] (P. 168) で [H.264の受信を有効にする] をチェックすると、H.264の映像サイズがメニューに追加表示されます。

■ 表示画面サイズを変更する

ビューワー左上の表示サイズ設定で、映像表示部の画面サイズを変更できます。

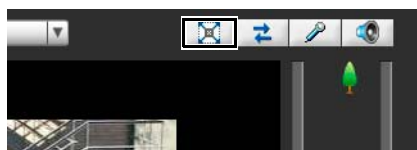


設定できるサイズは、設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定によって変わります (P. 71)。

[映像サイズセット] の設定	選択できる表示サイズ	備考
1280x720/640x360/320x180	等倍表示 480x270 640x360 1280x720 自動調整	[等倍表示] は、映像サイズの大きさのままで表示します。 [自動調整] は、Webブラウザのウィンドウサイズに合わせて、最大のサイズで表示します。
1280x960/640x480/320x240	等倍表示 480x360 640x480 1280x960 自動調整	

■ 全画面表示にする

ビューワー右上の [全画面表示] ボタンをクリックすると、映像表示部がディスプレイ全体に表示されます。



全画面表示を終了するには

次の方法で、通常表示に戻します。

- 全画面の右下に表示される をクリックする
- 画面上でマウスを右クリックし、表示されたメニューの [全画面表示を終了] をクリックする

右クリックメニューについて

全画面表示中にマウスを右クリックすると、カメラの制御に必要なメニューパネルが表示されます。

R11 R10	M641 M640 M741 M740
カメラ制御権を取得	カメラ制御権を取得
プリセット ▶	プリセット
ホームポジション	ホームポジション
パノラマ	ビューワーPTZを開始
ビューワーPTZを開始	デジタルPTZを開始
コントロール	コントロール
パン / チルトスライダー	パン / チルトスライダー
管理者コントロール	管理者コントロール
ドラッグムーブモード	受信映像サイズ ▶
受信映像サイズ ▶	スナップショット
スナップショット	音声受信
音声受信	音声送信
音声送信	イベント表示
イベント表示	メモリーカード録画を開始
メモリーカード録画を開始	全画面表示を終了
全画面表示を終了	

[カメラ制御権を取得/解放]

カメラ制御権を取得または解放します。

[プリセット]

プリセットを選択します。

[ホームポジション]

カメラのアングルをホームポジションに移動します。

[パノラマ] R11 R10

パノラマ表示パネルを表示します。

[ビューワー PTZを開始/終了]

ビューワー PTZパネルを表示します。

[デジタルPTZを開始/終了] M641 M640 M741 M740

デジタルPTZパネルを表示します。

[コントロール]

ズームスライダー、[逆光補正] ボタン、[カメラ制御権取得/解放] ボタンが配置されたパネルを表示します。

[パン/チルトスライダー]

パンスライダーとチルトスライダーを表示します。

[管理者コントロール]

管理者コントロールパネルを表示します。

[ドラッグムーブモード/エリアズームモード] **R11** **R10**

映像表示部でのドラッグ操作を、エリアズームまたはドラッグムーブに切り換えます。

[受信映像サイズ]

受信映像サイズを切り換えます。

[スナップショット]

スナップショットを取得します。

[音声受信] **R11** **M641** **M741**

音声受信パネルを表示します。

[音声送信] **R11** **M641** **M741**

音声送信パネルを表示します。

[イベント表示]

イベント表示パネルを表示します。

[メモリーカード録画を開始/停止]

メモリーカードへの映像の録画を開始または停止します。

[全画面表示を終了]

全画面表示を終了します。

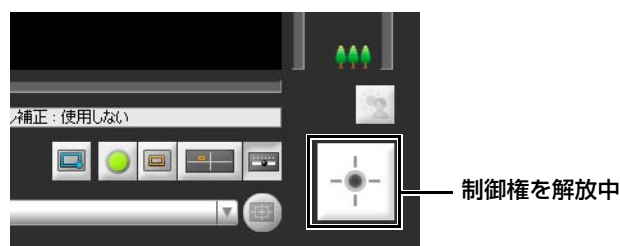
管理者ビューワーでカメラを操作する

管理者ビューワーを操作して、カメラのアングルを設定する方法を説明します。また、カメラに接続している外部デバイスを使用した音声の送受信についても説明します。

カメラ制御権を取得する

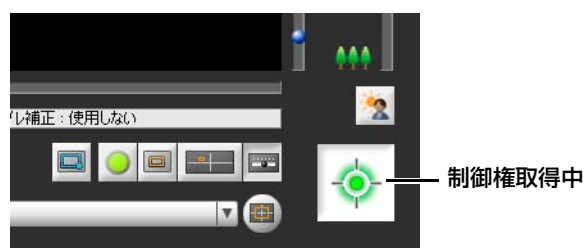
カメラを操作するには、ビューワーで制御権を取得する必要があります。

制御権を取得していない状態で、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックします。



制御権が取得され、ビューワー各部のボタンが使用できるようになります。

制御権の取得中は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンの中心部が黄緑になります。



重要

- 制御権を複数のユーザーで同時に取得することはできません。
- VBビューワーが制御権を取得している状態で、管理者ビューワーが制御権を取得すると、VBビューワーの制御権は解放されます。
- 管理者が起動した管理者ビューワーは [登録ユーザー] が起動した管理者ビューワーから、いつでもカメラ制御権を奪うことができます。そのままカメラ制御権を保持できますが、その間登録ユーザーはカメラ制御権を取得できません。閲覧が終わった後は必ず終了するか、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を解放してください。

パン・チルト・ズームを操作する

R11 R10

カメラのパン・チルト・ズームを操作して、カメラアングルを設定します。

メモ

- パン・チルト・ズームを操作するには、制御権を取得する必要があります。
- クリックやドラッグによるカメラ制御は、厳密な精度で制御されるものではありません。
- 管理者権限で管理者ビューワーを使用すると、可視範囲制限を無視してカメラを操作できます。登録ユーザー権限で管理者ビューワーを使用した場合は、可視範囲制限内のみで操作できます。

■ 映像表示部上のクリック、またはスライダーで操作する

クリックの操作

映像表示部上をクリックすると、クリックしたときのマウスポインターの位置が中心となるように、カメラアングルが移動します。1回のクリックで希望の位置が中心にならない場合は、繰り返し操作してください。

メモ

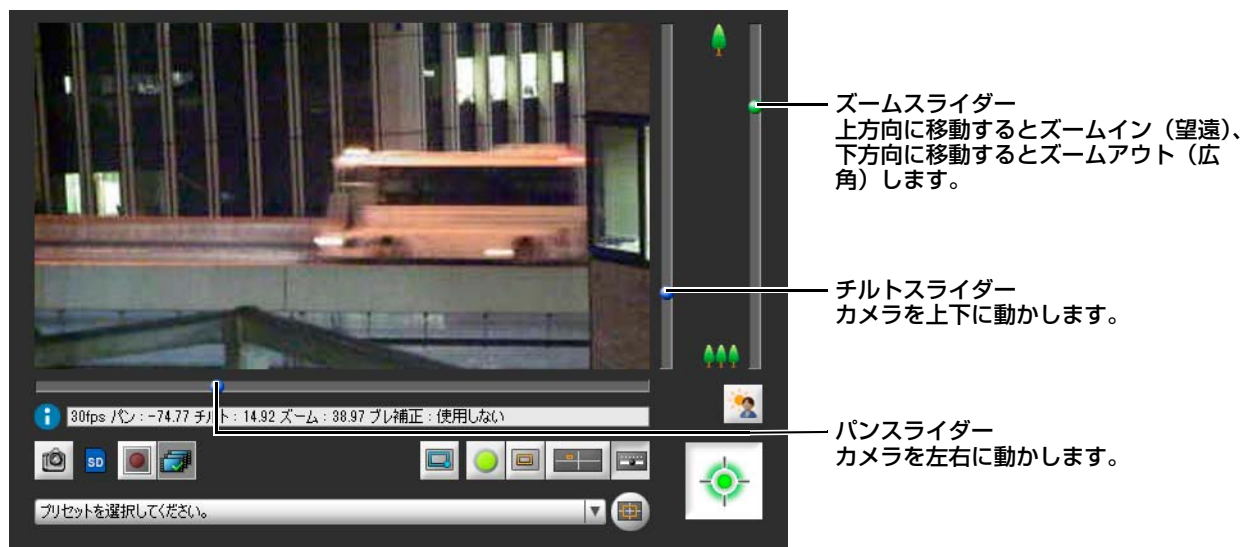
ビューワー PTZ使用中は、映像表示部のクリック操作はできません。

スライダーでの操作

パンスライダーおよびチルトスライダーのつまみをドラッグすると、パン・チルトが移動します。

ズームスライダーのつまみをドラッグすると、ズームが変化します。

スライダーのつまみのない部分をクリックしても、つまみが移動します。

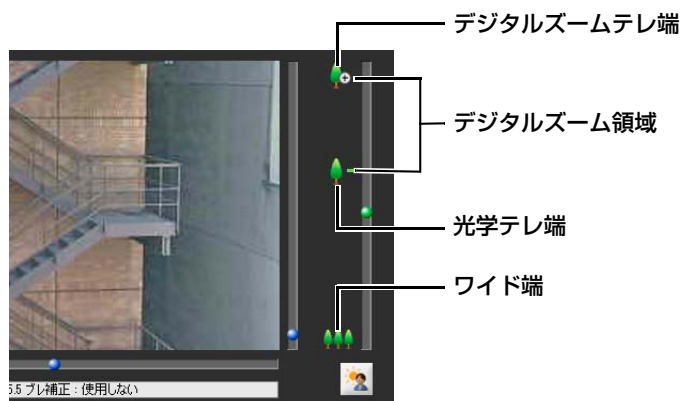


デジタルズーム使用時のスライダー

設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] を [使用する] に設定すると、ズームスライダーにデジタルズーム領域が表示され、デジタルズーム操作が可能となります。

メモ

デジタルズームは、倍率が高くなるに従い画質が低下します。



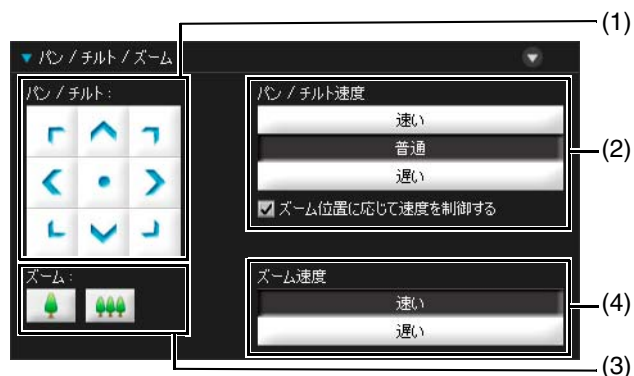
■ 管理者コントロールの [パン/チルト/ズーム] で操作する

管理者コントロールにある [パン/チルト/ズーム] で、カメラのパン・チルト・ズームを操作できます。

1 管理者コントロールを表示する (P. 158)

2 [パン/チルト/ズーム] をクリックする

[パン/チルト/ズーム] コントロールが表示されます。



(1) [パン/チルト]

各矢印の方向にアングルを移動します。押し続けると動作し、放すと停止します。

中心のボタンをクリックすると、カメラはパン0度、チルト45度（正置き時。天吊り時は-45度）を向きます。

(2) [パン/チルト速度]

[パン/チルト] のボタン操作によるパン/チルトの動作速度を選択します。

[ズーム位置に応じて速度を制御する]

チェックすると、ズーム位置がテレ側ではパン/チルト速度が遅く、ワイド側では速くなります。

メモ

設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [カメラ制御] > [パン・チルト速度制御](P. 75)が [一定速度で制御] の場合に選択できます。[パン・チルト速度制御] が [ズーム位置に応じて制御] の場合、[ズーム位置に応じて速度を制御する] がチェックされた状態に固定されます。

(3) [ズーム]

ボタンを押して、ズームインまたはズームアウトします。押し続けると動作し、放すと停止します。

(4) [ズーム速度]

[ズーム] のボタン操作によるズームの動作速度を選択します。

メモ

[パン/チルト速度]、[ズーム速度] の設定を変更しても、スライダーおよびパノラマ上でのパン・チルト・ズーム操作の速度は変更されません。

■ エリアズーム/ドラッグムーブで操作する

映像表示部上のドラッグ操作で、ズームイン/アウトやアングル移動ができます。

メモ

エリアズーム/ドラッグムーブとともに、ビューワー PTZ使用中は操作できません。

エリアズームでのズームイン/アウト

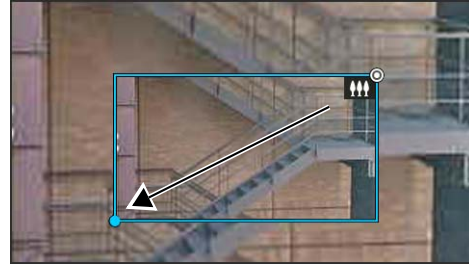
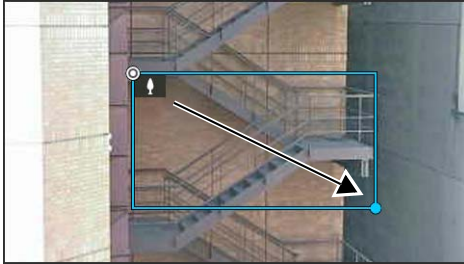
1 [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 にする



2 映像表示部で、ドラッグして矩形を表示する

ズームインの場合は、左から右方向にズームインするエリアを矩形で指定します。

ズームアウトの場合は、右から左方向に映像表示部の中心に表示させたいエリアを矩形で囲みます。



エリアズーム操作中は、矩形内にアイコン (ズームイン: , ズームアウト: ) が表示されます。

矩形表示中にマウスの左ボタンを押したまま右ボタンをクリックすることで、エリアズームを中止できます。

3 マウスボタンを放す

左から右方向の場合、矩形で囲んだ部分が映像表示部全域に表示されます。

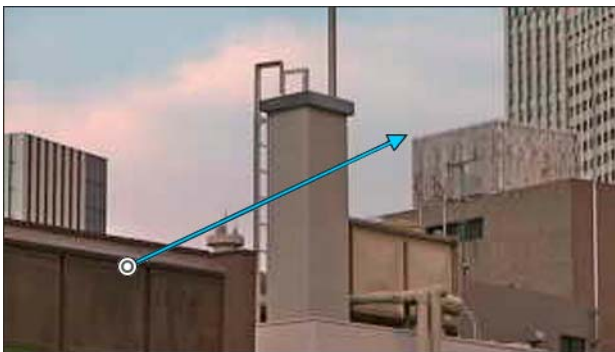
右から左方向の場合、矩形の中心が映像表示部の中心となるようにズームアウトします。

ドラッグムーブでのアングル移動

1 [エリアズーム/ドラッグムーブ切り換え] ボタンをクリックして、 にする



2 映像表示部で、カメラアングルを移動したい方向にドラッグして矢印を表示する



矢印の方向にカメラアングルが移動します。

矢印を長くすると、移動速度が速くなります。矢印の最大長は映像表示部の幅・高さの半分で、移動速度も最大長時に最高になります。

メモ

- オートフリップ(P. 75)の使用時でも矢印方向は変わりません。
- ドラッグムーブ中は、パン・チルトスライダーのつまみは移動しません。

3 マウスボタンを放す

カメラが停止します。

■ パノラマ表示パネルで操作する

パノラマ表示パネルの枠を操作することにより、カメラを操作できます。

パノラマ表示パネルにパノラマ画像を表示するには、パノラマ画像を作成してカメラに保存しておく必要があります(P. 204)。

1 [パノラマ表示] ボタンをクリックする



パノラマ表示パネルが表示されます。

2 パノラマ表示パネル上の枠を操作して、パン・チルト・ズームする

表示される枠は、現在カメラが撮影している範囲を示しています。



ドラッグで移動/ズーム変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、パン・チルトが移動します。

枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しい枠が描けます。その枠内を撮影するようにパン・チルト・ズームが移動します。

枠線をドラッグして枠のサイズを変更すると、枠内が撮影されるようにズーム倍率が変わります。

クリックで移動

枠の外側をクリックすると、クリックした場所が中心となるように枠が移動し、パン・チルトが移動します。

映像の一部を拡大して表示する (ビューワー PTZ)

カメラ位置を固定したまま映像の一部を拡大 (デジタルズーム) するには、ビューワー PTZを使用します。

カメラのパン・チルト・ズーム機能を使用しないため、インテリジェント機能の使用時など、カメラ位置を変更したくないときに活用できます。

重要 R11 R10

ビューワー PTZの使用中は、映像表示部のクリック/ドラッグによるカメラ操作は行えません。

メモ

- ビューワー PTZによる拡大映像は、録画できません。
- ビューワー PTZ使用時は、全画面表示でも拡大映像が表示されます。

1 [ビューワー PTZ] ボタンをクリックする



ビューワー PTZパネルが表示されます。
初期状態では、映像全体をプレビュー枠 (オレンジ色) が囲んでいます。

2 ビューワー PTZパネルで、プレビュー枠の枠線をドラッグして縮小する

縮小したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



3 拡大したい部分にプレビュー枠を移動、リサイズする

ドラッグで移動/サイズ変更

枠内でマウスボタンを押してドラッグすると、プレビュー枠が移動します。
枠外でマウスボタンを押してドラッグすると、新しいプレビュー枠が描けます。
枠線をドラッグしてプレビュー枠のサイズを変更すると、拡大または縮小します。

クリックで移動

枠の外側をクリックすると、クリックした場所が中心となるようにプレビュー枠が移動します。

スライダーで移動 **M641 M640 M741 M740**

映像表示部のパン・チルト・ズームスライダー操作で、プレビュー枠を移動できます。

メモ

ビューワー PTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

ビューワー PTZを終了するには

ビューワー PTZの使用中に [ビューワー PTZ] ボタンをクリックすると、ビューワー PTZパネルが閉じ、ビューワー PTZが終了します。

メモ

- ビューワー PTZを終了せずにビューワー PTZパネルを閉じてても、映像表示部の拡大表示は保持されます。ただし、管理者ビューワーに再接続した場合は、初期状態に戻ります。
- [ビューワー PTZ] ボタンの表示は、ビューワー PTZの使用状態によって次のように変わります。



ビューワー PTZを使用しない状態（映像表示部にカメラが受信した映像を表示中）



ビューワー PTZを使用中（映像表示部に拡大映像を表示中）

映像の一部を切り出して表示する (デジタルPTZ)

M641 M640 M741 M740

デジタルPTZパネルを使用すると、カメラ映像の一部を映像表示部に切り出して表示できます。カメラに登録されているプリセットやホームポジションを使用することもできます。

デジタルPTZについて

デジタルPTZは、設置時に調整したカメラのレンズ位置を動かすことなく、カメラの有効画素の範囲の一部のみを配信することで、簡易的なパン・チルト・ズームを行う機能です。

メモ

H.264映像受信中にデジタルPTZを有効にすると、受信映像はJPEGに切り換えられます。

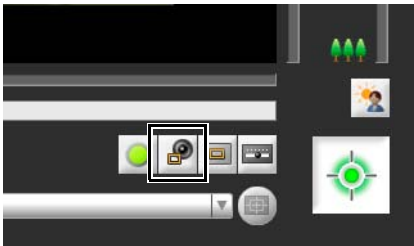
デジタルPTZとビューワー PTZの違い

デジタルPTZとビューワー PTZは、どちらもデジタルズーム機能を利用した簡易的なパン・チルト・ズーム機能ですが、動作原理が異なるため、下記の相違点があります。

デジタルPTZ M641 M640 M741 M740	ビューワー PTZ
撮影可能な全体画像のうち、切り出した映像のみを配信	カメラから配信された映像のうち、指定した部分をビューワー上で拡大して表示
受信データサイズ小	受信データサイズ大
ビューワーごとの独立したPTZ操作が不可能（複数のビューワーが接続されている場合、他のビューワーでも同じ表示が適用される）	ビューワーごとに独立してPTZ操作が可能

デジタルPTZパネルで映像を切り出す

1 [デジタルPTZ] ボタンをクリックする



デジタルPTZパネルが表示されます。

2 デジタルPTZパネル上のプレビュー枠を移動、サイズ変更する

プレビュー枠の操作方法はビューワー PTZと同じです(P. 152)。

プレビュー枠のサイズは、5段階で変更できます。設定できるサイズは、設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [映像全般] > [映像サイズセット] の設定によって、次のように変わります。

- [1280x720/640x360/320x180] の場合：640x360、512x288、384x216、256x144、128x72
- [1280x960/640x480/320x240] の場合：640x480、512x384、384x288、256x192、128x96

メモ

プレビュー枠は段階的に移動します。細かい位置合わせはできません。

操作したプレビュー枠内の映像が映像表示部に拡大表示されます。



メモ

デジタルPTZはデジタルズーム機能を使用しているため、拡大倍率が高くなるに従い画質が低下します。

プリセット/ホームポジションを使用する

登録されているプリセットやホームポジションを使用して、デジタルPTZの範囲を指定できます。

プリセット選択ボックス (P. 142) でプリセットを選択すると、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠がプリセット位置に移動し、枠内の映像が映像表示部に表示されます。

[ホームポジション] ボタンをクリックすると、デジタルPTZパネル上のプレビュー枠がホームポジションに移動し、枠内の映像が映像表示部に表示されます。

メモ

プリセットやホームポジションは、あらかじめ管理者コントロールで登録してください (P. 171)。

デジタルPTZを終了する

ビューワー PTZの使用中に [デジタルPTZ] ボタンをクリックすると、デジタルPTZパネルが閉じ、デジタルPTZが終了します。

メモ

- デジタルPTZを終了せずにデジタルPTZパネルを閉じて、デジタルPTZは継続されます。ただし、管理者ビューワーに再接続した場合は、初期状態に戻ります。
- [デジタルPTZ] ボタンの表示は、デジタルPTZの使用状態によって次のように変わります。



デジタルPTZを使用しない状態 (映像表示部にカメラが受信した映像を表示中)



デジタルPTZを使用中 (映像表示部に切り出し映像を表示中)

プリセット/ホームポジションを使用する

カメラにあらかじめ登録されているプリセットやホームポジションにより、カメラを制御できます。プリセット選択ボックスをクリックし、表示されたリストからプリセットを選択すると、選択したプリセットのカメラアングルに移動します。

また、[ホームポジション] ボタンのクリックで、カメラアングルがホームポジションに移動します。



メモ

プリセットやホームポジションは、あらかじめ管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] > [プリセット設定] > [プリセット登録] タブで登録してください (P. 171)。登録したプリセットが、プリセット選択ボックスに表示されます。

逆光補正を使用する

映像が逆光で暗い場合、[逆光補正] ボタンをクリックすると、暗かった映像が明るくなります。



もう一度ボタンをクリックすると解除されます。

重要

- [スマートシェード補正] (P. 160) が [オート] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。
- [露出] (P. 162) が [マニュアル] の場合、[逆光補正] ボタンは使用できません。

メモ

明るい部分の白飛びが気になる場合は、スマートシェード補正 (P. 160) を使用してください。

音声を受信・送信する R11 M641 M741

カメラからの音声受信とビューワーからの音声送信、およびそれぞれの音量を設定します。

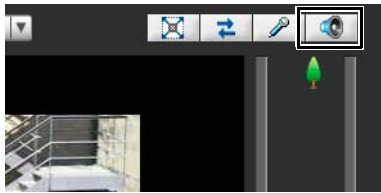
メモ

64bit OSでInternet Explorer 11を使用している場合、信頼済みサイトに登録したうえでさらに保護モードを有効にすると、音声の送受信ができなくなります。

■ 音声を受信する

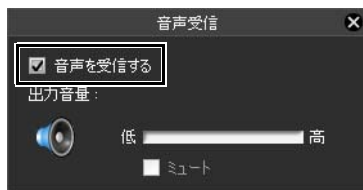
カメラに接続したマイクから入力された音声を受信し、ビューワーで再生します。

1 [音声受信] ボタンをクリックする



音声受信パネルが表示されます

2 [音声を受信する] をチェックする



[出力音量] のスライダーで適切な音量に調節してください。

音声受信中は、[音声受信] ボタンのアイコンが  に変わります。

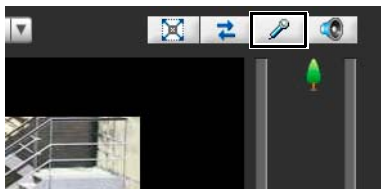
🗨️ メモ

- 音声を受信するには、あらかじめ設定ページの [サーバー] > [音声サーバー] > [カメラからの音声送信] を [送信する] に設定する必要があります (P. 92)。
- VBビューワーで音声受信パネルを最初に表示したとき、'CanonNetwork Camera Audio Receiver' アドオンをインストールするメッセージがWebブラウザの情報バーに表示されます。アドオンをインストールしてください。
- 音声受信パネルの [音声を受信する] をチェックすると、音声受信パネルを閉じても常に音声を受信されます。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、Internet Explorerの [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシサーバーを使用する] をチェック > [詳細設定] > [例外] に、カメラのIPアドレスを指定する必要があります。
-  ([再接続] ボタン) をクリックして再接続を実行した場合、音声受信が停止し、制御権は破棄されます。

■ 音声を送信する

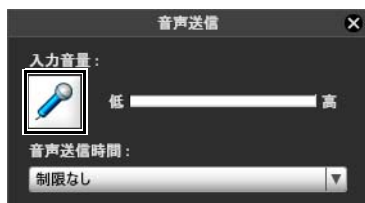
管理者ビューワーでは、PCに接続した外部デバイスから入力した音声を、カメラに接続したアンプ付きスピーカーで出力できます。

1 [音声送信] ボタンをクリックする



音声送信パネルが表示されます

2 マイクボタンをクリックする



音声送信が開始されます。

[入力音量] のスライダーで適切な音量に調節してください。

音声送信中は、[音声送信] ボタンのアイコンが  に変わります。

3 [音声送信時間] で、音声の送信時間を選択する

メモ

- 音声を送信するには、あらかじめ設定ページの [サーバー] > [音声サーバー] > [ビューワーからの音声受信] を [受信する] に設定する必要があります (P. 92)。
- 音声送信中は、音声送信パネルを閉じても常に音声を送信されます。
- プロキシサーバーを使用する環境で音声機能を使用する場合、Internet Explorerの [インターネットオプション] > [接続] タブ > [LANの設定] > [プロキシサーバー] の [LANにプロキシサーバーを使用する] をチェック > [詳細設定] > [例外] に、カメラの IPアドレスを指定する必要があります。
- ビューワーからの音声送信は [管理者] のみが可能です。

管理者コントロールを使用する

管理者コントロールパネルから、カメラの動作や画質、受信映像の設定、プリセットの登録などができます。

管理者コントロールの設定内容は、[プリセット/起動時設定] の [起動時設定登録] (P. 159) をクリックすることで、設定ページの [カメラ] > [起動時設定] (P. 79) の各項目に適用されます。また、設定ページの [起動時設定] で設定した内容は、[管理者コントロール] の各項目に反映されます。

管理者コントロールパネルの操作

■ 管理者コントロールパネルの表示

管理者コントロールパネルが閉じている場合は、カメラ制御権を取得して、[管理者コントロール] ボタンをクリックします。



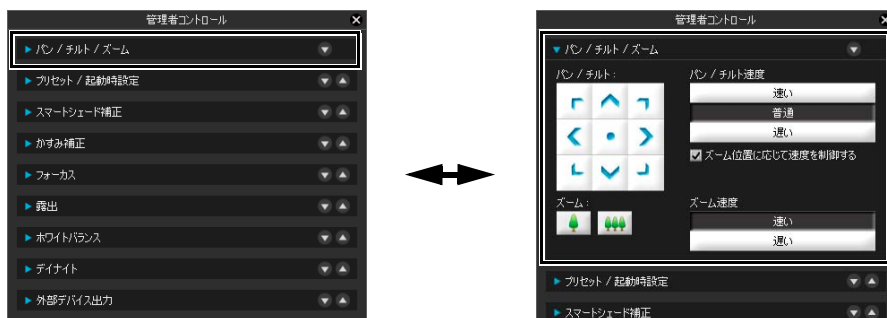
管理者コントロールパネルが表示されます。

メモ

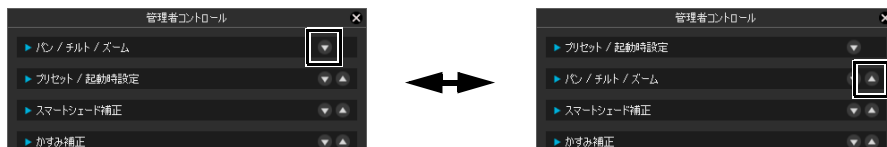
カメラ制御権を取得しない状態でも各コントロール項目を開くことができますが、[プリセット/起動時設定]と[映像受信]以外は項目内容を設定できません。

■ コントロール項目の開閉と移動

各コントロール項目は、タイトル部分をクリックすることで開閉できます。



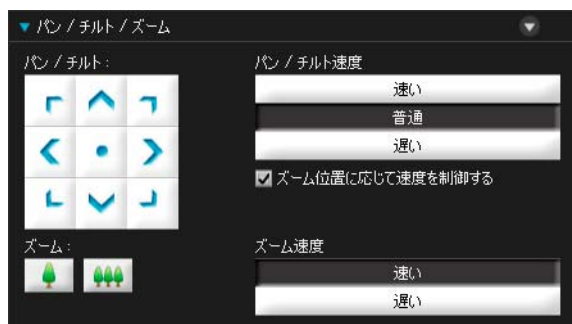
また、上下ボタンでコントロール項目の並び順を変更できます。



パン/チルト/ズーム R11 R10

カメラの、パン・チルト・ズームの操作、およびその速度の設定をします。

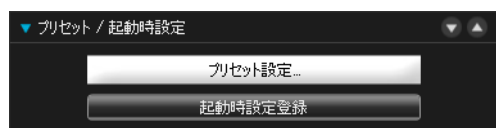
操作方法については、「管理者コントロールの [パン/チルト/ズーム] で操作する」(P. 148) を参照してください。



プリセット/起動時設定登録

■ プリセット設定

プリセットやホームポジションの登録、プリセット巡回ルートの設定、プリセット自動制御設定を行います。詳しい内容については、「プリセットを登録する」(P. 171) を参照してください。

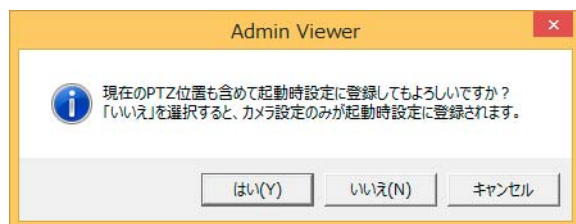


■ 起動時設定登録

管理者コントロールの項目のうち、次の項目を除く現在の各設定値を、設定ページの [カメラ] > [起動時設定] に登録します。

- [映像受信]
- [外部デバイス出力] R11 M641 M741

[起動時設定登録] をクリックすると、確認メッセージが表示されます。



[はい] をクリックすると、現在のパン・チルト・ズーム位置とカメラの設定値を登録します。

[いいえ] をクリックすると、現在のカメラの設定値のみ登録します。

[キャンセル] をクリックすると、何も登録せずにメッセージを閉じます。

スマートシェード補正

背景が明るくて被写体が見にくい場合に、明るい部分はそのまま、暗い部分を明るく補正して見やすくします。逆光補正(P. 155)とは異なり、明るい部分の白飛びを抑え、暗い部分の黒つぶれを補正します。



OFF



スマートシェード補正



逆光補正



(1) スマートシェード補正モード

[オート]

スマートシェード補正機能と露出補正機能を併用し、白飛びや黒つぶれのない映像に自動制御します。

[マニュアル]

(2)のボタンを使用して、マニュアルで補正の強さを設定します。

[使用しない]

スマートシェード補正を使用しません。



重要

- [露出](P. 162)が[マニュアル]の場合、[スマートシェード補正]の[オート]は選択できません。
- [かすみ補正]が[オート]または[マニュアル]の場合、[スマートシェード補正]は[使用しない]に設定されます。

(2) スマートシェード補正レベル

スマートシェード補正が[マニュアル]の場合、補正の強弱を設定します。



メモ

- スマートシェード補正を[オート]または[マニュアル]に設定すると、映像のデータサイズが大きくなります。
- スマートシェード補正を[マニュアル]にし、補正強度を強めに設定すると、画面ノイズが増える場合があります。ノイズが気になる場合には、補正強度を弱めに設定してください。

かすみ補正

被写体に霞がかかったような場合に、被写体を見やすいように映像のコントラストを補正します。



(1) かすみ補正モード

[オート]

自動的にかすみ補正を行います。

[マニュアル]

(2)のボタンを使用して、マニュアルで補正の強さを設定します。

[使用しない]

かすみ補正を無効にします。

(2) かすみ補正強弱

かすみ補正が [マニュアル] の場合、補正の強弱を設定します。



重要

[スマートシェード補正] が [オート] または [マニュアル] の場合、[かすみ補正] は [使用しない] に設定されます。



メモ

- [かすみ補正] を [オート] または [マニュアル] に設定すると、映像のデータサイズが大きくなる場合があります。
- 被写体にかすみがかかっていない状態では、[かすみ補正] を使用すると、明暗の差が強く出る場合があります。このような場合は、[かすみ補正] を [マニュアル] にし、補正強度を弱く設定してください。

フォーカス

被写体に焦点を合わせます。



(1) [オート]

自動的にフォーカスを合わせます。

(2) [マニュアル]

(遠) (近) のボタンを押し続けることで、それぞれ遠距離側、近距離側にフォーカス位置を調節します。

[ワンショットAF] をクリックすると、いったんオートフォーカスでフォーカスを合わせた後に、マニュアルモードになります。

(3) [無限遠固定]

カメラの焦点調節が不要となる無限距離位置にフォーカスを固定します。



重要

- 管理者ビューワーで設定したフォーカスは、ほかのユーザーにも適用されます。
- 照明によっては、[デイモード] と [ナイトモード] の切り換え時にフォーカスが合わない場合があります。デイナイト切り換え時のフォーカスは、管理者ビューワーの [デイナイトフォーカス設定] パネルで設定できます (P. 165)。
- [露出] (P. 162) で、[マニュアル]を選択してシャッタースピードを [1/1秒] に設定すると、[フォーカス] の [オート] および [ワンショットAF] ではフォーカスが合いません。その場合は、[マニュアル] でフォーカスを合わせてください。
- フォーカスをマニュアルで設定すると、フォーカスが固定されたままになるのでご注意ください。
- 室内から窓ガラス越しに屋外を撮影するような条件では、ガラス面に塵や水滴が付着していると、ガラス面にフォーカスが合ってしまう場合があります。ガラス面とカメラをなるべく短い距離で設置してご使用ください。

フォーカスの合う範囲

[オート] および [無限遠固定] では、[デイナイト] の設定により、フォーカスの合う範囲 (目安) は次の表のようになります。

R11 R10

フォーカスモード	デイナイト設定			
	デイモード		ナイトモード	
	ワイド端	テレ端	ワイド端	テレ端
オート/マニュアル	0.3 m～∞	2.0 m～∞	1.0 m～∞	2.0 m～∞
無限遠固定	無限遠近傍*			

* 外部機器による赤外照明を使用すると、フォーカスが合わない場合があります。

M641 M640 M741 M740

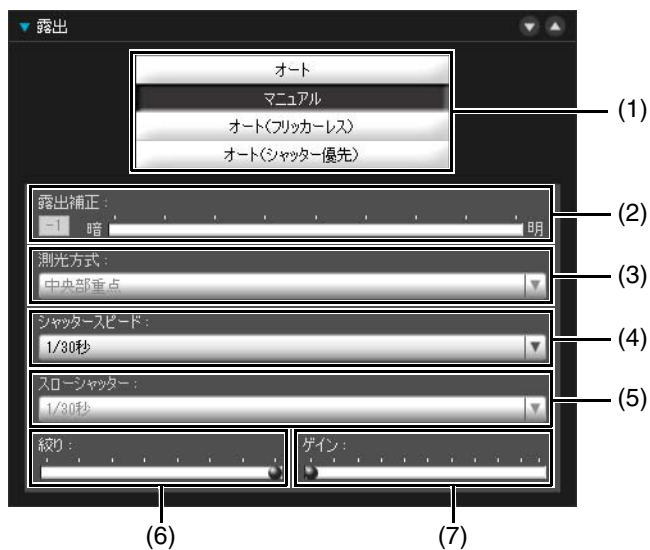
フォーカスの合う範囲については、P. 54の表を参照してください。

メモ

- フォーカスが合いにくい被写体については、「フォーカスが合いにくい被写体」(P. 54) を参照してください。
- カメラの再起動後、またはワンショットAF後は、フォーカスが合っているか確認することをお勧めします。

露出

露出とシャッタースピードを設定します。



(1) 露出モード

[オート]

自動的に露出を制御します。

[マニュアル]

シャッタースピード、絞り、ゲイン値を手動で設定します。

[スマートシェード補正] (P. 160) が [オート] の場合は選択できません。

[オート(フリッカーレス)]

使用環境の明るさに応じて、シャッタースピードを自動で調節します。蛍光灯などの影響による画面の輝度むらを低減します。

[オート(シャッター優先)]

指定したシャッタースピードに応じて、絞りを自動で調節します。

メモ

設定ページの [カメラ] > [起動時設定] > [デイナイト] を [オート] にしている場合、[露出] は [オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)] のいずれかを選択してください。

(2) [露出補正]

露出が [オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)] の場合、スライダーを動かして露出を補正し、映像の明暗を調節できます。

[スマートシェード補正] (P. 160) が [オート] の場合は設定できません。

(3) [測光方式]

露出が [オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)] の場合、測光方式を選択できます。

[中央部重点]

画面中央部に重点をおきながら、画面全体を測光します。

画面周辺に多少明暗があっても、中央付近の被写体は適正な露出が得られます。

被写体が画面中央付近の場合に使用してください。

[平均]

画面全体を平均して測光します。

画面内の明暗差が大きい撮影環境でも、安定した露出が得られます。

車の通過、人の出入りがあるシーンなどで露出を安定させたい場合に使用してください。

[スポット]

画面中央部を測光する方式です。

画面周辺の明暗に左右されることなく、画面中央部の被写体は適正な露出が得られます。

被写体にスポット光が当たっている場合や、逆光の場合などで画面中央部に露出を合わせたいときに使用してください。

(4) [シャッタースピード]

露出が [マニュアル]、[オート(シャッター優先)] の場合、シャッタースピードを選択します。

[マニュアル] の場合は [1/1秒] ～ [1/16000秒] の間で設定します。

[オート(シャッター優先)] の場合は [1/2秒] ～ [1/16000秒] の間で設定します。

動きのある被写体を撮影する場合、速いシャッタースピードを選択することで像ブレを少なくできます。

シャッタースピードを低速にすると、インテリジェント機能が正しく検知できない場合があります。撮影シーンと目的に合わせて選択してください。

重要

- 信号機や電光掲示板などを撮影した場合、映像が点滅して表示されることがあります。この場合、露出を [オート(シャッター優先)] に設定して、1/100より低速のシャッタースピードを選択すると、現象が緩和される場合があります。
- 低速のシャッタースピードを選択すると、インテリジェント機能が正しく検知できない場合があります。撮影シーンと目的に合わせて選択してください。

(5) [スローシャッター]

露出が [オート]、[オート(フリッカーレス)] の場合、最低シャッタースピードを [1/2秒] ～ [1/30秒] の間で選択できます。

シャッタースピードを低速にするほど、動きのある被写体では残像が発生します。

(6) [絞り]

露出が [マニュアル] の場合、絞りを設定します。

スライダーを左に動かすほど絞りが絞られ、映像は暗くなります。右に動かすほど絞りが開かれ、映像は明るくなります。

(7) [ゲイン]

露出が [マニュアル] の場合、明るさに対する感度を設定します。

スライダーを左に動かすほど映像が暗くなり、右に動かすほど明るくなります。

ホワイトバランス

自然な色合いの映像になるように、光源に応じたホワイトバランスを設定します。



(1) ホワイトバランスモード

[オート]

自動的にホワイトバランスを調節します。

重要

- 単一色の被写体や低照度時、ナトリウム灯や水銀灯、一部の蛍光灯を使用する環境下では、[オート] で適切な色合いに調節できないことがあります。
- [オート] の状態で、水銀灯光源下で画面が緑色を帯びる場合は、[光源選択] に設定して [水銀灯] を選択してください。また、[水銀灯] を選択しても水銀灯光源下で画面が適切な色にならない場合は、[ワンショットWB] を使用してください。

[光源選択]

使用状況に合わせて、(2)のプルダウンメニューで光源を選択します。

重要

光源選択は代表的な特性に合わせていますので、お使いの光源によっては、適切な色合いにならない場合があります。その場合には [ワンショットWB] 機能を使用してください。

[マニュアル]

(3)、(4)を操作して、マニュアルでホワイトバランスを設定します。

(2) 光源の選択

ホワイトバランスが [光源選択] の場合、光源を選択します。

[蛍光灯 昼光色]

昼光色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 白色]

昼白色蛍光灯、白色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[蛍光灯 暖色]

暖色蛍光灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[水銀灯]

水銀灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ナトリウム灯]

オレンジ色のナトリウム灯のもとで撮影する場合に選択してください。

[ハロゲン灯]

ハロゲン灯、白熱電球のもとで撮影する場合に選択してください。

(3) [ワンショットWB]

ホワイトバランスが [マニュアル] の場合、ホワイトバランスを光源に強制的に合わせて固定します。

設定方法例：

白い被写体 (白い紙など) を光源で照らし、被写体を画面いっぱい撮影した状態で [ワンショットWB] を実行します。

(4) [Rゲイン]、[Bゲイン]

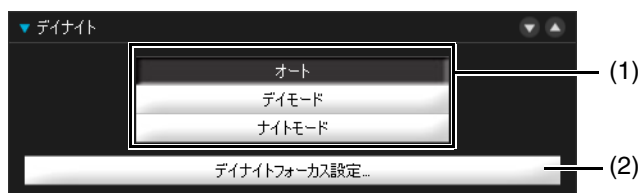
ホワイトバランスが [マニュアル] の場合、スライダーを動かして、RedとBlueのゲイン値を設定します。

重要

- [デイナイト] (P. 165) が [ナイトモード] になっている場合 ([オート] に設定されていて、ナイトモードと判定されている場合を含む) は、ホワイトバランス機能は使用できません。
- 昼夜連続で撮影する場合の注意
屋外での昼夜連続撮影など、光源が徐々に変化する場所で、変化が少ない被写体を撮影する場合、適切な色合いにならないことがあります。この場合は撮影される映像に変化を与えると適切な色になります。

デイナイト

カメラの設置環境の明るさに応じて、撮影モードを設定します。



(1) デイナイトモード

[オート]

明るさに応じて自動的にデイモードとナイトモードを切り換えます。

[デイモード]

通常のカラ映像を撮影します。

[ナイトモード]

赤外線カットフィルターを外して撮影感度を上げます。映像は白黒になります。

重要

- [オート] でご使用の場合は、事前に十分な運用テストを行い、有効性を確認したうえでご利用ください。
- [オート] でご使用の場合は、管理者コントロールの [露出] (P. 162) の設定を、[オート]、[オート(フリッカーレス)]、[オート(シャッター優先)] のいずれかにしてください。ただし、[オート(シャッター優先)] の場合、シャッタースピードによっては、[オート] に設定してもナイトモードにならない場合があります。
- [デイモード] または [ナイトモード] に設定したまま管理者ビューワーを終了させると、設定ページの [カメラ] > [起動時設定] > [デイナイト] が [オート] に設定されていても、[デイモード] または [ナイトモード] の状態が続きます。
オートデイナイトを有効にするには、[デイナイト] を [オート] に設定してから管理者ビューワーを終了してください。
- [オート] でご使用の場合、デイモード/ナイトモードの切り換えの間、赤外線カットフィルターが数回往復動作することがあります。その間、パン・チルト・ズームおよびマニュアルフォーカスは操作できません。
- ナイトモード時に赤外照明を使用する場合、ナイトモードに変わる前に赤外照明が点灯するように運用してください。

(2) [デイナイトフォーカス設定]

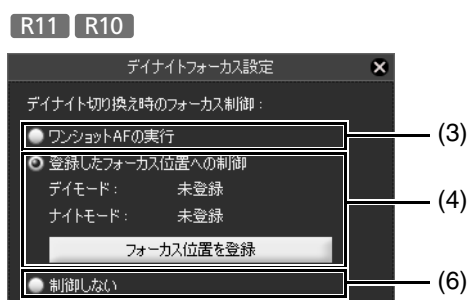
蛍光灯などの通常照明と赤外照明では、波長が異なるため、フォーカス位置が異なります。そのため、デイナイト切り換え時のフォーカス位置を設定します。

この機能は、[フォーカス] (P. 161) が [マニュアル] の場合のみ設定できます。

クリックすると、[デイナイトフォーカス設定] パネルが表示されます。

重要

- [ダイナイトフォーカス設定] パネルでの設定中は、ほかのPCでの管理ツールによる設定変更ができません。
- [ダイナイトフォーカス設定] を使用しても、ナイトモード時は光源の変化 (赤外照明に太陽光が加わるなど) により、フォーカスが合わない場合があります。



(3) [ワンショットAFの実行]

工場出荷時の設定です。ダイナイト切り換え時にワンショットAFが実行されます。

重要

[ワンショットAFの実行] 使用時は、ダイナイト切り換え時の被写体にフォーカスが合うため、人物が横切るなどした場合は目的の被写体にフォーカスが合わないことがあります。

(4) [登録したフォーカス位置への制御]

ダイナイト切り換え時に、あらかじめ [フォーカス位置を登録] で登録しておいたデイモードまたはナイトモードの位置にフォーカスを合わせます。詳しくは後述の「フォーカス位置を登録する」を参照してください。

(5) [光源に応じた補正の実行] M641 M640 M741 M740

ナイトモード切り換え時に、光源に応じたフォーカス位置に調整されます。

[蛍光灯]

蛍光灯、LED照明、ナトリウム灯、水銀灯のもとで撮影する場合に選択します。

[ハロゲン灯]

ハロゲン灯、白熱電球のもとで撮影する場合に選択します。

[赤外照明 (740nm)]

赤外照明 (波長が740 nm) のもとで撮影する場合に選択します。

[赤外照明 (850nm)]

赤外照明 (波長が850 nm) のもとで撮影する場合に選択します。

[赤外照明 (940nm)]

赤外照明 (波長が940 nm) のもとで撮影する場合に選択します。

(6) [制御しない] R11 R10

ダイナイト切り換え時、デイモード、ナイトモードともに蛍光灯の照明環境で、あらかじめ設定されたフォーカス位置に自動的に合わせます。

■ フォーカス位置を登録する

前述 (4) でデイナイト切り換え時に適用するフォーカス位置の登録手順です。

1 [デイナイトフォーカス設定]パネルを表示する

2 デイナイトモード (P. 165) で [デイモード] を選択する

3 デイモードの照明条件下にし、映像を見ながら適切なフォーカス位置に調節する

4 [デイナイトフォーカス設定] パネルで、[フォーカス位置を登録] をクリックする

[デイモード:] が [登録済み] と表示されます

5 デイナイトモードを [ナイトモード] に変更する

6 3、4と同様の手順でナイトモードの照明条件下のフォーカス位置を登録する

[デイモード]、[ナイトモード] のいずれか1つでもフォーカス位置が登録された状態で、[ワンショットAFの実行] または [制御しない] を選択すると、[登録したフォーカス位置をクリアしますか?] というメッセージが表示されます。

[いいえ] を選択すると、[ワンショットAFの実行] または [制御しない] に切り換えても、登録したフォーカス位置が保持されます。

メモ

デイナイトを設定した場合のフォーカスの合う範囲は、次を参照してください。

- 「フォーカスの合う範囲」 (P. 162) **R11** **R10**
- 「フォーカスを設定する」のメモの表 (P. 54) **M641** **M640** **M741** **M740**

赤外照明 **M741**

赤外照明の使用方法について設定します。



(1) [デイナイト連動]

赤外照明をデイナイトと連動します。ナイトモード時に赤外照明を照射します。

(2) [使用しない]

赤外照明を使用しません。

(3) 赤外照明強度

[デイナイト連動] を選択した場合、赤外照明の強さを設定します。

重要

赤外照明強度は、[露出] (P. 162) が [マニュアル] の場合のみ設定できます。

メモ

映像の一部または全体が白っぽく表示される場合は、カメラの近くにある壁など (映像に表示されていない範囲も含む) から赤外照明が反射している可能性があります。このような場合は、カメラアングルを調整してください。

外部デバイス出力 R11 M641 M741

外部デバイスの出力を操作します。

アイコンをクリックすると、アクティブ/インアクティブの状態を切り換えることができます。



アイコンには、出力の状態が表示されます。

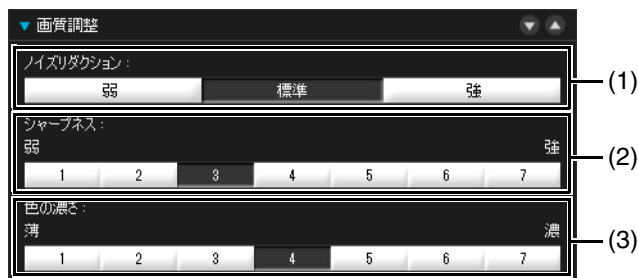
画面の例：

出力1：出力インアクティブ状態

出力2：出力アクティブ状態

画質調整

映像の画質を調整します。



(1) [ノイズリダクション]

ノイズリダクションのレベルを選択します。おもに低照度時に効果が高くなります。

[強] にするとノイズリダクションの効果が高くなりますが、動いている被写体の残像が見えやすくなります。

[弱] にするとノイズリダクションの効果が低くなり、解像感が高くなりますが、映像のファイルサイズが増えます。

(2) [シャープネス]

シャープネスのレベルを設定します。

[強] にするほどシャープな映像になり、[弱] にするほどソフトな映像になります。

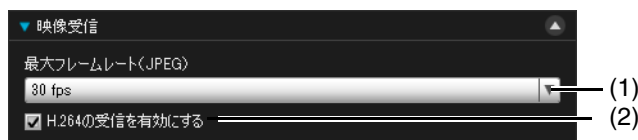
[強] にするほど映像のファイルサイズが増えます。

(3) [色の濃さ]

色の濃さを設定します。

映像受信

映像表示部の受信映像について設定します。



(1) [最大フレームレート(JPEG)]

JPEG映像の最大フレームレートを選択できます。

映像表示部にH.264映像を表示している場合は選択できません。

(2) [H.264の受信を有効にする]

H.264映像を受信する場合にチェックします。

チェックすると、「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。契約書の条項に同意する場合は [はい] をクリックしてください。カメラからデコーダーがダウンロードされ、H.264映像の受信が可能になります。



メモ

64bit OSでInternet Explorer 11を使用している場合、信頼済みサイトに登録したうえでさらに保護モードを有効にすると、H.264映像は受信できなくなります。

プリセットについて

カメラアングルや、露出などのカメラ設定、デイナイト切り換えなどをプリセット登録しておくことで、ビューワーなどから簡単にプリセットを呼び出し、登録した設定が実行できます。



重要 R11 R10

インテリジェント機能に使用するカメラ位置を、プリセットとして登録しておくことを強く推奨します。

■ プリセットの利用

プリセットには、ビューワーの操作時に、登録したカメラアングルをすぐに表示させるだけでなく、次のような使用方法があります。

- 決まった時間やデイモード/ナイトモードの切り換え時に、プリセット登録した設定内容を実行できます。(自動制御設定) (P. 178)
- 複数のプリセットを、設定した時間に決まった順序で、自動的に巡回できます。(巡回ルート設定) (P. 180)
- インテリジェント機能の使用時に、監視位置をプリセット登録したカメラアングルに固定できます (P. 219)。また、自動追尾の終了後に、プリセット位置に自動で戻すこともできます (P. 234)。 R11 R10

プリセットを登録する

プリセットやホームポジションは、[プリセット登録] タブで登録します。
登録できるプリセット数は次のとおりです。

- 最大257個 (ホームポジション含む) **R11** **R10**
- 最大21個 (ホームポジション含む) **M641** **M640** **M741** **M740**

重要

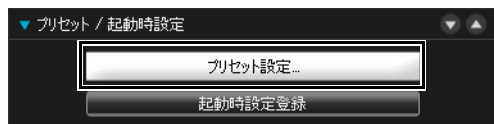
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [設置条件] > [映像反転] (P. 77) を変更した場合は、プリセットを設定し直してください。
- 設定ページの [映像設定] > [映像全般] > [映像サイズセット] (P. 71) を変更した場合は、プリセットの設定を見直してください。
- プリセット設定を行った後、設定ページの [カメラ設定] > [カメラ制御] > [ブレ補正] (P. 74) の設定を変更すると、設定時の画角と操作時の画角が一致しなくなります。[ブレ補正] の設定を変更した場合は、プリセット設定を再度確認してください。

メモ

- 管理者ビューワーを起動しているPC上で、パノラマ作成ツール、プライバシーマスク設定ツール、可視範囲設定ツール、インテリジェント機能設定ツールが起動している場合、プリセット/起動時設定は登録できません。
- 1つのPC上では、1つのプリセット/起動時設定登録しか使用できません。
- プリセットは、管理者権限でのみ登録できます。

プリセット設定パネルを表示する

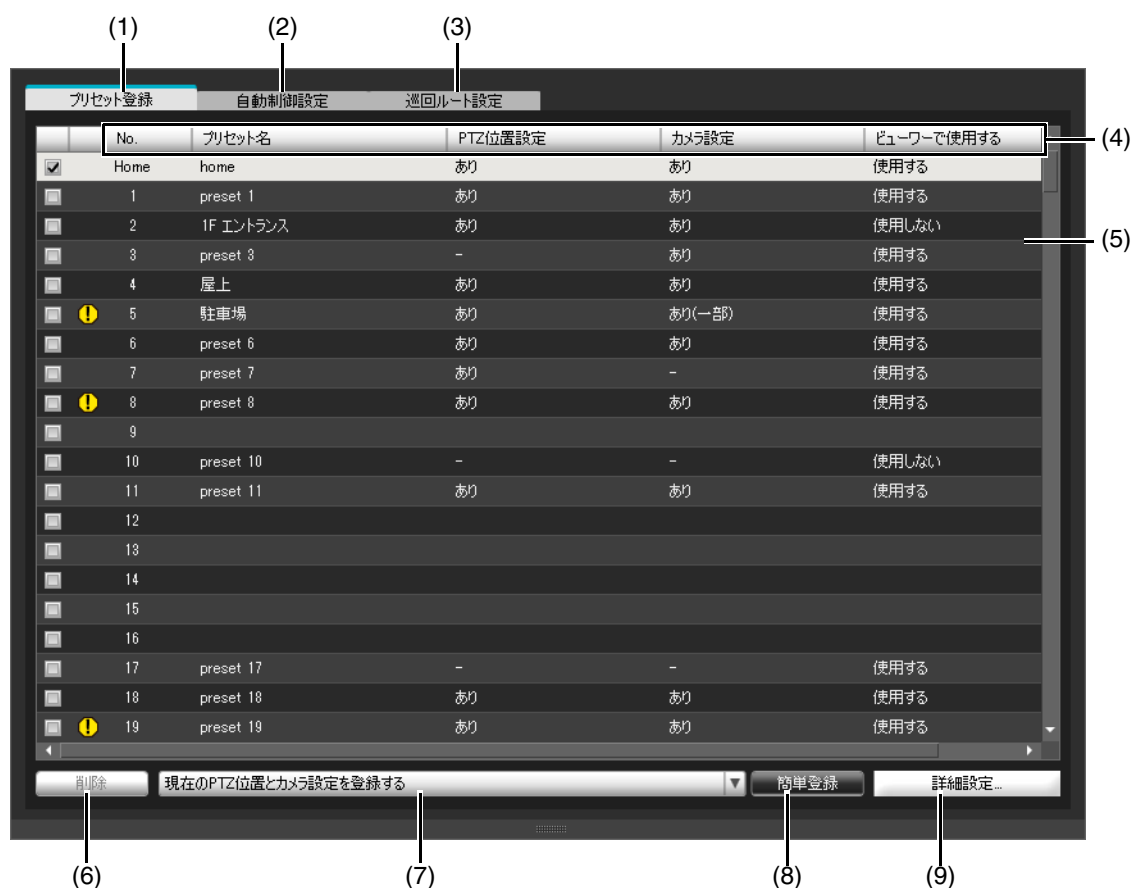
管理者コントロールの [プリセット/起動時設定] で、[プリセット設定] をクリックすると、プリセット設定パネルが表示されます。



メモ

プリセット設定パネルと同時に、次のパネルも表示されます。

- パノラマ表示パネル **R11** **R10**
- デジタルPTZパネル **M641** **M640** **M741** **M740**



(1) [プリセット登録] タブ

プリセットを登録できます。

(2) [自動制御設定] タブ

自動制御設定画面を表示します (P. 178)。

(3) [巡回ルート設定] タブ

巡回ルート設定画面を表示します (P. 180)。

(4) プリセットリストのヘッダー

次の項目が表示されます。各項目をクリックすると、リストがソートされます。

[No.]

プリセット番号です。プリセットの位置が可視範囲外にある場合は、左に  (警告アイコン) が表示されます。

[プリセット名]

登録しているプリセット名が表示されます。[プリセット名(日本語)] を登録している場合は、優先して表示されます。

[PTZ位置設定]

プリセットにパン・チルト・ズーム位置が登録されている場合、[あり] と表示されます。

[カメラ設定]

プリセットにカメラ設定 (P. 175) が登録されている場合は、[あり]、一部の設定のみが登録されている場合は [あり(一部)] と表示されます。

[ビューワーで使用する]

プリセットがビューワーから選択できるように設定されているかが表示されます。

[簡単登録] で登録するか、登録時に [プリセット詳細設定] パネル (P. 174) で、[ビューワーで使用する] をチェックしたプリセットは、[使用する] と表示されます。

(5) プリセットリスト

プリセットが一覧表示されます。登録したプリセットをダブルクリックして、そのプリセットを映像表示部で確認することもできます。

- (6) [削除]
選択しているプリセットを削除します。ただし、[Home] (ホームポジション) は削除できません。
- (7) 登録項目メニュー
[簡単登録] で登録する設定を選択します (P. 173)。
- (8) [簡単登録]
[登録項目] で選択した設定を、プリセットに登録します (P. 174)。
- (9) [詳細設定]
[プリセット詳細設定] パネルを表示します (P. 174)。

[簡単登録] で登録する

1 ビューワーを操作して、プリセットとして登録したいアングルを映像表示部に表示する

メモ

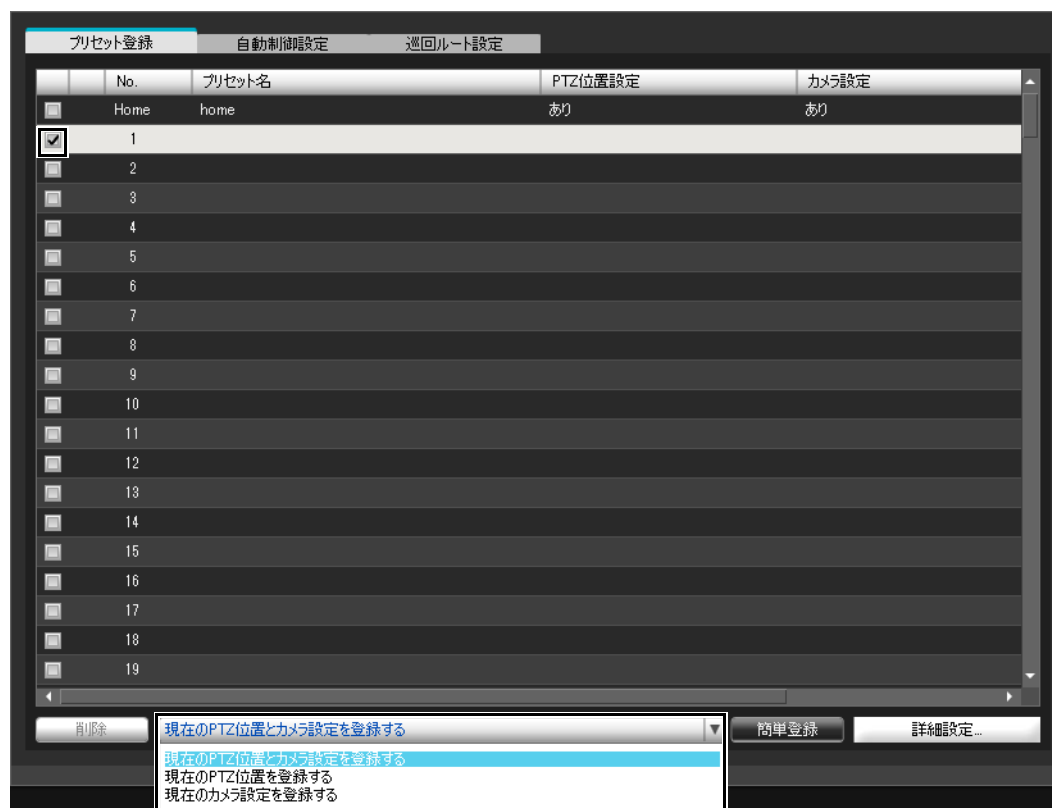
次のパネルでもカメラアングルを操作できます。

- パノラマ表示パネル **R11** **R10**
- デジタルPTZパネル **M641** **M640** **M741** **M740**

2 必要に応じて、[管理者コントロール] で映像を設定する

3 プリセットリスト上で、プリセットを登録するNo.をチェックし、[登録項目] メニューで、プリセットに登録する内容を選択する

ホームポジションを設定する場合は、[Home] をチェックします。



登録できる内容は、次のとおりです。

現在のPTZ位置

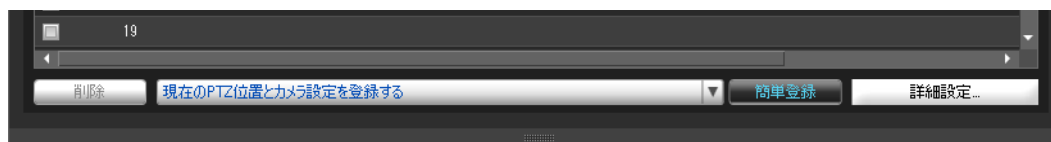
映像表示部に現在表示されているパン・チルト・ズーム位置です。

現在のカメラ設定

管理者コントロールの項目のうち、次の項目を除く各設定の現在の設定値です。

- [パン/チルト/ズーム] R11 R10
- [映像受信]
- [外部デバイス出力] R11 M641 M741

4 [簡単登録] をクリックする



チェックしたプリセットNo.に、[登録項目] で選択した設定が登録されます。

メモ

- プリセット名は「Preset+リストNo.」が付けられます。
最初から任意のプリセット名を設定するには、[簡単登録] ボタンではなく、[詳細設定] ボタンをクリックして、次項の手順で登録してください。
- 登録済みのプリセットをチェックして、[簡単登録] をクリックすると、現在のカメラアングルと設定に置き換えられます。
- [簡単登録] したプリセットは、ビューワーから選択できるように設定されます。

[プリセット詳細設定] パネルで登録する

[プリセット詳細設定] パネルで、プリセットに任意の名前を付けたり、カメラ情報を読み込んで詳細なプリセット設定をします。

1 プリセットリスト上で、詳細設定登録するプリセットをチェックする

2 [詳細設定] をクリックする



[プリセット詳細設定] パネルが表示されます。

3 各項目を設定する

(1) [プリセット名(半角英数字)][プリセット名(日本語)]

プリセット名を64文字以内で入力します。[プリセット名(半角英数字)] は必ず入力してください。

[プリセット名(日本語)] を入力した場合、設定ページやビューワーなどのプリセット選択ボックスには、[プリセット名(日本語)] が優先して表示されます。

(2) [ビューワーで使用する]

チェックすると、プリセットがビューワーで使用できるようになります。

(3) [パン/チルト/ズーム]

R11 R10

カメラのパン・チルト・ズーム位置を数値入力で設定できます。

M641 M640 M741 M740

カメラのパン・チルト・ズーム位置が表示されます。

メモ

- [Home] (ホームポジション) の設定では、チェックを外すことはできません。必ず設定してください。
- 入力範囲外の値が設定されている場合、数値の左部に  (警告アイコン)が表示されます。

(4) カメラ設定

管理者コントロールのうち、プリセットに適用する項目をチェックして設定します。各項目の説明は、「管理者コントロールを使用する」(P. 158) を参照してください。

重 要

フォーカスモードを [マニュアル] にする場合は、映像表示部で実際の映像を見ながらマニュアルでフォーカスの調整を行います。フォーカスの調整後、[カメラ情報の取り込み] で設定してください。[設定を保存] でフォーカス値が保存されます。

メモ

[スマートシェード補正]、[かすみ補正]、[露出]、[赤外照明] (VB-M741LE) は、いずれか1つをチェックすると4つともチェックされます。

ただし、次の組み合わせは設定できません。

- [露出] の [マニュアル] と [スマートシェード補正] の [オート] は、同時に使用できません。
- [かすみ補正] が [オート] またはマニュアル ([1] ~ [7] を選択) の場合、[スマートシェード補正] は使用できません。
- [スマートシェード補正] が [オート] またはマニュアル ([1] ~ [7] を選択) の場合、[かすみ補正] は使用できません。
- [露出] が [マニュアル] 以外の場合、[赤外照明] の [レベル] は使用できません。M741

(5) [カメラ情報の取り込み]

映像表示部の現在のカメラアングルと、カメラ設定を、[プリセット詳細設定] パネルに取り込みます。先にアングルや設定を変更して、プリセットに反映させる場合に使用します。

(6) [プレビュー]

クリックすると、[プリセット詳細設定] パネルの設定が映像表示部に反映されます。

(7) [設定を戻す]

設定値を誤ってプレビューした場合などにクリックすると、カメラに登録されている設定値に戻ります。

(8) [設定を保存]

[プリセット詳細設定] パネルの設定値を登録します。

4 [設定を保存] をクリックする

編集したプリセット設定値をカメラに保存します。

プリセット設定を行った際は、必ず [設定を保存] でカメラに保存してください。

右クリックメニューについて

プリセットリスト上のプリセットを右クリックすると、次のメニューが表示されます。

プレビュー
コピー
貼り付け
簡単登録
削除

[プレビュー]

右クリックしたプリセットの設定を映像表示部に反映します。

[コピー]

右クリックしたプリセットの設定値をコピーします。

[貼り付け]

コピーしたプリセットの設定値を、右クリックしたプリセットに適用します。

[簡単登録]

[登録項目] で選択した設定を、プリセットに登録します (P. 173)。

[削除]

右クリックしたプリセットを削除します。ただし、[Home] (ホームポジション) は削除できません。

メモ

右クリックしたプリセットの状態によって、有効表示される項目が変わります。

複数のプリセットに同時に変更を行う

プリセットリスト上で複数のプリセットをチェックして、[簡単登録] や [プリセット詳細設定] パネルで設定を登録すると、チェックしているすべてのプリセットが同じ設定になります。

メモ

ホームポジションは、プリセットとの同時設定はできません。

指定時刻に自動的にプリセットを実行する (自動制御設定)

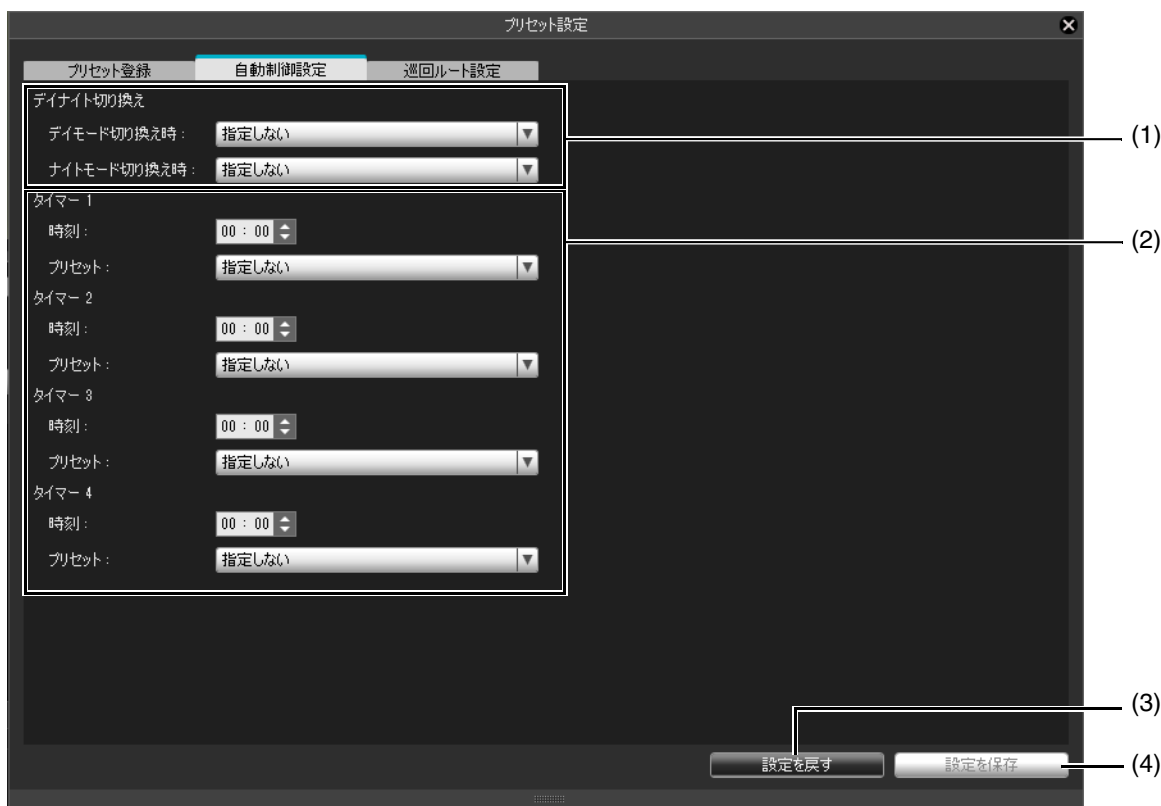
イベントによるデイナイト切り換え時や、指定した時刻に、あらかじめ登録したプリセットを実行します。プリセットのカメラ設定値も適用されます。

[自動制御設定] を設定する

[自動制御設定] タブの [デイナイト切り換え] または [タイマー] でプリセットを選択し、[設定を保存] をクリックします。タイマーによるプリセット自動制御は、4つまで登録できます。

重要

[デイナイト切り換え] と、管理者コントロールの [デイナイト] > [デイナイトフォーカス設定] > [デイナイト切り換え時のフォーカス制御](P. 165)が両方とも設定されている場合、[デイナイト切り換え時のフォーカス制御] が優先して適用されます。



(1) [デイナイト切り換え]

自動制御でデイモードまたはナイトモードに切り換えたときにプリセットを実行する場合は、それぞれ登録したプリセットから選択します。

(2) [タイマー 1] ~ [タイマー 4]

指定した時刻にプリセットを実行する場合は、その時刻を24時間制で設定し、実行するプリセットを選択します。

重要

- [タイマー 1] ~ [タイマー 4] のうち、同じ時刻を複数指定することはできません。
- ここでの [タイマー] と、設定ページの [タイマー] の開始時刻が同じ場合、設定ページのタイマーが優先されます。
例)
 - 設定ページの [イベント] > [タイマー] > [開始時刻] が [02:00]、[開始時刻のプリセット] に [preset2] を選択
 - [自動制御設定] タブの [タイマー] の [時刻] が [02:00]、[プリセット] に [preset1] を選択⇒結果 2:00 に preset2が実行されます。

(3) [設定を戻す]

カメラに登録されている自動制御設定値に戻します。

重要

[設定を戻す] は、[巡回ルート設定] タブと共用です。どちらのタブでクリックしても有効となり、巡回ルート設定も戻りますので、ご注意ください。

(4) [設定を保存]

[自動制御設定] の設定を登録します。

重要

[設定を保存] は、[巡回ルート設定] タブと共用です。どちらのタブでクリックしても有効となり、巡回ルート設定も保存されますので、ご注意ください。

メモ

カメラ制御権取得中は、自動制御設定は実行されません。

巡回ルートを設定する

登録済みの複数のプリセットを自動で巡回して、監視を行うことができます。



重要

R11 R10

- プリセット巡回はカメラの酷使につながり、場合によってはカメラの故障に至る可能性もあるため、必要最小限の使用に留めてください。各巡回地点の静止時間を長くすることで、単位時間当りの移動量を減らすことができます。
- プリセット巡回を使用する場合は、インテリジェント機能を使用しないでください。



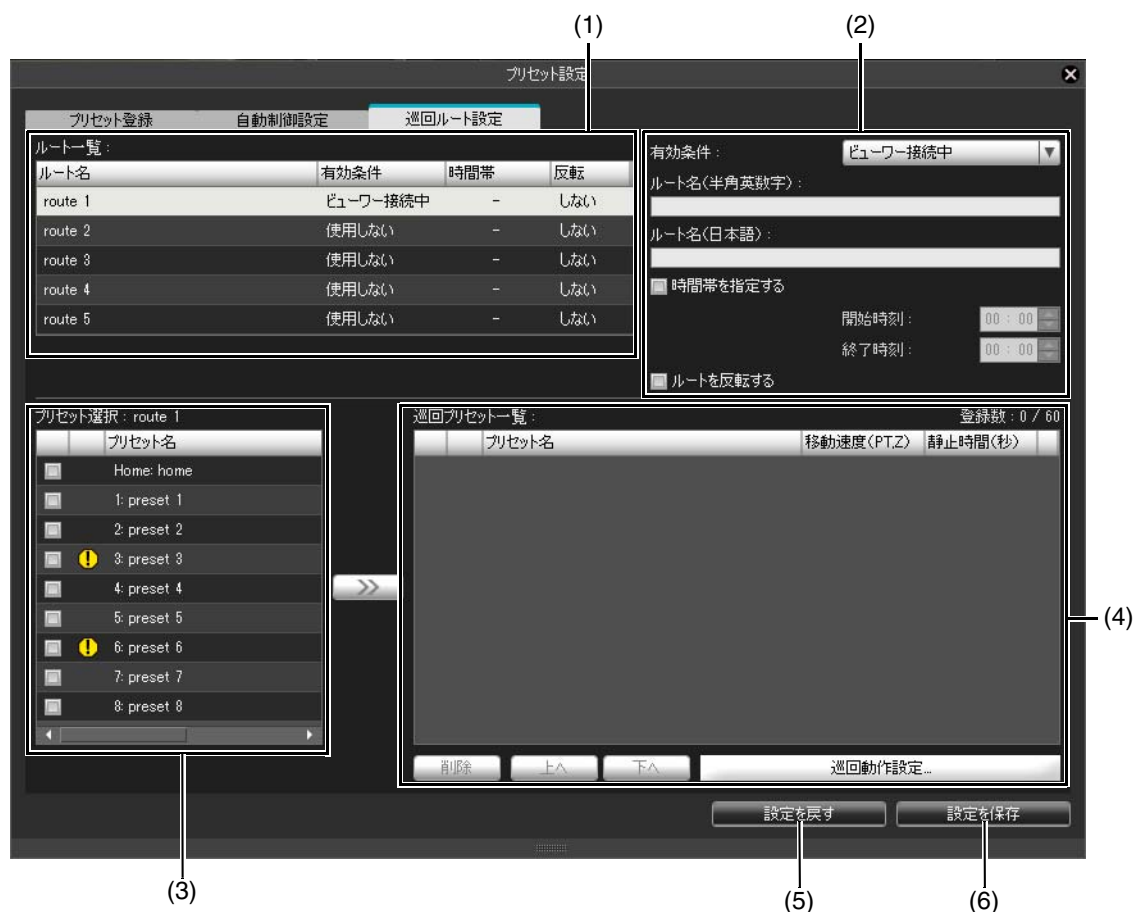
メモ

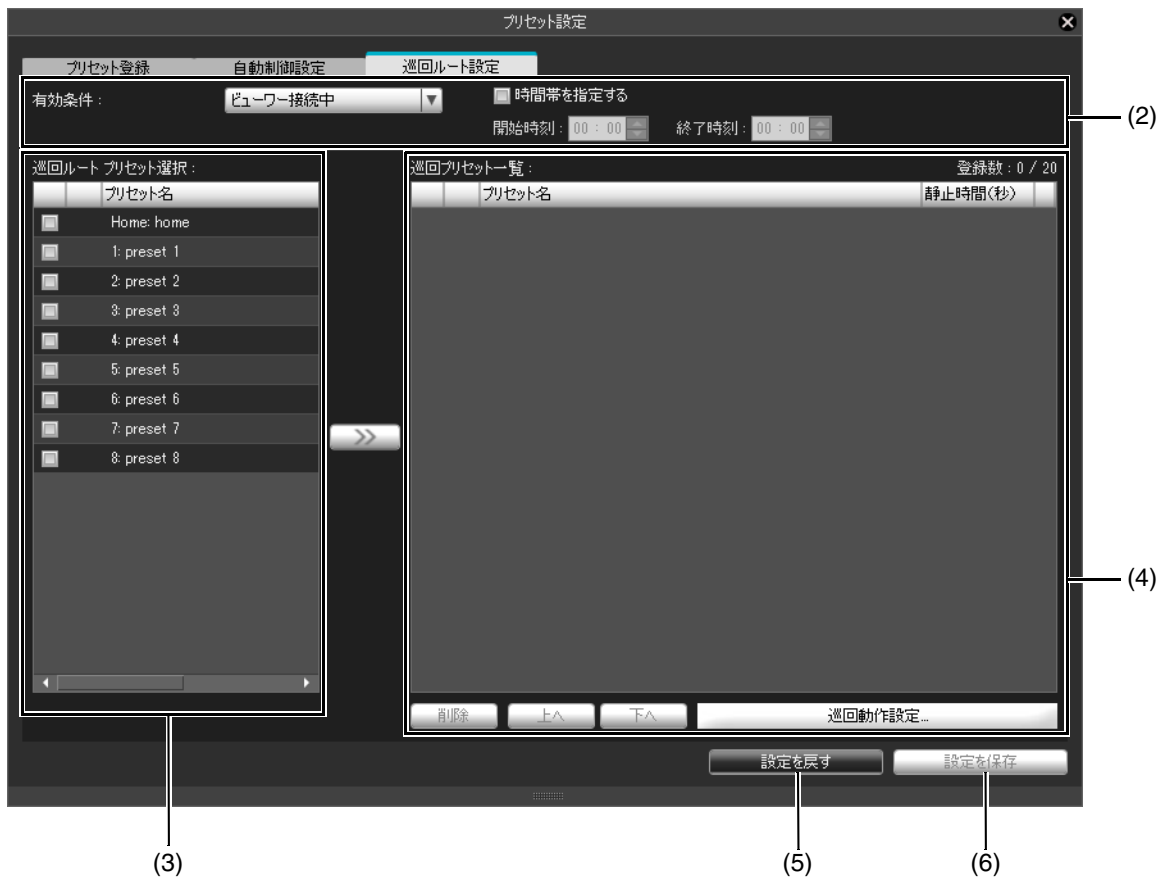
管理者ビューワーや管理ツールなどでカメラ制御が行われているときは、プリセット巡回は行われません。
RM-Liteで制御権が取得されているときは、プリセット巡回は行われません。

[巡回ルート設定] タブについて

カメラ機種の種類により、登録できる巡回ルート数、1ルート内で巡回できるプリセット数、また巡回条件が異なるため、画面構成も次のように異なります。

R11 R10





(1) [ルート一覧]リスト **R11 R10**

プリセット巡回ルートの一覧です。設定した巡回条件が表示されます。5個の巡回ルートを設定できます。

(2) 巡回条件の設定

巡回ルート名と巡回する場合の条件を設定します (P. 182)。

(3) プリセット選択リスト

[プリセット登録] タブで登録されているプリセットのうち、[PTZ位置設定] が [あり] のプリセットが一覧表示されます。

このリストから、巡回ルートに追加するプリセットを選択します。

メモ

プリセットの位置が可視範囲外にある場合は、左に  (警告アイコン)が表示されます。

(4) [巡回プリセット一覧]

巡回するプリセットが一覧表示されます。一覧の上から順に巡回します。

プリセットの並び順を変えたり、プリセット位置に停止する時間などを設定したりできます。

(5) [設定を戻す]

設定中の内容を破棄し、カメラに登録されている設定値に戻します。

重要

[設定を戻す] は、[自動制御設定] タブと共用です。どちらのタブでクリックしても有効となり、自動制御設定値も戻りますので、ご注意ください。

(6) [設定を保存]

[巡回ルート設定] タブの設定値をカメラに保存します。

重要

[設定を保存] は、[自動制御設定] タブと共用です。どちらのタブでクリックしても有効となり、自動制御設定値も保存されますので、ご注意ください。

巡回ルートの設定

登録できる巡回ルート数と、1ルート内で巡回できるプリセット数は、次のとおりです。

- 最大5ルート、1ルート内最大60プリセット **R11** **R10**
- 1ルート、ルート内最大20プリセット **M641** **M640** **M741** **M740**

R11 **R10**

ルート一覧:			
ルート名	有効条件	時間帯	反転
route1	ビューワー接続中	-	しない
route2	使用しない	-	しない
route3	使用しない	-	しない
route4	使用しない	-	しない
route5	使用しない	-	しない

メモ **R11** **R10**

登録した巡回ルートで有効条件や時間帯が競合する場合は、[ルート一覧] のリスト上位にあるルートが優先されます。

1 [ルート一覧]リストで、設定する巡回ルートを選択する

2 巡回ルートの名前と動作について設定する

R11 **R10**

有効条件: ビューワー接続中 (1)

ルート名(半角英数字): (2)

ルート名(日本語): (2)

時間帯を指定する (3)

開始時刻: 00:00 終了時刻: 00:00 (3)

ルートを反転する (4)

M641 **M640** **M741** **M740**

(1) [有効条件]

プリセット巡回が作動する条件を選択します。

[使用しない]

プリセット巡回は作動しません。

[ビューワー接続中]

ビューワーでカメラに接続しているときに作動します。

[常時]

プリセット巡回は常に作動します。

メモ

[使用しない] を選択しているとき、以降のプリセット巡回ルートの設定はできません。

(2) [ルート名(半角英数字)]/[ルート名(日本語)] **R11** **R10**

巡回ルート名を64文字以内で入力します。

[ルート名(日本語)] を入力した場合、[ルート一覧] には、[ルート名(日本語)] が優先して表示されます。

(3) 時間帯指定

決まった時刻に巡回を行う場合は、[時間帯を指定する] をチェックし、巡回の開始時刻と終了時刻を設定します。

(4) [ルートを反転する] **R11** **R10**

チェックすると、[巡回プリセット一覧] のプリセット巡回順が逆になります。

3 プリセット選択リストで、巡回させるプリセットをチェックする

プリセットは複数指定できます。

4 **>>** をクリックする

[巡回プリセット一覧] にプリセットが追加されます。

R11 **R10** 最大60個のプリセットを追加できます。

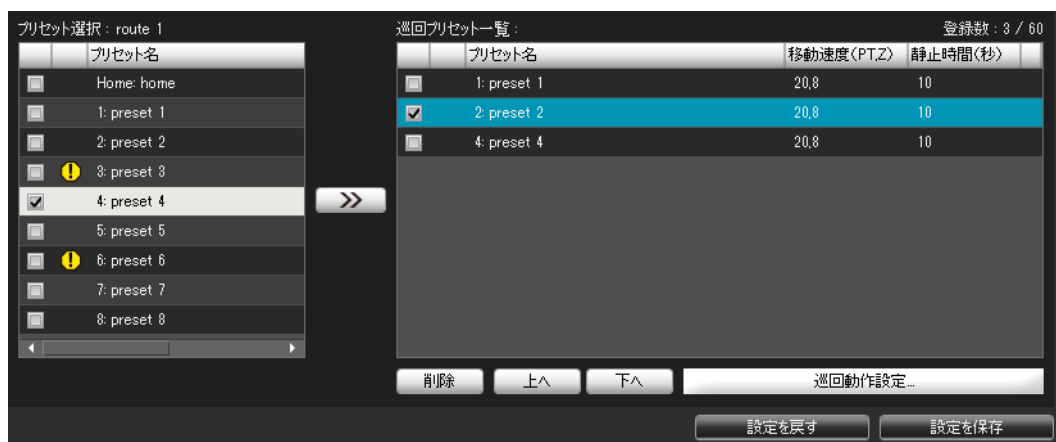
M641 **M640** **M741** **M740** 最大20個のプリセットを追加できます。

[巡回プリセット一覧] で、プリセットをチェックし、[上へ] または [下へ] をクリックすると、リストの順番が移動します。

[巡回プリセット一覧] で、プリセットをチェックし、[削除] をクリックすると、プリセットが削除されます。

メモ

すでに [巡回プリセット一覧] にプリセットが追加されている場合、[巡回プリセット一覧] のプリセットを選択した状態で [プリセット選択] リストからプリセットを追加すると、選択しているプリセットの下に追加されます。



5 プリセットの移動速度と停止時間を設定する

[巡回プリセット一覧] で、設定するプリセットをチェックし、[巡回動作設定] をクリックします。

巡回動作設定パネルが表示されます。



- (1) **[移動速度(PT)]** **R11 R10**
次のプリセットへ移動する間の、カメラのパン・チルト速度を選択します。
- (2) **[移動速度(Z)]** **R11 R10**
次のプリセットへ移動する間の、カメラのズーム速度を設定します。
- (3) **[静止時間(秒)]** **R11 R10**
プリセット位置にカメラが停止している時間を設定します。
- (4) **[登録]**
[巡回動作設定] を、選択したプリセットの巡回動作として登録します。

メモ

移動速度は、プリセット間を移動中の映像を流し見する場合は遅め～中速度、プリセット位置の映像のみを素早く切り換えて見る場合は速めを選択してください。

6 [設定を保存] をクリックする

ルートの設定が完了したら、[設定を保存] をクリックしてください。カメラに設定値が保存されます。

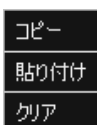
重要

設定を保存せずに、[自動制御設定] タブで [設定を戻す] をクリックすると、[巡回ルート設定] タブでの設定値も戻りますので、ご注意ください。

右クリックメニューについて

■ [ルート一覧] リスト上のメニュー **R11 R10**

[ルート一覧] リスト上の巡回ルートをクリックすると、次のメニューが表示されます。



[コピー]
右クリックした巡回ルートの設定値をコピーします。

[貼り付け]
コピーした巡回ルートの設定値を、右クリックした巡回ルートに適用します。

[クリア]
右クリックした巡回ルートを、初期状態に戻します。カメラへの保存は行いません。

■ プリセット選択リスト上のメニュー

[プリセット選択] または [巡回ルートプリセット選択] リスト上のプリセット名を右クリックすると、次のメニューが表示されます。

プレビュー

[プレビュー]

右クリックしたプリセットの設定が、映像表示部で確認できます。

管理者ビューワーでイベント検知の状態を確認する

管理者ビューワーでは、イベント表示パネルで、外部デバイスの入力状態や インテリジェント機能の検知状態、連結イベントの発生状態を確認できます。

イベント表示パネルを確認する

[イベント表示] ボタン(P. 142)をクリックすると、イベント表示パネルが表示されます。



(1) [外部デバイス入力] R11 M641 M741

外部デバイスによる接点入力信号を受けると、入力がアクティブとなりアイコンで表示されます。

例:



入力1：入力インアクティブ状態

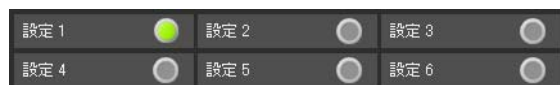
入力2：入力アクティブ 状態

(2) [インテリジェント機能(映像検知)]

インテリジェント機能による映像検知 (P. 219) の状態が、検知設定番号ごとに表示されます。インテリジェント機能 (動体検知、置き去り検知、持ち去り検知、いたずら検知、通過検知、侵入検知) の検知設定で、検知あり状態になると、そのアイコンが緑色になります。

インテリジェント機能設定ツールの [検知設定名] に名前が入力されている場合 (P. 222)は、[設定1] ～ [設定15] に、その名称が表示されます。

例:



設定1：映像検知状態 ON

他の設定：映像検知状態 OFF



検知あり状態を示すアイコン表示は、最大で約5分間です (動体検知を除く)。

(3) [インテリジェント機能(自動追尾)] R11 R10

インテリジェント機能による自動追尾 (P. 234) の検知状態が表示されます。検知あり状態になると、アイコンが緑色になります。

例：



自動追尾状態 ON

(4) [インテリジェント機能(音声検知)] R11 M641 M741

設定ページの [イベント] > [音声検知] (P. 107) で設定された、[音量検知] または [悲鳴検知] の状態が表示されます。検知あり状態になると、アイコンが緑色になります。

例：



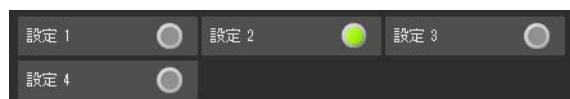
音量：音量検知状態 ON

悲鳴：悲鳴検知状態 OFF

(5) [連結イベント] R11 M641 M741

設定ページの [イベント] > [連結イベント] (P. 113) で設定された、連結イベントの状態が表示されます。連結イベントありの状態になると、アイコンが緑色になります。

例：



設定2：連結イベント状態 ON

他の設定：連結イベント状態 OFF

管理者ビューワーで静止画/映像を記録する

映像表示部で映像を確認しながら、画像をキャプチャーしたり、カメラにセットしたメモリーカードに動画を手動で録画したりできます。

静止画をキャプチャーする

映像表示部の映像をキャプチャーし、静止画を保存します。

1 静止画を撮りたいタイミングで、[スナップショット] ボタンをクリックする



スナップショットパネルが開き、クリックした瞬間の静止画が表示されます。
この状態で [スナップショット] ボタンをクリックすると、スナップショットパネルに表示される映像が更新されます。

2 静止画を保存する場合は、スナップショットパネル上でマウスを右クリックする

3 メニューの [名前を付けて画像を保存] をクリックする

4 任意のファイル名を付けて保存する

メモ

- 静止画はJPEG ファイルで保存されます。
- 保存される静止画のサイズは、受信映像サイズです。

映像を手動でメモリーカードに録画する

映像表示部に表示中の映像を、カメラにセットしたメモリーカードに手動で録画します。

メモ

- 次の条件を満たしている場合に、手動録画できます。
 - カメラにセットしたメモリーカードがマウントされている (P. 142)
 - 設定ページの [映像記録] > [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] (P. 101) で、[動作設定] を [ログと映像を保存する] に設定している
- メモリーカードに録画される映像フォーマットと映像サイズは、設定ページの設定に従います。
 - 映像フォーマット：[メモリーカード] > [メモリーカードの操作] の [映像フォーマット] (P. 131)
 - 映像サイズ：JPEG [基本設定] > [映像設定] > [JPEG] の [映像サイズ：アップロード/メモリーカード]
H.264 [基本設定] > [映像設定] > [H.264(1)] の [映像サイズ]

■ 映像を手動録画する

1 カメラの制御権を取得していない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして制御権を取得する

2 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする



録画中は、[メモリーカード録画] ボタンの表示が変わります。

-  録画していない状態
-  録画中

3 録画を停止するには、もう一度 [メモリーカード録画] ボタンをクリックする

重要

- メモリーカードへの手動録画は、録画開始から300秒が経過した時点で停止します。
- 手動録画中は、[設定ページ] の各設定を変更しないでください。録画が停止する場合があります。

■ 録画した映像を確認する

メモリーカードに手動録画した映像は、録画映像ユーティリティ (P. 244) で確認および再生できます。
[録画映像ユーティリティ] ボタンをクリックすると、録画映像ユーティリティが起動します。



VBビューワーを使用する

VBビューワーの各部については、「管理者ビューワー /VBビューワーの画面構成」の「VBビューワー」(P. 141) を参照してください。

VBビューワーの起動と管理者ビューワーとの相違点

■ VBビューワーの起動

カメラのトップページを起動し、[VBビューワー] をクリックすると、VBビューワーが起動します。(P. 39)

■ 管理者ビューワーとの相違点

管理者ビューワーの次の機能やボタンは、VBビューワーにはありません。

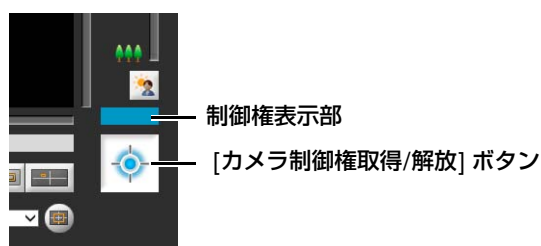
- H.264映像の表示
- メモリーカードマウント状態アイコン
- [メモリーカード録画] ボタン
- [録画映像ユーティリティ] ボタン
- [イベント表示] ボタン
- [管理者コントロール] ボタン
- [音声送信] ボタン **R11** **M641** **M741**

VBビューワーの操作可能範囲

可視範囲設定ツール (P. 209) で可視範囲を設定している場合、VBビューワーは可視範囲制限内のみ操作できます。

カメラ制御権表示について

VBビューワーでは、カメラ制御権の状態により、制御権表示部と[カメラ制御権取得/解放] ボタンの表示が次のように変わります。



表示	制御権の状態	説明
	制御権解放中	制御権表示部がグレーで表示されます。 [カメラ制御権取得/解放] ボタンがアニメーション表示されます。
	制御権取得待ち状態	制御権解放中に [カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックし、取得待ち状態に入った場合、制御権表示部に残り待機時間が表示されます。
	制御権取得中	制御権表示部が青で表示されます。 [カメラ制御権取得/解放] ボタンは、中心部が青です。
	制御権取得中 (制御時間カウント中)	制御権取得後、優先的に制御権を保持できる時間が制御権表示部に表示されます。

全画面表示中の右クリックメニューについて

VBビューワーの場合、全画面表示中に右クリックすると表示されるメニューは、次のとおりです。

R11	R10	M641	M640	M741	M740
カメラ制御権を取得		カメラ制御権を取得			
プリセット ▶		プリセット ▶			
ホームポジション		ホームポジション			
ビューワーPTZを開始		デジタルPTZを開始			
パノラマ		ビューワーPTZを開始			
コントロール		コントロール			
ペン / チルトスライダー		ペン / チルトスライダー			
ドラッグムーブモード		受信映像サイズ ▶			
受信映像サイズ ▶		スナップショット			
スナップショット		音声受信			
音声受信		全画面表示を終了			
全画面表示を終了					

各項目の内容については、P. 145を参照してください。

6章



管理ツール

カメラを使用した様々な監視方法は、カメラに搭載されている管理ツールで設定します。
カメラの動作確認や、記録映像管理を行うツールも用意されています。

管理ツールの概要

管理ツールは、カメラの動作などを設定する各種ツール、カメラの動作状況のログを確認するビューワー、映像の記録を管理するユーティリティで構成されています。

各管理ツールは、[管理ツール] ページから起動します (P. 195)。



各管理ツールの紹介

プライバシーマスク設定ツール (P. 198)

プライバシーにかかわる部分など、カメラ映像の見せたくない領域にマスクをかけるツールです。マスクは8箇所まで設定でき、きめ細かくプライバシーを保護できます。

パノラマ作成ツール (P. 204) **R11** **R10**

カメラが撮影可能な全領域を撮影して、パノラマ画像を作成するツールです。作成されたパノラマ画像は、管理者ビューワー/VBビューワーのパノラマ表示パネル、および可視範囲設定ツールの設定画面に表示され、ビューワーで表示している映像や設定領域が、全領域のどの部分かを一目で確認できます。

可視範囲設定ツール (P. 209) **R11** **R10**

カメラで撮影できる範囲を制限するツールです。パノラマ画面上のプレビュー枠をマウス操作して、視覚的に設定できます。

インテリジェント機能設定ツール (P. 213)

被写体が動くことで映像の一部に変化があった場合に、ログや映像の記録、メール通知などを行うように設定するツールです。カメラの映像を見ながら、検知領域や検知条件などを設定できます。

ログビューワー (P. 240)

カメラに記録されている動作状況のログを閲覧するビューワーです。ログをカメラからダウンロードして、ファイルに保存することもできます。

録画映像ユーティリティ (P. 244)

カメラに挿入されているメモリーカードに記録された映像を、閲覧・管理するユーティリティです。記録されている映像の一覧表示、映像の再生や削除、PCへのダウンロードなどの操作ができます。

管理ツールにアクセスする

管理ツールの起動方法と、[管理ツール] ページについて説明します。

重要

管理ツールを起動するには、PCに管理ツール証明書をインストールする必要があります(P. 26)。

管理ツールを起動する

管理ツールは、カメラのトップページから [管理ツール] ページにアクセスして起動します。

メモ

- プライバシーマスク設定ツール、パノラマ作成ツール、可視範囲設定ツール、インテリジェント機能設定ツールは、同時に起動できません。
- プロキシサーバーのない環境で管理ツールを使用する場合、Internet Explorerの [インターネットオプション] > [接続] タブの [LANの設定] で、[設定を自動的に検出する] のチェックを外してください。
- 管理者ビューワーでプリセット設定パネルを開くと、録画映像ユーティリティとログビューワーを除く管理ツールの起動ボタンが無効になります。

1 カメラのトップページを起動し、[管理ツール] をクリックする (P. 39)

ユーザー認証のための画面が表示されます。

2 ユーザー名とパスワード (P. 40) を入力し、[OK] をクリックする

[管理ツール] ページが表示されます。

3 起動したい管理ツールをクリックする



各管理ツールが起動します。

メモ

- 各管理ツールを初めて起動するときは、ソフトウェアが PC にダウンロードされるまで、5～10秒程度かかります。SSL暗号通信でアクセスしている場合は、さらにダウンロードに時間がかかります (20～30秒程度)。
- 管理ツールは、カメラマネジメントツールから起動することもできます。詳細は、「カメラマネジメントツール 使用説明書」を参照してください。

■ 他のページを起動するには

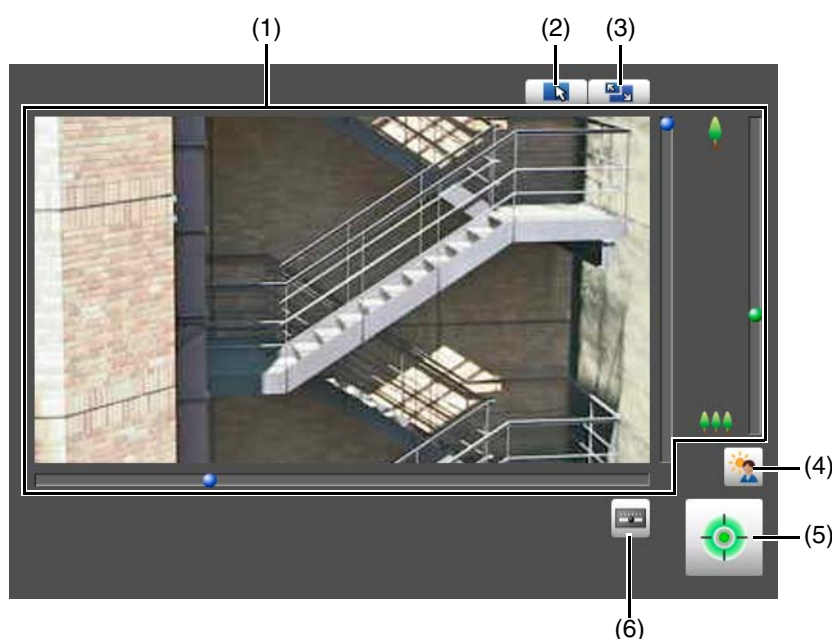
[管理ツール] ページの右上にあるボタンをクリックすることで、管理者ビューワー、設定ページ、カメラのトップページを起動できます。



管理ツール共通の操作

プライバシーマスク設定ツール、可視範囲設定ツール、インテリジェント機能設定ツールに表示されるビューワー部の操作方法は、各ツールとも同じです。

■ ビューワー部について



(1) 映像表示部

現在のカメラ映像が表示されます。映像表示部上のマウス操作で、領域などを設定します。

メモ

設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [映像全般] > [映像サイズセット] でアスペクト比16:9の [1280x720/640x360/320x180] が設定されている場合、映像表示部の上下に黒帯が表示されます。

(2) [マウス操作切り換え] ボタン **R11** **R10**

ボタンをクリックすると、アイコンと映像表示部でのマウス操作が次のようになります。



： 映像表示上で領域を設定できます。このとき、カメラの向きは変わりません。



： カメラのパン・チルト操作ができます。

(3) [画面サイズ切り換え] ボタン

ボタンをクリックするたびに、映像表示部のサイズを、320x240または640x480に切り換えます。

(4) [逆光補正] ボタン

逆光補正を入/切します (P. 155)。

(5) [カメラ制御権取得/解放] ボタン

カメラ制御権 (P. 147) を取得または解放します。

(6) [管理者コントロール] ボタン

管理者コントロールパネルを表示します。

R11 R10

■ パン・チルト・ズームの操作について

映像表示部で行うカメラのパン・チルト・ズーム操作は、管理者ビューワーと同じです (P. 147)。

メモ

- 管理ツールの映像表示部では、エリアズーム、ドラッグムーブ (P. 149) による操作はできません。
- 管理ツールの映像表示部では、オートフリック (P. 75) の動作は無効になります。

■ 管理者コントロールについて

プライバシーマスク設定ツール、可視範囲設定ツール、インテリジェント機能設定ツールでは、管理者コントロールの一部の項目を使用できます。

管理者コントロールの操作

ビューワー部の [管理者コントロール] ボタン (P. 197) をクリックすると、管理者コントロールパネルが表示されます。

管理者コントロールパネルの操作方は、管理者ビューワーの管理者コントロールと同じです (P. 158)。

管理ツールの管理者コントロールでは、次の項目を設定できます。



[スマートシェード補正]

スマートシェード補正を設定できます (P. 160)。

[かすみ補正]

被写体に霧がかかったような場合に、映像を補正できます (P. 160)。

[フォーカス]

フォーカスを設定できます (P. 161)。

[露出]

露出を設定できます (P. 162)。

メモ

インテリジェント機能設定ツールで [カメラ位置を固定する] (P. 219) または [カメラの初期位置を指定する] (P. 234) をチェックすると、インテリジェント機能設定ツールの管理者コントロールの項目は操作できません。

プライバシーマスク設定ツール

プライバシーマスク設定ツールは、カメラ映像の特定の領域にマスクをかけるツールです。カメラの映像を確認しながら、8箇所までマスクを設定できます。

カメラのパン・チルト・ズーム動作を行った場合でも、プライバシーマスク領域はカメラ画像に追従します。



重要

- プライバシーマスクは、カメラから配信されるすべての画像（ライブ映像、アップロード画像、録画映像、メモリーカードに記録される画像）に適用されます。
- 次の場合は、プライバシーマスク機能は動作しません。
 - 電源投入直後のカメラ起動時
 - カメラアングル設定ツールのカメラ映像 **M641 M640 M741 M740**
 - パノラマ作成時 **R11 R10**
- プライバシーマスク領域もインテリジェント機能の検知対象となります。被写体の動きが見えることがあります。

プライバシーマスクを登録する

マウス操作でプライバシーマスク領域の位置とサイズを設定し、設定をカメラに保存します。

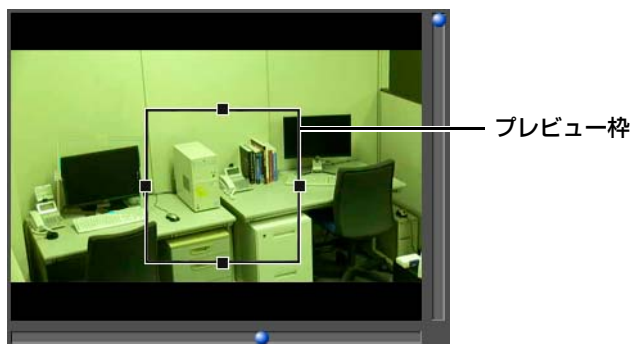


プライバシーマスク設定ツールの設定画面

1 カメラの制御権が取得されていない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして、制御権を取得する (P. 147)

2 映像表示部で、プライバシーマスク領域の位置とサイズを設定する

映像表示部に表示されているプレビュー枠をドラッグして、隠したい部分に移動します。
プレビュー枠の四辺の■をドラッグして、サイズを変更します。



重要 R11 R10

- プライバシーマスク領域は、隠したい領域より大きめに設定してください。
- プライバシーマスクは光学ズーム領域でのみ設定できます。デジタルズーム領域 (P. 148) では設定できません。

3 [色] で、プライバシーマスク領域の色を選択する



4 [簡単追加] をクリックする



プライバシーマスク領域がカメラに保存されます。
保存したプライバシーマスク領域は、映像表示部とプライバシーマスク登録エリアに表示されます。



5 別のプライバシーマスク領域を追加する場合は、2～5を繰り返す

最大8個のプライバシーマスクを保存できます。

重要

- 設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [映像全般] > [映像サイズセット] を変更した場合は、プライバシーマスク設定を見直してください。
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [設置条件] > [映像反転] の設定を変更した場合、プライバシーマスクの位置を設定しなおす必要があります。
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [カメラ制御] > [ブレ補正] を変更してから、プライバシーマスクを再設定する場合は、すべてのプライバシーマスクの位置と大きさを再設定してください。

R11 R10

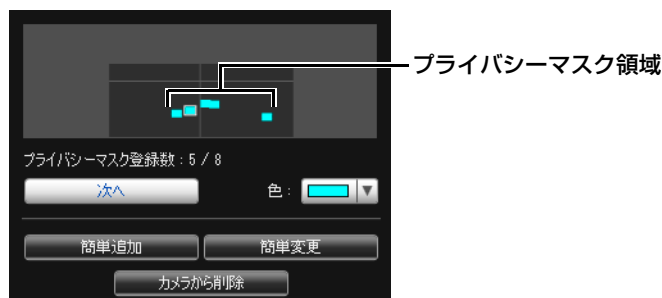
- プライバシーマスクの登録後は、カメラのパン・チルト・ズームを実際に動かして、カメラの向きが変わっても隠したい領域が見えないことを確認してください。
- ズーム位置によっては、プライバシーマスクが指定位置から若干ずれることがあります。
- パノラマ作成ツールでパノラマ画像を保存したあとでプライバシーマスクの設定を変更した場合は、パノラマ作成ツールでパノラマ画像を作成し直してください。

プライバシーマスクを変更/削除する

■ プライバシーマスクの選択方法

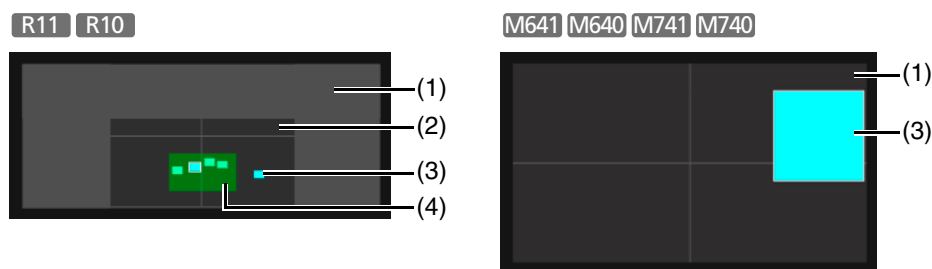
プライバシーマスク領域の選択方法には、次の2つがあります。

- プライバシーマスク登録エリアで、選択したいプライバシーマスク領域をクリックする
- 対象のプライバシーマスク領域が選択されるまで、[次へ] をクリックする



プライバシーマスク登録エリアについて

カメラが撮影可能な全領域中のプライバシーマスク領域の位置が表示されます。



(1) カメラが撮影可能な全領域

物理的に撮影可能な領域を表します。

R11 R10

カメラにパノラマ画像が登録されていても、ここには表示されません。

(2) 可視範囲領域 R11 R10

可視範囲設定ツール (P. 209) で可視範囲を設定した場合に表示されます。

(3) プライバシーマスク領域

[詳細設定] の [プライバシーマスクを有効にする] (P. 202) がチェックされているプライバシーマスクは、領域内が塗りつぶされて表示されます。

チェックされていないプライバシーマスクは枠内に斜線が表示されます。

(4) 最大広角領域 R11 R10

最大広角時のカメラアングルの領域です。プライバシーマスク領域をドラッグしている間のみ表示されます。

位置・サイズを変更する

1 変更したいプライバシーマスク領域を選択する

2 プライバシーマスク領域の位置・サイズを変更する

マウスによるプレビュー枠の移動・変形、または [詳細設定] の数値入力 (P. 202) で変更します。

メモ

変更内容を破棄してカメラに保存されている設定内容に戻す場合は、[設定を戻す] をクリックします。

3 [簡単変更] または [設定を保存] をクリックする

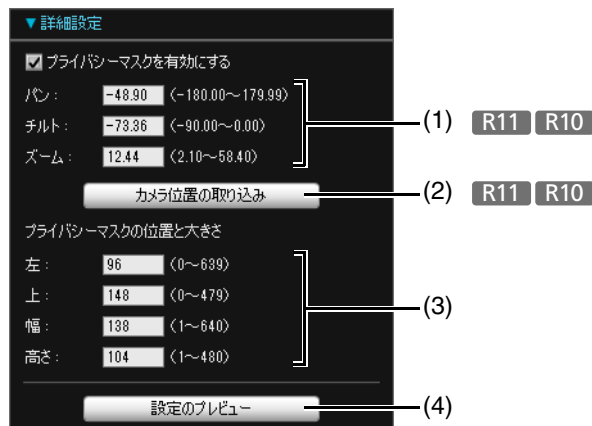
変更したプライバシーマスク領域がカメラに保存されます。

メモ

無効に設定されているプライバシーマスクを選択して、[簡単変更] をクリックすると、設定が有効に変更されます。

■ 数値入力で位置・サイズを詳細設定する

カメラアングルとプライバシーマスク領域の位置・サイズは、数値入力によって細かく設定できます。プライバシーマスクを選択して [詳細設定] をクリックすると、入力項目が表示されます。



(1) [パン][チルト][ズーム] R11 R10

[簡単追加] でプライバシーマスクを保存した際、および [カメラ位置の取り込み] をクリックした際に、現在のパン・チルト・ズームの値が表示されます。カメラアングルの数値の直接入力もできます。

(2) [カメラ位置の取り込み] R11 R10

現在のパン・チルト・ズームの値を取り込み、(1) に表示します。

(3) [プライバシーマスクの位置と大きさ]

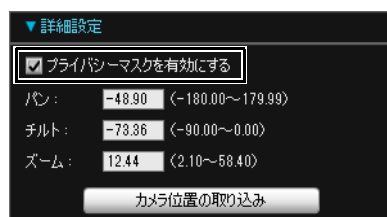
選択中のプライバシーマスクの位置とサイズの数値が表示されます。位置とサイズの数値の直接入力もできます。

(4) [設定のプレビュー]

映像表示部とプライバシーマスク登録エリアに、(1) と (3) の設定値を反映します。プレビューの結果は、カメラには保存されません。

■ プライバシーマスクを有効/無効にする

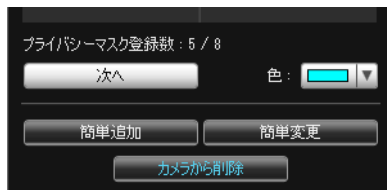
選択しているプライバシーマスク領域の設定を有効にする場合は、チェックボックスをチェックします。チェックを外すと、プライバシーマスク領域を削除せずに、一時的に無効にできます。このとき、プライバシーマスク領域は斜線入りの枠表示になります。



■ 削除する

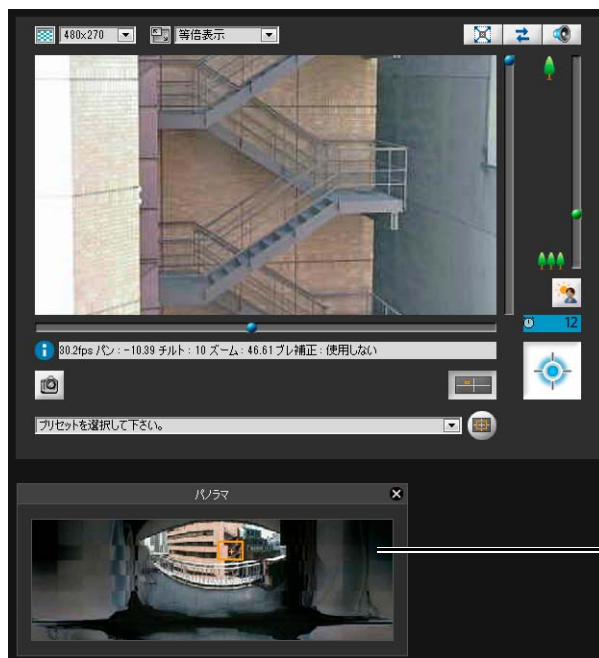
1 削除したいプライバシーマスク領域を選択する

2 [カメラから削除] をクリックする



選択したプライバシーマスク領域が、カメラから削除されます。

パノラマ作成ツールは、カメラが撮影可能な全領域を撮影して、パノラマ画像を生成するツールです。
作成されたパノラマ画像は、管理者ビューワー / VBビューワーのパノラマ表示パネル (P. 151)、および可視範囲設定ツール (P. 209) の設定画面に表示されます。



VBビューワーのパノラマ表示
パネル

重要

プライバシーマスク設定ツールでプライバシーマスクの設定を変更した場合、パノラマ画像に新しいプライバシーマスク設定を反映させるため、パノラマ画像の再作成をお勧めします。

パノラマ画像を作成する

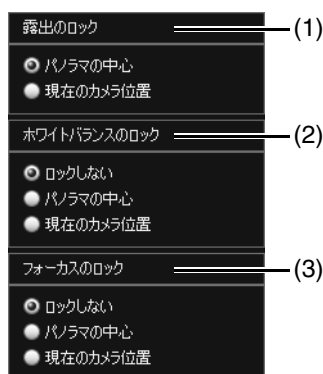
パノラマ画像を撮影後、カメラに保存することで、各ツールで使用できるようになります。



パノラマ作成ツールの設定画面

1 必要に応じて、パノラマ撮影時の[露出のロック]、[ホワイトバランスのロック]、[フォーカスのロック]を設定する

これらの設定は、パノラマ撮影開始時に適用され、パノラマ撮影終了後は撮影前の設定に戻ります。



(1) [露出のロック]

選択した位置で自動調節した露出値に固定して撮影します。

(2) [ホワイトバランスのロック]

選択した位置で自動調節したホワイトバランス値に固定して撮影します。

(3) [フォーカスのロック]

画面全体を、選択した位置で自動調節したフォーカスに固定して撮影します。

2 [パノラマ作成の開始]をクリックする



撮影が開始され、パノラマ画像が作成されます。

途中で撮影を中止したい場合は [撮影の中止] をクリックします。

メモ

- パノラマ画像の撮影中は、一時的にブレ補正機能が解除されます。
- パノラマ画像の作成中は、次のユーザーの接続は切断されます。
 - 管理者以外のユーザー
 - RTPで接続していないユーザー
- 設定ページの [映像設定] > [JPEG] > [最大フレームレート：映像送信] (P. 72) の値を小さく設定すると、パノラマ撮影が遅くなります。

3 必要に応じて、再撮影する

部分的に撮り直すには：

作成されたパノラマ画像にマウスのポインターをあわせると、白い格子枠が表示されます。

撮り直したい部分を右クリックし、[再撮影] を選択すると、その部分のみ再撮影されます。



パノラマ画像全体を撮り直すには：
再度 [パノラマ作成の開始] をクリックします。

4 [パノラマ作成の終了] をクリックする

この時点では、作成した画像は他のツールに反映されません。

5 [カメラに保存] をクリックする



確認のメッセージが表示されます。

6 [OK] をクリックする

パノラマ画像がカメラに保存され、他のツールに反映されます。

パノラマ画像をカメラから削除する

カメラに保存されているパノラマ画像を削除します。

1 [クリア] をクリックする



表示されているパノラマ画像がクリアされます。

2 [カメラに保存] をクリックする

確認のメッセージが表示されます。

3 [OK] をクリックする

カメラに保存されたパノラマ画像が削除されます。

パノラマ画像を画像ファイルとして保存する/画像ファイルを開く

撮影したパノラマ画像を画像ファイルとして保存したり、画像ファイルのパノラマ画像として開いたりできます。扱える画像ファイルはJPEG形式のみです。

画像ファイルとして保存する

1 [ファイルに保存] をクリックする



2 表示されたダイアログで、保存するフォルダを選択し、ファイル名を入力する

3 [保存] をクリックする

画像ファイルを開く

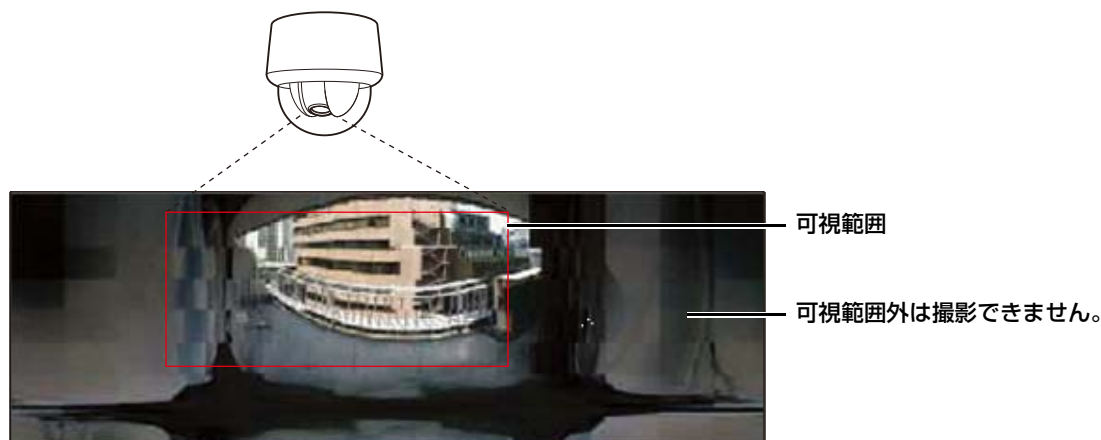
1 [ファイルから読み込み] をクリックする



2 表示されたダイアログで、使用したい画像ファイルを選択する

3 [開く] をクリックする

可視範囲設定ツールは、カメラで撮影できる範囲を制限するツールです。
ライブ映像公開などで、ズームや一部の視野に制限をかけたいようなケースに使用できます。



可視範囲設定の適用範囲

可視範囲設定ツールによる制限は次の場合に適用されます。

- 登録ユーザー権限で管理者ビューワーにアクセスした場合
- VBビューワーにアクセスした場合
- インテリジェント機能設定ツールでアクセスした場合
- RM-Liteでアクセスした場合
- プリセットの設定、およびプリセットへの移動を行う機能

メモ

可視範囲設定をしていても、可視範囲の境界付近にカメラを制御した場合、一瞬可視範囲外が映り込むことがあります。

可視範囲を設定する

可視範囲の設定方法には、次の2つがあります。

- パノラマ画面の可視範囲制限プレビュー枠で設定する
- ビューワー部を操作して、カメラアングルから位置情報を取り込んで設定する



可視範囲設定ツールの設定画面

重要

- カメラの設置方法の設定を変更した場合は、パノラマ画像を撮影し直して再登録してください。
- 設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [映像全般] > [映像サイズセット] を変更した場合は、可視範囲設定を見直してください。
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [カメラ制御] > [デジタルズーム] および [ブレ補正] を変更した場合は、可視範囲設定を再度確認してください。

■ パノラマ画面のプレビュー枠で設定する

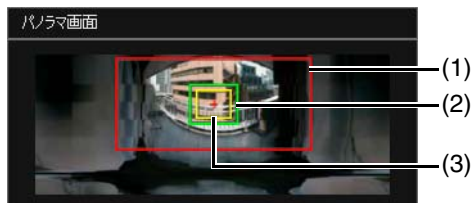
1 [可視範囲制限を適用する] をチェックする



メモ

可視範囲設定を解除する場合は、[可視範囲制限を適用する] のチェックを外して、[設定を保存] をクリックします。

2 パノラマ画面の上に表示された3種類のプレビュー枠をドラッグして変形し、可視範囲を設定する



(1) パン・チルトプレビュー枠 (赤色枠)

カメラが上・下・左・右に動ける範囲を表します。

(2) 広角プレビュー枠 (緑色枠)

パン・チルトプレビュー枠内で、広角にできる限界を表します。縦横比は変えられません。

(3) 望遠プレビュー枠 (黄色枠)

広角プレビュー枠内で、望遠にできる限界を表します。縦横比は変えられません。

メモ

プレビュー枠を変形すると、可視範囲設定値の数値入力ボックスに反映されます。

3 [設定を保存] をクリックする



設定値がカメラに保存されます。

メモ

パノラマ画面は実際の映像と若干異なる場合があります。可視範囲設定を行ったのち、必ずVBビューワーで可視範囲設定が正しく反映されているかどうかの確認を行ってください。本ツールの映像表示部や、管理者ビューワーには可視範囲制限が適用されません。

映像表示部のアングルから位置情報を取り込んで設定する

パノラマ画面の上のプレビュー枠は、実際に映像表示部で表示した映像から数値を取り込んで設定することもできます。

また、各数値を直接入力しても設定できます。

1 [可視範囲制限を適用する] をチェックする

メモ

[可視範囲制限を適用する] をチェックした状態で設定値を空欄にすると、最大可視範囲が設定されます。

2 ビューワー部でカメラアングルを操作し、上端・下端・左端・右端、望遠、広角の各位置で [取り込み] をクリックする

取り込まれた可視範囲が、数値入力ボックスに反映されます。

より細かく設定したい場合は、直接、数値入力ボックスに数値を入力して調整します。

3 [パノラマ画面に表示] をクリックする

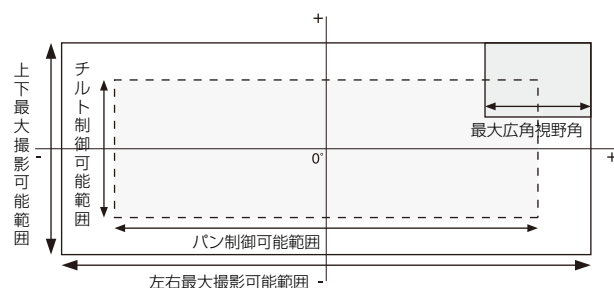
取り込まれた数値がパノラマ画面に反映され、確認できます。

4 [設定を保存] をクリックする

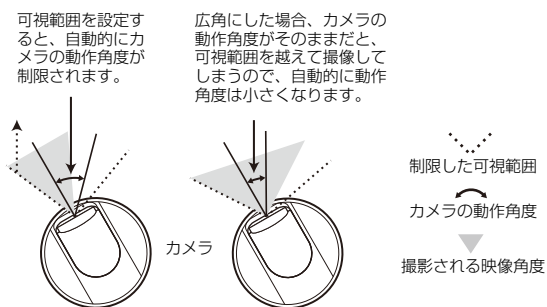
設定値がカメラに保存されます。

メモ

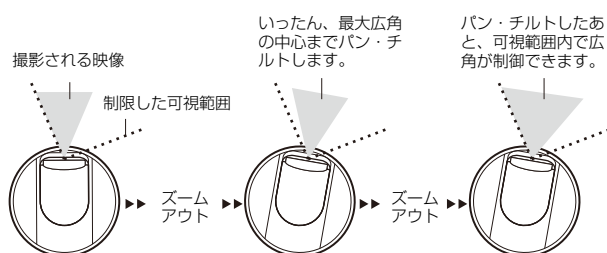
- 制御可能範囲と撮影可能範囲は次のようになっています。



- パンおよびチルトの範囲はズーム倍率 (視野角) によって変わります。



- ズームを広角側に制御することで可視範囲を超えてしまう場合は、カメラはいったん、ワイド端が可視範囲内に収まる位置までパン・チルトします。その後、可視範囲内で広角側の制御が可能となります。



- 可視範囲を狭くするとそれに伴ってズームの範囲も狭くなることがあります。

■ オートフリップと可視範囲設定

可視範囲設定ツールの起動時、または [設定を戻す] のクリック時、次の条件に当てはまる場合、可視範囲設定値が無効になっている旨のメッセージが表示され、[可視範囲設定] の数値入力ボックス左に  (警告アイコン) が表示されます。

<条件>

- [可視範囲制限を適用する] がチェックされている
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [カメラ制御] > [オートフリップ] (P. 75) が [有効] になっている
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [設置条件] > [映像反転] (P. 77) が [反転しない] の場合： [可視範囲設定] の [下端]、[左端]、[右端] のいずれかに値が入力されている
- 設定ページの [カメラ] > [カメラ設定] > [設置条件] > [映像反転] (P. 77) が [反転する] の場合： [可視範囲設定] の [上端]、[左端]、[右端] のいずれかに値が入力されている

[可視範囲設定] を有効にする場合は、[設定を保存] をクリックします。

また、[設定を保存] のクリック時、上記条件に当てはまる場合、オートフリップが無効になる旨のメッセージが表示されます。

メッセージで [OK] をクリックすると、オートフリップは無効となり、[可視範囲設定] が保存されます。

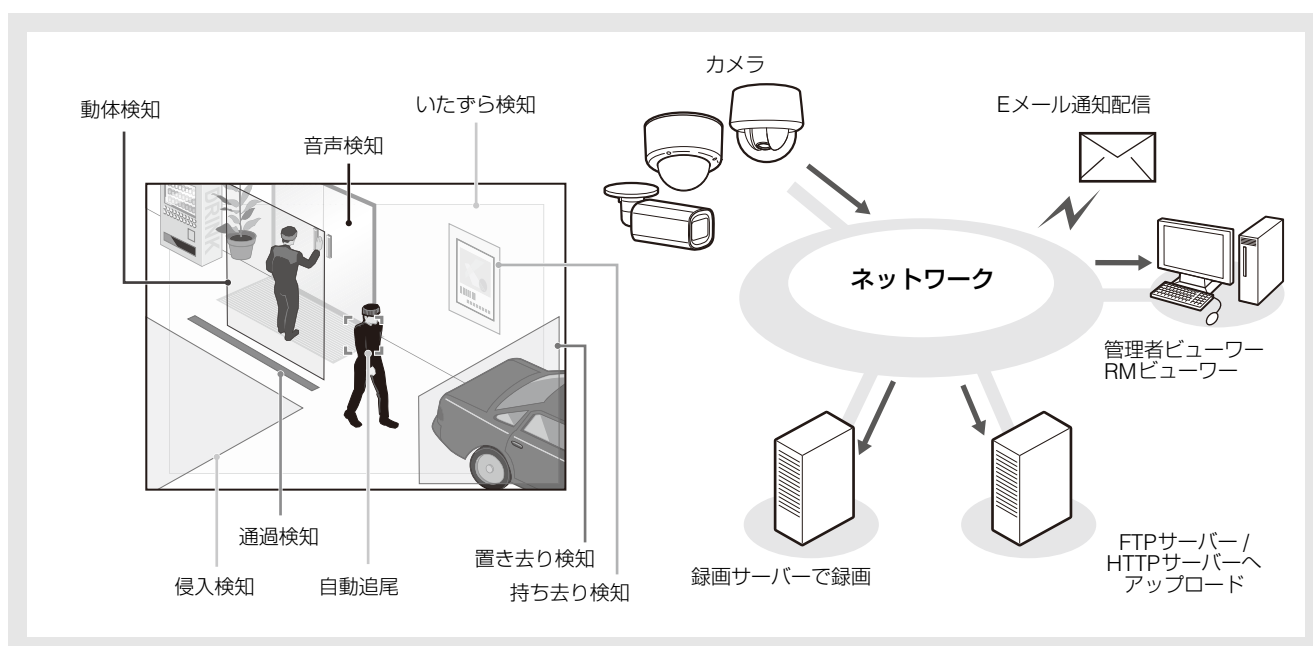
インテリジェント機能設定ツール —概要—

インテリジェント機能とは

インテリジェント機能は、被写体が動くことで映像に変化があった場合に、映像の録画やメール通知、音声の再生などのイベントを開始する機能です。

インテリジェント機能には、次の動作モードがあります。

- 映像検知
- 自動追尾 R11 R10
- 音声検知 R11 M641 M741



カメラご利用上の注意事項

インテリジェント機能は高い信頼性が求められる用途には適していません。監視などで常に高い信頼性が要求される用途では、使用しないことをお勧めします。インテリジェント機能の動作の結果生じた事故、損害などについて、弊社では一切の責任を負いかねます。

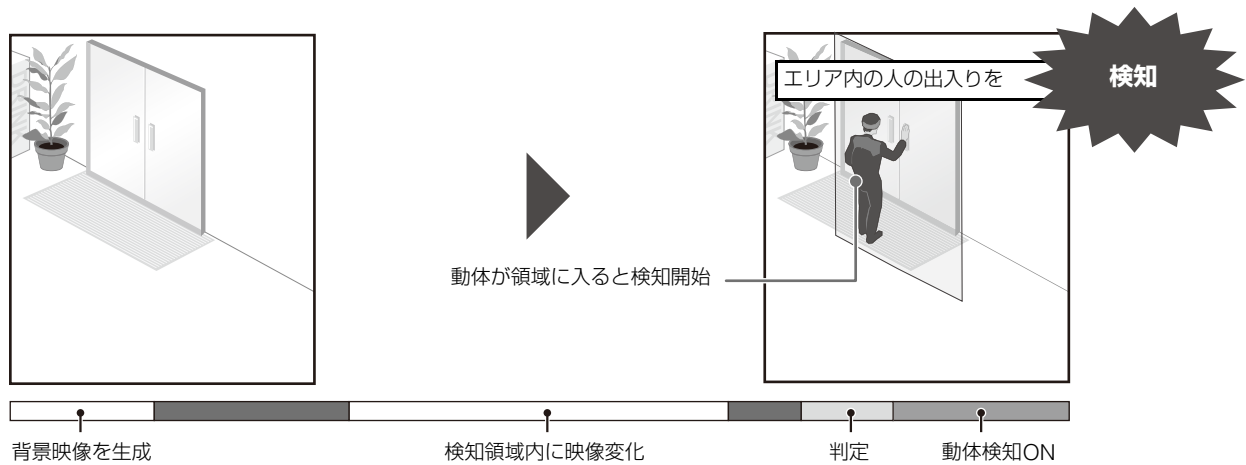
映像検知とは

設定した検知領域内の映像の変化を検知します。6つの検知種別があり、目的に合わせて設定できます。

動体検知

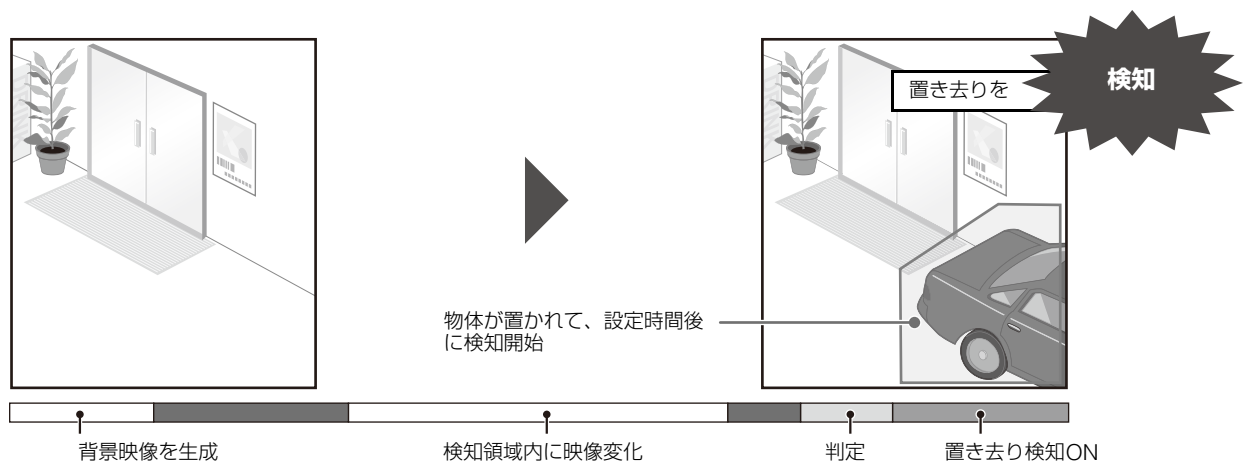
動いている物体を検知します。来訪者や不審者の検知に利用できます。

検知領域内に動く物体が入っている間、動体検知になります。



置き去り検知

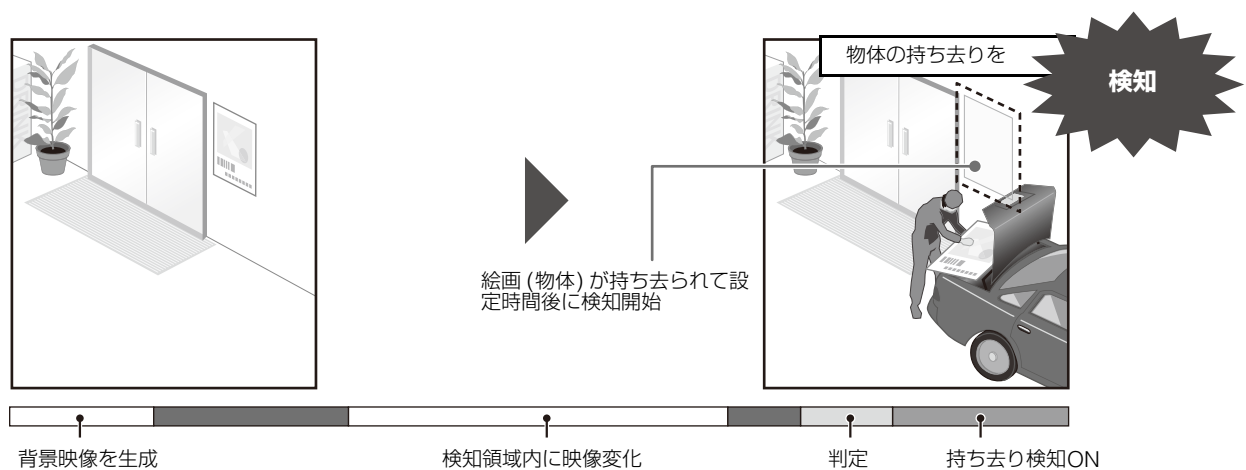
持ち込まれた物体が、一定時間以上置かれたままであることを検知します。置き去りにされた不審物の検知に利用できます。検知領域内に物体が置かれ、そのまま判定時間を経過すると、置き去りと判定します。



持ち去り検知

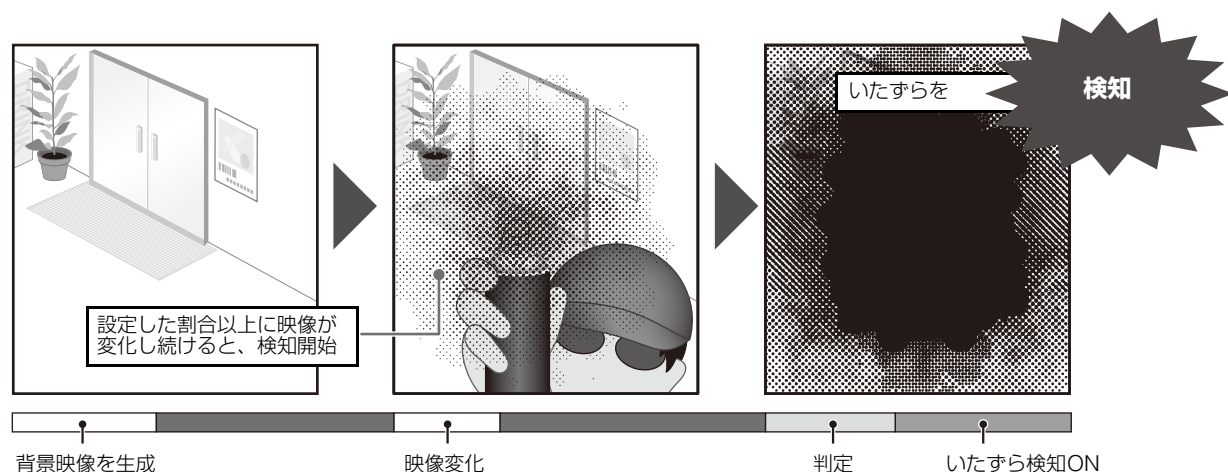
物体が持ち去られたことを検知します。貴重品などの持ち去り行為の検知に利用できます。

検知領域内の物体が持ち去られ、そのまま判定時間を経過すると、持ち去りと判定します。



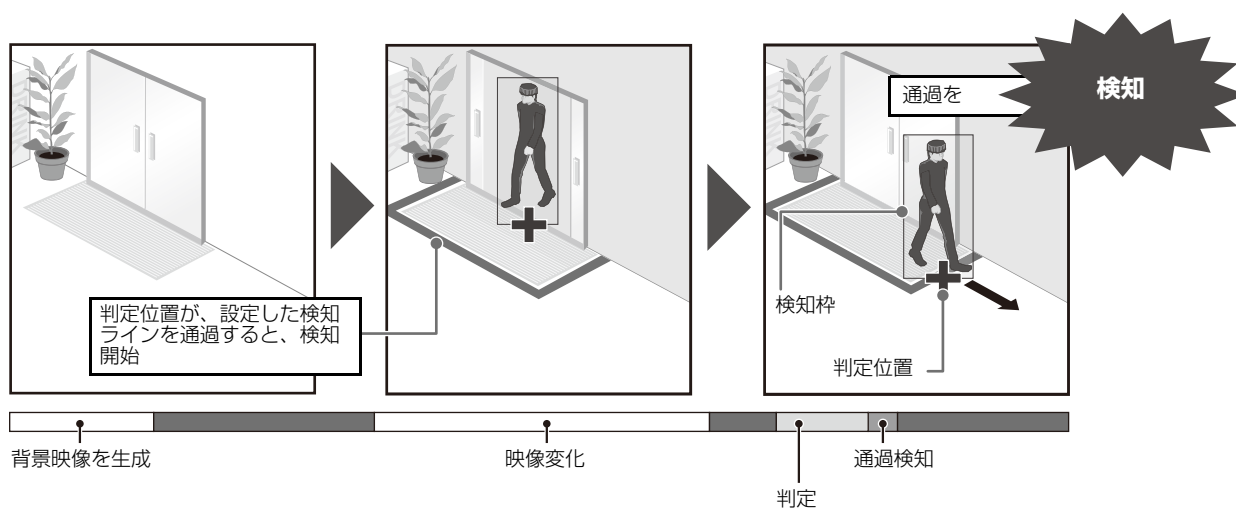
いたずら検知

撮影が妨げられたことを検知します。カメラの向きを変えたり、スプレーなどで映像表示を妨害したりする行為の検知に利用できます。設定した割合より広い領域が物体などで変化し続けると、いたずらと判定します。



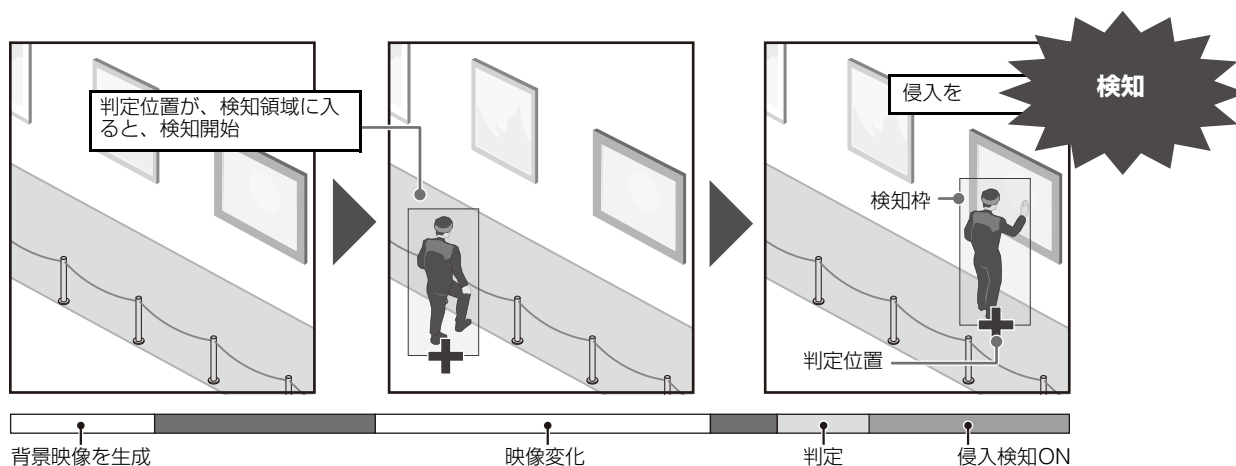
通過検知

人や動いている物体が、指定されたラインを越えたことを検知します。物体の検知枠上の判定位置が検知ラインを越えると、通過と判定します。



侵入検知

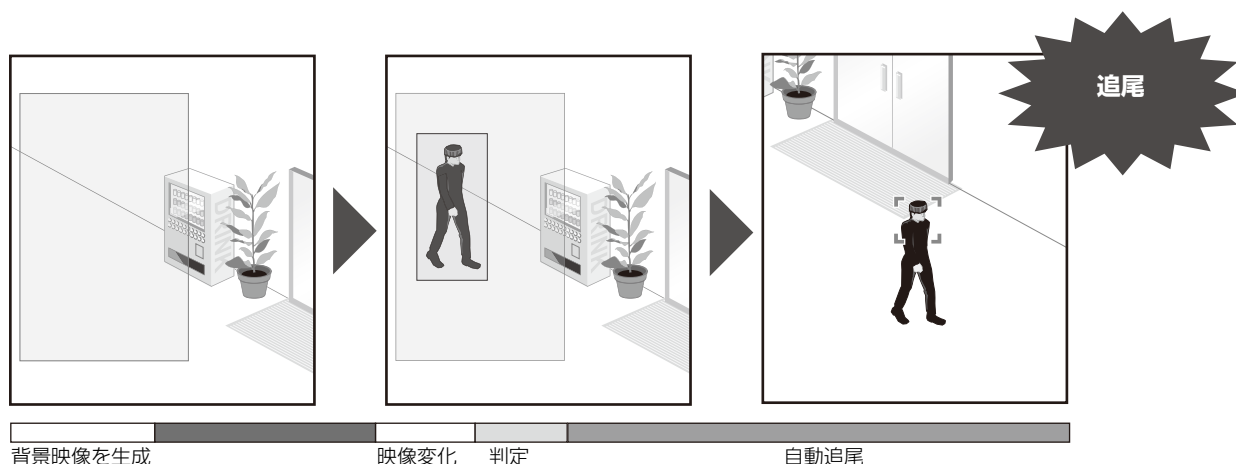
人や動いている物体が指定領域内に入ったことを検知します。美術館などの立ち入り禁止の柵を乗り越えて侵入する行為の検知に利用できます。物体の検知枠上の判定位置が検知領域に入り、判定時間を経過すると、侵入と判定します。



■ 自動追尾とは

R11 R10

検知領域内で動く物体を検知すると、検知した物体をカメラが自動で追尾します。不審者などの行動を監視できます。



■ 音声検知とは

R11 M641 M741

カメラに入力される音声を検知する機能です。2つの検知種別があります。

インテリジェント機能設定ツールではなく、設定ページの [イベント] > [音声検知] (P. 107) で設定します。

[音量検知]：音量レベルが、設定した基準値以上または以下になったことを検知します。

[悲鳴検知]：人の悲鳴や叫び声を検知します。

インテリジェント機能の設定・運用上の注意

- インテリジェント機能を設定するにあたっては、実際にテストを行い、正しく検知/追尾できるか確認してください。
- 画面全体に急激な明暗の変化が発生した場合、最長5分間、意図通りに検知されないことがあります。追尾の場合は、変化が発生した直後に影響を受けます。
- ズーム倍率を高くしてテレ側に設定している場合は、意図通りに検知/追尾できないことがあります。
- インテリジェント機能の再起動中は、検知/追尾が実行されません。
- インテリジェント機能の設定中や動作中にカメラを操作した場合は、[インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。] と表示され、インテリジェント機能が再起動します。
- デイモード/ナイトモードの切り換えが行われると、[インテリジェント機能の再起動中です。しばらくお待ちください。] と表示され、インテリジェント機能が再起動します。
- 設定ページの [基本設定] > [映像設定] > [映像全般] で [映像サイズセット] を変更した場合は、必ずプリセット位置の設定 (VB-R11VE/VB-R11/VB-R10VEのみ) と、インテリジェント機能の設定を変更し、動作の確認を行ってください。設定によっては、インテリジェント機能が動作しない場合があります。

R11 R10

- カメラ操作で画角を変更した場合や、カメラ位置を固定しているプリセットやホームポジションを変更した場合は、インテリジェント機能設定を見直してください。
- カメラ位置固定時で、[検知設定一覧] の [状態] に [有効] な検知設定がある場合、VBビューワーおよびRMでは制御権が取得できなくなります。また、プリセット巡回も実行されなくなります。

■ 苦手被写体

次の被写体は、検知/追尾されなかったり、誤って検知/追尾されたりする場合があります。

- 背景との、明るさや色の違いが少ない物体および部分は、検知/追尾されない場合があります。
- 画面上の小さな物体や変化は、検知/追尾されない場合があります。
- 画面全体や一部の明るさの変化が検知/追尾される場合があります。

- 複数の物体が重なると、検知状態が変化する場合があります。特に、通過が検知できなくなる場合や、検知のタイミングが異なる場合があります。
- 画面内に動体の数が多い場合は、正しく検知/追尾されないことがあります。
- 画面上の動きの少ない物体は、追尾されない場合があります。
- カメラの真下付近にある物体は、追尾が遅れる場合があります。
- 光の反射や照明などで画面の一部が明るい場合、正しく追尾されないことがあります。

プリセットを登録しておく R11 R10

あらかじめカメラのアングルをプリセット登録しておき、映像検知の使用時はカメラをプリセット位置に固定することを強く推奨します。また、対象となる物体が大きく撮影される画角をお勧めします。
プリセットの登録については、「プリセットを登録する」(P. 171)を参照してください。

インテリジェント機能の動作モードを選択する R11 R10

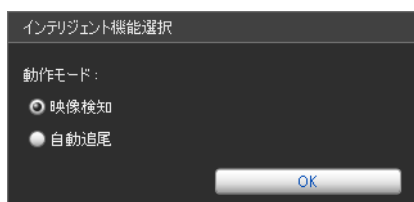
映像検知と自動追尾は、同時には使用できません。どちらを使用するかは、インテリジェント機能設定ツールの起動時に選択します。

メモ

動作モードを変更しても、検知条件の設定値は保存されます。

1 インテリジェント機能設定ツールを起動する (P. 195)

2 [映像検知] または [自動追尾] を選択して、[OK] をクリックする

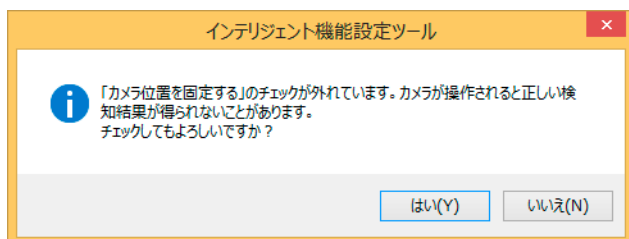


重要

[映像検知] と [自動追尾] は排他です。選択した動作モードのみが機能し、もう一方の設定は無効になります。ただし、無効になった動作モードの設定項目はクリアされませんので、次回、無効になっていた動作モードを選択すると、無効にする前の設定値は残っています (カメラアングルを除く)。

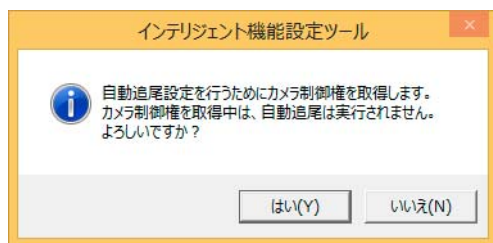
確認画面が表示されます。

[映像検知] の場合



[はい] をクリックすると、起動したインテリジェント機能設定ツールの [カメラ位置を固定する] がチェックされます。[いいえ] をクリックした場合は、映像検知起動後に [カメラ位置を固定する] をチェックしてください。

[自動追尾] の場合



[はい] をクリックすると、カメラ制御権を取得し、自動追尾の設定が行えます。[いいえ] をクリックした場合は、自動追尾起動後にカメラ制御権を取得して、自動追尾設定を行ってください。

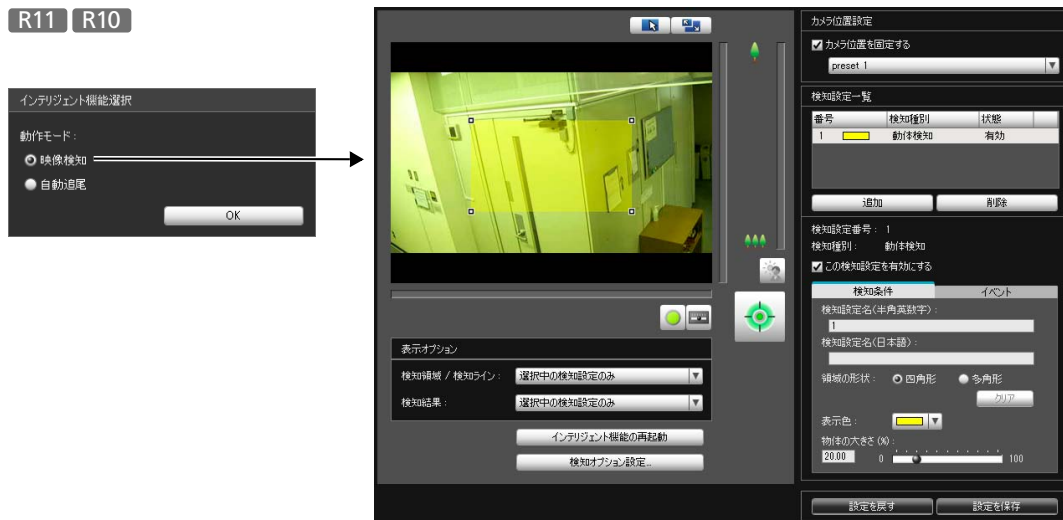
3 選択した動作モードを設定する

[映像検知] を選択した場合、「インテリジェント機能設定ツール –映像検知–」(P. 219) を参照して、映像検知設定を行ってください。

[自動追尾] を選択した場合、「インテリジェント機能設定ツール –自動追尾–」(P. 234) を参照して、自動追尾設定を行ってください。

インテリジェント機能設定ツール — 映像検知 —

映像検知では、検知したい種別を選び、映像変化に対し、検知する領域などを、映像で確認しながら設定します。また、変化を検知したときにどのような動作（メールで知らせる、映像を録画する、カメラに接続したスピーカーから音声を出すなど）を行うかを設定します。



M641 M640 M741 M740



映像検知設定の流れ

映像検知の基本的な設定方法は、次のとおりです。検知種別ごとの詳しい設定は、「検知条件の設定（[検知条件] タブ）」（P. 222）を参照してください。

1 [カメラ位置設定] の [カメラ位置を固定する] をチェックし、プリセットを選択する R11 R10

プリセットの設定方法については、「プリセットを登録する」（P. 171）を参照してください。

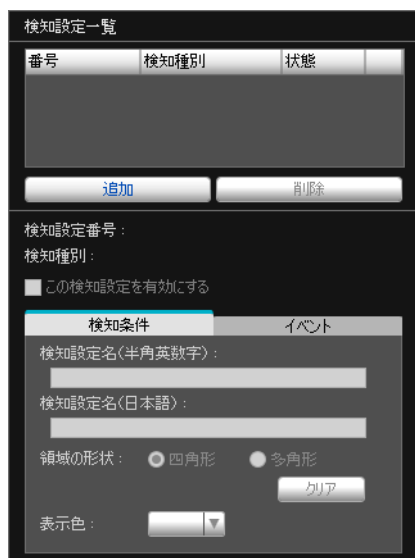


メモ

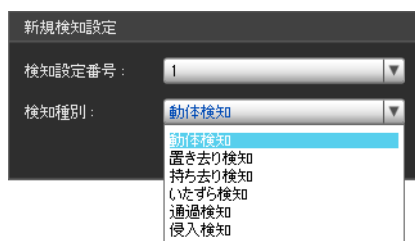
選択できるプリセットは、次の条件を満たしたものです。

- 可視範囲内に設定されている
- [プリセット登録] タブで、パン・チルト・ズーム値が設定されている (空ではない) (P. 172)

2 [検知設定一覧] の [追加] をクリックする



3 追加する検知設定に付ける [検知設定番号] (1～15) と、[検知種別] を選択する



メモ

検知設定は、最大15個登録できます。

4 [OK] をクリックする

[検知設定一覧] に追加した検知設定と [検知条件] タブが表示されます。

5 [検知設定を有効にする] をチェックする

検知設定を無効にする場合は、チェックを外してください。



6 検知条件を設定する

映像表示部や [検知条件] タブで設定します (P. 222)。検知条件は、検知種別によって異なります。

The screenshot shows the 'Detection Settings' window with the 'Detection Conditions' tab selected. The window has a title bar '検知設定一覧' and a table with columns '番号', '検知種別', and '状態'. The table contains one row with '1', '動体検知', and '有効'. Below the table are '追加' and '削除' buttons. The '検知設定番号: 1' and '検知種別: 動体検知' are displayed. A checkbox 'この検知設定を有効にする' is checked. The '検知条件' tab is active, showing fields for '検知設定名(半角英数字): 1', '検知設定名(日本語):', '領域の形状: 四角形' (selected), '多角形', '表示色: [red box]', and '物体の大きさ (%): 20.00' with a slider from 0 to 100. A 'クリア' button is also present.

7 イベントを設定する

映像検知したときの動作を [イベント] タブで設定します (P. 231)。

The screenshot shows the 'Detection Settings' window with the 'Events' tab selected. The window has the same title bar and table as the previous screenshot. The '検知設定番号: 1' and '検知種別: 動体検知' are displayed. The 'この検知設定を有効にする' checkbox is checked. The 'イベント' tab is active, showing a list of actions: 'ONイベント時の動作' (checked), 'OFFイベント時の動作', '検知あり状態時の動作', 'メール通報', '映像記録', 'ONイベント時の音声再生' (checked), 'OFFイベント時の音声再生', '再生音名: [dropdown]', '音量: 50' with a slider from 1 to 100, and 'ONイベント時の外部デバイス出力' (checked).

8 [設定を保存] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

メモ

設定をやり直す場合は、保存前に [設定を戻す] をクリックします。設定した内容を破棄して、カメラに保存されている設定内容に戻します。

9 複数の検知設定を登録する場合は、2～8を繰り返す

10 検知結果を確認する

設定した検知設定の検知状況は、映像表示部や、イベント表示パネル (P. 238) で確認できます。

検知条件を設定する ([検知条件] タブ)

検知条件を、検知種別ごとに映像表示部で操作、確認しながら設定します。

重要

検知条件の設定は、できる限り実際の運用に近い状態で設定することをお勧めします。

■ 各検知種別で共通の設定



(1) [検知設定名(半角英数字)]/[検知設定名(日本語)]

検知設定名を64文字以内で入力します。[検知設定名(半角英数字)] は必ず入力してください。

[検知設定名(日本語)] を入力した場合、イベント表示パネル (P. 238) には [検知設定名(日本語)] が優先して表示されます。

(2) [領域の形状]

検知領域を、四角形で設定するか、自由な形状の多角形で設定するか選択します。

メモ

いたずら検知の [領域の形状] は選択できません。

[四角形] での設定方法

映像表示部に表示される四角形を、移動・リサイズ・変形して、検知領域を設定します。



領域をドラッグして移動、頂点をドラッグしてリサイズできます。

[多角形] での設定方法

映像表示部でクリックした場所に多角形の頂点が設定されます。

順番に頂点を設定し、最初の頂点をもう一度クリックするか、最後の頂点でダブルクリックすると、多角形の検知領域が設定されます。



領域をドラッグして移動、頂点をドラッグして変形できます。
最大32頂点の多角形の領域を指定できます。

メモ

検知領域を設定した後に、形状を変更すると、設定されていた領域が削除され、新しい形状の設定開始に変わります。

[クリア]

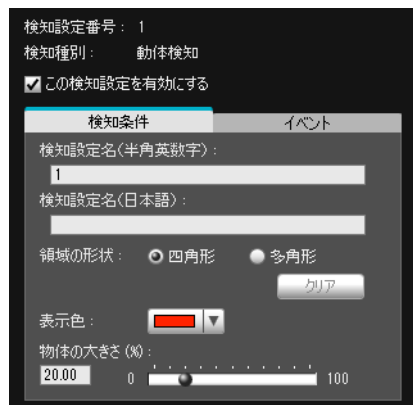
[多角形] で設定した検知領域を削除します。

(3) [表示色]

検知領域と検知ラインの表示色を選択します。

■ 動体検知の設定方法

動いている物体を検知したい領域を、検知領域に設定します。

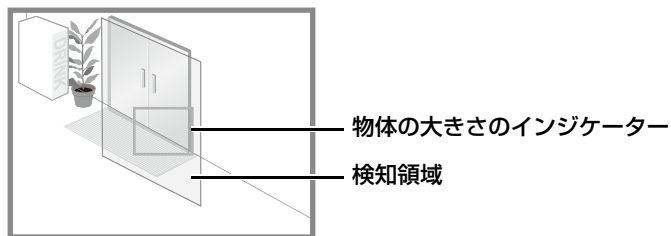


1 [四角形] または [多角形] を選択する

2 映像表示部で、動く物体を検知したい領域を描画する (P. 222)

3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が動けば動体検知と判定するかを設定します。
数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケータ一棒が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。

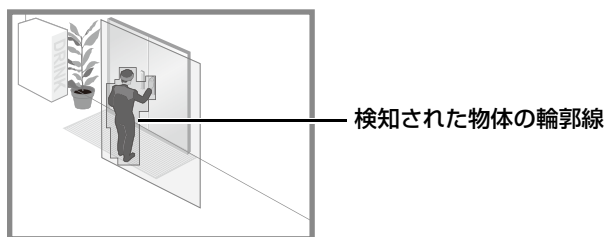


動体検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が小さい場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が大きい場合は、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



メモ

動体検知の検知領域内で置き去りまたは持ち去りが行われると、動体検知は「検知あり」状態になります。

置き去り検知の設定方法

物体が置かれたことを検知したい領域を、検知領域に設定します。

- 1 [四角形] または [多角形] を選択する
- 2 映像表示部で、置き去りにされた物体を検知したい領域を描画する (P. 222)
- 3 [物体の大きさ(%)] で、検知する物体の大きさを設定する

手順2で設定した検知領域内で、どの程度の大きさの物体が置き去りにされると置き去り検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケータ棒が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



物体の大きさのインジケータ

検知領域

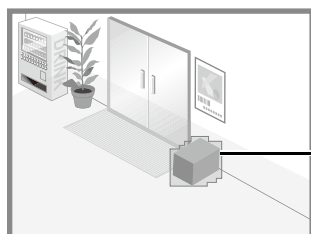
4 [判定時間(秒)]で、物体が置かれてから置き去り検知と判定するまでの経過時間を設定する

置き去り検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] を満たさない場合、輪郭線は白の線で表示されます。

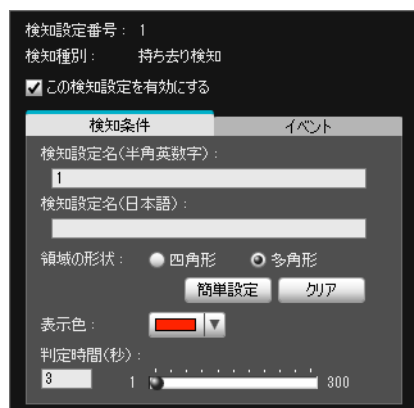
[物体の大きさ (%)] と [判定時間 (秒)] の両方を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



置き去り検知された物体の輪郭

持ち去り検知の設定方法

持ち去りを検知したい物体を検知領域に設定します。検知したい物体が複数ある場合は、それぞれに対し持ち去り検知を設定してください。



1 [四角形] または [多角形] を選択する

2 映像表示部で、持ち去られたくない物体の輪郭に沿って領域を描画する (P. 222) または [簡単設定] をクリックし、次の手順で領域を設定する

持ち去りを検知したい物体を、いったん映像表示部の外へ出す



[インテリジェント機能の再起動] (P. 239) をクリックする

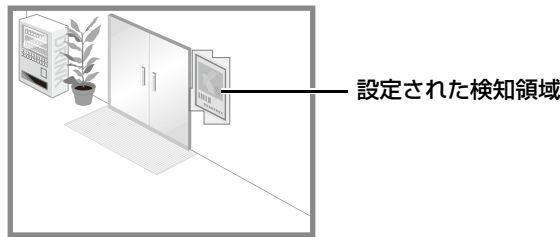
背景画像が生成されます。

▼
持ち去りを検知したい物体を元の位置に戻す

▼
[簡単設定] をクリックする

物体の輪郭線が最大32頂点の多角形で描画されます。

複数の物体を検出した場合は、面積が最も大きい物体の輪郭線が描画されます。



▼
再度 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする

重要

持ち去り検知の検知領域は、対象物の外形に沿って正確に設定してください。対象物の影や隣接する物体の影響で、対象物が実際より大きな物体として認識され、持ち去りを検知できない場合があります。その場合は、対象物と認識された輪郭に沿って、検知領域を再設定してください。

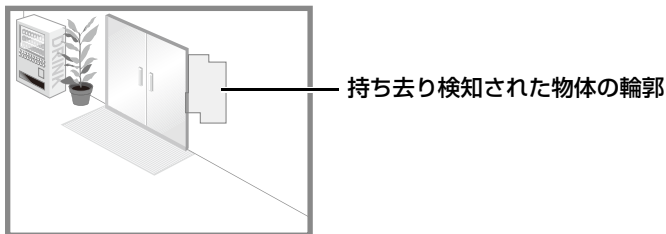
3 [判定時間(秒)] で、物体が持ち去られてから持ち去り検知と判定するまでの経過時間を設定する

持ち去り検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

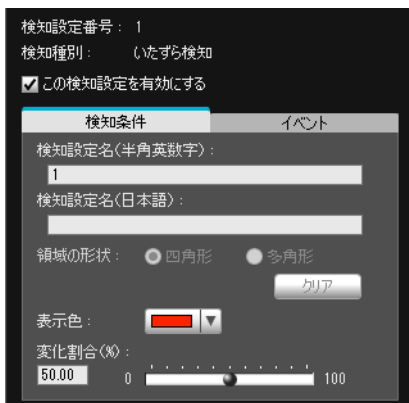
[判定時間(秒)] に達しない場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[判定時間(秒)] を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



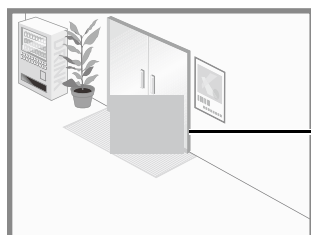
■ いたずら検知の設定方法

[いたずら検知] の場合、映像表示部全体が検知領域になります。領域は変更できません。



[変化割合(%)] で、映像表示部全体に対し、どの程度の割合の画面変化があると、いたずら検知と判定するかを設定します。

数値またはスライダーを変更すると、映像表示部全体に占める割合を表すインジケータ棒が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、確認しながら設定してください。



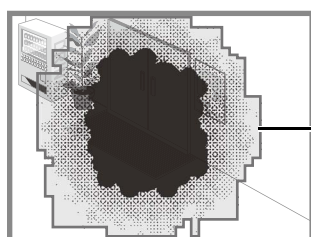
変化割合のインジケータ

いたずら検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[変化割合(%)] 未満の大きさの場合、輪郭線は白の線で表示されます。

[変化割合(%)] 以上の面積で映像が妨げられた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



いたずら検知された物体の輪郭

メモ

いたずら検知の変化割合を変更した直後、および他の検知設定からいたずら検知が設定された検知設定に切り換えた直後の3秒間は、検知あり状態になりません。

通過検知の設定方法

動体が通過する検知ラインを、その通過する方向と物体の判定位置で設定します。



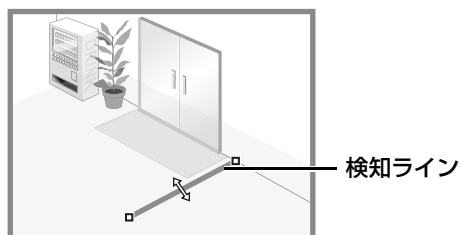
1 次の手順で、映像表示部に通過検知ラインを設定する

映像表示部で、検知ラインの始点とする位置をクリックする

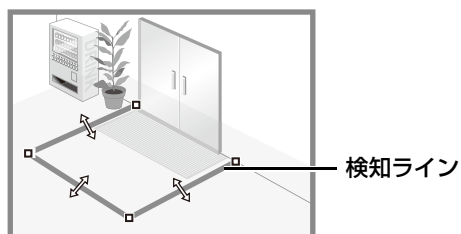


別の場所をクリックする

始点と次にクリックした点の間に検知ラインが設定されます。



折れ線の検知ラインを設定する場合は、折れ線の頂点を順番にクリックする



最大32頂点の折れ線で検知ラインを設定できます。



すでに設定したいいずれかの頂点をクリックする

検知ラインが確定されます。

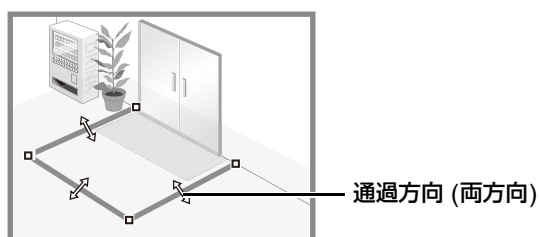
メモ

- 検知ラインを確定した後も、各頂点をドラッグして検知ラインの形状を変更したり、頂点間のラインをドラッグして検知ライン全体を移動したりできます。
- [検知ラインのクリア] をクリックすると、検知ラインはクリアされます。

2 [通過方向] で、検知ラインに対して動体が通過する方向を選択する

選択した通過方向と同じ方向で動体が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。

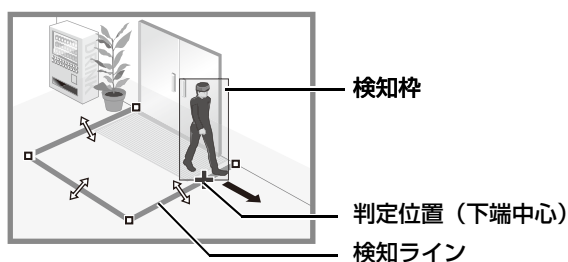
選択した通過方向は、映像表示部の検知ライン上にプレビュー表示されます。



3 [判定位置] で、動体が検知ラインを通過する際に、動体のどの位置で通過と判定するかを選択する

ここで選択した判定位置が検知ラインを越えたときに、「通過した」と検知されます。

判定位置は、動体の検知枠に十字の記号で表示されます。

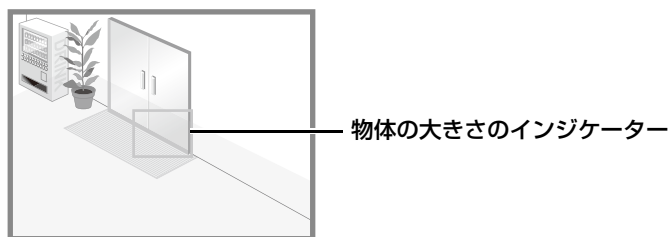


4 [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する

画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。

動体が、[物体の大きさ(%)] の設定値を超えた場合、通過検知対象となります。

数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケータ枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



メモ

通過検知の [物体の大きさ(%)] で指定できる割合は、30%までです。

通過検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、白い輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] を満たした動体の [判定位置] が、[通過方向] の方向で検知ラインを通過したとき、輪郭線が検知ラインと同じ色で表示され、「検知あり」状態となります。

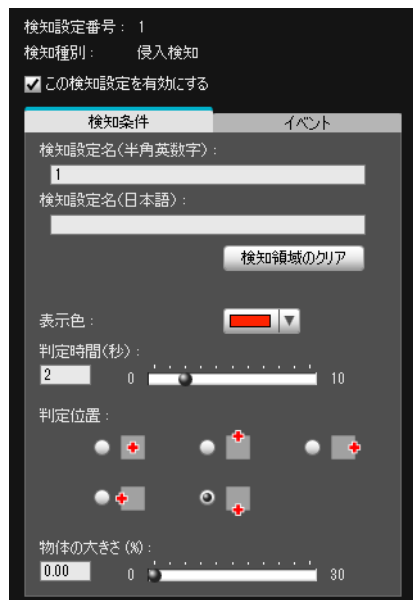
通過検知イベントが通知されるのは、通過の瞬間だけです。イベント時の動作を設定する際はご注意ください。

重要

通過検知の設定後は、検知テストを行って、動体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

■ 侵入検知の設定方法

侵入を検知したい領域を、検知領域に設定します。

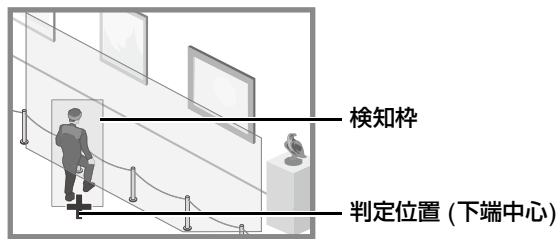


1 映像表示部で、侵入する動体を検知したい領域を描画する (P. 222)

2 [判定時間(秒)] で、動体が侵入してから侵入検知と判定するまでの経過時間を設定する

3 [判定位置] で、動体が検知領域に侵入する際に、動体のどの位置で侵入と判定するかを選択する

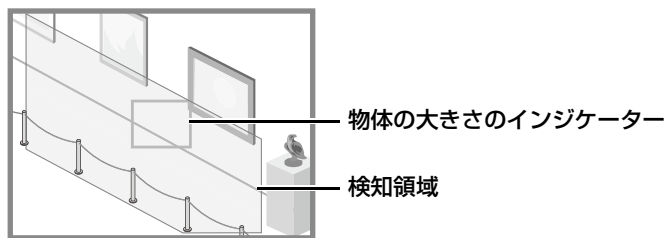
判定位置は、動体の検知枠に十字の記号で表示されます。



4 [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する

画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。

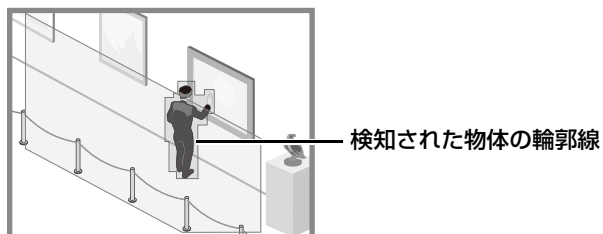
数値またはスライダーを変更すると、物体の大きさを表すインジケータ枠が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



侵入検知の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] を満たした動体の [判定位置] が検知領域に入り、[判定時間(秒)] を超えた場合、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



重要

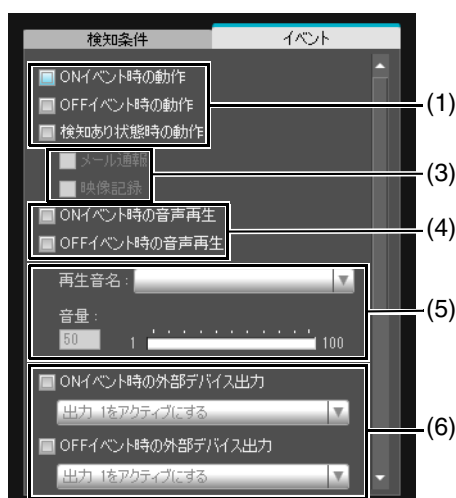
侵入検知の設定後は、検知テストを行って、動体の検知枠が継続して表示されることを確認してください。

「検知あり」時の動作を設定する ([イベント] タブ)

被写体の変化を検知した際の動作を設定します。

ここでは、[自動追尾] の [イベント] タブも合わせて説明します。

映像検知



自動追尾 R11 R10



(1) 動作のタイミングの指定 (複数指定可能)

[ONイベント時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、(3) で設定した処理を行います。

[OFFイベント時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態が終了したとき、(3) で設定した処理を行います。

[検知あり状態時の動作]

チェックすると、「検知あり」の状態が続く間、(3) で設定した処理を行います。

(2) [自動追尾中の動作] R11 R10

チェックすると、動体を自動追尾している間、(3) で設定した処理を行います。

(3) イベント時の動作の指定 (複数指定可能)

[メール通報]

チェックすると、(1) または (2) で設定したタイミングでメール通報を行います。あらかじめ、設定ページの [映像記録] > [メール通報] を設定しておく必要があります (P. 102)。

[映像記録]

チェックすると、(1) または (2) で指定したタイミングで映像記録を行います。あらかじめ、設定ページの [映像記録] > [アップロード] または [メモリーカード] > [映像記録設定] を設定しておく必要があります (P. 96)。

(4) 音声再生のタイミングの指定 R11 M641 M741

[ONイベント時の音声再生]

チェックすると、「検知あり」の状態になったとき、(5) で設定した音声を再生します。

[OFFイベント時の音声再生]

チェックすると、「検知あり」の状態が終了したとき、(5) で設定した音声を再生します。

(5) 再生音の設定 R11 M641 M741

[再生音名]

再生する音声を選択します。再生音は、あらかじめ、設定ページの [映像と音声] > [音声設定] の [再生音ファイル登録] (P. 88) で登録しておく必要があります。

[音量]

再生音の音量を設定します。

(6) 外部デバイス出力の動作 R11 M641 M741

[ONイベント時の外部デバイス出力]

「検知あり」の状態になったときに、外部デバイスへの出力を開始または停止する場合にチェックし、出力先 (出力1または2) と動作 (アクティブまたはインアクティブ) を選択します。

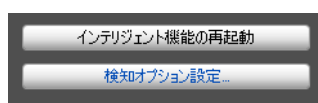
[OFFイベント時の外部デバイス出力]

「検知あり」の状態が終了したときに、外部デバイスへの出力を開始または停止する場合にチェックを入れ、出力先 (出力1または2) と動作 (アクティブまたはインアクティブ) を選択します。

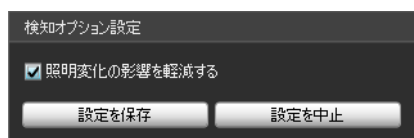
照明変化の影響を軽減する (検知オプション設定)

室内照明の点灯・消灯など、画面全体の照明が急激に変化する場合、インテリジェント機能が働かないことがあります。検知オプションの設定を変更することで、この現象を軽減することができます。

1 [検知オプション設定] をクリックする



2 [照明変化の影響を軽減する] をチェックする



3 [設定を保存] をクリックする

設定が保存され、インテリジェント機能が再起動されます。

重要

- インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。
- [照明変化の影響を軽減する] を設定しても、ご使用の環境によっては正しく働かないことがあります。また急激な明暗の変化が連続する場合も同様です。実際に検知テストを行い、正しく働くかご確認ください。

右クリックメニューについて

映像検知の設定画面上で右クリックすると、メニューが表示され、次の機能が使用できます。右クリック時に使用できない機能は、グレー表示されます。

メモ

自動追尾では、右クリックメニューは表示されますが、機能は使用できません。

[検知領域/検知ラインをコピー]

設定中の検知設定の検知領域/検知ラインを、クリップボードにコピーします。

[検知領域/検知ラインを貼り付け]

クリップボードにコピーされている検知領域/検知ラインを、設定中の検知設定に貼り付けます。いたずら検知には貼り付けられません。

検知ラインは、コピー元と貼り付け先がどちらも通過検知の場合のみ可能です。

[検知領域/検知ラインをクリア]

設定中の検知設定の検知領域/検知ラインを削除します。いたずら検知の検知領域は、削除できません。

[検知条件の設定値をコピー]

設定中の検知設定の検知条件を、クリップボードにコピーします。

[検知条件の設定値を貼り付け]

クリップボードにコピーされている検知条件を、設定中の検知設定に貼り付けます。コピー元と貼り付け先の検知種別が同一の場合のみ可能です。

[イベントの設定値をコピー]

設定中の検知設定のイベント設定を、クリップボードにコピーします。

[イベントの設定値を貼り付け]

クリップボードにコピーされているイベント設定を、設定中の検知設定に貼り付けます。

インテリジェント機能設定ツール

ー自動追尾ー

R11 R10

自動追尾では、動体を検知する領域などを、映像で確認しながら設定します。検知した動体は、映像表示部の中央付近に表示されるようにカメラ制御します。また、検知時に、どのような動作（メールで知らせる、映像を録画する、カメラに接続したスピーカーから音声を出力するなど）を行うかも設定できます。



自動追尾を設定する

自動追尾の設定方法は、次のとおりです。

- 1 自動追尾を設定するために、カメラの制御権を取得する (P. 147)
- 2 [カメラ位置設定] の [カメラの初期位置を指定する] をチェックし、プリセットを選択する

プリセットの設定方法については、「プリセットを登録する」(P. 171) を参照してください。



[カメラの初期位置を指定する] をチェックすると、選択したプリセット位置にカメラアングルが移動します。また、自動追尾終了後も選択されているプリセット位置にカメラアングルが移動します。

重要

あらかじめカメラアングルをプリセット設定しておき、自動追尾の開始時および終了時に、指定したプリセット位置にカメラを向けるように設定することを推奨します。

メモ

選択できるプリセットは、次の条件を満たしたものです。

- 可視範囲内に設定されている
- [プリセット登録] タブで、[ビューワーで使用する] に設定されている (P. 172)
- [プリセット登録] タブで、パン・チルト・ズーム値が設定されている (空ではない) (P. 172)

3 映像表示部で、検知領域を設定する

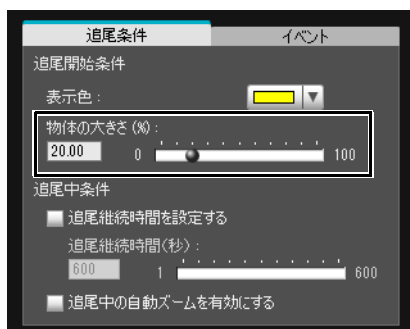
検知領域は、四角形で設定します(P. 222)。



メモ

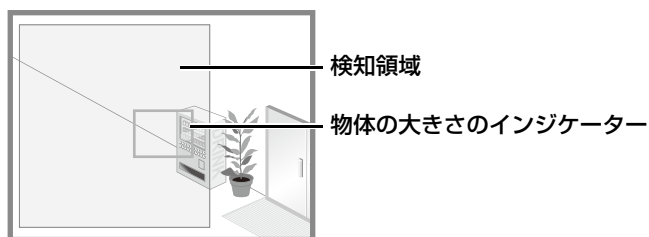
検知領域は、デフォルトで表示される四角形の範囲内での設定となります。映像表示部の端には設定できません。

4 [追尾条件] タブの [物体の大きさ(%)] で、検知する動体の大きさを設定する



画面全体に対する、動体の大きさの割合を設定します。

数値またはスライダーを変更したり、検知領域を変更したりすると、物体の大きさを表すインジケータ一棒が、映像表示部中央に1秒間表示されるので、大きさの割合を確認しながら設定してください。



5 自動追尾を続ける時間を設定する場合は、[追尾継続時間を設定する] をチェックし、[追尾継続時間(秒)] で時間を設定する

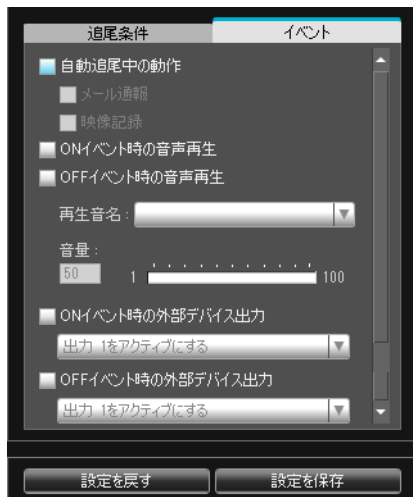
被写体が「検知あり」となってから、指定時間、カメラは動体を追尾します。

6 追尾中の動体を自動的にズームする場合は、[追尾中のズームを有効にする] をチェックする

チェックした場合、動体をズームインして自動追尾します。

7 [イベント] タブで、検知時の動作を設定する

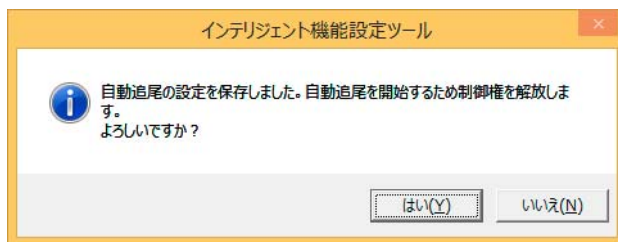
設定内容については、「[検知あり] 時の動作を設定する ([イベント] タブ)」(P. 231) を参照してください。



8 [設定を保存] をクリックする

設定した内容がカメラに保存されます。

9 表示されたメッセージで、[はい] をクリックする



制御権を取得したままだと、追尾開始条件に合った被写体を検知しても、「検知あり」状態としてONイベントは発生しますが、カメラが動体を自動追尾しません。

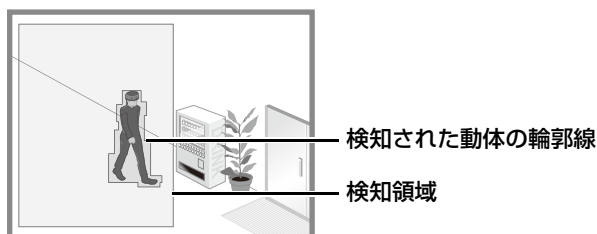
カメラが動体を自動追尾するには、制御権を解放する必要があります。

自動追尾の検知状態

動きが検出されたすべての物体に、輪郭線が表示されます。

[物体の大きさ(%)] より動体が小さい場合、輪郭線は白の線で表示されます。

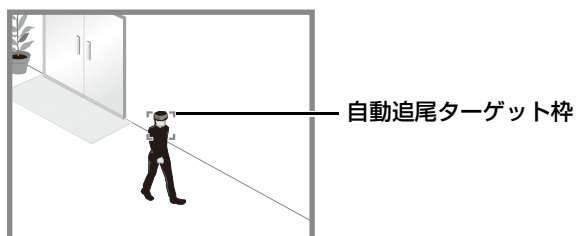
[物体の大きさ(%)] より動体が大きい場合は、輪郭線が検知領域と同じ色で表示され、「検知あり」状態であることを表します。



「検知あり」状態になると自動追尾が開始され、追尾中のターゲットに矩形枠が表示されます。

自動追尾中は、ターゲットが常に画面中央に表示されるように、パン・チルト・ズームを制御します。

また、[追尾中のズームを有効にする] をチェックした場合、ターゲットをズームインして自動追尾します。



自動追尾では、最初に検知した動体の追尾を開始します。追尾中に [追尾開始条件] を満たした動体がほかにあっても検知しません。

重要

- 自動追尾の設定後はテストを行い、対象が意図通りに検知され続けるかを確認してください。
- 追尾中は、画面中心から近くて大きいものが優先されます。
- 自動追尾では、動体そのものを認識しているわけではありません。そのため、2つの物体がすれ違う場合や動体が多数ある場合は、目的の対象を追尾できないことがあります。
- インテリジェント機能設定ツールでカメラ制御権を取得していると、カメラは被写体を追尾しません。カメラが自動追尾を行うには、インテリジェント機能設定ツールでカメラ制御権を解放する必要があります。
- 追尾中は、プリセット巡回は開始されません。
- 可視範囲を超えた追尾はできません。
- プライバシーマスクが設定されている領域も、自動追尾の検知対象となります。

自動追尾の打ち切りについて

次の場合は、自動追尾が打ち切られます。

- 次の条件によって自動追尾のカメラ制御権が奪われた場合
 - ビューワーでカメラ制御権を取得した
 - 外部デバイス入力、音量検知によるイベント発生によりプリセットが移動した **R11**
 - パノラマ画像の撮影が開始された
 - 自動追尾のビューワー操作部でカメラ制御権を取得した
- 設定した [追尾継続時間] が経過した場合
- 動体を見失って追尾を継続できない場合 (例：追尾対象の動きがなくなった、追尾対象が別の物体の陰に隠れた、追尾対象が小さくなり過ぎた、追尾対象の動きに追従できずに対象が画面外に出たなど)
- インテリジェント機能が再起動した場合

追尾が打ち切られると、追尾OFFイベントが発生し、カメラが初期位置に戻ります ([カメラの初期位置を指定する] をチェックしている場合)。カメラ制御権が奪われた場合は、カメラ制御権が解放された後に移動します。

初期位置に戻った後に、追尾開始条件が有効化されます。

自動追尾を無効化するには

インテリジェント機能設定ツールを起動し直して、インテリジェント機能選択画面で [映像検知] を選択する (P. 217) と、自動追尾が無効になります。

インテリジェント機能設定ツール ー表示オプションと共通操作ー

映像検知と自動追尾の両方に共通している機能について説明します。

イベントの状態を表示する

[イベント表示] ボタンをクリックすると、イベント表示パネルが表示され、インテリジェント機能の検知状況をアイコンで確認できます。

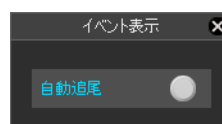


表示される情報は、管理者ビューワーのイベント表示パネルの [インテリジェント機能] と同じです(P. 186)。

検知設定のイベント表示



自動追尾のイベント表示 R11 R10



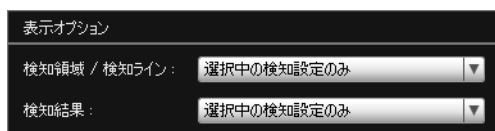
メモ

検知設定をカメラに保存していない場合、現在選択中の検知設定または自動追尾についてのみの検知状況が表示されます。

検知領域/検知ライン、検知結果の表示を設定する (表示オプション)

検知領域や検知ライン、検知結果を、映像表示部に表示するかしないか設定できます。

■ 映像検知の場合



[検知領域/検知ライン] と [検知結果] のいずれも、次の設定値を選択できます。

[選択中の検知設定のみ]

[検知設定一覧] で選択している検知設定の検知領域 / 検知ラインまたは検知結果のみ表示します。

[すべての検知設定]

[検知設定一覧] のすべての検知設定の検知領域/検知ラインまたは検知結果を表示します。

[同じ検知種別の検知設定]

[検知設定一覧] で選択している検知設定と同じ種別の検知設定の検知領域/検知ライン、または検知結果を表示します。

[表示しない]

すべての検知領域/検知ラインまたは検知結果を表示しません。

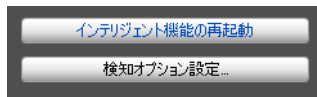
■ 自動追尾の場合 R11 R10

[検知領域] と [検知結果] のいずれも、[表示する] / [表示しない] を選択できます。

インテリジェント機能を再起動する

設定中に背景の映像が変化してしまったときや、設定どおりの検知結果にならない場合は、インテリジェント機能を再起動してください。

- 1 カメラの制御権を取得していない場合は、[カメラ制御権取得/解放] ボタンをクリックして取得する
- 2 [インテリジェント機能の再起動] をクリックする



重要

インテリジェント機能の再起動には数十秒かかります。再起動中は、検知が実行されません。

ログビューワー

カメラに記録されている動作状況のログを閲覧するビューワーです。ログをカメラからダウンロードして、ファイルに保存することもできます。



ログビューワーの表示画面

ログファイルをダウンロードする

ログビューワーを起動すると、自動的にカメラ本体のメモリから最新のログファイルがダウンロードされ、一覧表示されます。

メモリーカードからログファイルを読み込む場合や、新たにログファイルの一覧を取得する場合は、次の手順でダウンロードします。

1 [ダウンロード] をクリックする



[ダウンロード] ダイアログが表示されます。

2 ダウンロード元を [本体メモリ] または [メモリーカード] から選択する



本体メモリまたはメモリーカードにあるログファイルが一覧表示されます。

3 ログファイルを選択し、[ダウンロード] をクリックする

選択したログファイルがダウンロードされ、ログの読み込み元が次のように表示されます。



- [カメラ(本体メモリー)]：カメラ内蔵メモリーの場合
- [カメラ(メモリーカード)]：メモリーカードの場合
- ファイル名：PCに保存されているファイルの場合

ログを閲覧する

ログには次の内容が表示されます。

[コード]

ログメッセージのコード (P. 260) が表示されます。

ログコードとともに、そのレベルに応じた3種類のアイコンが表示されます。

ログコードなしのログには、アイコンは表示されません。



エラーレベル



警告レベル



情報レベル

[日時]

ログの発生日時が表示されます。

[メッセージ]

ログのメッセージが表示されます。



メモ

- Windowsのコントロール パネルでの [地域と言語] の設定に関わらず、数値の小数点は常に「.」で表示されます。また、日付は「yyyy/mm/dd」または「mm/dd」、時刻は「hh:mm:ss」の形式で表示されます (y、m、d、h、m、s はそれぞれ、年、月、日、時、分、秒を表します)。
- ログビューワーではログの削除はできません。

■ ログをファイルに保存する/保存したファイルを開く

ログファイルは、テキストファイルでPCに保存できます。また、PCに保存されているログファイルを、ログビューワーに読み込むことができます。

PCに保存する

1 [ローカル ファイルに保存] をクリックする



[名前を付けて保存] ダイアログが表示されます。

2 保存する場所を選択し、[保存] をクリックする

PCから読み込む

3 [ローカル ファイルを開く] をクリックする



[ファイルを開く] ダイアログが表示されます。

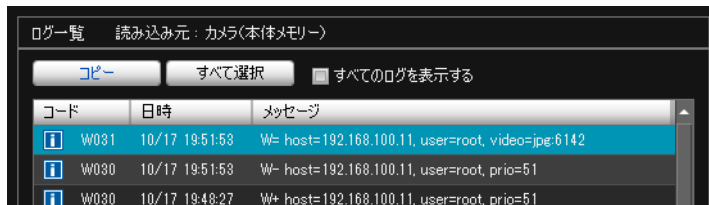
4 読み込むログファイルを選択し、[開く] をクリックする

■ ログデータをコピーする

ログデータをクリップボードにコピーします。

1 コピーしたいログをクリックして選択する

2 [コピー] をクリックする



■ ログを検索する

1 [検索] の [検索する文字列] に、検索したい文字列を入力する



2 [検索] をクリックする

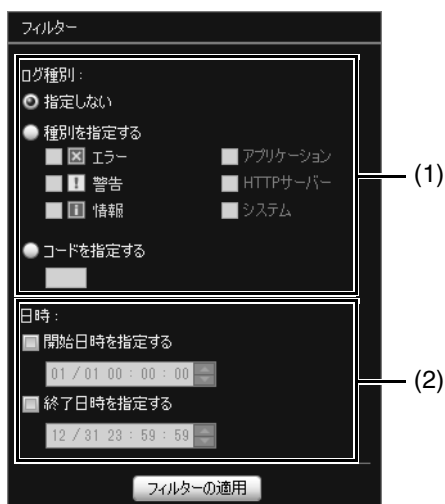
検索文字列を含むログが見つかったと、そのログが選択された状態で表示されます。

[前へ] / [次へ] をクリックすると、上または下のログを検索し、見つかったログの行が選択された状態で表示されます。

■ 条件でログを選別して表示する

ログの種別、コード、日時でフィルタリングし、必要な情報だけを表示できます。

1 [フィルター] で条件を設定する



(1) [ログ種別]

[指定しない]

フィルタリングしません。

[種別を指定する]

ログのレベルでフィルタリングする場合は、[エラー]、[警告]、[情報] のレベルをチェックします。

ログを出力したモジュールでフィルタリングする場合は、[アプリケーション]、[HTTPサーバー]、[システム] をチェックします。

[アプリケーション]、[HTTPサーバー]、[システム] はログメッセージ一覧 (P. 260) に対応しています。

[コードを指定する]

ログコードでフィルタリングします。入力された文字を含むコードのログのみを表示します。たとえば、「A0」と入力した場合、コードの先頭が「A0」のログを表示します。

(2) [日時]

[開始日時を指定する]

チェックして日時を入力すると、指定された日時以降に発生したログが表示されます。

[終了日時を指定する]

チェックして日時を入力すると、指定された日時以前に発生したログが表示されます。

2 [フィルターの適用] をクリックする

設定した条件に合致するログのみ表示されます。



重要

次の場合は、本体メモリーに保存されているログが消去されます。

- 設定ページの [メンテナンス] > [表示と実行] の [再起動] および [初期設定に戻す] を実行した場合
- カメラのリセットスイッチで工場出荷設定に戻した場合

録画映像ユーティリティ

カメラに挿入されているメモリーカードに記録された映像を、閲覧・管理するユーティリティです。記録されている映像の一覧表示、再生や削除、PCへのダウンロードなどの操作ができます。



メモ

メモリーカードに大量の映像ファイルを記録すると、録画映像ユーティリティで映像一覧を表示する際に、ファイル数に比例して時間がかかるようになります。[映像の自動削除]で保存期間を短く設定したり、録画映像ユーティリティで定期的に手動で削除するなど、不要な映像ファイルはできる限り削除するようにしてください。

また、メモリーカードに記録する映像フォーマットにH.264を指定すると、JPEGで記録するときよりも映像ファイル数を抑えることができます。

映像一覧を操作する

映像一覧の表示内容について

(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ヘッダー
日時	映像フォーマット	録画種別	カメラ内の映像	ダウンロード状態	
2014/10/08 18:00:00 - 18:59:59	JPEG	手動	有	ダウンロード済み	
2014/10/08 18:00:00 - 18:59:59	H.264	手動	有	ダウンロード済み	
2014/10/17 19:00:00 - 19:59:59	JPEG	手動	有	未ダウンロード	

メモ

各項目のヘッダーをクリックすると、クリックした項目の表示順 (昇順・降順) が変わります。

(1) [日時]

映像の録画日と、時間帯が表示されます。

(2) [映像フォーマット]

録画された映像のフォーマット ([JPEG] または [H.264]) が表示されます。

(3) [録画種別]

録画された映像の種別が表示されます。

- [アップロード]：カメラからのアップロードに失敗した映像
- [手動]：手動録画した映像
- [タイマー]：タイマーにより録画した映像
- [イベント]：イベントの発生により録画した映像

- [録画ストリーム]：RM録画ストリーム使用時の映像配信に失敗した映像
- [ONVIF]：ONVIFで録画された映像

(4) [カメラ内の映像]

メモリーカードに映像が残っているかどうかが表示されます。

映像のダウンロード後に、メモリーカードから映像を削除すると、[無]が表示されます。

(5) [ダウンロード状態]

映像のダウンロード状態 ([ダウンロード済み]、[未ダウンロード]、[一部ダウンロード済み]) が表示されます。

■ 最新の状態に更新する

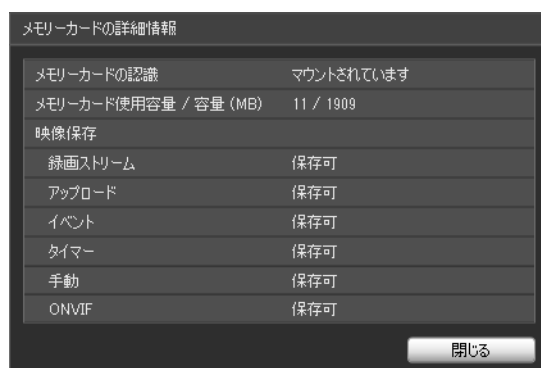
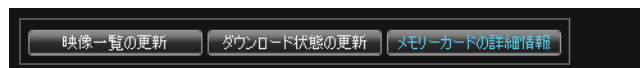
[映像一覧の更新] をクリックすると、映像一覧が最新の情報に更新されます。

[ダウンロード状態の更新] をクリックすると、映像一覧のダウンロード状態の表示が、最新の状態に更新されます。



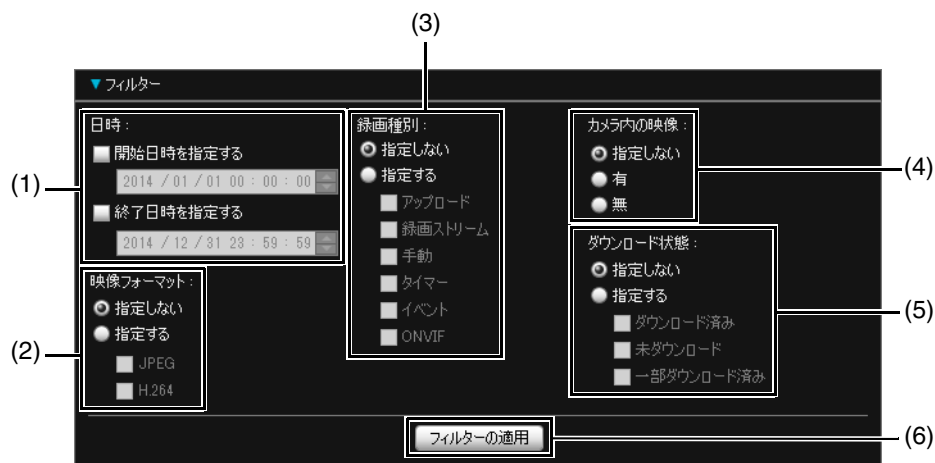
■ メモリーカードの情報を表示する

[メモリーカードの詳細情報] をクリックすると、カメラに挿入されているメモリーカードの情報が表示されます。



■ 映像一覧に表示する映像を絞り込む

[フィルター] で、映像一覧の表示を必要な映像だけに絞り込むことができます。



(1) [日時]

[開始日時を指定する]

チェックして日時を入力すると、指定された日時以降に録画された映像が表示されます。

[終了日時を指定する]

チェックして日時を入力すると、指定された日時以前に録画された映像が表示されます。

(2) [映像フォーマット]

[指定する] を選択し、表示させたい映像の録画フォーマットをチェックします (複数選択可能)。

(3) [録画種別]

[指定する] を選択し、表示させたい映像の録画種別をチェックします (複数選択可能)。

(4) [カメラ内の映像]

メモリーカード内の映像の有無で絞ります。

(5) [ダウンロード状態]

[指定する] を選択し、表示させたい映像のダウンロード状態をチェックします (複数選択可能)。

(6) [フィルターの適用]

クリックすると、設定した条件に合致する映像のみ表示されます。

映像をダウンロードする/削除する

カメラに挿入されているメモリーカードに録画されている映像を、PCにダウンロードします。
メモリーカードの映像やPCにダウンロードした映像の削除もできます。

■ 映像をダウンロードする

1 [ダウンロード先] に、映像を保存するフォルダのパスを入力する

[参照] をクリックして、表示される ダイアログでフォルダを指定できます。



2 映像一覧で、ダウンロードする映像をクリックして選択する

複数の映像を選択場合は、CtrlキーまたはShiftキーを押しながら映像をクリックします。

[すべて選択] ボタンをクリックすると、すべての映像が選択されます。

3 [ダウンロード] をクリックする

指定したフォルダに映像がダウンロードされます。

重要

録画映像ユーティリティは、PCにダウンロードしたファイルとメモリーカードの元の映像の両方を管理対象とするため、PCにダウンロードしたファイルを手動で削除すると、映像一覧に正しく反映されません。手動で削除した場合は、[ダウンロード状態の更新] をクリックして、最新の状態に更新してください。

メモ

ダウンロード先を変更すると、変更前のダウンロード先にあったファイルのダウンロード状態が [未ダウンロード] になります。変更前のダウンロード先にあるファイルを、手動で変更後のダウンロード先のフォルダにコピーすると、ダウンロード状態が [ダウンロード済み] になります。

ダウンロード先として指定したフォルダには、カメラのIPアドレスと同じ名前のフォルダ (たとえば [192.168.100.1]) が自動的に作成され、ダウンロードした映像が保存されます。いったん録画映像ユーティリティを終了してから、PCのエクスプローラーなどで変更前と変更後の各フォルダを参照し、カメラのIPアドレスと同じ名前のフォルダの内容をコピーしてください。

コピー後、再度録画映像ユーティリティを起動し、[ダウンロード状態の更新] をクリックすると、手動でコピーしたファイルが映像一覧に表示されます。

ダウンロード先のフォルダの構成とファイルの命名ルールについては、「録画映像ユーティリティでダウンロードしたデータについて」(P. 254) を参照してください

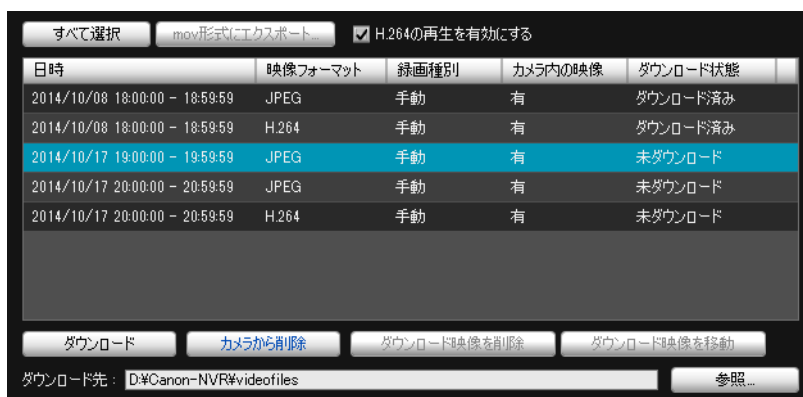
映像を削除する

メモリーカードの映像や、PCにダウンロードした映像を削除します。

メモリーカードの映像を削除する

1 映像一覧で、削除する映像を選択する

2 [カメラから削除] をクリックする



メモリーカードから映像が削除されます。

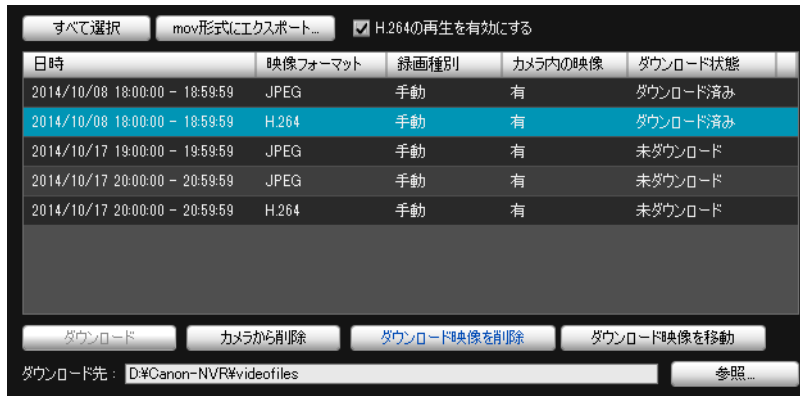
メモ

- 選択した映像の中に、未ダウンロードの映像が含まれている場合、削除を確認するメッセージが表示されます。
- 映像の削除は、該当するファイル数が多いほど時間がかかります。たとえば、1時間分の映像 (映像一覧では1つのアイテム) を削除する場合でも、数分かかることがあります。

ダウンロードした映像をPCから削除する

1 映像一覧で、PCから削除する [ダウンロード済み] の映像を選択する

2 [ダウンロード映像を削除] をクリックする



映像がPCから削除されます。

■ PCにダウンロードした映像を別のフォルダに移動する

1 映像一覧で、移動する [ダウンロード済み] の映像を選択する

2 [ダウンロード映像を移動] をクリックする



[フォルダの参照]ダイアログが表示されます。

3 移動先のフォルダを選択し、[OK] をクリックする

映像が指定したフォルダに移動します。

■ 再生可能な動画ファイルにエクスポートする

PCにダウンロードした映像を、PCで再生可能なmov形式の動画ファイルにエクスポートします。
H.264映像の場合は、複数に分割されたファイルが1つのファイルに結合されます。

1 映像一覧で、エクスポートする映像を選択する

エクスポートできるのは、映像一覧の [ダウンロード状態] が [ダウンロード済み] の映像です。

2 [mov形式にエクスポート] をクリックする



[フォルダの参照] ダイアログが表示されます。

3 エクスポート先のフォルダを選択し、[OK] をクリックする

映像がエクスポートされます。



メモ

- エクスポートした動画ファイルは、QuickTime 7.7やWindows Media Player 11/12 で再生できます。Windows Vista以前のOSでは、QuickTimeを使用してください。ただし、これらのソフトウェアを用いた場合の再生動作の保証はしていません。
- 記録途中で録画映像サイズが変更された JPEG の録画映像をmovファイルにエクスポートした場合、Windows Media Playerでは再生できません。QuickTimeで再生可能です。

映像を再生する

映像一覧で選択した映像は、[映像再生] エリアで再生できます。

映像フォーマットによって、再生の操作が異なります。



メモ

[ダウンロード済み]の映像の場合、PCにダウンロードされた映像が再生されます。ダウンロードが完了していない映像は、メモリーカードにある映像が再生されます。

JPEG映像の再生

1 映像一覧で、再生したいJPEG映像を選択する

[映像再生] に、選択した映像の先頭フレーム画像と情報が表示されます。



(1) [録画日時]

表示されている映像フレームの撮影日時が表示されます。

(2) [再生フレーム番号]

表示されている映像のフレーム番号と総フレーム数が表示されます。

(3) [再生間隔]

[実時間]

記録時間に合わせた実時間間隔で再生します。空きフレームは直前のフレームが表示されます。ダウンロード済み映像の再生時のみ選択できます。

[等間隔]

JPEG映像を1秒間隔で連続して表示します。

(4) 再生コントロール

再生の操作を行います。

2 再生コントロールを操作して再生する



メモ

[未ダウンロード] または [一部ダウンロード済み] のJPEG映像は、撮影した順番通りに再生されないことがあります。

(1) スライダー

ドラッグして再生位置を変更できます。

(2) 操作ボタン

各ボタンの機能は次のとおりです。

	先頭フレームに移動
	前のフレームに移動
	早戻し
	再生
	一時停止
	早送り
	次のフレームに移動
	末尾フレームに移動

(3) [再生フレームを保存]

表示中の映像フレームを別ファイルとして保存できます。

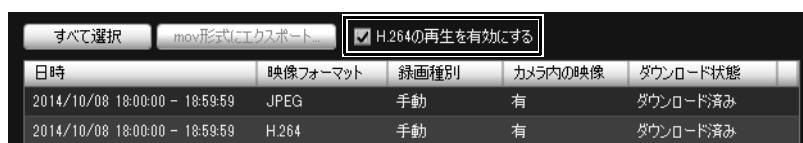
■ H.264映像の再生



メモ

64bit OSでInternet Explorer 11を使用している場合、信頼済みサイトに登録したうえでさらに保護モードを有効にすると、H.264映像は再生できなくなります。

1 [H.264の再生を有効にする] をチェックする



「ソフトウェア使用許諾契約書」ダイアログが表示されます。

2 [はい] をクリックする

カメラからH.264のデコーダーがダウンロードされます。

3 映像一覧で、再生したいH.264映像を選択する

[映像再生] に、選択した映像の先頭フレーム画像と情報が表示されます。



(1) [録画日時]

表示されている映像フレームの撮影日時が表示されます。

(2) [再生ファイル番号]

表示されている映像のファイル番号と、映像内の総ファイル数が表示されます。

(3) [再生間隔]

[実時間]

記録時間に合わせた実時間間隔で再生します。空きフレームは直前のフレームが表示されます。ダウンロード済み映像の再生時のみ選択できます。

[等間隔]

断続的にフレームが記録された映像でも、再生間隔を直前のフレーム間隔のみとすることで、短時間で再生します。

(4) 再生コントロール

再生の操作を行います。

4 再生コントロールを操作して再生する



メモ

- [未ダウンロード] または [一部ダウンロード済み] の映像の場合、ファイルをダウンロードしながら再生するため、ネットワーク環境によってはファイルの切り換え時に再生が一瞬停止することがあります。
- [未ダウンロード] または [一部ダウンロード済み] の映像は、撮影した順番通りに再生されないことがあります。

(1) スライダー

ドラッグして再生位置を変更できます。

(2) 操作ボタン

各ボタンの機能は次のとおりです。

	先頭フレームに移動
	前のフレームに移動
	再生
	一時停止
	次のフレームに移動
	末尾フレームに移動

(3) [再生フレームを保存]

表示中の映像フレームを別ファイルとして保存できます。

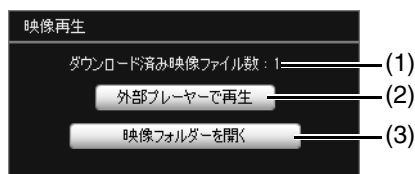
H.264映像を外部プレーヤーで再生するには

1 [H.264の再生を有効にする] のチェックを外す

2 映像一覧で、再生したいH.264映像を選択する

外部プレーヤー再生の画面が表示されます。

3 外部プレーヤーで再生する



(1) [ダウンロード済み映像ファイル数]

映像を構成するダウンロード済みのファイル数が表示されます。

(2) [外部プレーヤーで再生]

外部プレーヤー (Windows Media Player など) を起動し、選択した映像を再生します。

(3) [映像フォルダーを開く]

選択した映像が保存されているフォルダを開きます。フォルダの動画ファイルをダブルクリックして映像を再生できます。

メモ

- ダウンロードされたH.264映像ファイルの拡張子は「.mov」になります。
- mov形式のデータサイズが1MB以上になるときは、複数のファイルに分割されます。
- 複数のmovファイルに分割された録画映像は、先頭の1ファイル (数秒) のみが再生されます。
- ダウンロードした動画ファイルは、QuickTime 7.7やWindows Media Player 11/12で再生できます。Windows Vista 以前のOSでは、QuickTimeを使用してください。ただし、これらのソフトウェアを用いた場合の再生動作の保証はしていません。

7章



付録

カメラの機能に関する補足事項と、カメラの使用時にトラブルが発生した場合やメッセージなどが表示された場合の対処方法を説明します。また、カメラを工場出荷時の設定にリセットする方法も説明します。

メモリーカードのデータについて

メモリーカードに保存されるデータと、メモリーカードからPCにダウンロードした映像データについて説明します。

メモリーカードの保存データとデータ整理

カメラにセットしたメモリーカードには、設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] (P. 131) で、[動作設定] を [ログと映像を保存する] に設定している場合、次のデータが自動的に保存されます。

- ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像 (JPEGのみ)
- HTTP/FTPアップロードに失敗した映像 (JPEG/H.264(1))
- 管理者ビューワからのユーザーによる手動記録映像 (JPEG/H.264(1))
- [外部デバイス入力]、[音声検知] およびインテリジェント機能によるイベント発生時の記録映像 (JPEG/H.264(1))
- タイマーによる記録映像 (JPEG/H.264(1))
- ログ

✕ 𐀓

メモリーカードの残り容量がなくなると、メモリーカードへの保存はできなくなります。設定ページの [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] > [映像の上書き] (P. 133) を [有効] にすると、古い映像を削除し、新しい映像を保存することができます。[無効] にしている場合は、不要になった映像を録画映像ユーティリティで削除してください。

録画映像ユーティリティでダウンロードしたデータについて

メモリーカードの映像を、録画映像ユーティリティを使ってPCなどにダウンロードした場合、映像データは、次のようなフォルダ構造とファイル名で保存されます。

■ フォルダの構造

例：IPアドレス192.168.100.1のカメラで2014/9/10の16:00:00～16:59:59 (JST) に手動録画で記録されたH.264の映像

D:¥work ¥ 192.168.100.1 ¥ 20140910 ¥ 070000_075959_+9_M_H264

(1) (2) (3) (4) (5) (6) (7)

- (1) [ダウンロード先] に指定したフォルダ
- (2) カメラのIPアドレス
- (3) 映像の録画日
- (4) 録画開始時刻_終了時刻 (UTC)
- (5) UTCとの時差
- (6) 録画種別
 - E: イベント
 - M: 手動録画
 - R: 録画ストリーム
 - T: タイマー
 - U: アップロード
 - O: ONVIF
- (7) 映像フォーマット (JPEGまたはH.264)

メモ

- フォルダは1時間単位で作成されます。
- 録画開始時刻_終了時刻に時差を足すと、現地時間になります。

■ ファイル名のフォーマット

例：2014/9/10の16:06:19から手動録画を実行した場合

20140910 070618-070619-M000000001.mov

└──┬──┬──┬──┐
(1) (2) (3) (4)

- (1) 映像の録画日
- (2) ファイル作成時刻 (UTC)
- (3) 録画開始時刻 (UTC)
- (4) 録画種別
 - E： イベント
 - M： 手動録画
 - R： 録画ストリーム
 - T： タイマー
 - U： アップロード
 - O： ONVIF

メモ

- ファイルの作成は実際の録画時刻より先行します。
- 録画が数秒以上続いたことで複数の映像ファイルが作成されたときは、(2)とファイル名末尾の連番が異なるファイル名となります。上記の例で録画開始 (16:06:19) から4秒後に新しいファイルに切り換えられた場合は、次のファイル名になります。
20140910070623-070619-M000000002.mov
16:06:19に開始された録画の続きなので、(3)録画開始時刻は070619のままです。また、ファイル名末尾の連番は1つ進んでいます。

修飾子について

設定項目によっては、修飾子'% 文字'によるパラメーター記述が可能です。

修飾子	意味	記入される文字列の内容
%n	撮影理由 (番号)	0 (テスト) 1 (外部デバイス入力1) 2 (外部デバイス入力2) 33 (タイマー1) 34 (タイマー2) 35 (タイマー3) 36 (タイマー4) 145 (音量検知) 146 (悲鳴検知) 160 (自動追尾) 161 (インテリジェント機能検知設定1) 162 (インテリジェント機能検知設定2) 163 (インテリジェント機能検知設定3) 164 (インテリジェント機能検知設定4) 165 (インテリジェント機能検知設定5) 166 (インテリジェント機能検知設定6) 167 (インテリジェント機能検知設定7) 168 (インテリジェント機能検知設定8) 169 (インテリジェント機能検知設定9) 170 (インテリジェント機能検知設定10) 171 (インテリジェント機能検知設定11) 172 (インテリジェント機能検知設定12) 173 (インテリジェント機能検知設定13) 174 (インテリジェント機能検知設定14) 175 (インテリジェント機能検知設定15) 201 (連結イベント1) 202 (連結イベント2) 203 (連結イベント3) 204 (連結イベント4)
%N	撮影理由 (文字列)	<外部デバイス入力名 (半角英数字)> インテリジェント機能検知設定名 (半角英数字) NULL (空白文字/インターバルタイマー・テストの場合)
%O	撮影理由 (ON/OFF)	OFF ON
%X	画像の幅	横方向の画素数
%Y	画像の高さ	縦方向の画素数
%C	カメラ番号	1
%D	カメラ名	[カメラ名 (半角英数字)] の設定値
%P	パン位置	R11 R10 -179.99 ~ 180.00 M641 M640 M741 M740 0
%T	チルト位置	R11 R10 -179.99 ~ 180.00 M641 M640 M741 M740 0
%Z	ズーム位置	0.01 ~ 300.00
%R	ローテーション位置	0
%V	カメラサーバー	VB-R11VE/VB-R11/VB-R10VE/VB-M641VE/VB-M641V/VB-M640VE/VB-M640V/VB-M741LE/VB-M740E
%y	撮影時刻の年	2001 ~ 2031
%m	撮影時刻の月	01 ~ 12
%d	撮影時刻の日	01 ~ 31
%w	撮影時刻の週日	0 ~ 6 (日曜~土曜に対応)
%H	撮影時刻の時	00 ~ 23
%M	撮影時刻の分	00 ~ 59
%S	撮影時刻の秒	00 ~ 59
%s	撮影時刻のミリ秒	000 ~ 999
%z	撮影時刻のタイムゾーン	-1200 ~ +1300
%a	撮影時刻の週日名	Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat
%b	撮影時刻の月名	Jan Feb Mar Apr May Jun Jul Aug Sep Oct Nov Dec
%h	ホスト名	

メモ

- 不整合があれば実行時エラーとなります。
- 未定義の文字については、'%'が削除されます。

■ 利用可能な修飾子について

各設定項目で利用可能な修飾子は、次のとおりです。

【HTTPアップロード】(P. 97)

[パラメーター (query string)]

すべての修飾子が利用可能です。

【FTPアップロード】(P. 99)

[作成サブディレクトリ名]

利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%h、%n のみです。

[作成ファイル名]

利用可能な修飾子は、%y、%m、%d、%w、%H、%M、%S、%s、%n のみです。

【メール通報】(P. 102)

[本文]

すべての修飾子が利用可能です。

トラブルシューティング

販売店やお客様相談センターに連絡する前に、次のことを確認してください。ログメッセージが表示されている場合は、ログメッセージ一覧の内容と対策を参考にしてください。

問題	対処方法
カメラが起動しない	• PoE対応ハブをご使用の場合、LANケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • ACアダプター (オプション) をご使用の場合、ACアダプターが正しく接続されているか確認してください。 • 電源を入れ直してください (『設置ガイド』の「カメラを接続する」)。
カメラマネジメントツールが動作しない	• LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • カメラの電源を入れ直してみてください (『設置ガイド』の「カメラを接続する」)。 • カメラとカメラマネジメントツールが動作しているPCが、同じセグメント上のLANに接続されているか確認してください。 • [Windowsファイアウォール] 機能を有効に設定している場合は、カメラマネジメントツールが動作しない場合があります。その場合は「セキュリティを確認/設定する」(P. 29) をご覧ください。
カメラのトップページが表示されない	• LAN ケーブルが正しく接続されているか確認してください。 • カメラのネットワークが正しく設定されているか確認してください。特にIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスについては利用しているネットワークで使用可能な設定か確認してください。 • IP アドレスの変更を行った場合には、カメラが再起動するまで有効になりません。 • Web ブラウザーに入力しているURI (カメラのIP アドレス) が正しいか確認してください (P. 35、P. 39)。 • 設定ページの [セキュリティ] > [ホストアクセス制限] で、アクセスが禁止されたPCから接続していないか確認してください。 • 設定ページの [セキュリティ] > [802.1X] で、使用する認証方式や、[ユーザー名]、[パスワード]、証明書の組み合わせが、接続するネットワークルールに合っているか、システム管理者に確認してください。
管理ツールが起動できない 管理者ビューワーが起動できない	• 「ご使用のWebブラウザーには対応していません。」と表示される場合は、Internet Explorer 8以降をお使いください。 • 「アプリケーションが起動できませんでした。.NET Framework x.x (xはバージョン) をインストールしてください。」と表示される場合は、該当するバージョンの.NET Framework をインストールするか、設定を有効にしてください (P. 22)。 • 「JavaScriptが使用できないが無効化されています。」と表示される場合は、Internet Explorerのセキュリティで [アクティブ スクリプト] を [有効にする] に設定してください (設定方法は、次の(3)を参照してください)。 • 「管理者ビューワーおよび管理ツールを使用するには、以下の(1)から(3)の設定が必要です。」と表示される場合は、次の設定を行ってください。 (1) インストーラーで管理ツール証明書をインストールしてください (P. 26)。 (2) Internet Explorer 9以降を使用されている場合は、「カメラのIPアドレスを信頼済みサイトとして登録する」(P. 30) の手順に従い、Internet Explorerの [セキュリティ] 設定で、このWebサイトを [信頼済みサイト] に追加してください。 (3) Internet Explorer で [ツール] > [インターネット オプション] > [セキュリティ] > [レベルのカスタマイズ] をクリックし、セキュリティ設定のリストで、[XAMLブラウザーアプリケーション]、[ファイルのダウンロード]、[IFRAMEのプログラムとファイルの起動] の各項目を [有効にする] に設定します。
映像が表示されない	• 映像品質を改善したい場合、「設定ページ」の [基本設定] > [映像設定] (P. 71) で、映像のサイズや品質、フレームレートの設定を変更して調整してください。 • カメラに同時にアクセスできるビューワーの数は最大30 です。制限を超えた場合には映像が表示されずにメッセージが表示されます。

問題	対処方法
音声を利用できない R11 M641 M741	• 音声を利用できない場合は、カメラのオーディオサーバーの設定を確認していただくとともに、PC のサウンドとオーディオデバイスの設定もご確認ください。 • 管理者ビューワーを管理者ユーザー権限で使用する場合、RMビューワーなどの管理者権限で音声を使用するビューワーがカメラに接続していないか確認してください。 • VBビューワーでは、Canon Network Camera Audio Receiverのアドオンがインストールされていない場合、音声はご利用になれません。
カメラ制御ができない	• 管理者ビューワーに管理者として接続すると、カメラ制御権を占有します。管理者ビューワーに登録ユーザーとして接続すると、管理者がカメラ制御権を解放しない限り、カメラ制御ができません。管理者に相談してください (P. 138)。
ビューワーの接続が切れる	• ネットワークやPC に異常がないか確認してください。 • PC を再起動し、接続してください。
パスワードを忘れてしまった	• リセットスイッチを用いて、カメラの日付と時刻以外のすべての設定を初期化できます (P. 274)。ただし、IP アドレスやサブネットマスクなどのネットワーク設定も初期化されますので、再設定が必要になります。
アップロードできない	• 設定ページの [映像記録] > [アップロード] でのアップロード先の設定と、[イベント] メニューでのイベントに対するアップロード動作の両方の設定が、正しくされているか確認してください。 • 適用済みのアップロード先の設定は、[アップロード] のアップロードテスト (P. 96) を実行することで、動作確認できます。 • [メンテナンス] > [表記と実行] の [ログを見る] やサーバー側のログを見て、詳細な動作環境を確認してください。[ログを見る] については、「ログメッセージ一覧」の「アップローダーエラー」(P. 263)、「アップローダー警告」(P. 266)、「アップローダー通知」(P. 268) を参照してください。また、P. 96 の「重要」も参照してください。 • サーバー側の設定については、システム管理者にお問い合わせください。
メモリーカードに映像を記録できない	• イベント発生時にメモリーカードに記録する場合は、設定ページの [映像記録] > [メモリーカード] > [映像記録設定] で、[映像記録動作] の設定を確認してください。[映像記録動作] が [アップロード] になっている場合は、[メモリーカードに記録] に変更してください。 • ネットワーク異常のために配信できなかった録画ストリームの映像、またはHTTP/FTPアップロードに失敗した映像がメモリーカードに記録されていない場合は、設定ページの [映像記録] > [メモリーカード] > [メモリーカードの操作] で、[動作設定] の設定を確認してください。[動作設定] が [ログを保存する] になっている場合は、[ログと映像を保存する] に変更してください。 • 手動でメモリーカードに記録するときは、カメラ制御権を取得してください。
設定ページや管理ツールでファイルが保存できない	• OSが、一部のフォルダへの保存を禁止しているため、ファイルの保存に失敗する場合があります。[ドキュメント] や [ピクチャ] など、ほかのフォルダを指定してください。
録画映像ユーティリティを起動すると「メモリーカードにアクセスできません。設定ページで映像管理情報を再作成してください。」とメッセージが出る	• 設定ページの [映像記録] > [メモリーカード] > [メモリーカードの情報] で [映像管理情報の状態] を確認し、[映像管理情報の再作成が必要] と表示されている場合は、同じ画面の [メモリーカードの操作] で [映像管理情報の再作成] の [実行] をクリックしてください。映像管理情報の再作成の完了後、[映像管理情報の状態] の表示が [正常] になっていることを確認してください。
録画映像ユーティリティの映像一覧の表示に時間がかかる	• メモリーカードに大量の映像ファイルを記録すると、録画映像ユーティリティで映像一覧を表示する際に、ファイル数に比例して時間がかかるようになります。[映像の自動削除] で保存期間を短く設定したり、録画映像ユーティリティで定期的に手動で削除するなど、不要な映像ファイルはできる限り削除するようにしてください。また、メモリーカードに記録する映像フォーマットにH.264を指定すると、JPEGで記録するときよりも映像ファイル数を抑えることができます。
一部のダイアログが英語になる	• Windows Updateで「Microsoft.NET Framework 4.5.1 言語パック (kb2858725)」をインストールしてください。

ログメッセージ一覧

カメラのログメッセージ

ログビューワー (P. 240)で表示されるログメッセージの一覧です。

ログメッセージは、次のように分類されています。

分類	レベル	コード	障害の程度
crit	エラー	4xx	ソフトレベルの異常 (タスク動作停止)
err	エラー	3xx	動作に支障のある異常 (動作継続)
warning	警告	2xx	動作に支障のない異常
notice	警告	1xx	システム外部の異常
info	情報	0xx	正常動作に関する情報

メモ

約2時間ログに記録される内容が無い場合は、メッセージエリアに "-- MARK --" と記録されます。

エラーログ

■ システムエラー

S302 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update system settings (S302)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S303 設定値の保存エラー [err]

内容	Can't update files of system settings (S303)
意味	システムで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S307 設定値の保存エラー [err]

内容	(vbadmin.c XXX) Can't update system settings (S307)
意味	設定プロトコルで設定値を保存する際にエラーがあった。設定値が保存できていない。
対策	ユーザー領域の不要なファイルを削除するなどして領域の確保が必要。

S310 イベントサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work event [%1][%2][%3] (S310)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	イベントサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S311 外部入出力サービスの動作エラー [err]

内容	cannot work extio [%1][%2][%3] (S311)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	外部入出力デバイスサービス動作中のエラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S312 タイマーサービスの動作エラー [err]

内容	cannot work timer [%1][%2][%3] (S312)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	タイマーサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S320 PAN/TILT動作エラー [err]

内容	%1 error occurred. [%2] (S320)
%1	PAN TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時にエラーを検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。 接触などの問題がない場合は故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S330 ファンの故障 [err]

内容	FAN [%1] failure (S330)
%1	ファン番号
意味	ファンが回転しない、もしくは著しい回転数低下を検知。
対策	再起動で復旧しなければファン故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S331 ヒーターの故障 [err]

内容	HEATER [%1] failure (S331)
%1	ヒーター番号
意味	ヒーター制御時に異常を検出した。
対策	ヒーターユニットを取り付けた場合は接続不良の可能性があるので、接続を確認する。 (VB-M641VE) 再起動で復旧しなければヒーター故障の可能性があるので、販売店へ連絡が必要。

S410 イベントサービスの初期化エラー [crit]

内容	event initialization error [%1][%2] (S410)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	イベントサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S411 外部入出力サービスの初期化エラー [crit]

内容	extio initialization error [%1][%2] (S411)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	外部入出力デバイスサービスの初期化エラー
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S412 タイマーサービスの初期化エラー [crit]

内容	timer initialization error [%1][%2] (S412)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	タイマーサービスの初期化エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S413 タイマーサービスのランタイムエラー [crit]

内容	timer working error [%1] (S413)
%1	エラー番号
意味	タイマーサービス動作中にエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S420 外部接点制御デバイスの故障 [err]

内容	external io controller is broken.(S420)
意味	外部接点制御デバイスの故障。
対策	外部接点制御デバイスのファームウェアアップデートが必要。ファームウェアアップデート後も検出される場合、故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

S430 温度センサーの故障 [crit]

内容	Cannot get temprature (S430)
意味	温度センサーから温度を取得できない。
対策	再起動で復旧しなければ基板故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ オーディオサーバーエラー

B301 オーディオデバイス異常 [err]

内容	cannot use audio device for %1[%2:%3] (B301)
%1	送受信種別 (rx tx)
%2	エラー処理 (open write flush)
%3	エラー番号
意味	オーディオデバイスの異常を検出した。
対策	自動的に復旧しなければ、販売店へ連絡が必要。

B402 オーディオサーバー初期化失敗 [err]

内容	wwaudio initialization error [%1] (B402)
%1	エラー番号
意味	オーディオサーバーの初期化に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

B403 設定変更失敗 [err]

内容	cannot set config [%1:%2] (B403)
%1	エラー通番
%2	エラー番号
意味	設定値の更新に失敗した。オーディオサーバーは停止する。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ ビデオエラー

V300 ビデオ入力のエラー [err]

内容	video %1 warning - %2 (V300)
%1	ビデオ番号
意味	ビデオ入力カメラの動作に支障のある異常を検出した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V320 インテリジェントサービスの内部エラー [err]

内容	cannot work intelligent [%1][%2][%3]. (V320)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
%3	エラー付帯情報
意味	インテリジェントサービスの内部エラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V321 インテリジェントサービス仮設定モードエラー [err]

内容	pseudo mode setting fail. (V321)
意味	インテリジェントサービスの仮設定モードの設定変更に失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V400 ビデオ入力の初期化エラー [crit]

内容	video %1 initialization failure - %2(%3) (V400)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力の初期化に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V401 ビデオ入力のコマンドエラー [crit]

内容	video %1 command error - %2(%3) (V401)
%1	ビデオ番号
%2	処理内容
%3	エラー詳細
意味	ビデオ入力のコマンド処理に失敗したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V402 ビデオ入力停止 [crit]

内容	video %1 stalled (V402)
%1	ビデオ番号
意味	ビデオ入力からの映像が停止したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V403 ビデオ入力のエラー [crit]

内容	video %1 fatal error - %2 (V403)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧不可能なエラーを検出したため、ビデオ入力機能を停止した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V420 インテリジェントサービスの起動失敗 [crit]

内容	intelligent initialization error [%1][%2]. (V420)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの初期化に失敗した
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

V421 インテリジェントサービスのエラー [crit]

内容	intelligent working error [%1][%2]. (V421)
%1	エラー番号
%2	エラー原因
意味	インテリジェントサービスの動作中に復旧不可能なエラーが発生した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ アップローダーエラー

A470 アップローダー初期化失敗 [crit]

内容	uploader initialization failure - %1 (A470)
%1	エラー番号
意味	アップローダーの初期化が失敗した。
対策	再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

■ メモリーカードエラー

M301 メモリーカード制御モジュールのエラー [err]

内容	%1 process failure (M301)
%1	マウント (mount) またはアンマウント (unmount)
意味	マウント、アンマウント処理に失敗した。

M302 不正ファイルを削除できない [err]

内容	Invalid file (%1) can not remove. (M302)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルを削除できなかった。

M303 ディレクトリの処理ができない [err]

内容	Can not open directory(%1)(M303)
%1	ディレクトリ名
意味	処理すべきディレクトリを開くことができない

M304 管理情報再作成に失敗した [err]

内容	Fail updating management file(%1)(M304)
%1	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理に失敗した。

■ ONVIFエラー (RTP)

R301 配信間通信エラー [err]

内容	message queue open error. %1 (R301)
%1	エラー発生モジュール RTP_CTRL_QUEUE RTP_DATA_QUEUE VIDEO_CTRL_QUEUE VIDEO_DATA_QUEUE AUDIO_CTRL_QUEUE AUDIO_DATA_QUEUE EVENT_CTRL_QUEUE RECVQ_META SENDQ_MEDIA
意味	モジュール間通信のエラー。
対策	複数回連続で出力され、かつ再起動で復旧しなければ故障の可能性があるため、販売店へ連絡が必要。

R302 設定値取得失敗 [err]

内容	cannot get parameter: %1 (R302)
%1	user_account : ユーザーアカウント IP_address : 本機のIPアドレス profile_media_configuration : MediaConfigurationの情報 RTSP_port_number : RTSPのポート番号
意味	設定値取得失敗。

R303 メタデータ配信初期化失敗 [err]

内容	metadata initialization error (R303)
意味	メタデータ配信初期化失敗。

R304 クライアント異常終了 [err]

内容	delete session from some kind of error: client_IP=%1, session_ID=%2 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	セッションID
意味	クライアント異常終了。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	connection reset by peer: client_IP=%1 (R304)
%1	クライアントのIPアドレス
意味	クライアントから切断された。

R304 クライアントからの切断 [err]

内容	RTP/HTTP connection closed by client (R304)
意味	クライアントから切断された。

R305 RTSP処理内で異常発生 [err]

内容	RTSP Error: error_code=500: Internal Server Error (R305)
意味	RTSP処理内で異常発生。

警告ログ

■ システム警告

S220 PAN/TILT動作警告 [warning]

内容	%1 warning detected. [%2] (S220)
%1	PAN TILT
%2	警告詳細情報
意味	PAN/TILT動作中または停止時に異常を検出した。
対策	カメラがドームなどに接触していないか確認する。

S230 ファン回転数の低下 [warning]

内容	FAN %1 speed is too slow. (S230)
%1	ファン番号
意味	ファンの回転数低下を検知。 頻発するようであれば、販売店へ連絡が必要。

S231 ヒーターユニットが使えない [warning]

内容	A 24 V AC power source is not supplied to the heater unit. (S231)
意味	ヒーターユニットは取り付けられているが、AC 24 V は給電されていない。
対策	ヒーターユニットを使用するのに必要な AC 24 V 電源が給電されていない。接続を確認する。

■ HTTPサーバー警告

H201 タイムアウトによる切断 [warning]

内容	a request for %1 timed out after writing %d seconds (H201)
%1	リクエストURI
%d	360 (タイムアウト時間)
意味	HTTPサーバーのタイムアウト(360秒)により切断された。

■ wvhttp警告

W101 不正ユーザー名 [notice]

内容	user <ユーザー名> not found (W101)
意味	登録されていないユーザーによるアクセス。

W102 不正パスワード [notice]

内容	user <ユーザー名> password mismatch (W102)
意味	パスワードが不正。

W130 バッファの回復 [notice]

内容	stream buffer recovered (W130)
意味	録画ストリームの映像バッファが回復した。

W201 不正なパノラマ画像[warning]

内容	corrupt panorama image - ignored (W201)
意味	パノラマ画像の情報取得に失敗した。

W230 バッファオーバーフロー [warning]

内容	stream buffer overflowed (W230)
意味	録画ストリームの映像バッファがオーバーフローし、映像が破棄された。

■ オーディオサーバー警告

B101 異常リクエストの受信 [notice]

内容	%1 unusual request[%2] (B101)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	異常種別 (400 404)
意味	コマンドエラー (400)、パラメータエラー (404) により、リクエストを拒否した。

B102 クライアントの接続拒否 [notice]

内容	%1 request denied[%2] (B102)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41 43 ...)
意味	認証エラー (41)、時間指定エラー (42)、リソース不足 (43)、非対応コーデック指定 (45)、非許容ユーザーレベル指定 (47)、クライアント数制限 (49)、動作モード (4a) により、クライアントの接続を拒否した。
対策	41：接続時のユーザー名、パスワード、もしくはユーザーリストを確認する。 42：接続時のplaytime、もしくは最大接続時間設定を確認する。 43：再接続または再起動する。 45：対応しているクライアントソフトを用いる。 47：接続時のuserlevelを確認する。 49：クライアント数設定を確認する。 4a：オーディオサーバーを使用する設定になっているか確認する。

B103 クライアントの強制切断 [notice]

内容	%1 access denied[%2] (B103)
%1	クライアントホストのIPアドレス
%2	拒否種別 (41 42 4a)
意味	開始時は接続が許可されていたが、設定変更によってアクセス禁止となったため、強制的に切断された (拒否種別はB102と同じ)。

B201 イベント通知失敗 [warning]

内容	cannot notify %1 event [%2] (B201)
%1	イベント種別 (ald)
%2	エラー番号
意味	イベントの通知に失敗した。

B202 イベント受信失敗 [warning]

内容	cannot recv event [%1] (B202)
%1	エラー番号
意味	イベントの受信に失敗した。

B203 オーディオメッセージ送信失敗 [warning]

内容	audio message send error %1 [%2] (B203)
%1	メッセージ種別
%2	エラー番号
意味	オーディオメッセージの送信に失敗した。

B204 オーディオメッセージ受信失敗 [warning]

内容	audio message recv error [%1:%2] (B204)
%1	エラー通番
%2	エラー要因
意味	オーディオメッセージの受信に失敗した。

■ カメラアプリケーション警告

C 201 デイナイト切り換えの警告 [warning]

内容	Can't switch Day/Night mode, because current mode is Auto.(C201)
意味	デイナイト切り換えができなかった。
対策	デイナイトモードをマニュアルにする。

C211 カメラ制御コマンドのオーバーフロー [warning]

内容	command queue overflowed (C211)
意味	カメラ制御コマンドのキューがオーバーフローし、コマンドの一部が破棄された。
対策	カメラ制御コマンドを送信する間隔を長めに (200msec) とってください。

■ ビデオ警告

V200 ビデオ入力の警告 [warning]

内容	video %1 warning - %2 (V200)
%1	ビデオ番号
%2	エラー番号
意味	ビデオ入力が復旧可能な異常を検出した。
対策	画像サイズ、映像品質を変更し、JPEG画像1枚あたりのデータを小さくする。

■ アップローダー警告

A274 アップロード用イベントバッファあふれ [warning]

内容	event queue is full (A274)
意味	アップロード用イベントバッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。

A275 アップロード用映像バッファあふれ [warning]

内容	buffer queue is full (A275)
意味	アップロード用映像バッファがあふれた。
対策	イベント発生数を低減するように調整する。また、アップロード用の画質、映像サイズ、フレームレートを調整する。

■ メモリーカード警告

M201 メモリーカードの書き込み禁止 [warning]

内容	Readonly filesystem (M201)
意味	書き込み禁止のメモリーカードが挿入された。

M203 メモリーカード容量不足 [warning]

内容	There is not available space (M203)
意味	メモリーカードの使用可能容量が不足している。

M204 不正ファイルの削除 [warning]

内容	Invalid file %1 was removed. (M204)
%1	削除ファイル名
意味	不正なファイルの削除を行った。

M205 管理情報ファイルのチェック [warning]

内容	%1 checking management file (M205)
%1	Start Finish
意味	アンマウントせずにメモリーカードを抜かれた可能性がある。管理情報ファイルのチェックを開始/終了する。

M206 不正な管理情報を削除した [warning]

内容	Invalid db information(%1)(%2) was removed(M206)
%1	不正情報のあった管理情報ファイル名
%2	不正情報のID
意味	不正な管理情報を削除した。

■ システム通知

S001 システムの起動 [info]

内容	starting paramd (S001)
意味	パラメーター管理モジュールの起動。

S002 システムの設定変更 [info]

内容	Updated system settings. (S002)
意味	再起動なしの設定変更があった。

S010 イベントサービスの起動 [info]

内容	starting event (S010)
意味	イベントサービスの起動

S011 イベントサービスの停止 [info]

内容	shutdown event (S011)
意味	イベントサービスの停止

S012 外部デバイスサービスの起動 [info]

内容	starting extio (S012)
意味	外部デバイス入出力サービスの起動

S013 外部デバイスサービスの停止 [info]

内容	shutdown extio (S013)
意味	外部デバイス入出力サービスの停止

S014 タイマーサービスの起動 [info]

内容	starting timer (S014)
意味	タイマーサービスの起動

S015 タイマーサービスの停止 [info]

内容	shutdown timer (S015)
意味	タイマーサービスの停止

S030 ヒーターユニットの検出 [info]

内容	The heater unit is detected. (S030)
意味	ヒーターユニットが取り付けられている。

S070 SSL証明書の変更 [info]

内容	ssl: succeeded to %1 certificate (S070)
%1	作成(generate) インストール(load) 削除(delete) リストア(restore)
意味	証明書の作成/インストール/削除/リストアを行った。
対策	なし

■ HTTPサーバー通知

H143 ユーザー名の指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) get_password failed, IP:%1 (H143)
%1	IPアドレス
意味	ユーザー認証で未知のユーザーが指定された。

H144 パスワードの指定異常 [notice]

内容	(http_auth.c.XXX) password doesn't match for %1 username%2, IP:%3 (H144)
%1	URL XSS脆弱性対策実施 (ftpd 同等の処理)
%2	ユーザー名
%3	IPアドレス
意味	ユーザー認証で誤ったパスワードが指定された。

■ wvhttp通知

W001 システムの起動と停止 [info]

内容	%1 webview (W001)
%1	起動 (starting)または停止 (stopping)
意味	wvhttpサーバー (webview)の起動と停止。

W030 WebView Livescopeクライアントの開始と終了 [info]

内容	%1%2 host=<ホスト>, user=<ユーザー>, prio=<優先度> (W030)
%1	W: WebViewセッション、V: セッションレスビデオクライアント、N: セッションレスイベントクライアント。
%2	+ : 接続、- : 切断
意味	カメラサーバクライアントの接続と切断。

W031 映像データ送信量 [info]

内容	%1= host=<ホスト>, user=<ユーザー>, video=<jpg h264>:<フレーム数> (W031)
1%	W : WebViewセッション、V : セッションレスビデオクライアント
意味	クライアント切断時に、クライアントに送信した総データ量をフレーム数で表示。

W040 外部メモリへの退避 [info]

内容	%1 the image storing - %2 (W040)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
%2	開始・終了原因
意味	録画ストリームの外部メモリへの退避が開始または終了した。

■ オーディオサーバー通知

B001 オーディオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 audio. (B001)
%1	starting stopping
意味	オーディオサーバーが起動/停止した。

B011 オーディオクライアントの開始 [info]

内容	[%1] %2 connected n=%3 (B011)
%1	クライアント種別(send recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントが接続した。

B012 オーディオクライアントの終了 [info]

内容	[%1] %2 closed n=%3 (B012)
%1	クライアント種別(send recv)
%2	クライアントホストのIPアドレス
%3	総クライアント数
意味	オーディオクライアントとの接続が切れた。

■ カメラアプリケーション通知

C001 カメラ制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 camerad (C001)
%1	starting stopping
意味	カメラ制御モジュールが起動/停止した。

C002 カメラアプリケーションの起動と停止 [info]

内容	starting cameraappl (C002)
意味	カメラアプリケーションが起動した。

■ ビデオ通知

V001 ビデオサーバーの起動と停止 [info]

内容	%1 video (V001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	ビデオサーバーの起動と停止。

V020 インテリジェントサービスの起動 [info]

内容	starting intelligent. (V020)
意味	インテリジェントサービスの起動

V021 インテリジェントサービスの停止 [info]

内容	shutdown intelligent. (V021)
意味	インテリジェントサービスの停止

■ アップローダー通知

A004 アップローダーの起動と停止 [info]

内容	%1 uploader (A004)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	アップローダー (uploader) の起動と停止。

A040 アップロード回数 (MAIL) [info]

内容	uploader mail: normal=%1 test=%2 (A040)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A041 アップロード回数 (FTP) [info]

内容	uploader ftp: normal=%1 test=%2 (A041)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A042 アップロード回数 (HTTP) [info]

内容	uploader http: normal=%1 test=%2 (A042)
%1	通常のアップロードの回数。
%2	アップロードテストの回数。
意味	アップロードを実行した回数を表示。

A120 アップロード送信先の名前解決失敗 [notice]

内容	uploader cannot resolve the server name (A120)
意味	アップロード送信先の名前解決に失敗。

A121 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect the server (A121)
意味	アップロード送信先への接続に失敗。

A122 アップロード送信先の接続失敗 [notice]

内容	uploader cannot connect the server (A122)
意味	A120、A121以外の原因で、アップロード送信先への接続に失敗。

A134 アップロードの設定値不正 (FTP/HTTPモード) [notice]

内容	ftp/http mode invalid. uploader set <none> forcibly (A134)
意味	アップロード方式の設定値不正。アップロードしない、に強制的にセットした。

A135 アップロードの設定値不正 (FTPのPORT/PASVモード) [notice]

内容	ftp port/pasv mode invalid. uploader set <pasv> forcibly (A135)
意味	FTPアップロードにおけるPORT/PASVモードの設定値不正。PASVモード、に強制的にセットした。

A136 アップロードの設定値不正 (HTTPの通知のみ/画像付きモード) [notice]

内容	http notice/image mode invalid. uploader set <image> forcibly (A136)
意味	HTTPアップロードにおける通知のみ/画像付きモードの設定値不正。画像付きモード、に強制的にセットした。

A137 アップロードの設定値不正 (メール通知) [notice]

内容	mode invalid. uploader set <none> forcibly (A137)
意味	メール通知の設定値不正。メール通知しない、に強制的にセットした。

A138 アップロードの設定値不正 (メール通知の認証方式) [notice]

内容	authentication mode invalid. uploader set <smtp auth> forcibly (A138)
意味	メール通知の認証方式の設定値不正。SMTP_AUTH、に強制的にセットした。

■ メモリーカード通知

M001 メモリーカード制御モジュールの起動と停止 [info]

内容	%1 sdctrl (M001)
%1	起動 (starting) または停止 (stopping)
意味	メモリーカード制御モジュール (sdctrl) の起動と停止。

M002 有効な管理情報を追加した [info]

内容	Valid db information(%1)(%2)(%3) was inserted(M002)
%1	有効な情報を追加する管理情報ファイル名
%2	有効な情報のディレクトリ番号
%3	有効な情報のファイル番号
意味	有効な映像ファイルと思われるため管理情報に追加した。

M003 管理情報再作成を開始/終了した [info]

内容	%1 updating management file(%2)(M003)
%1	Start Finish
%2	管理情報識別番号
意味	管理情報再作成処理が終了した。

■ ONVIF通知

RTP

R001 RTP配信モジュールの起動 [info]

内容	starting media_plane (R001)
意味	RTP配信モジュールの起動。

R002 RTP配信モジュールの停止 [info]

内容	stoppting media_plane (R002)
意味	RTP配信モジュールの停止。

R003 RTSPのPLAY受信 [info]

内容	PLAY received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R003)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	PLAYを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのPLAY受信。

R004 RTSPのTEARDOWN受信 [info]

内容	TEARDOWN received: client_IP=%1, profile=%2, num_of_sessions=%3(V=%4, A=%5, M=%6,BC=%7) (R004)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	TEARDOWNを要求されたProfile名
%3	クライアントの総セッション数
%4	Videoストリームの総配信数
%5	Audioストリームの総配信数
%6	Metadataストリームの総配信数
%7	AudioBackChannelの総配信数
意味	RTSPのTEARDOWN受信。

R005 マルチキャスト開始 [info]

内容	start multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R005)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTARTを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト開始。

R006 マルチキャスト停止 [info]

内容	stop multicast: profile=%1, num_of_sessions=%2(V=%3, A=%4, M=%5,BC=%6) (R006)
%1	クライアントのIPアドレス
%2	MulticastStreamingのSTOPを要求されたProfile名
%3	Videoストリームの総配信数
%4	Audioストリームの総配信数
%5	Metadataストリームの総配信数
%6	AudioBackChannelの総配信数
意味	マルチキャスト停止。

R101 RTPセッションタイムアウト [notice]

内容	session timeout: session ID=%1 (R101)
%1	セッションID
意味	RTPセッションタイムアウトが発生。

R102 情報取得失敗(RTPペイロードサイズ) [notice]

内容	cannot get parameter: RTP_payload_size (R102)
意味	情報取得失敗(RTPペイロードサイズ)

R102 情報取得失敗(IPアドレス) [notice]

内容	cannot get parameter: IP_address (R102)
意味	情報取得失敗(IPアドレス)。

R103 RTSP認証失敗 [notice]

内容	RTSP authorization error (R103)
意味	RTSP認証失敗。

R107 RTSP接続の失敗 [notice]

内容	RTSP Error: error_code=%d: Service Unavailable (R107)
%d	400: RTSPオプションの指定が不正な値。 401: RTSP認証失敗又は認証情報の不備。 457: RTSPの再生時間指定の値が不正。 501: 非対応のRTSPオプションが指定された。 503: リソースの不足でサービスの提供に失敗。 RTPの最大接続数を超えた場合など。
意味	RTSP接続に失敗。

ビューワメッセージ一覧

インフォメーション表示に表示されるメッセージ

ビューワのインフォメーション表示に表示されるメッセージには、次の3つの分類があります。

アイコン	分類	説明
	情報メッセージ	各種ボタン、プルダウンなどのヘルプ用メッセージ、フレームレート情報などを表示します。
	警告メッセージ	カメラの制御権が取得できない場合や音声セッションが切断された場合など、ユーザーへの注意を促すメッセージを表示します。
	エラーメッセージ	ビューワ上でシステムエラーが発生した場合に表示されます。

■ 警告メッセージ

メッセージ	説明
カメラに接続できませんでした。	IP アドレスが正しくないなどで接続に失敗した
ただいま混雑しています。	接続制限数を超過している
カメラ制御権を取得できません。	管理者ビューワが占有しているなどの理由で制御権要求が拒否された
音声接続できませんでした。	音声受信のための接続に失敗した
カメラに接続していません。	カメラに接続していないのにカメラ操作しようとした
カメラ制御権を取得してください。	カメラ制御権がないのにカメラ操作しようとした
既に他のユーザーが管理者接続しています。	管理者ビューワが既に接続している
別ウィンドウのビューワが既に接続しています。	別ウィンドウのビューワが既に接続している
オーディオデバイスがありません。	PCのオーディオデバイスがない場合や無効化されていた場合に [音声] ボタンがクリックされた
Canon Network Camera Audio Receiver の初期化に失敗しました。	[音声] ボタンをクリックしたときに、ActiveXプラグインがインストールされるのを10秒間待ってもプラグインがインストールされない
メモリーカードの容量が不足しています。	メモリーカードの空き容量が不足した状態で録画した
メモリーカードへの録画が許可されていません。	[メモリーカードの操作] の [動作設定] が [ログと映像を保存する] に設定されていないことが原因で、メモリーカードへの録画に失敗した
ビューワ PTZを終了しないとカメラを操作できません。	制御権保持中にビューワ PTZがONの状態画像をクリックした

工場出荷設定に戻す

設定値を忘れてしまったなどで、カメラを一から設定し直したい場合は、いったん工場出荷設定に戻してください。
工場出荷設定に戻す前に、カメラマネジメントツールの [設定値のバックアップ] を使用して、バックアップファイルを作成しておくことをお勧めします。

メモ

- カメラマネジメントツールの詳しい使いかたは、『カメラマネジメントツール 使用説明書』を参照してください。
- 工場出荷の設定値についてはP. 276を参照してください。

Web ブラウザーから初期設定に戻す

1 設定ページを表示する (P. 58)

2 各種設定のメニューページ上で [メンテナンス] をクリックする



メンテナンスのページが表示されます。

3 [表示と実行]で、[初期設定に戻す] の [実行] をクリックする

表示と実行		
🔍 ログを見る	表示	
🔍 現在の設定を見る	表示	
🔄 再起動	実行	✖
🔍 初期設定に戻す	実行	✖
🔍 設定値のバックアップ	実行	
🔍 設定値のリストア	実行	✖
🔄 状態をリフレッシュ	実行	

初期設定に戻してもよいかどうかの確認を求めるメッセージが表示されます。初期設定に戻してもよい場合は [OK] をクリックします。

再起動後、次の設定項目を除くすべてのユーザー設定値が破棄され、工場出荷設定に戻ります。

- 基本設定の管理者パスワード、LAN、IPv4、IPv6
- 日付と時刻
- セキュリティのホストアクセス制限
- SSL / TLS
- 802.1X

注意



禁止

- [初期設定に戻す] の実行中は、カメラの電源を絶対に切らないでください。電源を切ると、正常に起動しなくなる場合があります。
- 一度 [OK] をクリックすると、初期設定に戻す処理は中断できません。

本体リセットスイッチで工場出荷設定に戻す

カメラのIPアドレスや管理用パスワードが不明であったり忘れてしまった場合は、ネットワーク経由での操作ができません。この場合は、カメラを初期化します。

重要

リセットスイッチを押して初期化すると、カメラのIPアドレス、サブネットマスク、デフォルトゲートウェイアドレスなどネットワークに関連した設定値も工場出荷設定に戻るため、接続していたPCから操作ができなくなります。カメラマネジメントツールで、ご使用の環境に適合したIPアドレスを設定してください（P. 35）。

前準備として、カメラをリセットできる状態にしてください。

カメラのリセットスイッチや再起動スイッチを押せる状態にするには、ドームケースやカバーなどを外す必要があります。詳しくは、カメラに同梱の『設置ガイド』を参照してください。

R11 (VB-R11VE) **R10** **M641** **M640** **M741** **M740**

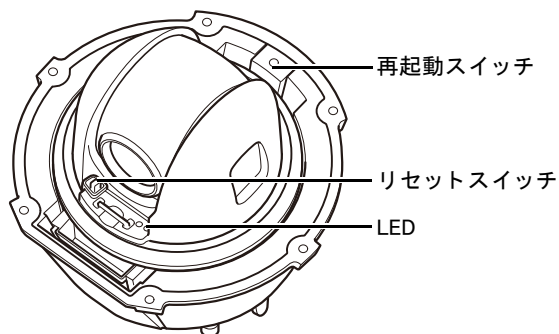
1 リセットスイッチを押しながら、先端の細いもので再起動スイッチを押す

2 リセットスイッチは押したまま、3秒以上経過してから再起動スイッチを離す

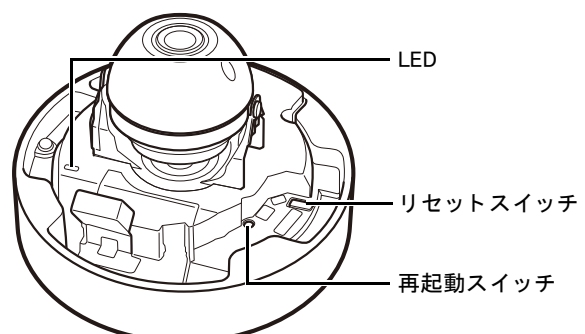
3 LED が点滅したら、リセットスイッチを離す

点滅が終わったら、リセット完了です。

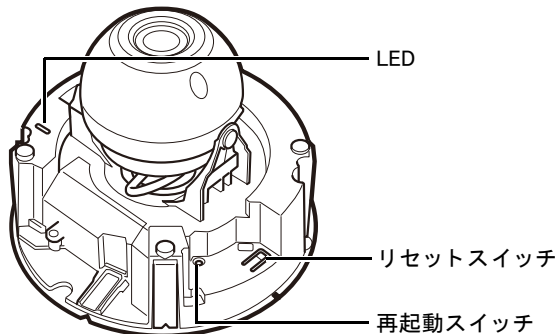
VB-R11VE/VB-R10VE



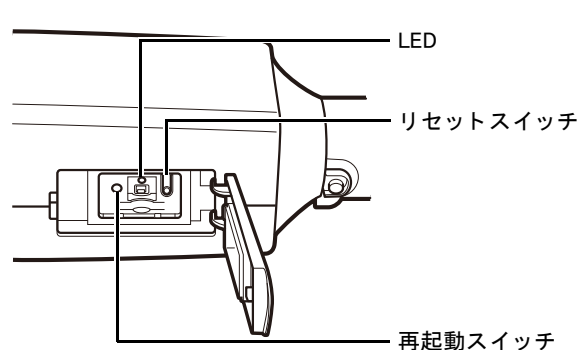
VB-M641VE/VB-M640VE



VB-M641V/VB-M640V



VB-M741LE/VB-M740E



1 カメラの電源を切る

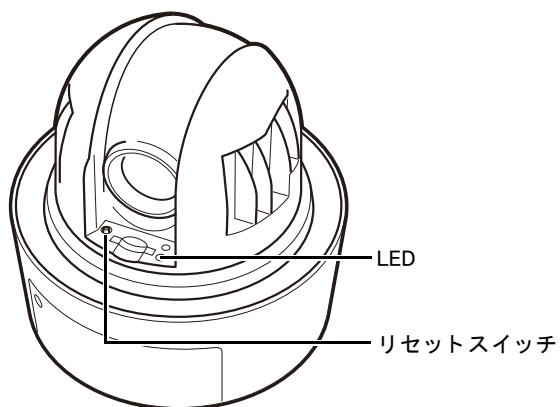
カメラには電源スイッチがありません。電源の入/切は、電源ケーブルの抜き差しで行います。

2 リセットスイッチを押したまま電源ケーブルを差して電源を入れ、5秒以上押し続ける

LEDが点滅します。

3 リセットスイッチを離す

LEDの点滅が終わったら、リセット完了です。



工場出荷設定一覧

項目	設定値
- LAN - LANインターフェース オート - 最大パケットサイズ 1500 - IPv4 - IPv4アドレス設定方式 マニュアル設定 - IPv4アドレス 192.168.100.1 - サブネットマスク 255.255.255.0 - IPv4デフォルトゲートウェイアドレス - AutoIPの使用 使用する - IPv4アドレス (AutoIP) - IPv6 - IPv6 の使用 使用する - 自動設定 (RA) 有効 - 自動設定 (DHCPv6) 有効 - IPv6アドレス (手動設定) - プレフィックス長 64 - IPv6デフォルトゲートウェイアドレス - IPv6アドレス (自動設定) - DNS - ネームサーバーアドレス 1 - ネームサーバーアドレス 2 - ネームサーバーアドレスの自動設定 使用しない - ホスト名 - ホスト名のDDNS登録 登録しない - サーチドメイン - サーチドメインリスト - mDNS - mDNSの使用 使用する	
- ユーザー名 (管理者ID) root - 管理者パスワード *****	
- 現在の日付と時刻 - 設定 - 設定方法 手動で設定する - NTPサーバーの自動設定 使用しない - NTPサーバー - タイムゾーン (GMT+09:00) 大阪、札幌、東京	

項目	設定値
サマータイム	自動調整しない
- 映像全般 - 映像サイズセット 1280x720/640x360/320x180 - JPEG - 映像品質:320x180 6 - 映像品質:640x360 6 - 映像品質:1280x720 6 - 映像品質:デジタル PTZ M641 M640 M741 M740 6 - 映像サイズ:映像送信 320x180 - 最大フレームレート:映像送信 30.0 - 映像サイズ:アップロード/メモリーカード 320x180 - H.264(1) - 映像サイズ 320x180 - ビットレート制御 ビットレート制御する - 映像品質 6 - 目標ビットレート (kbps) 2048 - フレームレート (fps) 30 - Iフレーム間隔 (秒) 1 - H.264(2) - H.264(2)の使用 使用しない - 映像サイズ 320x180 - ビットレート制御 ビットレート制御する - 映像品質 6 - 目標ビットレート (kbps) 2048 - フレームレート (fps) 30 - Iフレーム間隔 (秒) 1	
- カメラ名 - カメラ名 (半角英数字) Camera - カメラ名 (日本語) - カメラ制御 - デジタルズーム R11 R10 使用しない - ブレ補正 使用しない - AGCリミット 6 - スマートシェード補正強度 (オート) 中 - かすみ補正強度 (オート) 中 - 赤外照明強度(オート) M741 強	

工場出荷設定の管理者パスワードについては、お客様相談センターにお問い合わせください。

項目	設定値
パン・チルト速度制御 R11 R10	ズーム位置に応じて制御
オートフリップ R11 R10	有効
• デイナイト (オート設定時)	
切り換える明るさ	標準
応答性 (秒)	20
• 設置条件	
LEDの点灯 M741 M740	点灯する
映像反転	反転しない
• カメラ位置制御	
プリセットに限定 R11 R10	限定しない
制御権を持たない時の動作	ホームポジションへ移動しない
• 外部入力デバイス1 R11 M641 M741	
デバイス名 (半角英数字)	
デバイス名 (日本語)	
• 外部入力デバイス2 R11 M641 M741	
デバイス名 (半角英数字)	
デバイス名 (日本語)	
• 外部出力デバイス1 R11 M641 M741	
デバイス名 (半角英数字)	
デバイス名 (日本語)	
• 外部出力デバイス2 R11 M641 M741	
デバイス名 (半角英数字)	
デバイス名 (日本語)	
• 起動時設定	
パン・チルト・ズーム位置	登録する
フォーカス	オート
露出	オート
スローシャッター	使用しない
シャッタースピード	1/60
露出補正	0
測光方式	中央部重点
スマートシェード補正	使用しない
スマートシェード補正レベル	1 (弱)
ホワイトバランス	オート
Rゲイン	255
Bゲイン	255
ノイズリダクション	標準

項目	設定値
シャープネス	3
色の濃さ	4
かすみ補正	使用しない
かすみ補正レベル	2
デイナイト	デイモード
赤外照明の使用 M741	デイナイト連動
• 指定領域	
領域1 (ピンク)	無効
領域2 (紫)	無効
領域3 (青)	無効
領域4 (シアン)	無効
領域5 (緑)	無効
領域6 (黄)	無効
領域7 (オレンジ)	無効
領域8 (白)	無効
• ADNR	
H.264(1)で使用	使用しない
H.264(2)で使用	使用しない
• オンスクリーン表示	
日付表示	表示しない
日付表示位置	左上
日付表示フォーマット	YYYY/MM/DD
時刻表示	表示しない
時刻表示位置	左上
テキスト表示	表示しない
テキスト表示位置	左上
テキスト文字列	
文字の色	白
背景の色	黒
文字と背景の濃さ	文字と背景を塗りつぶす
R11 M641 M741	
• 音声全般	
入力音量	50
出力音量	50
エコーキャンセラー	使用しない
音声入力モード	ライン・イン
• 再生音ファイル登録1	
再生音名	
• 再生音ファイル登録2	
再生音名	
• 再生音ファイル登録3	
再生音名	

項目	設定値
- HTTPサーバー - 認証方式: Digest認証 - HTTPポート番号: 80 - HTTPSポート番号: 443 - SNMPサーバー - SNMPの使用: 使用しない - コミュニティ名: public - 管理者連絡先: - 管理用の機器名称: R11 R10 VB-R11/VB-R11VE/ VB-R10VE M641 M640 VB-M641VE/ VB-M641V/ VB-M640VE/VB-M640V M741 M740 VB-M741LE/VB-M740E - 設置場所 - FTPサーバー - FTPサーバーの使用: 使用しない - WS-Security - 認証時の時刻チェック: チェックする	
- 映像サーバー - 最大クライアント数: 30 - 最大制御権待ち数: 30 - 最大接続時間 (秒): 0 - カメラ制御時間 (秒): 20	
R11 M641 M741 - 音声サーバー - カメラからの音声送信: 送信しない - 無音検出: 検出しない - ビューワーからの音声受信: 受信しない	
- RTPサーバー - RTPの使用: 使用する - RTSP認証方式: Digest認証 - RTSPポート番号: 554 - 音声マルチキャスト R11 M641 M741 - マルチキャストアドレス: 0.0.0.0 - マルチキャストポート番号: 0 - マルチキャストTTL: 1 - RTPストリーム1 - 映像サイズ: 320x180 JPEG - フレームレート: 5	

項目	設定値
- マルチキャストアドレス: 0.0.0.0 - マルチキャストポート番号: 0 - マルチキャストTTL: 1 - 音声送信 R11 M641 M741: 使用しない	
- RTPストリーム2 - 映像サイズ: 320x180 JPEG - フレームレート: 10 - マルチキャストアドレス: 0.0.0.0 - マルチキャストポート番号: 0 - マルチキャストTTL: 1 - 音声送信 R11 M641 M741: 使用しない - RTPストリーム3 - 映像サイズ: 320x180 JPEG - フレームレート: 15 - マルチキャストアドレス: 0.0.0.0 - マルチキャストポート番号: 0 - マルチキャストTTL: 1 - 音声送信 R11 M641 M741: 使用しない - RTPストリーム4 - 映像サイズ: 320x180 JPEG - フレームレート: 30 - マルチキャストアドレス: 0.0.0.0 - マルチキャストポート番号: 0 - マルチキャストTTL: 1 - 音声送信 R11 M641 M741: 使用しない - RTPストリーム5 - 映像サイズ: H.264(1) - フレームレート: 5 - マルチキャストアドレス: 0.0.0.0 - マルチキャストポート番号: 0 - マルチキャストTTL: 1 - 音声送信 R11 M641 M741: 使用しない	
- 映像記録設定 - 映像記録動作: アップロード - アップロード全般 - アップロードの動作: アップロード無効 - 映像フォーマット: JPEG - フレームレート: 1 - イベント前バッファ (枚数): 0 - イベント後バッファ (枚数): 0 - イベント前バッファ (秒): 0 - イベント後バッファ (秒): 0	

項目	設定値
- HTTPアップロード 通報内容 URI ユーザー名 プロキシサーバー プロキシポート番号 プロキシユーザー名 パラメーター (query string) - FTPアップロード 通報内容 FTPサーバー ユーザー名 PASVモード ファイルアップロードパス ファイル名記録方式 作成サブディレクトリ名 作成ファイル名 作成ファイル名 最大ループ数	HTTPで通知のみ行う 80 映像をFTPする 使用する 年月日時分秒ms image.jpg video.mov 0
- 映像記録設定 映像記録動作 - メモリーカードの操作 動作設定 映像フォーマット イベント前バッファ (枚数) イベント後バッファ (枚数) イベント前バッファ (秒) イベント後バッファ (秒) 映像の上書き 映像の自動削除 保存日数 削除時刻	アップロード ログと映像を保存する JPEG 0 0 0 0 無効 無効 30 00:00
メール通報 通報内容 メールサーバー メールポート番号 差出人メールアドレス (From) 宛先メールアドレス (To) メール認証方式 ユーザー名 POPサーバー 表題	テキストのみ 25 なし

項目	設定値
本文	
R11 M641 M741 - 外部デバイス出力1 動作モード アクティブ出力の形式 パルスの出力時間 (秒) - 外部デバイス出力2 動作モード アクティブ出力の形式 パルスの出力時間 (秒) - 外部デバイス入力 外部デバイス入力イベント - 外部デバイス入力1 動作モード アクティブイベント時の動作 インアクティブイベント時の動作 アクティブイベント中の動作 プリセット R11 映像記録 メール通報 アクティブイベント時の外部デバイス出力 インアクティブイベント時の外部デバイス出力 アクティブイベント時の音声再生 インアクティブイベント時の音声再生 再生音 音量 デイナイト切り換え - 外部デバイス入力2 動作モード アクティブイベント時の動作 インアクティブイベント時の動作 アクティブイベント中の動作 プリセット R11 映像記録 メール通報 アクティブイベント時の外部デバイス出力	ノーマルオープン 連続 1 ノーマルオープン 連続 1 使用する ノーマルオープン 無効 無効 無効 指定しない 実行しない 実行しない 無効 無効 再生しない 再生しない 再生音 50 無効 ノーマルオープン 無効 無効 無効 指定しない 実行しない 実行しない 無効

項目	設定値
インアクティブイベント時の外部デバイス出力	無効
アクティブイベント時の音声再生	再生しない
インアクティブイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
デナイト切り換え	無効
R11 M641 M741	
• 音量検知	
音量検知イベント	使用しない
検知条件	基準音量レベル以上
基準音量レベル	50
検知条件の継続時間 (秒)	0
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット R11	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
• 悲鳴検知	
悲鳴検知イベント	使用しない
ONイベント時の動作	無効
プリセット R11	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
• タイマー 1	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R11 R10	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない

項目	設定値
外部デバイス出力 R11 M641 M741	無効
デナイト切り換え	無効
• タイマー 2	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R11 R10	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力 R11 M641 M741	無効
• タイマー 3	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R11 R10	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力 R11 M641 M741	無効
• タイマー 4	
タイマーイベント	使用しない
24時間連続設定	無効
開始時刻	00:00
終了時刻	00:00
繰り返し間隔	なし
• 動作	
開始時刻のプリセット R11 R10	指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
外部デバイス出力 R11 M641 M741	無効
• デナイト切り換え	

項目	設定値
デイモード切り換え時のプリセット	指定しない
ナイトモード切り換え時のプリセット	指定しない
R11 M641 M741	
• 連結イベント 1	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔 (秒)	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	入力1
状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット R11	プリセットを指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• 連結イベント 2	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔 (秒)	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	入力1
状態	アクティブ
イベント 2	

項目	設定値
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット R11	プリセットを指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• 連結イベント 3	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔 (秒)	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	入力1
状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット R11	プリセットを指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない

項目	設定値
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• 連結イベント 4	
連結イベント	使用しない
イベント連結方法	AND
イベント順序	指定しない
イベント間隔 (秒)	2
イベント 1	
イベント種別	外部デバイス入力
外部デバイス入力	入力1
状態	アクティブ
イベント 2	
イベント種別	インテリジェント機能
インテリジェント機能	設定1
状態	ON
動作	
ONイベント時の動作	無効
OFFイベント時の動作	無効
ONイベント中の動作	無効
プリセット R11	プリセットを指定しない
映像記録	実行しない
メール通報	実行しない
ONイベント時の外部デバイス出力	無効
OFFイベント時の外部デバイス出力	無効
ONイベント時の音声再生	再生しない
OFFイベント時の音声再生	再生しない
再生音	
音量	50
• 登録ユーザーアカウント	
ユーザーリスト	
• ユーザー権限	
登録ユーザー	
特権カメラ制御	チェックあり
一般カメラ制御	チェックあり
映像配信	チェックあり
音声配信 R11 M641 M741	チェックあり
一般ユーザー	
一般カメラ制御	チェックあり
映像配信	チェックあり

項目	設定値
音声配信 R11 M641 M741	チェックあり
• IPv4ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
ネットワークアドレス / サブネット	01: / 32 許可
	02: / 32 許可
	03: / 32 許可
	04: / 32 許可
	05: / 32 許可
	06: / 32 許可
	07: / 32 許可
	08: / 32 許可
	09: / 32 許可
	10: / 32 許可
	11: / 32 許可
	12: / 32 許可
	13: / 32 許可
	14: / 32 許可
	15: / 32 許可
	16: / 32 許可
	17: / 32 許可
	18: / 32 許可
	19: / 32 許可
	20: / 32 許可
• IPv6ホストアクセス制限	
ホストアクセス制限の適用	適用しない
デフォルトポリシー	アクセスを許可する
プレフィックス / プレフィックス長	01: / 128 許可
	02: / 128 許可
	03: / 128 許可
	04: / 128 許可
	05: / 128 許可
	06: / 128 許可
	07: / 128 許可
	08: / 128 許可
	09: / 128 許可
	10: / 128 許可
	11: / 128 許可
	12: / 128 許可
	13: / 128 許可
	14: / 128 許可
	15: / 128 許可

項目	設定値
	16: / 128 許可 17: / 128 許可 18: / 128 許可 19: / 128 許可 20: / 128 許可
- 証明書 証明書の状態 国名 (C) 都道府県名 (ST) 市区町村名 (L) 組織名 (O) 組織単位名 (OU) 一般名 (CN) 有効期間開始日 有効期間終了日 - 暗号化通信 SSL通信	インストールされていません 使用しない
802.1X認証 802.1X認証の使用 認証の状態 - 認証方式 認証方式 ユーザー名	使用しない 停止 EAP-MD5
- IPsec設定方法 IPsec設定方法 - 自動鍵交換の設定 IPsec SA 暗号化アルゴリズム IPsec SA 認証アルゴリズム IPsec SA 有効期間 (分) ISAKMP SA 暗号化アルゴリズム ISAKMP SA 認証アルゴリズム DHグループ ISAKMP SA 有効期間 (分) - IPsec セット1 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス	自動鍵交換 AES->3DES HMAC_SHA1_96 480 AES->3DES SHA1 グループ2 480 使用しない トンネルモード

項目	設定値
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
IPsec セット2 IPsecセットの使用 IPsec動作モード 接続先IPv4アドレス 接続先IPv6アドレス 送信元IPv4アドレス 送信元IPv6アドレス	使用しない トンネルモード
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	

項目	設定値
SA ESP SPI (受信)	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証アルゴリズム	
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
• IPsec セット3	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
• IPsec セット4	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP

項目	設定値
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	
• IPsec セット5	
IPsecセットの使用	使用しない
IPsec動作モード	トンネルモード
接続先IPv4アドレス	
接続先IPv6アドレス	
送信元IPv4アドレス	
送信元IPv6アドレス	
IPsecプロトコル	ESP
セキュリティゲートウェイのIPv4アドレス	
セキュリティゲートウェイのIPv6アドレス	
接続先のサブネットマスク長	16
接続先のプレフィックス長	16
IKE事前共有鍵	
SA ESP 暗号化アルゴリズム	AES
SA ESP 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA ESP 暗号鍵 (送信)	
SA ESP 認証鍵 (送信)	
SA ESP SPI (送信)	
SA ESP 暗号鍵 (受信)	
SA ESP 認証鍵 (受信)	
SA ESP SPI (受信)	

項目	設定値
SA AH 認証アルゴリズム	HMAC_SHA1_96
SA AH 認証鍵 (送信)	
SA AH SPI (送信)	
SA AH 認証鍵 (受信)	
SA AH SPI (受信)	

数字

802.1X認証 124

A

ADSR 82

AGCリミット 75

AutoIP 36, 64

D

DHCP 35, 63

DHCPv6 64

DNS 65

F

FTPアップロード 99

FTPサーバー 90

H

H.264(1) 72

H.264(2) 73

H.264映像 21, 72, 82, 168, 250

HTTPSポート番号 89

HTTPアップロード 97

HTTPサーバー 89

HTTPポート番号 89

I

IPsec 126

IPv4 35, 63

IPv4アドレス 35

IPv6 64

Iフレーム間隔 73

J

JPEG映像 71, 168, 249

L

LAN 63

LED 77

N

NTPサーバー 68

R

RM-Lite 20

RTP 93

RTSP 93

S

SNMPサーバー 89

SSL/TLS証明書 121

SSL通信 123

V

VBビューワー 138, 141, 190

W

WS-Security 90

ア

アクセス制限 118, 138

アップロード 96

アンマウント 133

イ

いたずら検知 215, 226

一般カメラ制御 118, 139

一般ユーザー 118, 138

イベント 231

イベント後バッファ 97, 132

イベント表示 186, 238

イベント前バッファ 97, 132

色の濃さ 81, 168

インストール 26

インテリジェント機能

再起動 239

動作モード 217

表示オプション 238

インテリジェント機能設定ツール 213

インフォメーション表示 142, 143

エ

映像管理情報 133

映像記録 106, 108, 109, 115

映像記録動作 96, 131

映像検知 186, 214, 217, 219

映像サーバー 91

映像サイズ 71, 94, 144

映像サイズセット 71

映像再生	249
映像の上書き	133
映像の自動削除	133
映像配信	118, 139
映像反転	50, 77
映像品質	72, 73
映像フォーマット	97, 132, 244
映像保存	134
映像記録	111
エコーキャンセラー	87
エラーメッセージ	272
選んでインストール	27
エリアズーム	149
エリアズーム/ドラッグムーブ	142

オ

オートフリップ	75, 212
置き去り検知	214, 224
おまかせインストール	27
オンスクリーン表示	85
音声検知	107, 187, 216
音声サーバー	92
音声受信	92, 142
音声送信	92, 142
音声入力モード	87
音声配信	118, 139
音声マルチキャスト	93
音声を受信	156
音声を送信	156
音量	106, 231
音量検知	107

カ

外部出力デバイス	78
外部デバイス出力	104, 168
外部デバイス入力	104, 186
外部入力デバイス	77
可視範囲設定ツール	209
かすみ補正	81, 160
かすみ補正強度	75
カメラアングル設定ツール	20, 26, 43
カメラ基本設定	35
カメラ検索時の設定	34
カメラ指定ファイル	55
カメラ制御権	142
カメラ制御権表示領域	190
カメラ位置を固定する	219
カメラの初期位置を指定する	234
カメラマネジメントツール	19, 26, 34
カメラ名	74
画面サイズ	144
管理者	138
管理者コントロール	158, 197
管理者パスワード	34, 67
管理者ビューワー	138, 140, 141

管理ツール	194
管理ツール証明書	20, 26

キ

機器情報	135
基準音量レベル	107
起動時設定	79, 159
起動時設定登録	159
逆光補正	142, 155

ク

駆動系リフレッシュ	136
クライアント	125

ケ

警告メッセージ	272
ゲイン	80, 163
権限	118
言語切り換えボタン	40
検知オプション設定	232
検知種別	214, 216, 220
検知条件	107, 221, 222
検知ライン	228, 238
検知領域	238

コ

工場出荷設定	273, 276
--------	----------

サ

再起動	135
再生音ファイル登録	88
再接続	142
最大クライアント数	91
最大パケットサイズ	63
最大フレームレート	72, 168
サブネットマスク	64
サマータイム	70

シ

時刻	68
自己証明書	121
自動鍵交換	126
自動制御設定	178
自動追尾	187, 216, 217, 234
絞り	80, 163
シャープネス	81, 168
シャッタースピード	80, 163
修飾子	256
出力音量	87
手動録画	188

巡回ルート設定	180
情報メッセージ	272
証明書情報	124
証明書の管理	122, 125
初期設定	34, 273
初期設定に戻す	135
侵入検知	215, 229
信頼済みサイト	30, 38

ス

ズーム	53, 147, 148
スナップショット	188
スマートシェード補正	80, 160
スマートシェード補正強度	75
スローシャッター	80, 163

セ

制御権	147
静止画	188
赤外照明	81, 167
赤外照明強度	75, 167
赤外線カットフィルター	165
設置ガイド	5
設定値のバックアップ	136
設定値のリストア	136
設定メニュー	58, 61
セットアップCD-ROM	5, 19, 26
全画面表示	145

ソ

測光方式	80, 163
------------	---------

タ

タイマー	110, 178
タイムゾーン	70
ダウンロード	
映像	246, 254
ログファイル	240

チ

チルト	52, 147, 148
-----------	--------------

ツ

追尾条件	235
通過検知	215, 227

テ

デイナイト	76, 112, 165
デイナイト切り換え	106, 111, 112, 178

デイナイトフォーカス設定	165
デイモード	165
デジタルPTZ	153
デジタルズーム	74, 148
デバイス名	77, 78
デフォルトゲートウェイ	64
デフォルトゲートウェイアドレス	65

ト

動作設定	132
動作モード	104, 105
動体検知	214, 223
登録ユーザー	118, 138
特権カメラ制御	118, 139
トップページ	39
ドラッグムーブ	150
トラブルシューティング	258

ナ

ナイトモード	165
--------------	-----

ニ

入力音量	87
認証方式	89, 124

ネ

ネームサーバーアドレス	65
ネットワーク	63
ネットワークアドレス/サブネット	119

ノ

ノイズリダクション	81, 168
-----------------	---------

ハ

パスワード	34, 36, 40, 118
パノラマ画面	210
パノラマ作成ツール	204
パノラマ表示パネル	151
パラメーター	98, 100, 103, 256
パルス	104
パン	52, 147, 148

ヒ

日付	68
ビットレート制御	72
悲鳴検知	108

ビューワー	
RM-Liteビューワー	20
VBビューワー	138, 190
管理者ビューワー	138, 147
ビューワー PTZ	151
表示オプション	238
表示サイズ	144

フ

ファイアウォール	29
フィルター	242, 245
フォーカス	53, 80, 161
フォーマット	133
ファームウェア	135
プライバシーマスク設定ツール	198
プリセット	105, 108, 109, 115, 155, 159, 170
簡単登録	173
自動制御	178
巡回	180
詳細設定	174
タイマー開始時刻	111
デナイト切り換え時	112
登録	171
プリセット設定パネル	171
プリセット選択ボックス	155
プリセット名	175
フレームレート	73, 94, 97
プレフィックス	65, 120
ブレ補正	74

ホ

ホームポジション	77, 142, 171, 173
ホストアクセス制限	119, 120
ホワイトバランス	81, 164

マ

マイク	87, 156
マウント	132
マルチキャストDNS	66

ミ

右クリックメニュー	145, 176, 184, 191, 232
-----------	-------------------------

ム

無音検出	92
------	----

メ

メール通報	102, 106, 108, 109, 111, 115, 231
-------	-----------------------------------

メッセージ	
エラーメッセージ	272
警告メッセージ	272
情報メッセージ	272
ログメッセージ	260
メモリーカード	18, 101, 131, 142, 254
メモリーカードの情報	134, 245
メモリーカード容量	134
メモリーカード録画	188
メンテナンス	135

モ

目標ビットレート	72
持ち取り検知	214, 225

ユ

ユーザー認証	40
ユーザーアカウント	118
ユーザーページ	62
ユーザー名	40, 118, 138
ユーザーリスト	118

ラ

ライセンス	135
-------	-----

リ

リセットスイッチ	274
----------	-----

レ

連結イベント	113, 187
--------	----------

ロ

ローテーション	52
ログ	135, 240
録画映像ユーティリティ	189, 244
ログコード	241
ログビューワー	240
ログメッセージ	260
露出	80, 162
露出補正	54, 80, 163

ワ

ワンショットAF	53, 161
ワンショットWB	165

お問い合わせ先

製品に関するお問い合わせは、お客様相談センターをご利用ください。

キヤノンお客様相談センター

ネットワークカメラ / モニタリング機器

 **0570-08-0074**

受付時間 <平日> 9:00～17:00 (土・日・祝日および年末年始弊社休業日は休ませていただきます)

上記番号をご利用いただけない場合は ☎ 03-6634-4532 をご利用ください。

IP 電話をご利用の場合、プロバイダーのサービスによってはつながらない場合があります。

受付時間は予告なく変更する場合があります。あらかじめご了承ください。

補修用性能部品について

保守サービスのために必要な補修用性能部品の最低保有期間は、製品の製造打ち切り後 7 年間です。
(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です)